

訂正事項	

水原・芦澤設計共同体

株式会社 水原建築設計事務所 芦澤一建築設計事務所

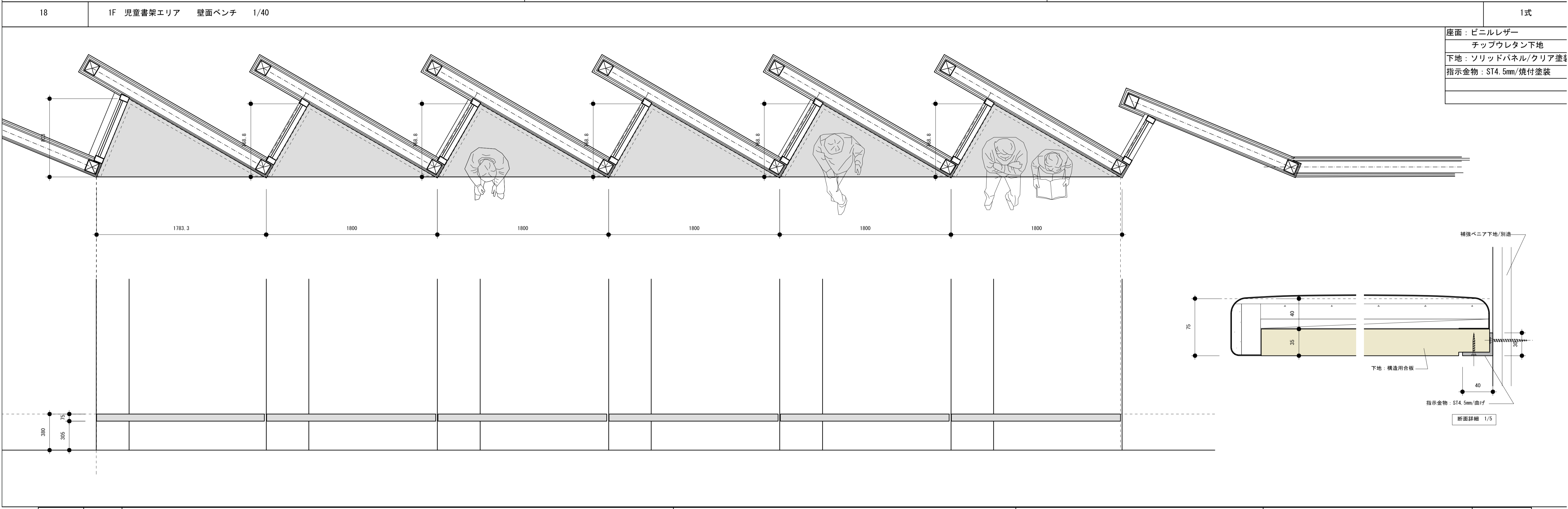
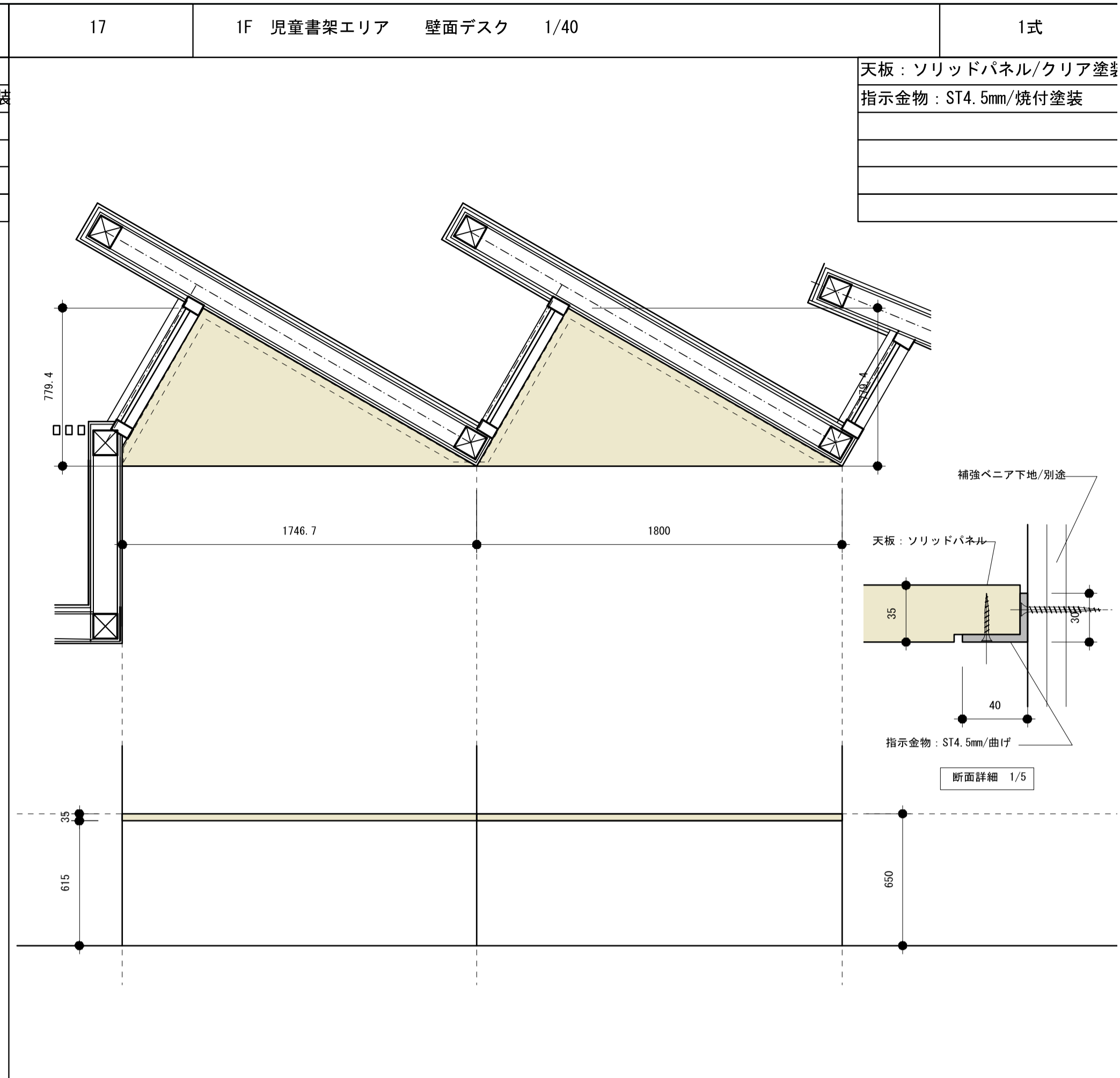
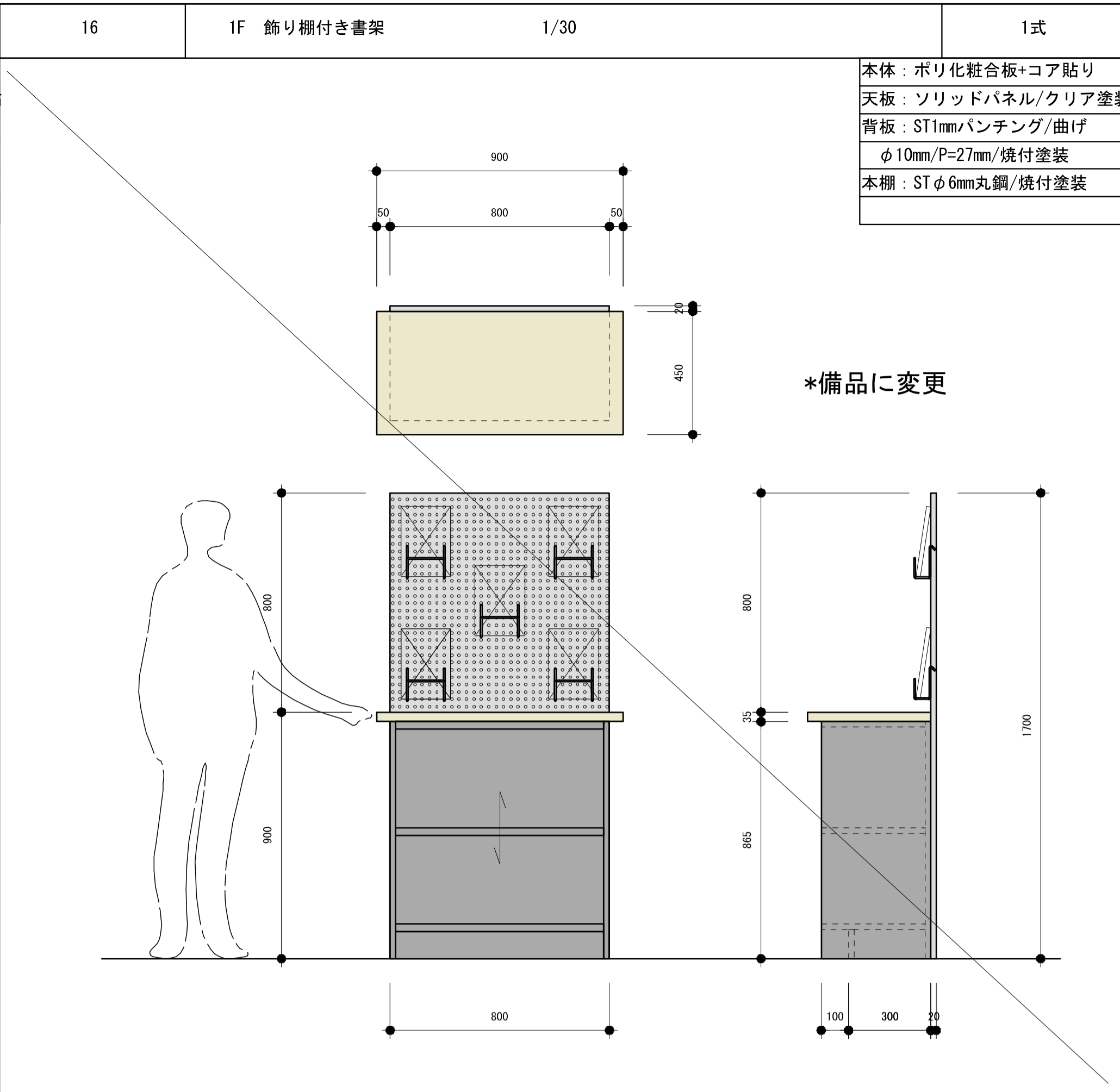
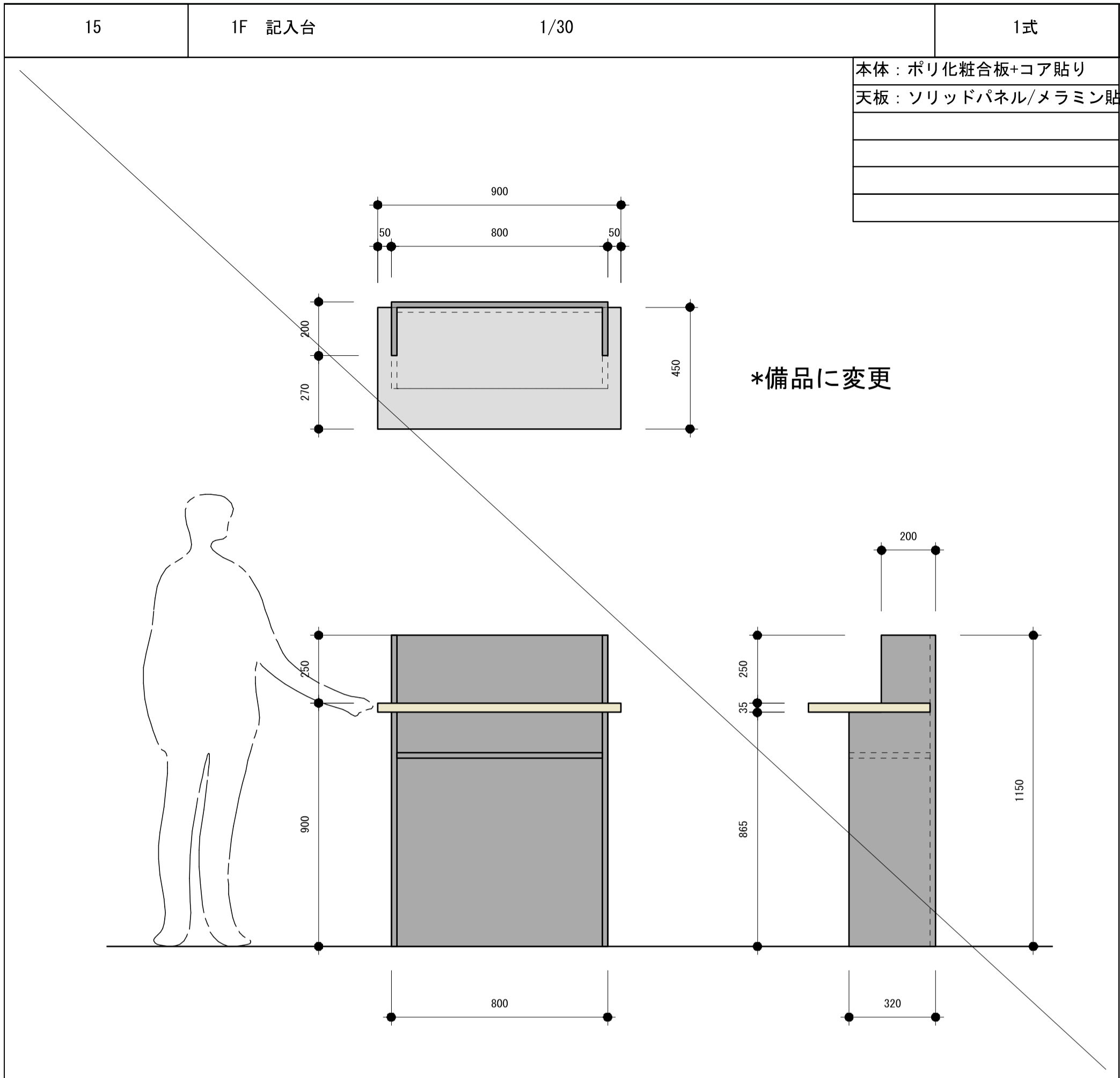
一級建築士事務所 建築業特許第 第61号 一級建築士事務所 大阪府特許第 第24251号

一級建築士事務所 第216256号 北村 謙 一級建築士事務所 第258119号 芦澤 竜一

滋賀県彦根市長栗根町443番地 TEL: 0749-22-1679 大阪府大阪市北区中崎西1-4 TEL: 06-6485-2017

北部図書機能・コミュニティ機能整備工事

家具図 03	SHEET NO.
	A-411
DATE	SCALE



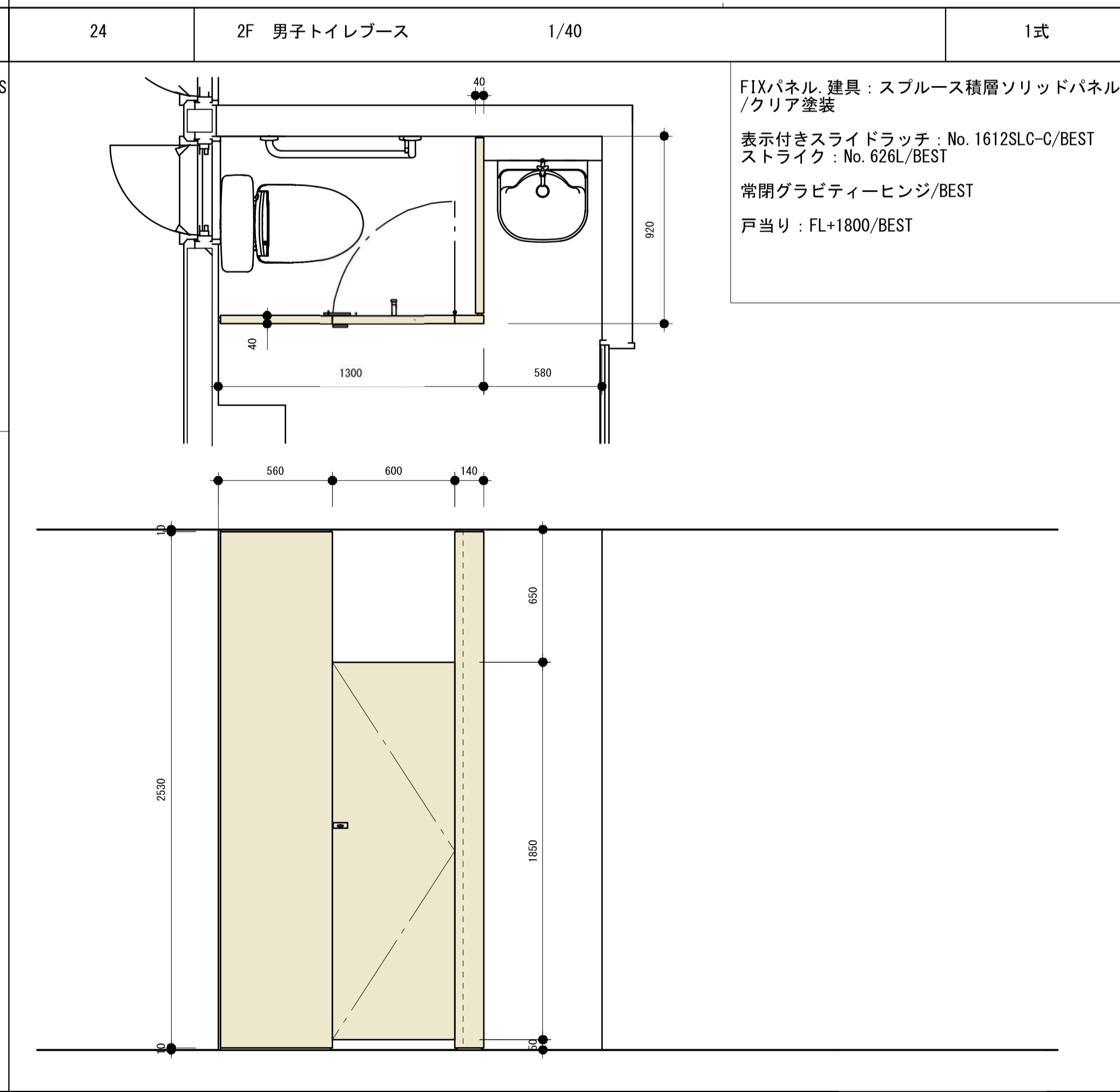
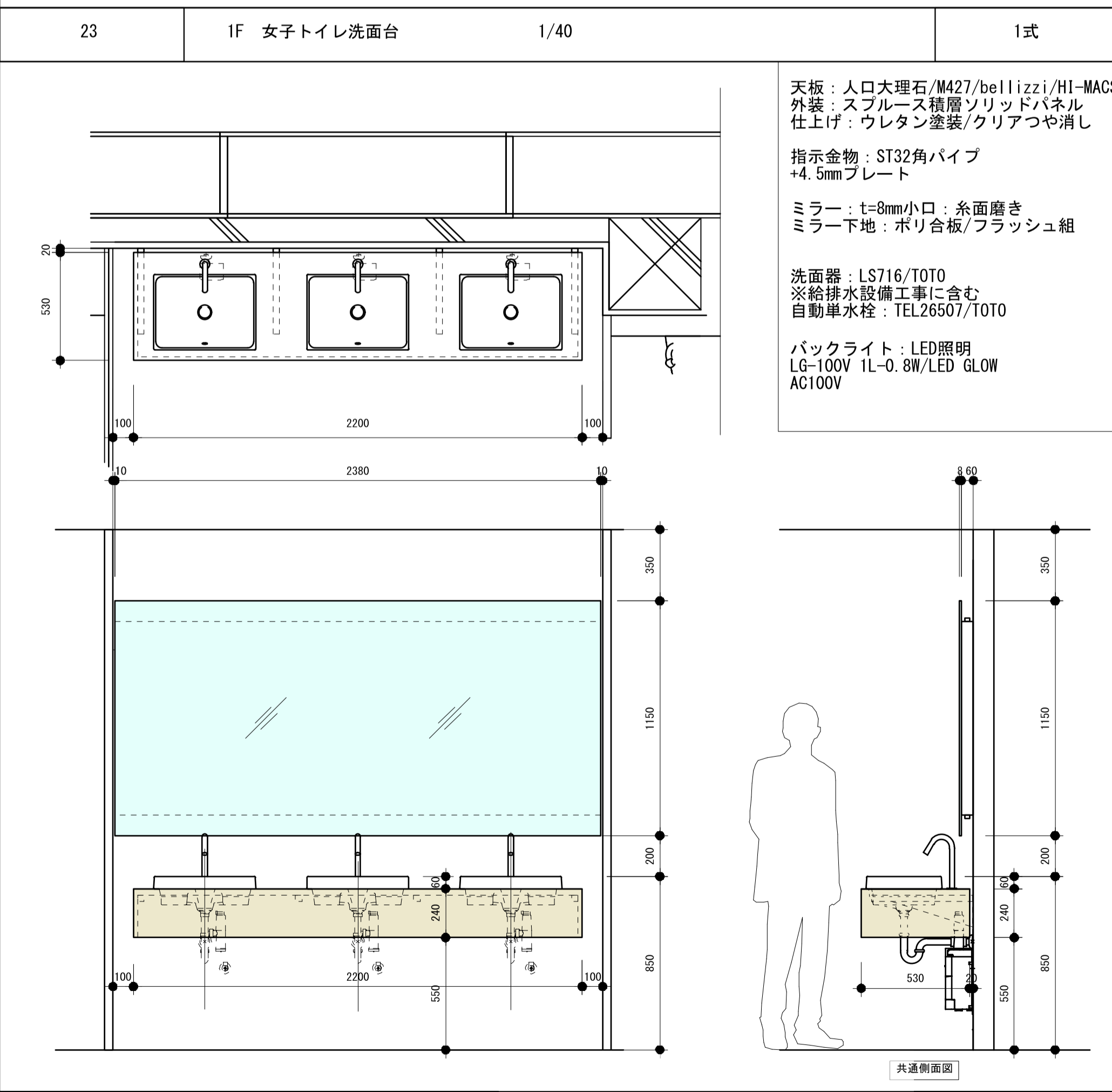
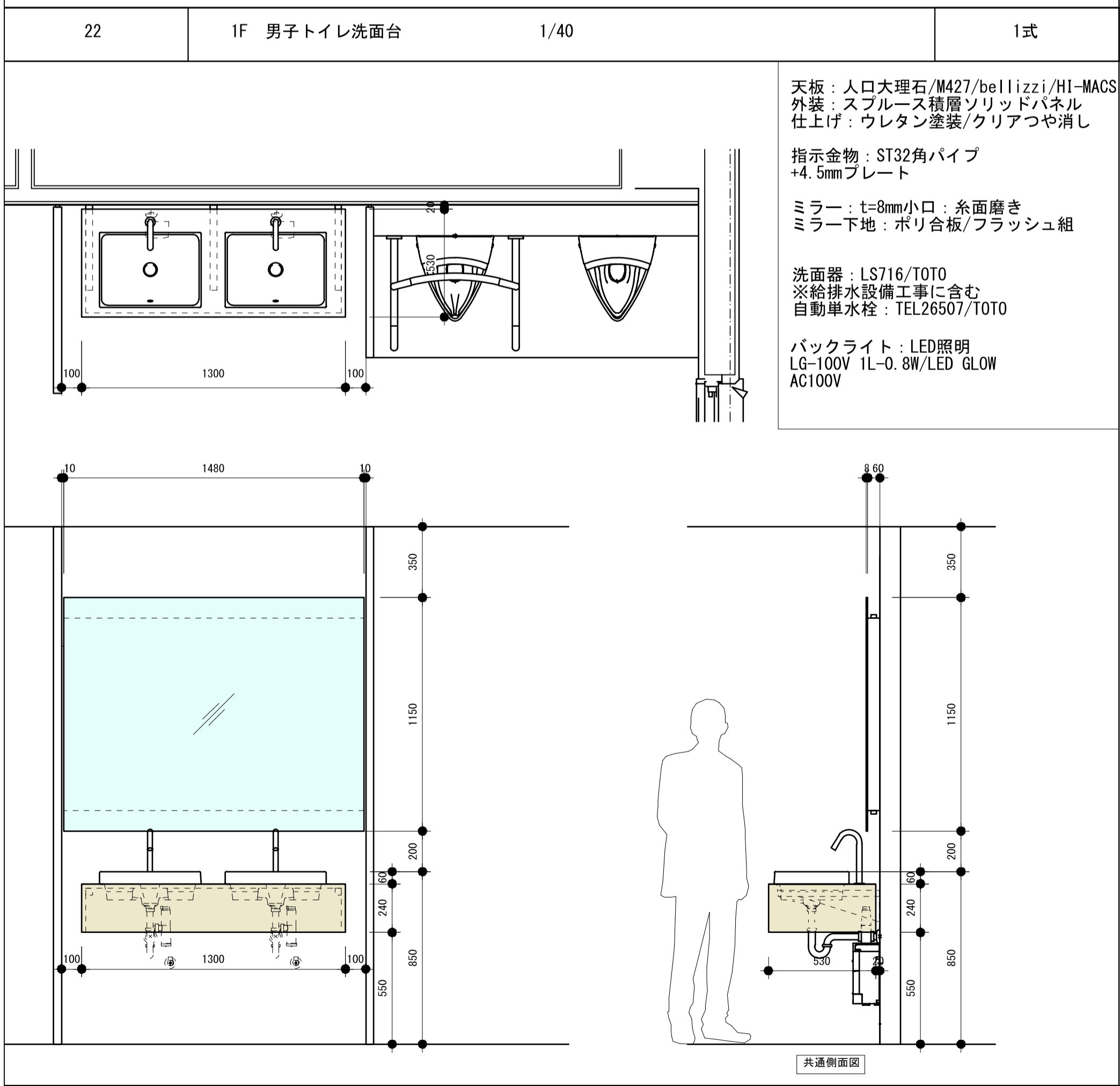
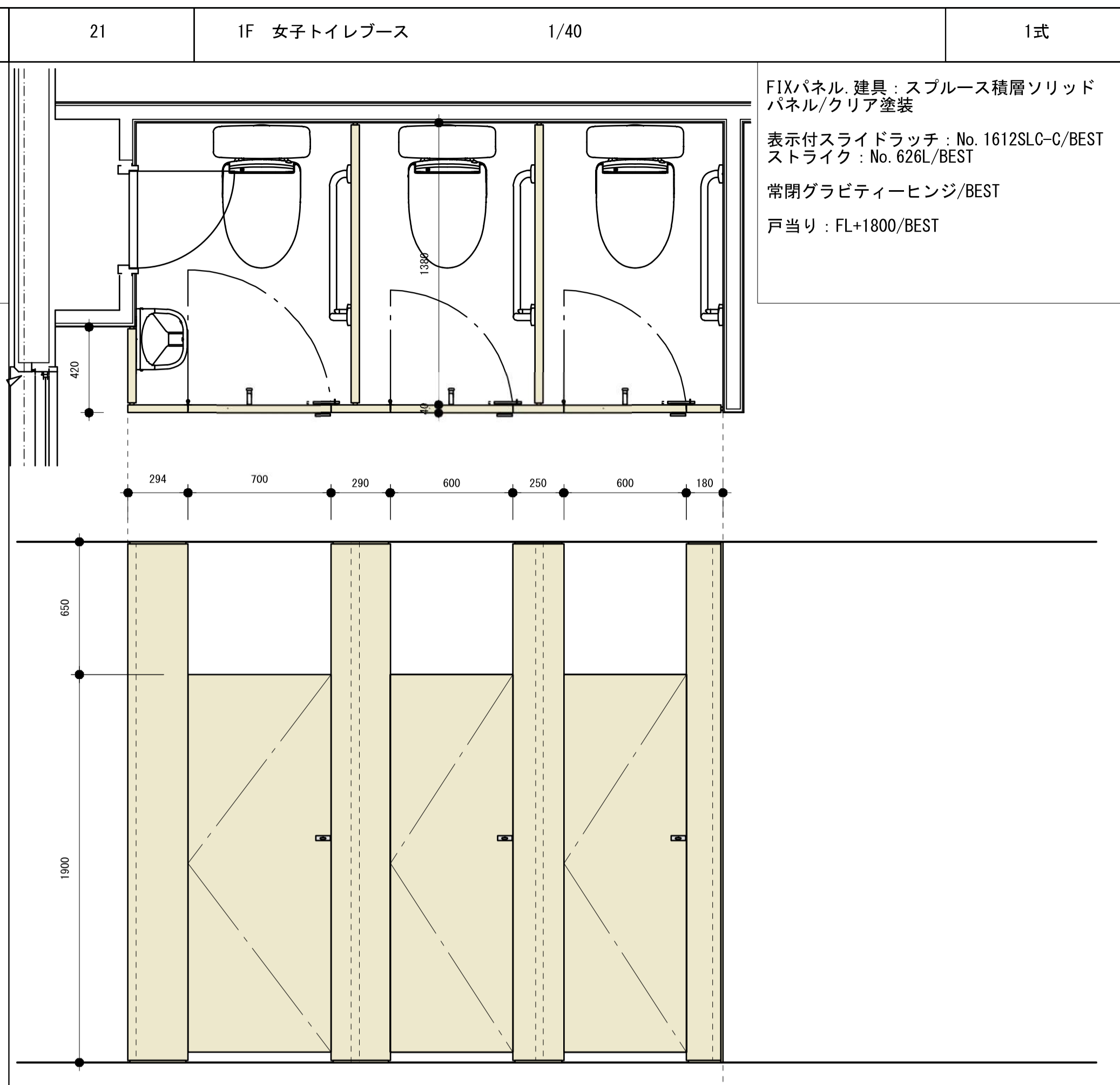
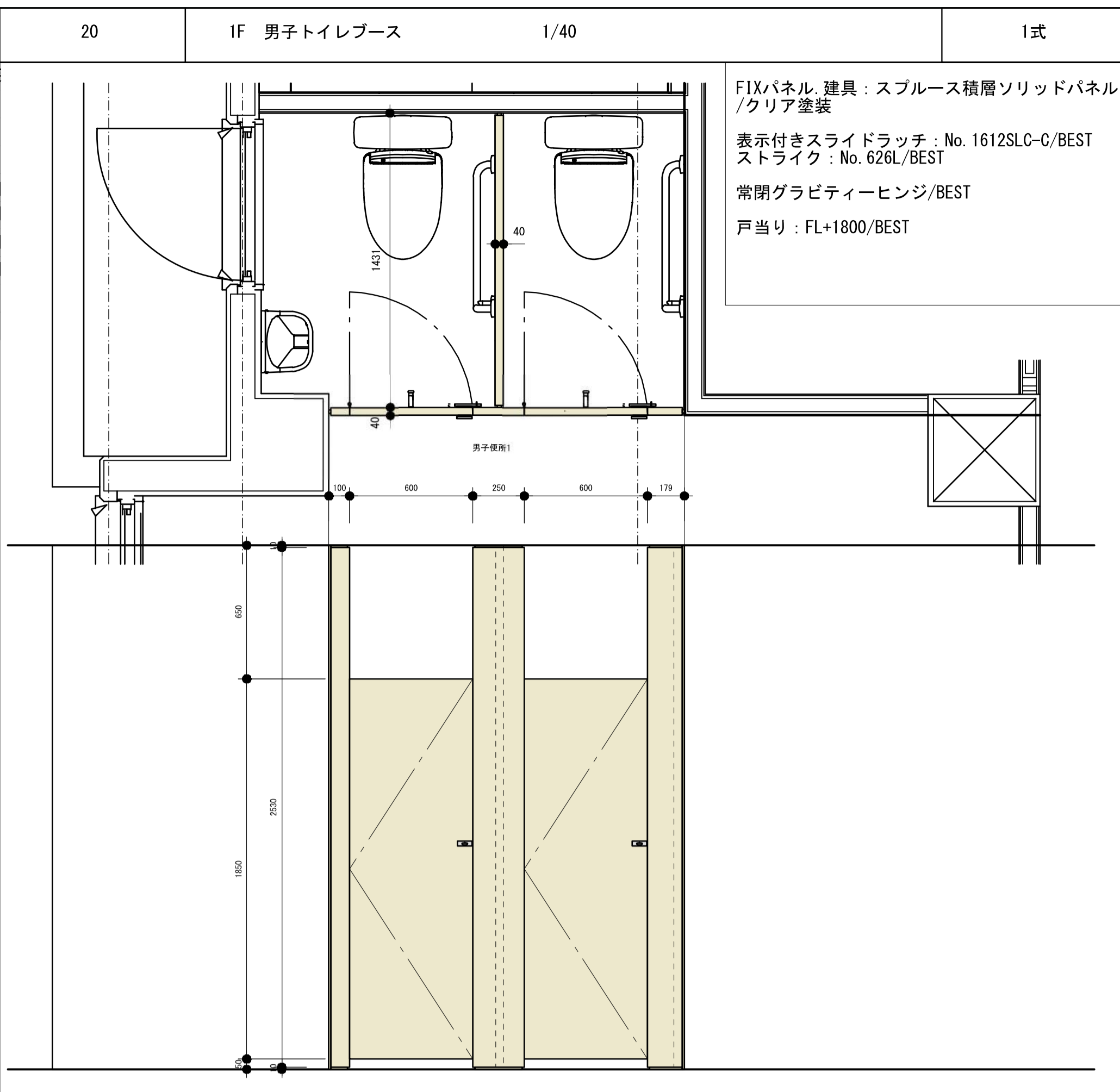
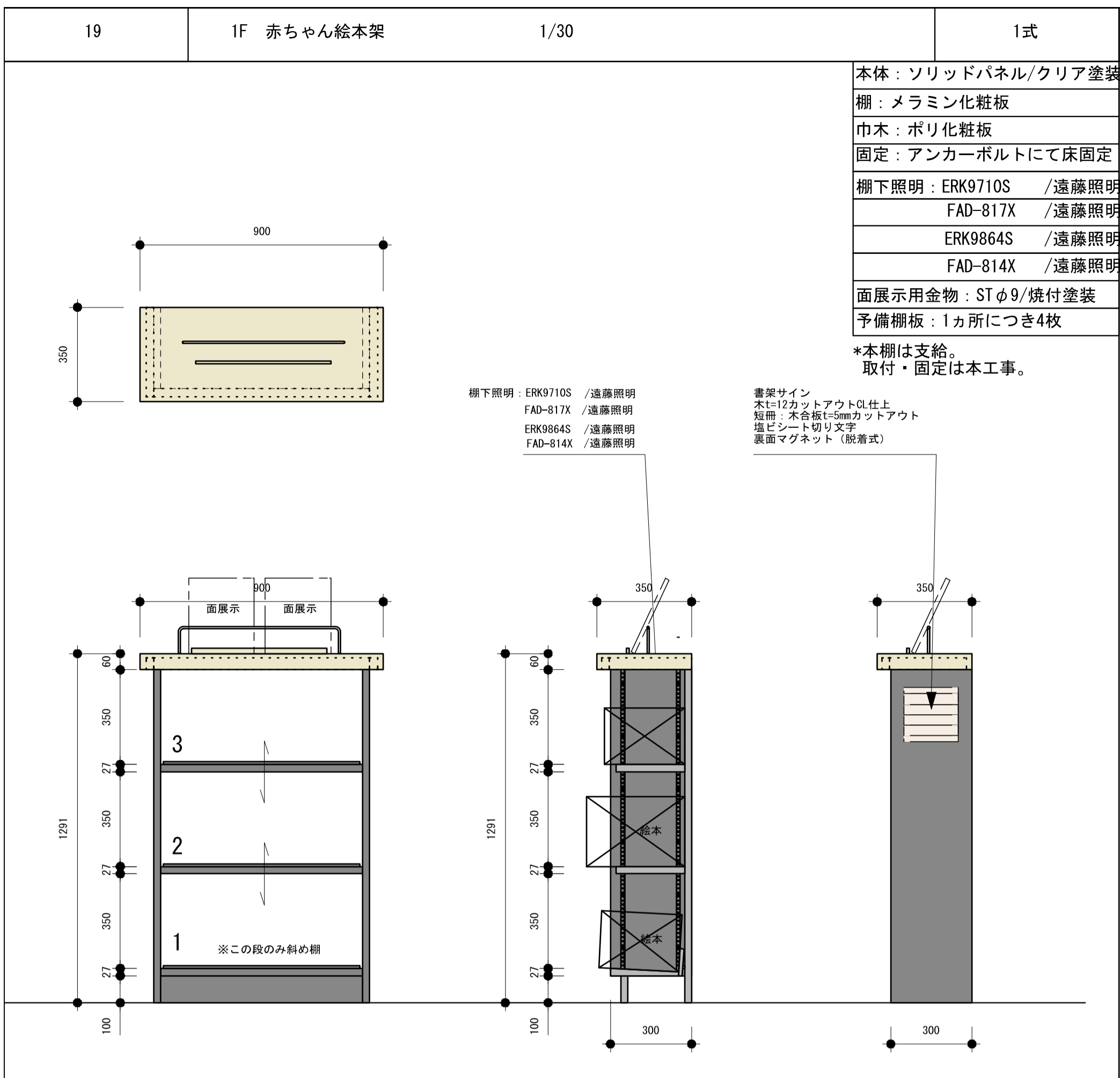
訂正事項	

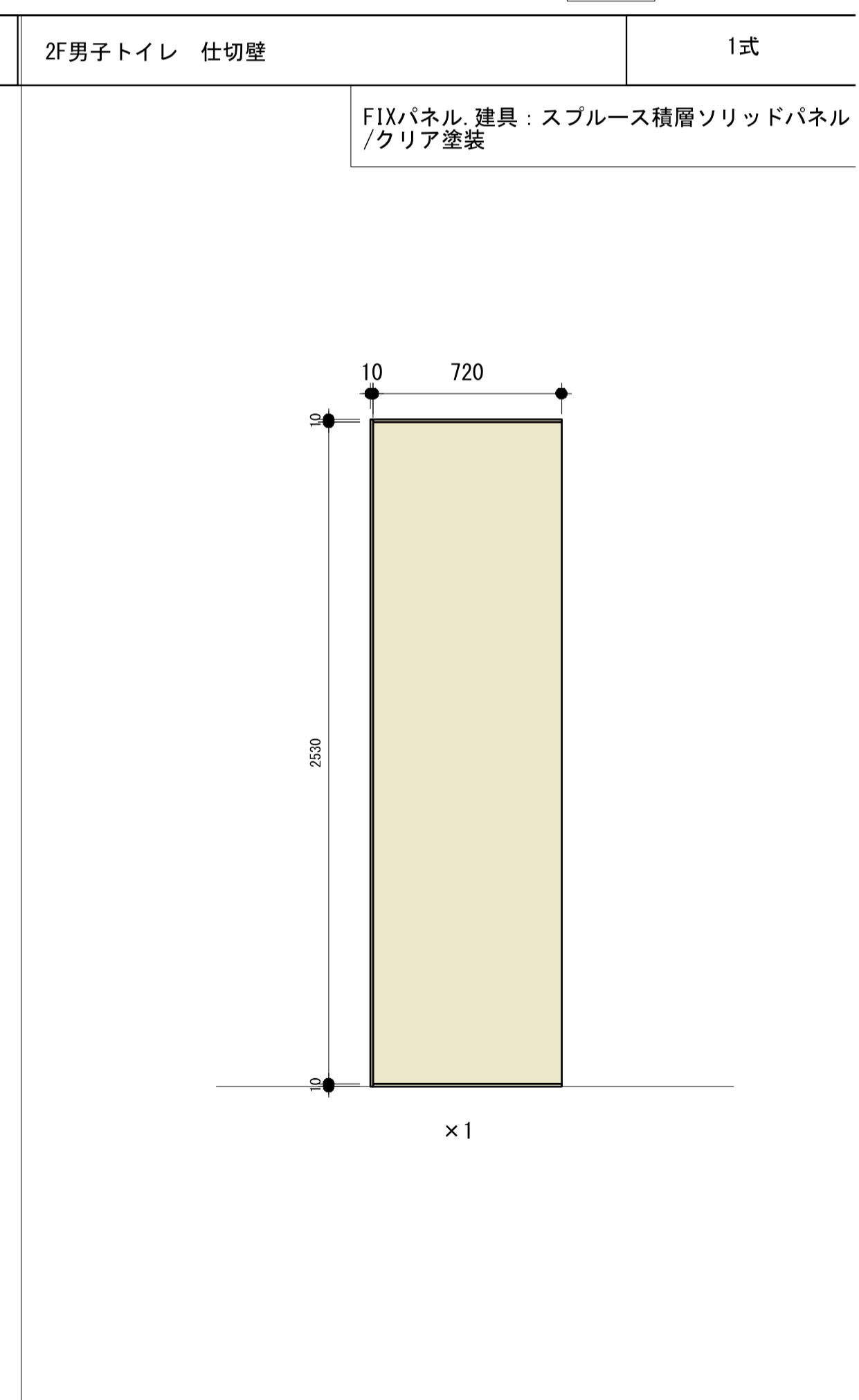
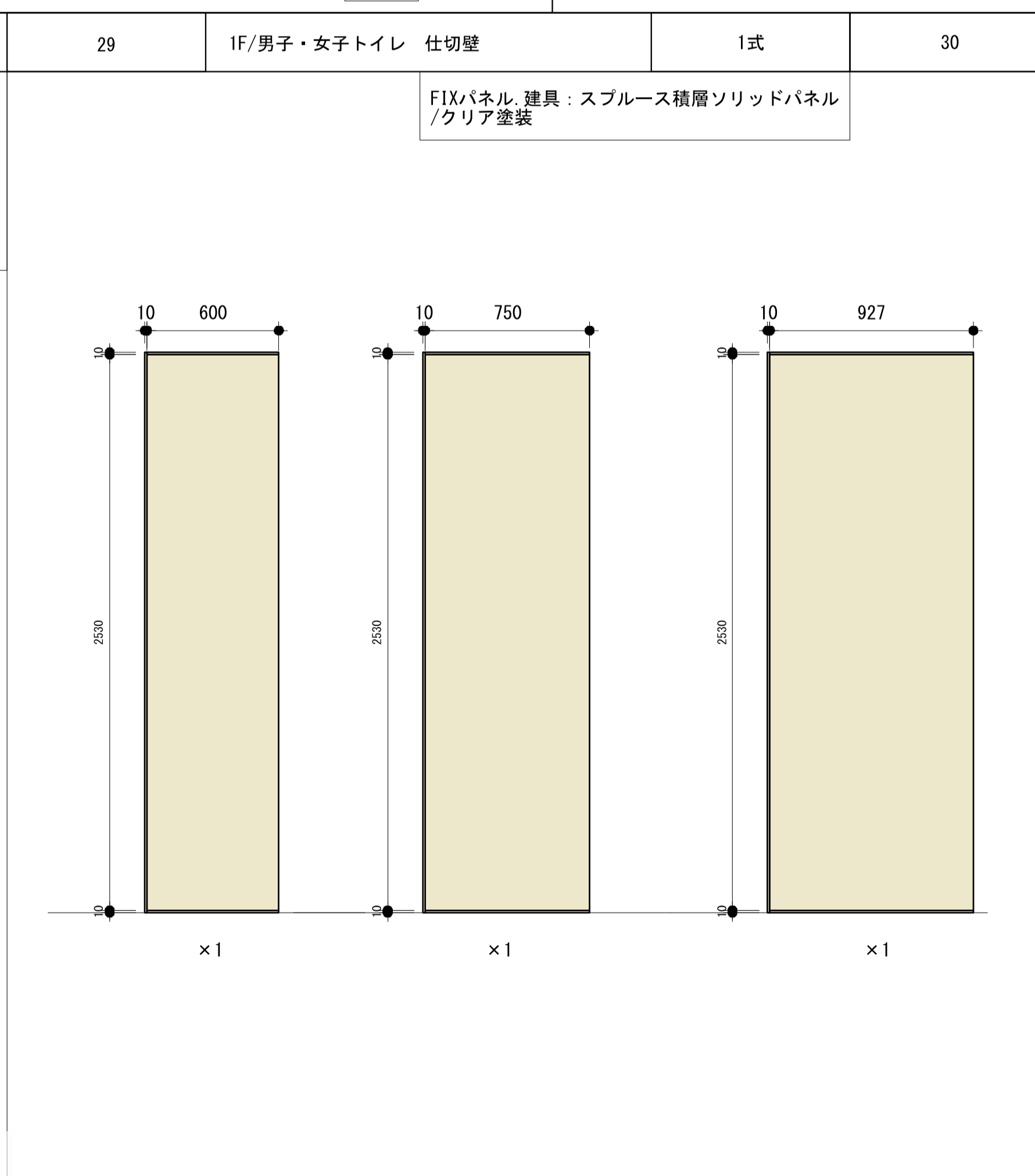
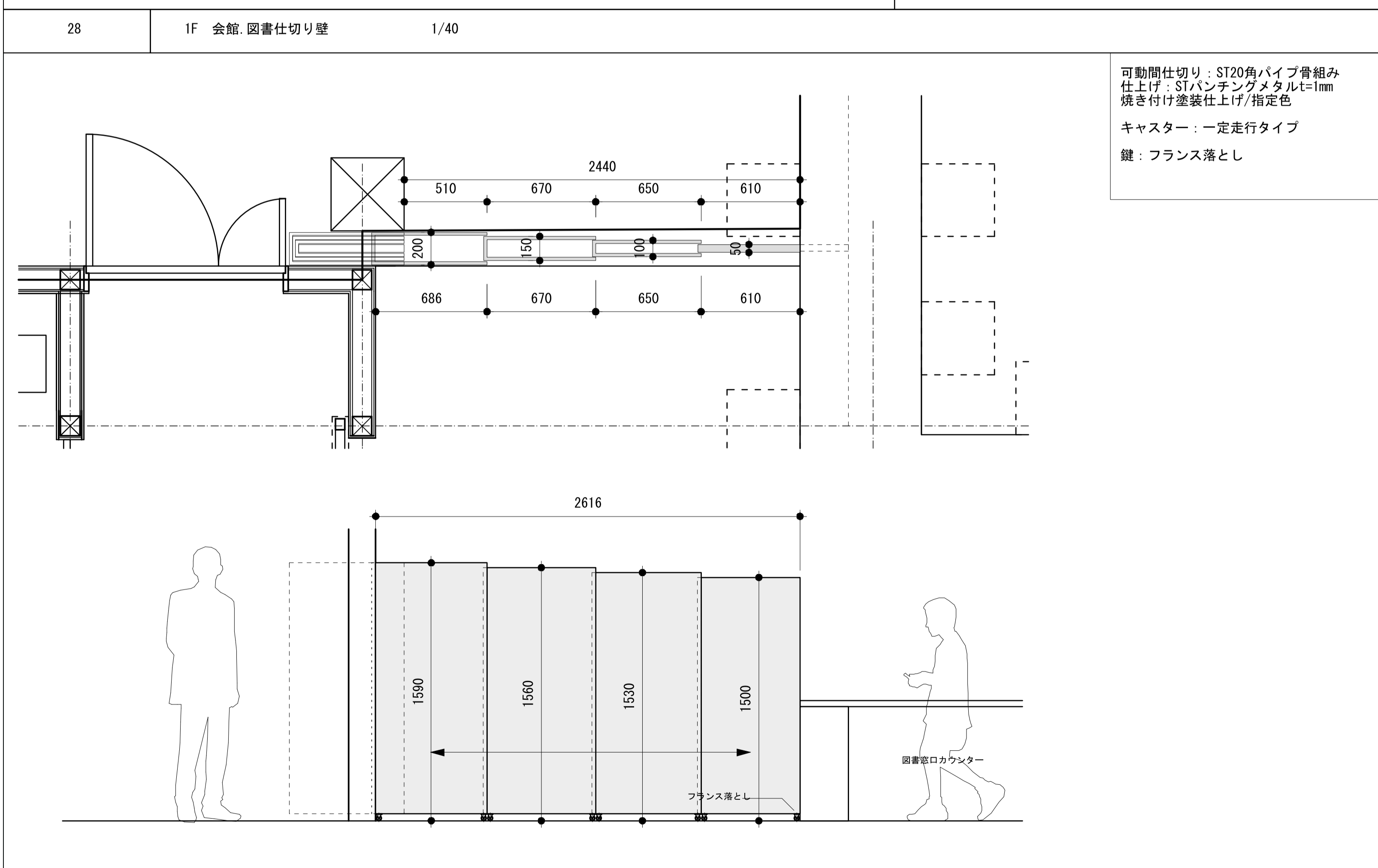
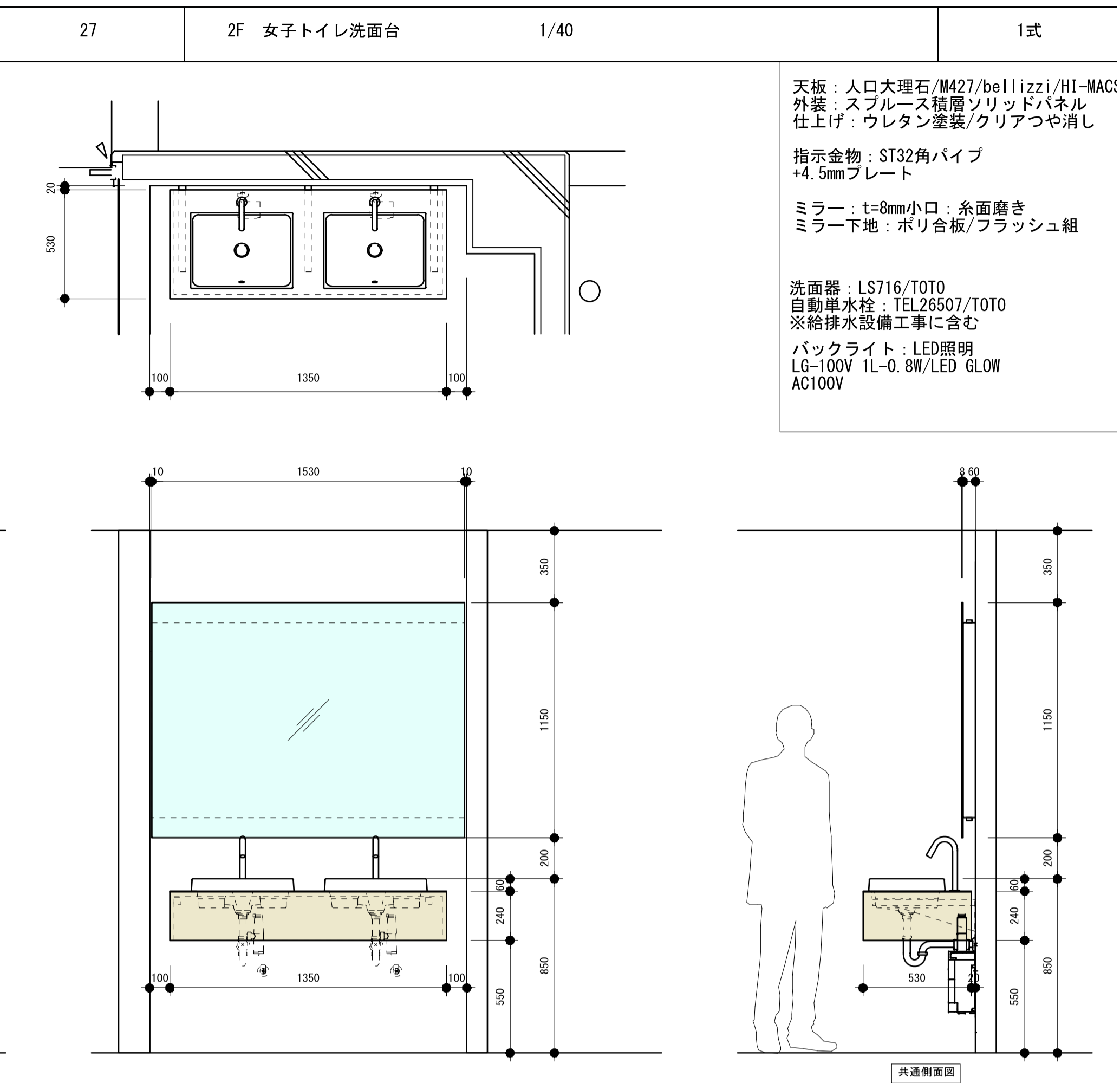
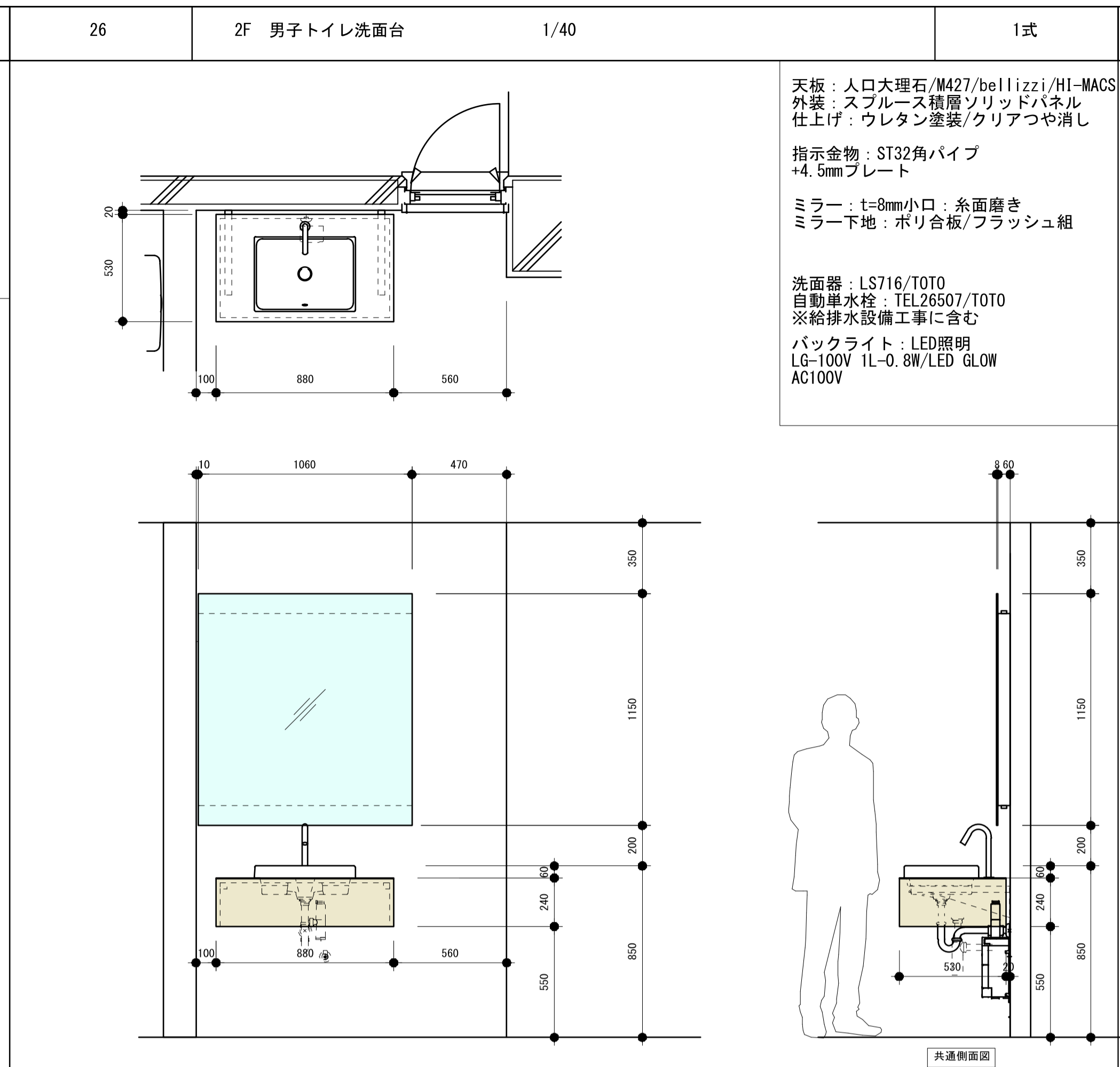
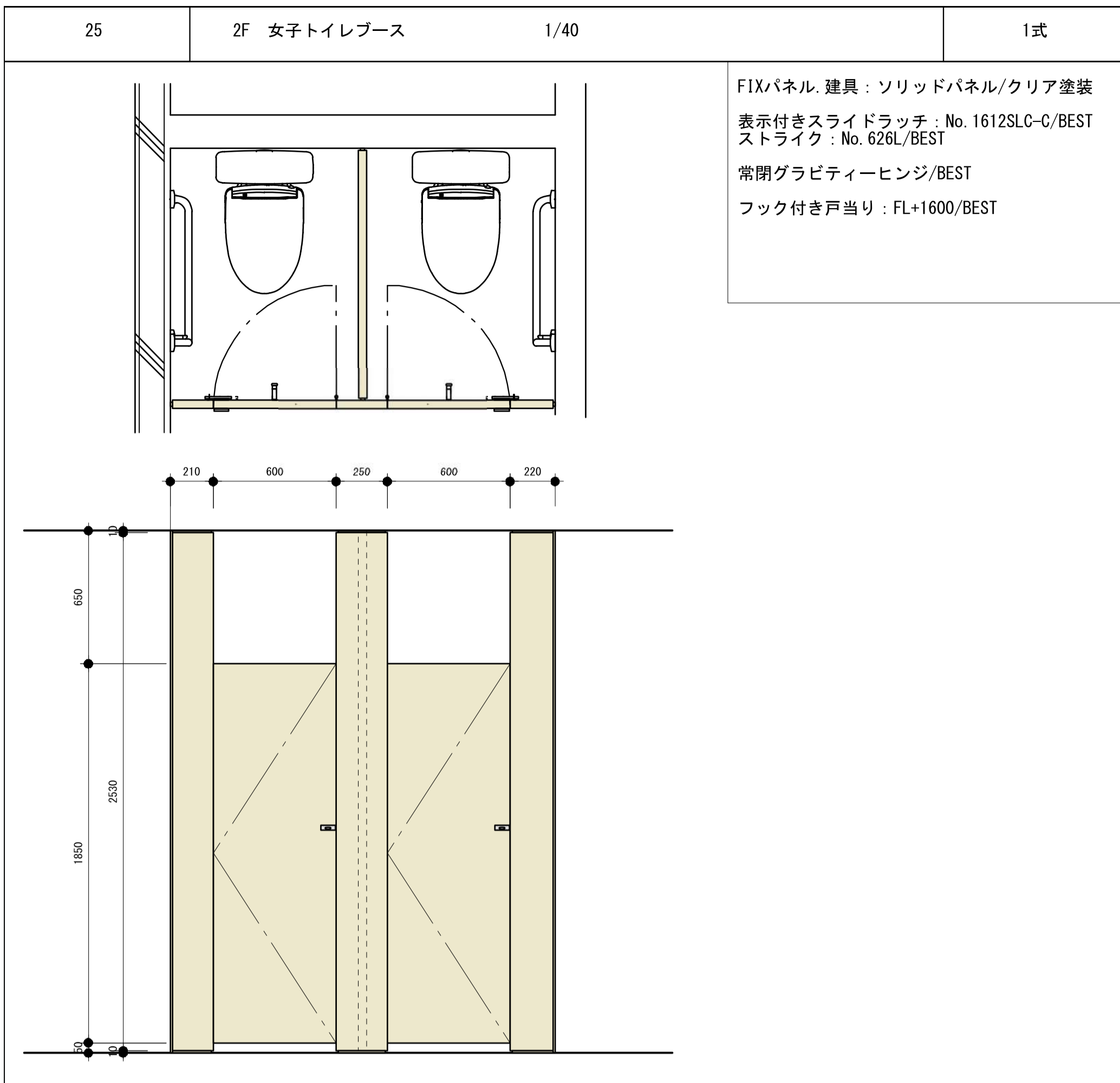
水原・芦澤設計共同体

株式会社 水原建築設計事務所 芦澤竜一建築設計事務所
 一級建築士事務所 滋賀県知事登録 第63号 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (社) 第14257号
 一級建築士登録 第110105号 北村 隆 一級建築士登録 第201129号 芦澤 竜一
 滋賀県彦根市長家観音寺443番地 TEL. 0749-22-1679 大阪府大阪市北区中崎西1-1-4 tel 06-6485-2017

北部図書機能・コミュニティ機能整備工事

家具図 04		SHEET NO.
		A-412
DATE	SCALE	





訂正事項	

水原・芦澤設計共同体

株式会社 水原建築設計事務所
 一級建築士事務所 滋賀県知事登録 第63号
 一級建築士登録 第210255号 北村 透
 滋賀県彦根市長官舎南側443番地 TEL: 0749-22-1679

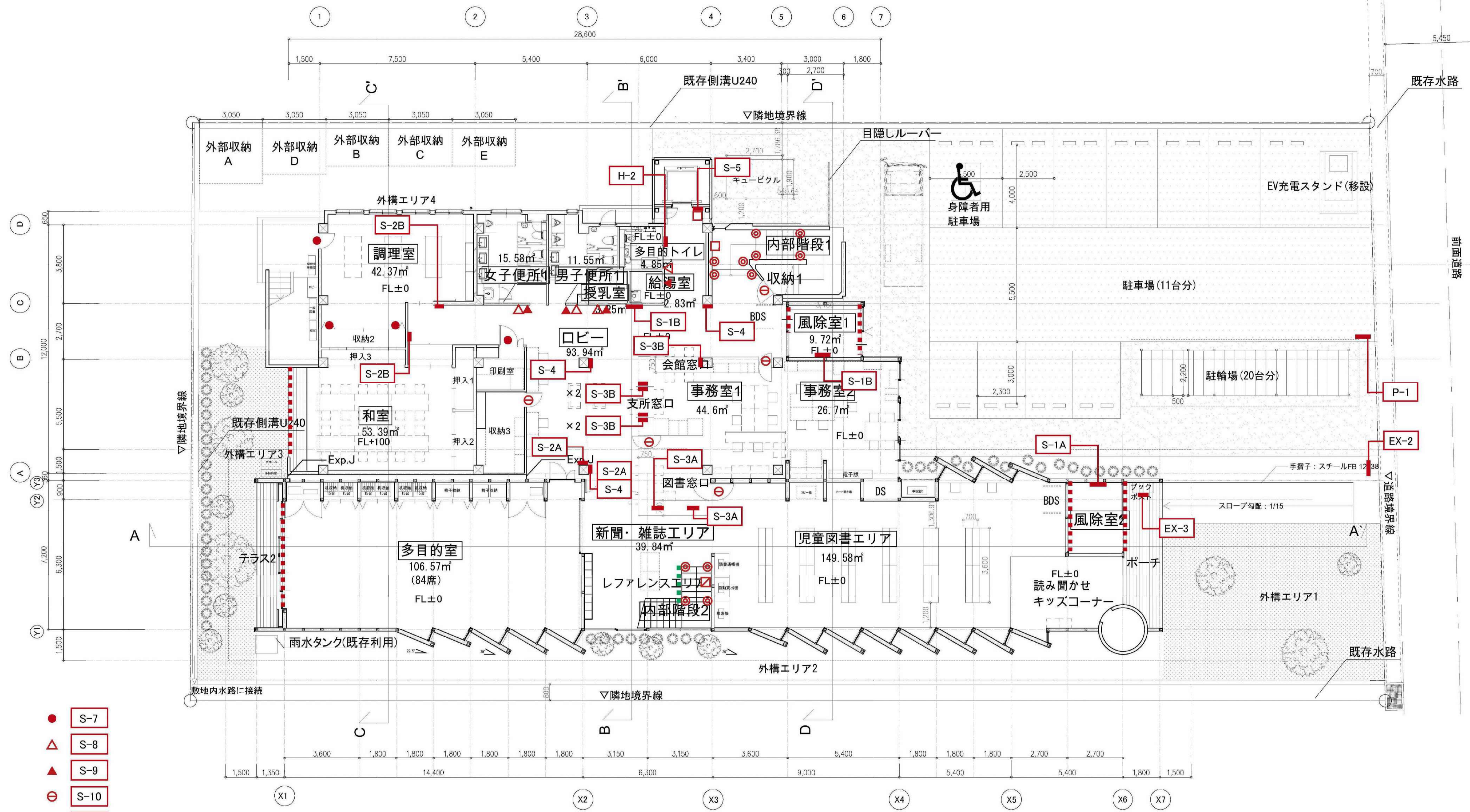
芦澤電一建築設計事務所
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (社) 第24257号
 一級建築士登録 第258129号 芦澤 電一
 大阪府大阪市北区中崎西1-4 TEL: 06-6485-2017

北部図書機能・コミュニティ機能整備工事

家具図 06		SHEET NO.
		A-414
DATE	SCALE	

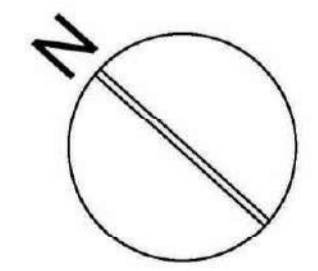
サイン工事 特記仕様書		サインリスト																																																																																																																																																																																																																																																																								
<p>1・1 適用範囲</p> <p>1・2 一般事項</p> <p>1・3 官公署その他への手続</p> <p>2・1 関係法令</p> <p>3・1 材料</p> <p>3・2 鋼材</p> <p>3・3 アルミ材</p> <p>3・4 ステンレス</p> <p>3・5 樹脂板</p>	<p>1. 共通事項</p> <p>本章は本建物の建築・設備に付設される文字、案内板、室名札等のサイン、および移動式サインのすべてに適用する。</p> <p>a. 屋外大型看板、屋外ネオン看板等の場合に下記の仕様を超える範囲は、日本建築学会建築工事標準仕様書（JASS）および日本建築学会制定各種指針の規定を基準とする。</p> <p>b. 製造者、または専門業者の指定は特記による。</p> <p>c. 仕上材は、工事に先立ち見本を提出して、監督員の承認をうける。</p> <p>d. 設計図書にもとづき必要な製作図、施工図を作成し、監督員の承認をうける。</p> <p>e. 特定の製品の指示がある場合は、そのメーカー仕様による。</p> <p>f. 耐震施工は、建築設備耐震設計・施工指針（日本建築センターによる）。</p> <p>g. デザイン監修については社団法人日本サインデザイン協会が行うものとし、フェイスデザインフロントタイプ、製作図等全般にわたり監督員の承認をうける。</p> <p>a. 工事の施工、建物の使用の開始に必要な官公署その他への手続きはすみやかに行う。</p> <p>b. 美観・景観等、当該街区の規程のある場合に手続きは、請負者または施工者がこれを行う。</p> <p>2. 施工基準</p> <p>a. 設計図書および監督員の指示に従い、建築基準法、消防法その他関係ある法令・指針を遵守し、かつ電気設備技術基準および内線規程ならびに配電規程に適合するように施工する。</p> <p>b. 電気用品取締法の適応を受けるものは型式許可済のものを使用する。ただし制限外申請にて許可されたものはこの限りでない。また規格制定なきものは官公署および所轄電力会社の検査に合格および監督員の承認を受けたものとする。</p> <p>c. JIS・JEC（電気規格調査会標準規格）・JEM（日本電気工業会標準規格）に制定のあるもので特記がない場合はこれに適合したものを使用する。</p> <p>3. 材料</p> <p>a. 材料は、すべて形状正しく、有害なきず、錆のない新品とする。</p> <p>b. 主要な材料は、見本を提出して、監督員の承認をうける。</p> <p>c. 材料の種類、品質、形状、色調、仕上げなどは特記による。特記がない場合は中等品とする。</p> <p>d. 金物は、JIS規格のあるものはこれによるものとし、その種類、材質、仕上げ、その他の仕様は特記による。特記がない場合、種別、数量などはサインの種別、大きさ、重量などに適するよう十分検討のうえ決定する。</p> <p>特記がない場合、以下を標準とする。</p> <p>a. 鋼材は JIS 規格品を使用する。</p> <p>b. 屋外部に使用される場合の防錆処理は溶融亜鉛メッキ処理とする。</p> <p>c. 焼付塗装はアミノアルキド樹脂エナメル（メラミン）もしくはアクリル樹脂エナメル（熱硬化型）とする。いずれも下地調整を入念に行い、下塗、中塗、上塗、仕上げ塗の各工程間に適切な研磨を施す。</p> <p>d. めっき処理は生地の研磨、脱脂、防錆などの前処理を完全に行い、指定のメッキ処理を行う。めっきの変色、退色などの防止の目的ため、着色めっき、ホワイトブロンズめっきの上に塗装する場合は、透明なラッカー又はメラミン樹脂塗料とし、あらかじめ監督員の承認をうける。</p> <p>a. アルミニウム合金板は JIS-H-4000-1970「アルミニウムおよびアルミニウム合金の板および条」2種（A-5025-H-31）とする。</p> <p>b. 層極酸化皮膜の種別は特記の無い場合、層極酸化被膜（シルバーアルマイト）とする。</p> <p>c. 合金発色、三次電解着色、染色被膜、科学被膜などその他の被膜は特記による。</p> <p>ステンレスの表面仕上げは特記の無い場合はバイブレーション仕上げとする。</p> <p>特記がない場合、以下を標準とする。</p> <p>a. メタアクリ樹脂板は JIS-K-6178 とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 切断面、切抜部分の見えがかり部はバフ仕上とする。 接着面は重合型接着材を使用し、接着面に気泡、ゴミが入らないものとする。 静電防止処理は監督員の指示による。 <p>b. 硬質塩化ビニール板は JIS-K-6745 とする。</p> <p>c. アクリル変成高衝撃強化ビニール板の加工はメーカー仕様とする。</p> <p>d. 偏光アクリル樹脂板の加工はメーカー仕様とする。</p> <p>e. アルミポリエチレン積層板の表面加工は 3・3 アルミ材に準じる。ただし、焼付温度は 80℃以下とする。</p> <p>f. 強化ポリエステル材はガラス繊維補強法、仕上げを含め、メーカー仕様および特記による。</p> <p>3・6 ガラス</p> <p>ガラスおよび鏡を使用する工事で特記がない場合、以下を標準とする。</p> <p>a. 板ガラスは普通板・フロート・みがき板・型板・網入り・合せ・強化・熱線吸収・熱線反射・複層などすべての種類は JIS 規格規格製品とする。</p> <p>b. 鏡のガラスは透明みがき板ガラスまたは透明フロートガラスの引用を使用し、面取り、こぼみがきとし、表面は銀、銅などのめっき引きのうえ防湿塗装（焼付け処理）をほどこしたのとする。既製品を使用する場合は見本を提出し、監督員の承認をうける。</p> <p>c. 熱線吸収板ガラス鏡、透視鏡、拡大鏡、合せ鏡、防湿鏡など、特殊な鏡は承認をうける。</p> <p>e. ガラスおよび鏡の接着方法は、接着剤、粘着シート・テープ類を含め、監督員と協議のうえ、決定する。</p> <p>3・7 粘着シート</p> <p>特記がない場合、以下を標準とする。</p> <p>a. 外部に用いるシート類は耐候性能（5 年間の暴露に色の変化、ひび割れ、はがれが生じない）を有するものとする。</p> <p>b. 表面保護はメーカーの指定剤を使用する。</p> <p>c. 「P シート」は住友スリーエム・ダイノックフィルム程度、「フィルムシート」は住友スリーエム・スコッチカルフィルム程度とする。</p> <p>コンクリート、モルタルその他の材料を用いる場合は、工事区分に注意する事。</p> <p>a. アンカーボルト等の本体取付用部品の別途工事との調整は、製作前に監督員と協議して決定する。</p> <p>3・8 LED その他</p> <p>LED モジュールについて、特記なき場合、以下を標準とする。</p> <p>a.LED 素子は日亜化学工業（株）製もしくは同等品とする。</p> <p>b. 屋内外用防水仕様とし、3M LED モジュール N シリーズもしくは同等品とする。</p> <p>4・1 製作・取付</p> <p>a. 製作に先立ち、主要な部分については製作図を作成し、監督員の承認を受け取付ける。</p> <p>b. 壁面、床面へ取付けるもの、吊下るもの、連続して並べるものは、現場を予め調査しアジャストなどを考慮し、工作には特に注意する。</p> <p>c. ボルト、小ねじ、くぎ、座金などの結合用材および取付け用金物で軽金属と接触するものはステンレス製とする。やむをえず異種金属と接触する場合に使用する金物類は、亜鉛またはニッケルクロームめっきをほどこしたのとする。</p> <p>d. インサート、アンカーボルト、彫込みボルト、ドライブピン、座金、ネジ、ビスなどの取付け用副資材は、JIS 規格があるものはこれによるものとし、その目的に応じた、材質、形状、寸法のもので、特記がない場合、必要耐力の 3 倍以上の耐力が得られるよう、取付箇所、工法、施工条件などを十分検討して決定する。</p> <p>e. 取付け後の再調整が困難な場合は、仮付け後適切な治具を用いて水平だし、つら揃えなどを行ったのち本付けとする。</p> <p>f. 製品は必要に応じて、当て板、ビニールシートなどで適切な養生を行う。</p> <p>5・1 文字・絵文字</p> <p>a. 文字・絵文字は右記の「フォント/ピクトグラム」を使用する。</p> <p>b. 文字の高さは和字は【本】の高さ、英字は【H】の高さ、数字は【1】の高さをそれぞれ基準とする。</p> <p>c. 文字間隔、文幅は読取りとし、視覚的に等しく見えるように調整配列する。</p> <p>5・2 レイアウト図</p> <p>文字および図形等のレイアウト図は特記のない場合、以下の要領で作成する。</p> <p>a. 文字および図形等の拡大または縮小は指定原版を用い、写真操作によって忠実に再現する。また拡大時における変形は入念に修正し、監督員の承認をうける。</p> <p>b. レイアウト図を用いた版下原稿の作成は原寸または 2分の1縮小版とする。</p> <p>5・3 シルクスクリーン印刷</p> <p>シルクスクリーン印刷は特記のない場合、下記による。</p> <p>a. 製版は写真製版による。</p> <p>b. インクはインクメーカーの仕様および指導により、印刷下地材との付着性能を確認し、監督員の承認をうける。</p> <p>c. インクの退色経ろう度は 10 年間相当の暴露試験合格品以上とする。</p> <p>d. スクリーン原版はフレームに張られた状態で施工後、溶剤洗浄し、約 3 ヶ月保存しておく。</p> <p>5・4 フォトケミカルプリント</p> <p>フォトケミカルプリントは特記のない場合、下記による。</p> <p>a. 塗料または染料は塗料メーカーおよびアッセンブルメーカーの仕様によるが見本を提出し、監督員の承認をうける。</p> <p>b. ゼラチンカラーペーパーまたはポリエステルカラーフィルム等のラミネート処理は熱による変形および剥離が生じないよう適切な処理を行って圧着する。</p> <p>c. 住友スリーエムスコッチプリント・イメージグラフィックス（プレミアムグレード・SP4169・トナー・8620）程度とする。</p> <p>5・5 その他</p> <p>a. 製品についてはサインズブラン（06-7500-7955）同等品とし、監督員は公益社団法人日本サインデザイン協会から選出する。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>名称</th> <th>照明</th> <th>外構</th> <th>1F</th> <th>2F</th> <th>合計</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>EX-1</td> <td>施設名称サイン</td> <td>-</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>RC/版築基礎工事/スポット照明は建築工事 中止</td> </tr> <tr> <td>EX-2</td> <td>施設誘導サイン</td> <td>-</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>基礎工事 / スポット照明は建築工事</td> </tr> <tr> <td>EX-3</td> <td>ブックポストサイン</td> <td>-</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>P-1</td> <td>駐車場誘導サイン</td> <td>-</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>基礎工事 / スポット照明は建築工事</td> </tr> <tr> <td>P-2</td> <td>車いす駐車場サイン</td> <td>-</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>P-3</td> <td>EV充電スタンドサイン</td> <td>-</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-1A</td> <td>総合案内サイン(図書館側)</td> <td>-</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-1B</td> <td>総合案内サイン(会館側)</td> <td>-</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-2A</td> <td>施設名称サイン(図書館/会館)</td> <td>-</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-2B</td> <td>施設名称サイン(会館側)</td> <td>-</td> <td></td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-3A</td> <td>窓口サイン(図書館側)</td> <td>-</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-3B</td> <td>窓口サイン(会館側)</td> <td>-</td> <td></td> <td>5</td> <td></td> <td>5</td> <td>木製バージョンに取付</td> </tr> <tr> <td>S-4</td> <td>誘導サイン</td> <td>-</td> <td></td> <td>3</td> <td>2</td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-5</td> <td>EV各階案内サイン</td> <td>-</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-6A</td> <td>インフォメーションボード(図書館側)</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>S-6B</td> <td>インフォメーションボード(会館側)</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>S-7</td> <td>室名サイン(バックヤード)</td> <td>-</td> <td></td> <td>4</td> <td>3</td> <td>7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-8</td> <td>ピクトサイン(突出)</td> <td>-</td> <td></td> <td>4</td> <td></td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-9</td> <td>ピクトサイン(壁付)</td> <td>-</td> <td></td> <td>4</td> <td>2</td> <td>6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-10</td> <td>PRIVATEサイン</td> <td>-</td> <td></td> <td>5</td> <td>1</td> <td>6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-11A</td> <td>階数表示(図書館側)</td> <td>-</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-11B</td> <td>階数表示(会館側)</td> <td>-</td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S-12A</td> <td>スタンドサイン(図書館側)</td> <td>-</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>S-12B</td> <td>スタンドサイン(会館側)</td> <td>-</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>S-13</td> <td>衝突防止</td> <td>-</td> <td></td> <td>18m</td> <td>26m</td> <td>44m</td> <td>32箇所</td> </tr> <tr> <td>S-14</td> <td>書架サイン</td> <td></td> <td></td> <td>18</td> <td>12</td> <td>30</td> <td>中止→家具工事</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>H-1</td> <td>手摺点字</td> <td>-</td> <td></td> <td>12</td> <td>8</td> <td>20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H-2</td> <td>トイレ点字平面図</td> <td>-</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5m</td> <td>8m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>G-1</td> <td>ガラス手摺グラフィックシート</td> <td>-</td> <td></td> <td>3m</td> <td>10m</td> <td>13m</td> <td>H1,200 透明シートにインクジェット出力</td> </tr> </tbody> </table> <p>フォント/ピクトグラム（特記なき場合）</p> <p>和文フォント：IWATA UDゴシックPlo-R</p> <p>英文/数字フォント：DINOT-Regular</p> <h1>厨房 倉庫 スタッフルーム リネン室</h1> <h2>ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789</h2> <p>ピクトグラム/矢印</p>	No.	名称	照明	外構	1F	2F	合計	備考	EX-1	施設名称サイン	-	1			1	RC/版築基礎工事/スポット照明は建築工事 中止	EX-2	施設誘導サイン	-	1			1	基礎工事 / スポット照明は建築工事	EX-3	ブックポストサイン	-	1			1		P-1	駐車場誘導サイン	-	1			1	基礎工事 / スポット照明は建築工事	P-2	車いす駐車場サイン	-	1			1	中止	P-3	EV充電スタンドサイン	-	1			1	中止									S-1A	総合案内サイン(図書館側)	-		1		1		S-1B	総合案内サイン(会館側)	-		2		2		S-2A	施設名称サイン(図書館/会館)	-		2		2		S-2B	施設名称サイン(会館側)	-		2	3	5		S-3A	窓口サイン(図書館側)	-		2		2		S-3B	窓口サイン(会館側)	-		5		5	木製バージョンに取付	S-4	誘導サイン	-		3	2	5		S-5	EV各階案内サイン	-		1	1	2		S-6A	インフォメーションボード(図書館側)			2		2	中止	S-6B	インフォメーションボード(会館側)			1		1	中止	S-7	室名サイン(バックヤード)	-		4	3	7		S-8	ピクトサイン(突出)	-		4		4		S-9	ピクトサイン(壁付)	-		4	2	6		S-10	PRIVATEサイン	-		5	1	6		S-11A	階数表示(図書館側)	-		1		1		S-11B	階数表示(会館側)	-		2	1	3		S-12A	スタンドサイン(図書館側)	-		1		1	中止	S-12B	スタンドサイン(会館側)	-		1		1	中止	S-13	衝突防止	-		18m	26m	44m	32箇所	S-14	書架サイン			18	12	30	中止→家具工事									H-1	手摺点字	-		12	8	20		H-2	トイレ点字平面図	-		1		1							5m	8m		G-1	ガラス手摺グラフィックシート	-		3m	10m	13m	H1,200 透明シートにインクジェット出力
No.	名称	照明	外構	1F	2F	合計	備考																																																																																																																																																																																																																																																																			
EX-1	施設名称サイン	-	1			1	RC/版築基礎工事/スポット照明は建築工事 中止																																																																																																																																																																																																																																																																			
EX-2	施設誘導サイン	-	1			1	基礎工事 / スポット照明は建築工事																																																																																																																																																																																																																																																																			
EX-3	ブックポストサイン	-	1			1																																																																																																																																																																																																																																																																				
P-1	駐車場誘導サイン	-	1			1	基礎工事 / スポット照明は建築工事																																																																																																																																																																																																																																																																			
P-2	車いす駐車場サイン	-	1			1	中止																																																																																																																																																																																																																																																																			
P-3	EV充電スタンドサイン	-	1			1	中止																																																																																																																																																																																																																																																																			
S-1A	総合案内サイン(図書館側)	-		1		1																																																																																																																																																																																																																																																																				
S-1B	総合案内サイン(会館側)	-		2		2																																																																																																																																																																																																																																																																				
S-2A	施設名称サイン(図書館/会館)	-		2		2																																																																																																																																																																																																																																																																				
S-2B	施設名称サイン(会館側)	-		2	3	5																																																																																																																																																																																																																																																																				
S-3A	窓口サイン(図書館側)	-		2		2																																																																																																																																																																																																																																																																				
S-3B	窓口サイン(会館側)	-		5		5	木製バージョンに取付																																																																																																																																																																																																																																																																			
S-4	誘導サイン	-		3	2	5																																																																																																																																																																																																																																																																				
S-5	EV各階案内サイン	-		1	1	2																																																																																																																																																																																																																																																																				
S-6A	インフォメーションボード(図書館側)			2		2	中止																																																																																																																																																																																																																																																																			
S-6B	インフォメーションボード(会館側)			1		1	中止																																																																																																																																																																																																																																																																			
S-7	室名サイン(バックヤード)	-		4	3	7																																																																																																																																																																																																																																																																				
S-8	ピクトサイン(突出)	-		4		4																																																																																																																																																																																																																																																																				
S-9	ピクトサイン(壁付)	-		4	2	6																																																																																																																																																																																																																																																																				
S-10	PRIVATEサイン	-		5	1	6																																																																																																																																																																																																																																																																				
S-11A	階数表示(図書館側)	-		1		1																																																																																																																																																																																																																																																																				
S-11B	階数表示(会館側)	-		2	1	3																																																																																																																																																																																																																																																																				
S-12A	スタンドサイン(図書館側)	-		1		1	中止																																																																																																																																																																																																																																																																			
S-12B	スタンドサイン(会館側)	-		1		1	中止																																																																																																																																																																																																																																																																			
S-13	衝突防止	-		18m	26m	44m	32箇所																																																																																																																																																																																																																																																																			
S-14	書架サイン			18	12	30	中止→家具工事																																																																																																																																																																																																																																																																			
H-1	手摺点字	-		12	8	20																																																																																																																																																																																																																																																																				
H-2	トイレ点字平面図	-		1		1																																																																																																																																																																																																																																																																				
					5m	8m																																																																																																																																																																																																																																																																				
G-1	ガラス手摺グラフィックシート	-		3m	10m	13m	H1,200 透明シートにインクジェット出力																																																																																																																																																																																																																																																																			

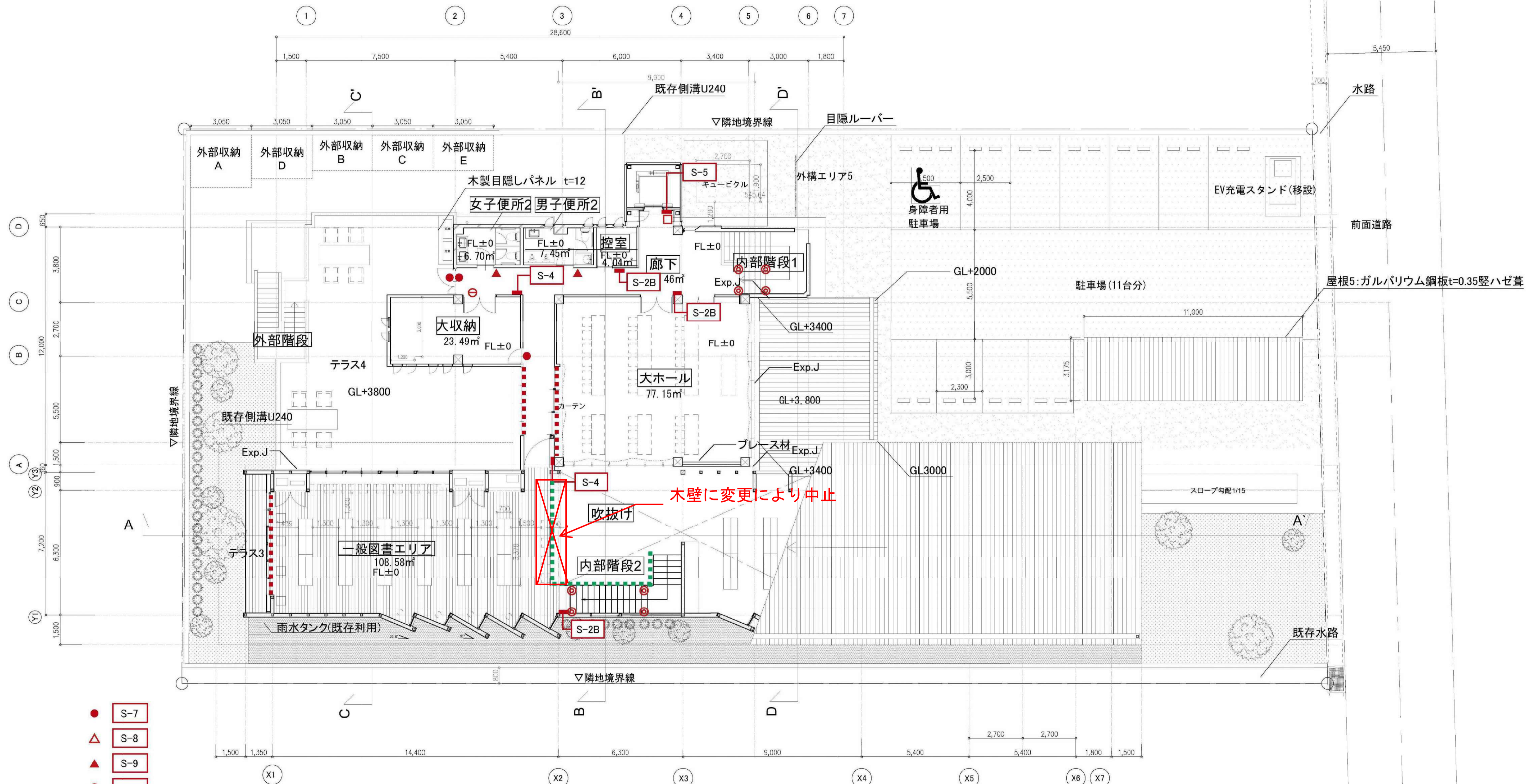
訂正事項・		<p style="text-align: center;">水原・芦澤設計共同体</p> <p>株式会社 水原建築設計事務所 芦澤竜一建築設計事務所</p> <small>一般建築士事務所 滋賀県知事登録 第53号 一般建築士事務所 大阪府知事登録 (ロ) 第24257号 一般建築士登録 第21926号 北村 通 一般建築士登録 第39133号 芦澤 竜一 滋賀県彦根市長音根町446番地 TEL 0749-22-1679 大阪府大阪市北区中崎西1-1-4 tel 06-6465-2017</small>	<p style="text-align: center;">北部図書機能・コミュニティ機能整備工事</p>	サイン仕様書			SHEET NO. A-415
				DATE	SCALE		



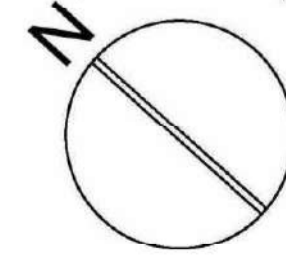
- S-7
- ▲ S-8
- ▲ S-9
- ⊖ S-10
- ⊠ S-11A
- S-11B
- ⋯ S-13

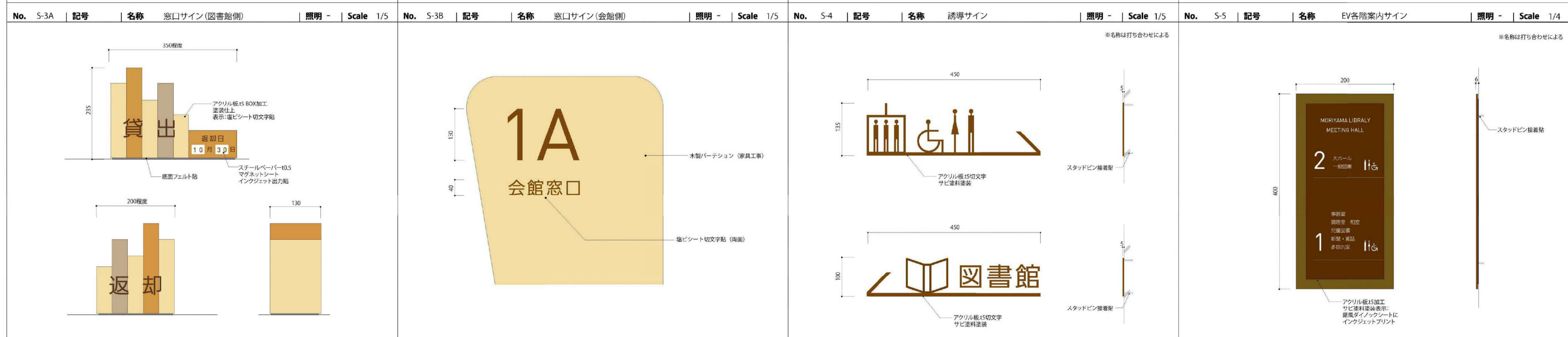
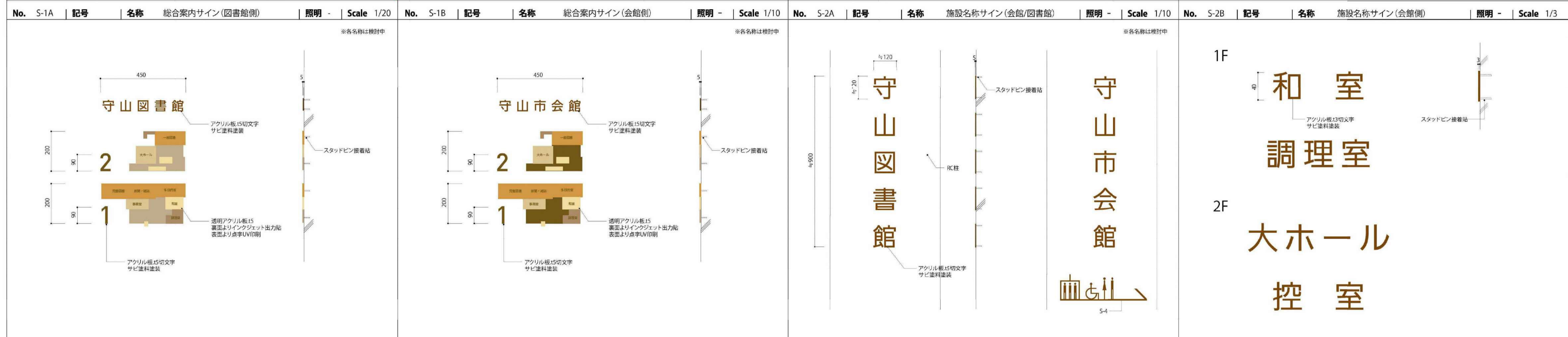
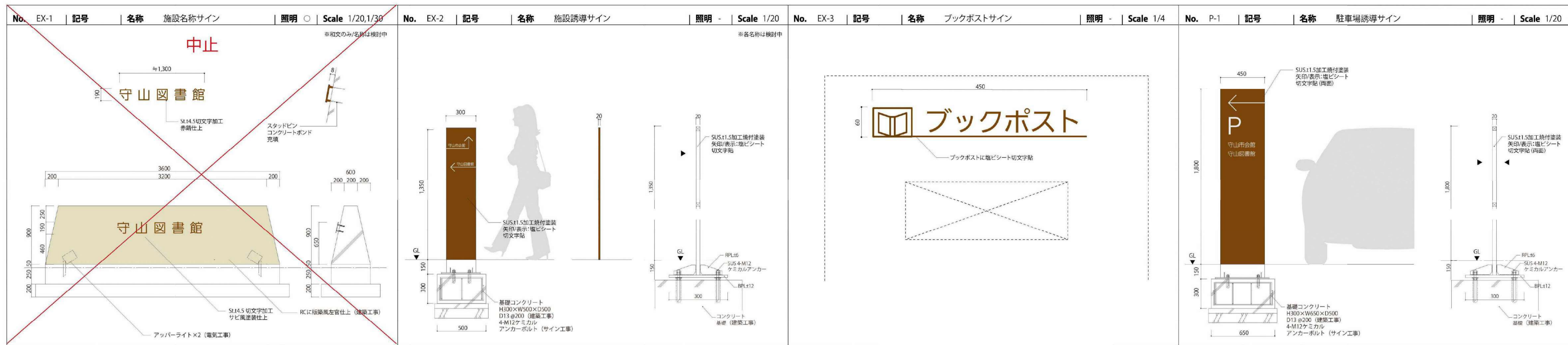
- ⊙ H-1
- G-1 ガラスフィルム





- S-7
- ▲ S-8
- ▲ S-9
- ⊖ S-10
- ⊠ S-11A
- S-11B
- ⋯ S-13
- ⊙ H-1
- ⋯ G-1 ガラスフィルム





No. S-6A | 記号 | 名称 | インフォメーションボード(図書館側) | 照明 - | Scale 1/10

提示部:裏面透明アクリル板加工スライド取外式
970
400
A3
A3
木合板15加工CL仕上
8-M4ビス固定

No. S-7 | 記号 ● | 名称 | 室名サイン(バックヤード) | 照明 - | Scale 1/2

※表示内容は打ち合わせによる

外部階段

25
1500
8-M4ビス固定
取手合わせ

No. S-8 | 記号 ▲ | 名称 | ピクトサイン(突出) | 照明 - | Scale 1/5

80
55
5
55
アクリル板15切文字
サビ塗料塗装
スタッドピン接着貼
アクリル板15切文字
サビ塗料塗装

No. S-9 | 記号 ▲ | 名称 | ピクトサイン(壁付:会館側) | 照明 - | Scale 1/5

80
5
55
55
アクリル板15切文字
サビ塗料塗装
スタッドピン
コンクリートボンド充填
アクリル板15切文字
サビ塗料塗装

No. S-10 | 記号 ○ | 名称 | PRIVATEサイン | 照明 - | Scale 1/2

PRIVATE

25
1500
8-M4ビス固定
取手合わせ

No. S-11A | 記号 □ | 名称 | 階数表示 | 照明 - | Scale 1/5

2 1

150
1500
スタッドピン
コンクリートボンド充填
アクリル板15切文字
塗装仕上

No. S-11B | 記号 □ | 名称 | 階数表示 | 照明 - | Scale 1/5

2 1

150
1500
スタッドピン
コンクリートボンド充填
アクリル板15切文字
サビ塗料塗装

No. S-12A | 記号 | 名称 | スタンドサイン(図書館側) | 照明 - | Scale 1/20

中止

200
280
1000
台座:St.t1.6曲加工焼付塗装
スチールウエイト付
木130切文字加工
表示:焼き文字レーザー加工
St.角パイプ加工溶接
焼付塗装
アジャスター

No. S-12B | 記号 | 名称 | スタンドサイン(会館側) | 照明 - | Scale 1/20

中止

200
280
1000
台座:St.t1.6曲加工赤錆加工
スチールウエイト付
St.t3.2カットアウト赤錆塗装
表示:SUS1切文字貼
St.角パイプ加工溶接
赤錆塗装
アジャスター

No. S-13 | 記号 --- | 名称 | 衝突防止 | 照明 - | Scale 1/2,1/30

※デザインは打ち合わせによる

30
1200
8-M4ビス固定
取手合わせ

No. S-14 | 記号 | 名称 | 書架サイン | 照明 -- | Scale 1/20

※表示内容は打ち合わせによる

中止:家具工事

200
400
12
200
木t12カットアウトCL仕上
短照:木合板15カットアウト
塩ビシート切文字
裏面マクネット(脱着式)

No. H-1 | 記号 ⊙ | 名称 | 手摺点字 | 照明 - | Scale 1/5

110
150
110
150
手摺 (別途工事)
ベース:透明塩ビフィルムシート
表示:シルク印刷+UV点字加工

No. H-2 | 記号 | 名称 | トイレ点字平面触知図 | 照明 - | Scale 1/10,1/30

300
137
137
300
54
8-M4ビス固定
インクジェットプリント

訂正事項	

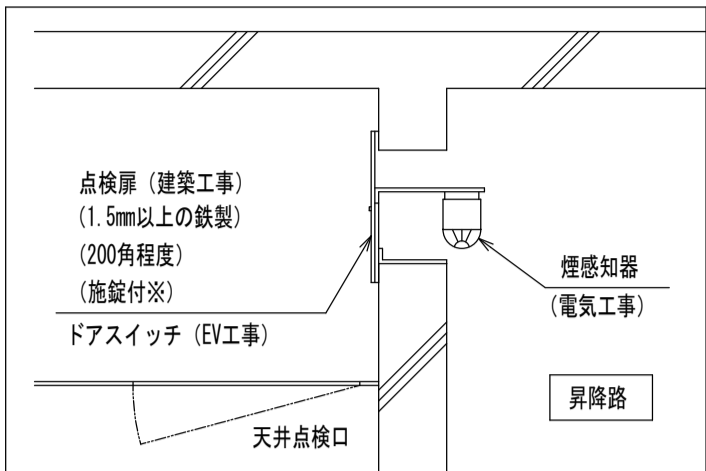
水原・芦澤設計共同体

株式会社 水原建築設計事務所
一般建築士事務所 滋賀県知事登録 第53号
一般建築士登録 第21926号 北村 通
滋賀県彦根市長官街南町44番地 TEL. 0749-22-1679

芦澤電一建築設計事務所
一般建築士事務所 大阪府知事登録 (ロ) 第24257号
一般建築士登録 第39153号 芦澤 電一
大阪府大阪市北区中崎西1-4 TEL. 06-6485-2017

北部図書機能・コミュニティ機能整備工事

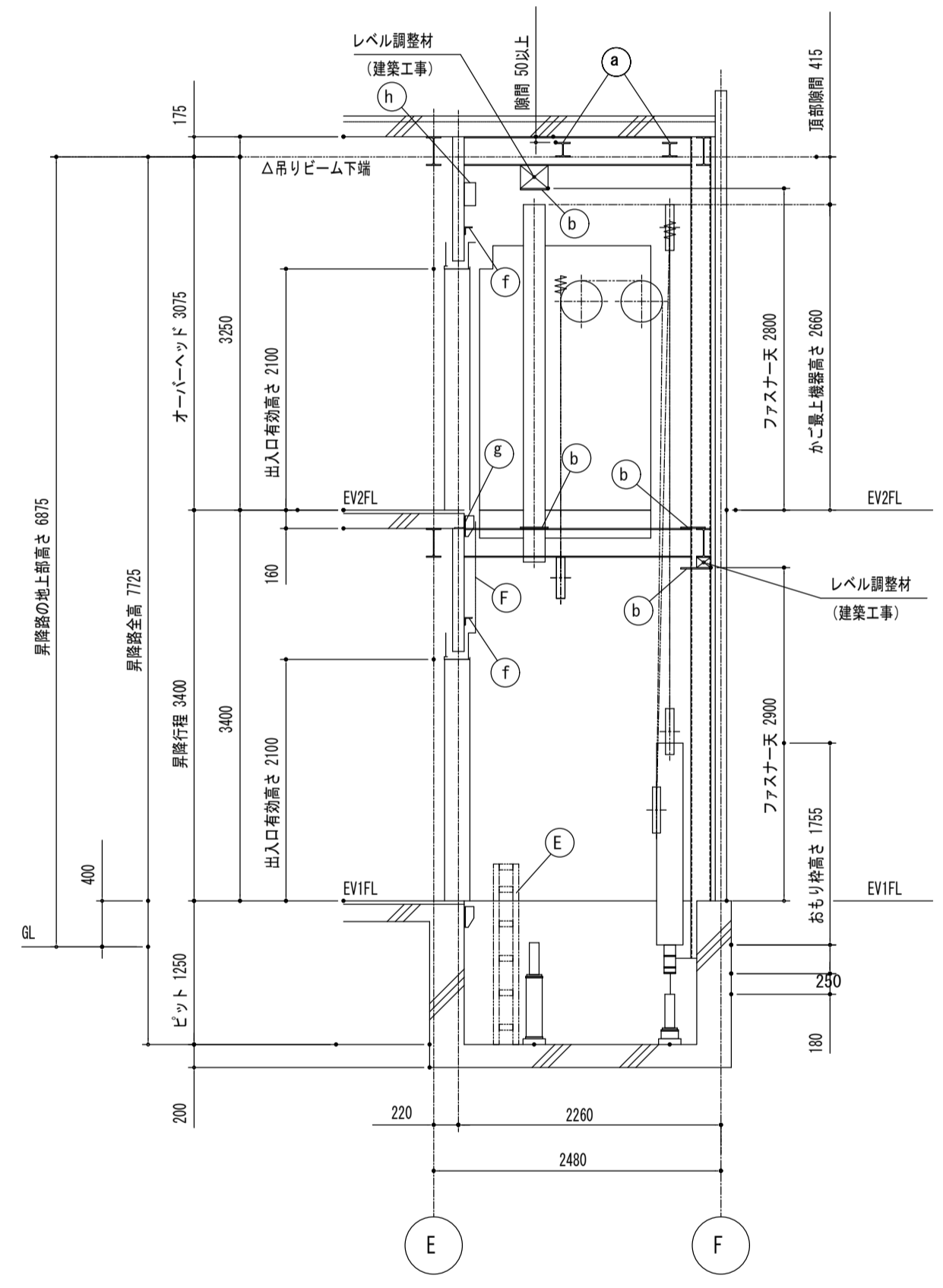
サイン詳細図2	SHEET NO.
DATE	A-419
SCALE	



昇降路頂部に煙感知器を設置する場合は外部に引き出した状態で点検可能なよう施工願います。(建築工事)
点検口の位置は、塔内機器と干渉する恐れがあるため、事前にご相談下さい。
※施設は、緩めるのに工具が必要なネジで代用可。

煙感知器の施工例（屋内用）

a	20kN吊りビーム H-125×125×6.5×9	(建築工事)
b	FL-12t	
f	L-65×65×6	
g	L-90×90×7	
h	煙感知器	(電気工事)
E	タラップ	(EV工事)
F	フェッシャープレート	



U昇降路断面図

仕様一覧			
機種	---		
用途	乗用(車いす用)		
機種	X10R (エクソール/機械室レス) X102		
制御方式	インバータ制御方式(電力回生無し)		
運転操作方式	乗合全自動方式		
積載	750	11 名	
速度	45	m/min	
動力用電源	三相3線 210	V 60 Hz	
照明用電源	単相 100	V 60 Hz	
巻上電動機	3.5 kW		
停止階及び数	(正面) 1, 2 階 (背面) 階	2 箇所 箇所	
かご内法	(開口) 1400 mm (奥行) 1350 mm (高さ) 2250 mm		
出入口寸法	(開口) 900 mm (高さ) 2100 mm		
戸の方式	2枚 両引き (電動式)		
おもり	50	%バランス	
荷重条件	※1	250 kg以下	
管制運転	地震時管制運転	●：(P・S波) リスタート運転機能付	
	火災時管制運転	●	
	停電時自動復帰	●	
	冠水時管制運転	●	
	自家発時管制運転	-	
	緊急地震速報連動	-	
センサ機能	カードポケットセンサー	●	
	ドアック	●：(光電式)	
	光電式多光軸ドアセンサー	●	
	ドアエッジセンサー	-	
車いす仕様	カードアンカー	-	
	車いす仕様	●	
	音声案内装置 (かご内設置)	●：四ヶ箇所対応 (通常時：日英、緊急時：日英中韓)	
	視覚障がい者仕様 (点字)	●	
	聴覚障がい者仕様 (応答灯付インターホン呼びボタン)	●	
乗場	発音機能付タクトアルボタン	●	
	走行お知らせ音	-	
	教習除障 10mm	●	
	三方枠	全館	操作表示器一体型枠 ステンレスバイプレッション仕上
	幕板		
	扉	全館	ステンレスバイプレッション仕上
乗場表示装置	運送機扉	-	
	防犯窓 ※2	-	
	数 居	全館	硬質アルミ製
	表示機器	全館	液晶表示 (運送機表示付) / 三方枠組込み
	押ボタン	全館	35φ抗振樹脂ボタン/非接触呼聲録 (一体型)
かま	フェースプレート	全館	- (三方枠組込)
	天井	デラックスタイプ	
	袖壁	ステンレスバイプレッション仕上 (入口柱一体)	
	入口柱	-	
	側壁	化粧鋼板	
	扉	化粧鋼板	
	幕板	化粧鋼板	
	床	アルミアルマイト仕上	
	床	t=3.0 ウッド調ビニルタイル	
	数 居	硬質アルミ製	
	換気装置	クロスフローファン (イオンフル付)	
	主操作	表示機器	液晶表示/操作盤組込
押ボタン		35φ抗振樹脂ボタン/非接触呼聲録 (一体型)	
フェースプレート		ステンレスバイプレッション仕上	
手すり		34φ木目調 (樹脂ステンレス32φ)	
鏡		背面中央/パネル: ステンレス鏡面仕上	
特記仕様	ガード	ステンレスヘアライン仕上 (H=350)	
	保護幕	●：(磁石式)	
	床マット	●	
	ITVカメラ	●：122万画素、メンテナンスカメラ兼用	
高調波対策	(1) 標準対策	●	
	【EMフィルタ 帯相リアクトル】	【回路分類No. 31 6バルス換算係数Ki=3.4】	
	(2) オプション対策	-	
	【(1) + DCリアクトル】	【回路分類No. 33 6バルス換算係数Ki=1.8】	

基本仕様
最寄階救出運転
戸閉き不能待機出運転
乗り過ぎ検出 (警報ブザー及び音声案内)
各階強制停止運転 (各停運転)
昇降機耐震設計・施工指針 (2016年版) 対応
戸閉走行保護装置
イオンフル (プラズマクラスター技術搭載/シャープ (株) 商標)
耐震クラス (A14)

エコロジー機能
かご天井 LED照明 (液晶インジケータのバックライトもLED化)
シックハウス対策 (法令 (建築) に基づいたシックハウス対策に対応)
かご照明の自動休止

NEWゴールドメンテナンス契約により有効となる機能
メンテナンス用カメラによる、遠隔映像監視・遠隔閉込検出対応
24時間リモート点検
故障障がい者仕様: 応答液晶表示 (仕様が付加された場合、契約に関わらず有効)
情報モニター: コンテンツの配信及び表示 (モニター本体の有無は仕様による)

車いす仕様	
乗 場	車いす専用乗場ボタン
かご内室	車いす専用かご主制御ボタン (主側のメインインジケータ付)
	鏡
セーフティ機能	手すり
	戸開放時間の延長
	戸閉速度の低減
	自動復帰修正装置
	光電式多光軸ドアセンサー

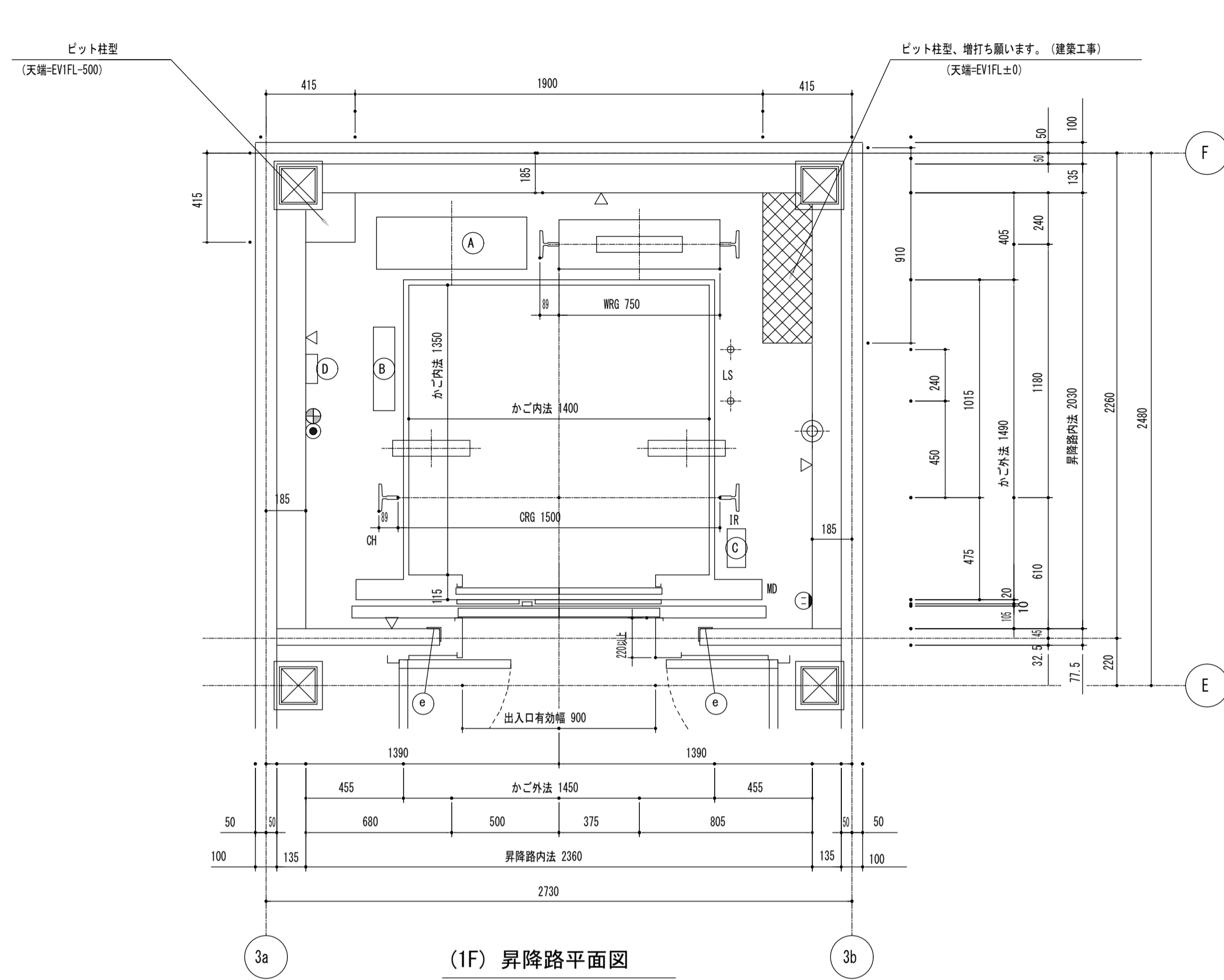
※1	4輪手押し車等で荷物を積み込む場合は、台車の重量を含んで、荷重条件以下に分けて積み込みください。
※2	特定防火設備の区画では、防犯窓付の扉は設置出来ませんのでご注意ください。

下記作業については、別途見積りとなります	
夜間作業	部分営業中現場への搬入に際し、警備員・誘導員及び道路使用許可を必要とする場合
2階以上の階もしくは地階からの搬入作業	荷下ろし場所から設置・仮置き場所までの距離が30mを超える場合
据付工事短縮を必要とする場合	エレベータを工事用として使用する場合は検査・清掃・復旧・補修・保守費用
エレベータを工事用として使用する場合は検査・清掃・復旧・補修・保守費用	エレベータ据付工事以外で立会いが発生する場合
展望用エレベータ等で昇降路を養生する必要がある場合	床・壁等に養生を必要とする場合
エレベータ着工前までの出入口開口部の養生材及び養生材設置工事	その他特殊な事情がある場合

※昇降路内温度の制約	
下記いずれかの場合は、「換気上有効な開口部、換気設備又は空気調和設備」を設ける必要があります。	
・昇降路内温度が40℃を超える場合 (エレベータ機器の発熱や昇降路外からの入射熱等による)	
・エレベータ機器発熱量による昇降路内温度上昇が7℃を超える場合	
エレベータ機器発熱量 (かご用クーラー含む)	437 W / (1台分)
エレベータ機器発熱量による昇降路内温度上昇	7℃以下

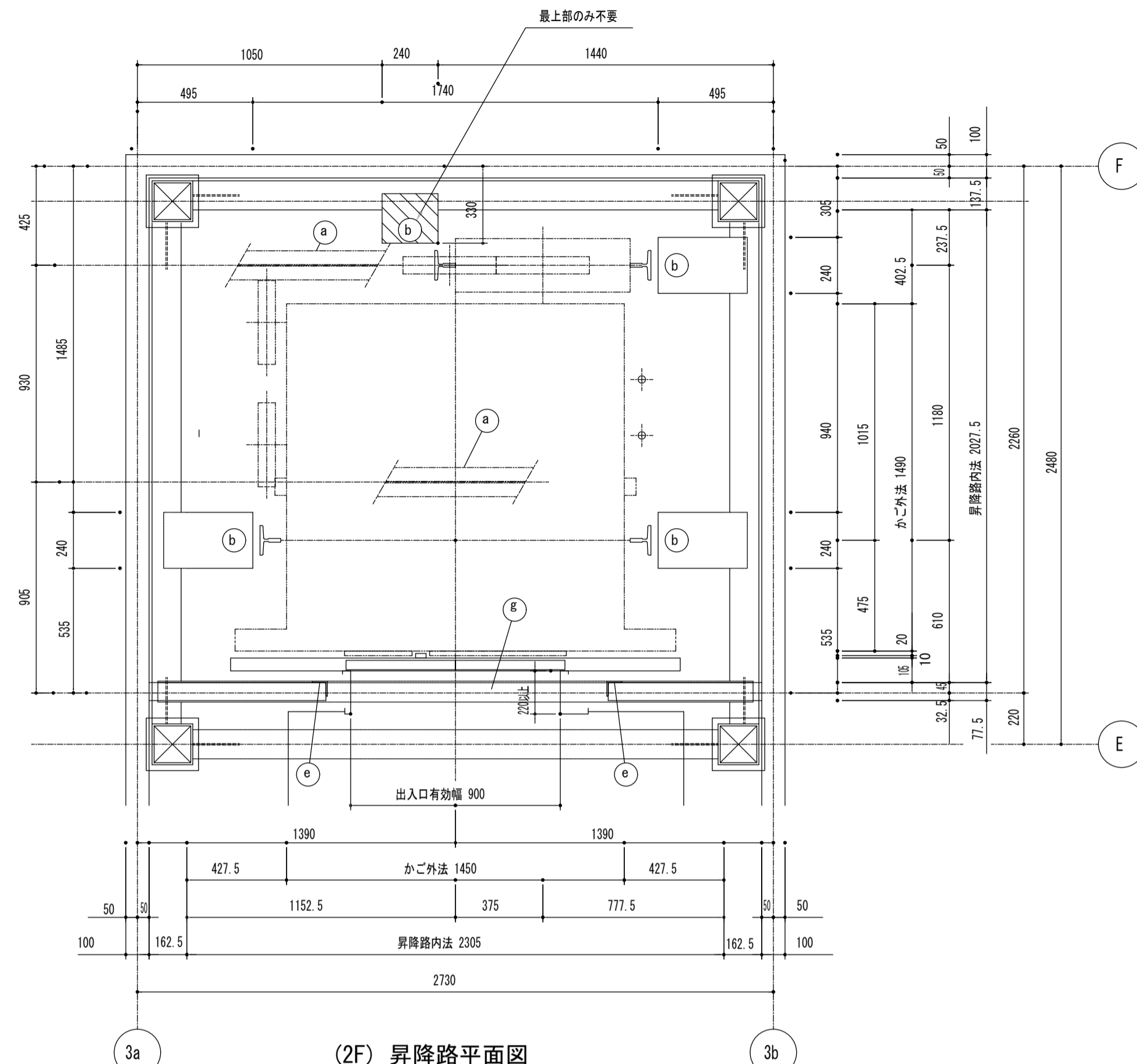
※エレベータ機器の発熱や昇降路外からの入射熱等により、昇降路内温度が40℃を超えないかご確認ください。

エレベータ除外工事	
建築工事関係除外工事	<ol style="list-style-type: none"> 昇降路の築造工事。 (コンクリート打ち損傷により必要となるはつりまたは肉付け工事) ・昇降路のコンクリート強度は 21N/mm (FC21) 以上。 ・昇降路のコンクリート厚理は 150mm 以上。 ・昇降路の壁 (囲い) は、5cm の任意の面に直角方向の外力 (300N) が作用しても15mmを超える変形及び塑性変形を生じない構造とする。 各階出入口 (インジケータ、押印用孔含む) の孔あけ工事。 各階乗場出入口枠周囲のモルタル詰め もしくはロックウォール詰め工事。 乗場据付後の出入口廻りの壁・床及び建築物修繕工事。 屋上・開放部下等直接外気と接する乗場における雨水よけ設備工事。 (排水口・水勾配・応など) ピット内防水仕上工事、およびピットが深い場合の埋め戻し工事。 (エレベータ工事の着工前に完了のこと) ・防水厚は 2.5mm 以下。 昇降路頂部の吊り用ビーム (k 鋼) 設置工事。 鉄骨構造昇降路に於ける鉄骨材の耐火工事及び耐火材の飛散防止処理工事。 レール支持用 (ファスナープレート) の設置工事。 整居食材設置工事。
設備工事関係除外工事	<ol style="list-style-type: none"> エレベータ受電箱までの動力電源・照明電源・接地線の引込み、並びにつなぎ工事。 昇降路外のインターホン・非常ベル、その他エレベータに必要な配管配線工事。 ピット点検用コンセント設置工事。 昇降路頂部の煙感知器設置工事。(昇降路頂部より点検が可能な事) エレベータ遠隔監視用電話線 (電話中継盤から監視ユニット設置場所までの) 配管配線工事。
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 昇降路内への他の用途の配管、ダクトを設けないように願います。昇降機に必要な配管設備にあっては、昇降機の機能に支障を及ぼさず願います。また、昇降路壁にはエレベータ以外の電気・水道等の配管・器具類を埋め込まないで下さい。 エレベータ受電箱における電源電圧の変動は±5%以内、照明用は±2%以内、電圧不平衡率は5%以内に従うよう電源を設置下さい。 昇降路内温度は40℃、湿度は月平均90%、日平均95%を超えないようにして下さい。 昇降路には有毒ガスや甚だしい塵埃が入らないようにして下さい。 昇降路および出入口は風雨に直接さらされたり、塩分の影響を受けないようにして下さい。 エレベータ機器の搬入に支障のない経路を確保願います。 (必要に応じてコンクリート孔あけ、および埋戻し工事) 据付工事用仮設電源、試験転用電力、砂、セメント、水等は無償貸し出しします。 工事現場におけるエレベータ部品、据付材の保管場所を無償貸し出しします。

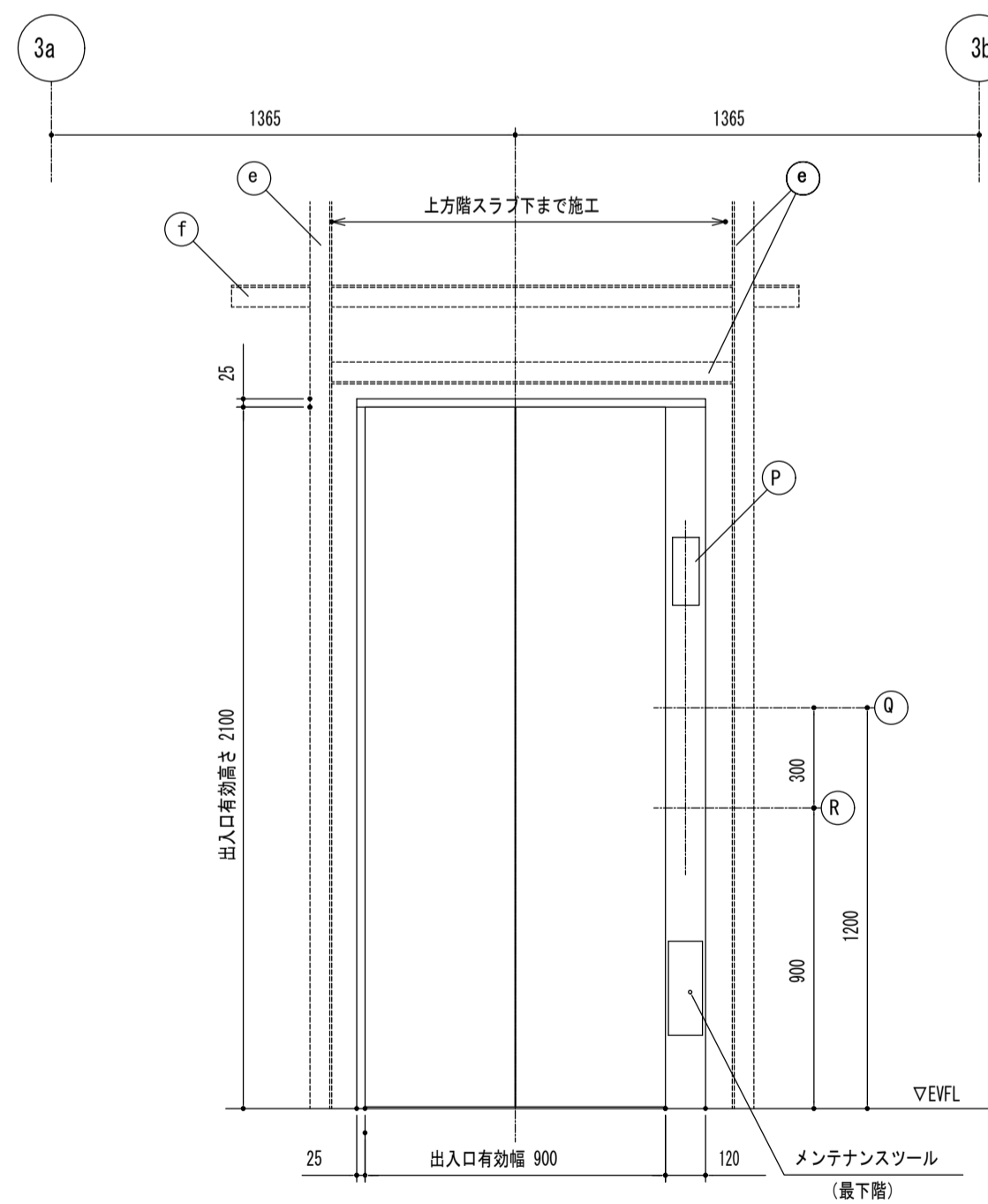


(1F) 昇降路平面図

注：ピット内は、屋根防水土留ります。
△：防水土留を示す。
(ピット中継天=EVFL-30 (入口側)、EVFLP0 (その他))

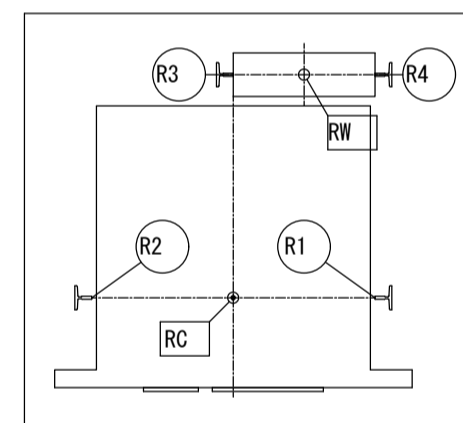


(2F) 昇降路平面図



出入口正面図

P	インジケータ
Q	一般用押釦
R	車いす用押釦



ピット部反力 (kN) : 長期荷重

R1	R2	R3	R4
20	21	36	16

ピット床衝撃力 (kN) : 短期荷重

RC	RM
73	65

レールに作用する荷重値 (kN)

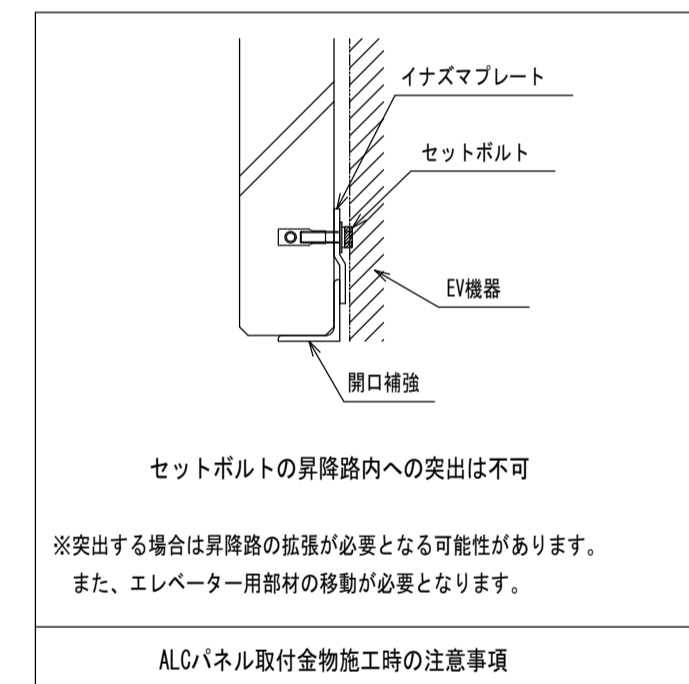
Py	Px	Py
かご	5.3	3.5
おもり	7.6	3.8

短期荷重による建築部材のたわみは 5mm以下としてください

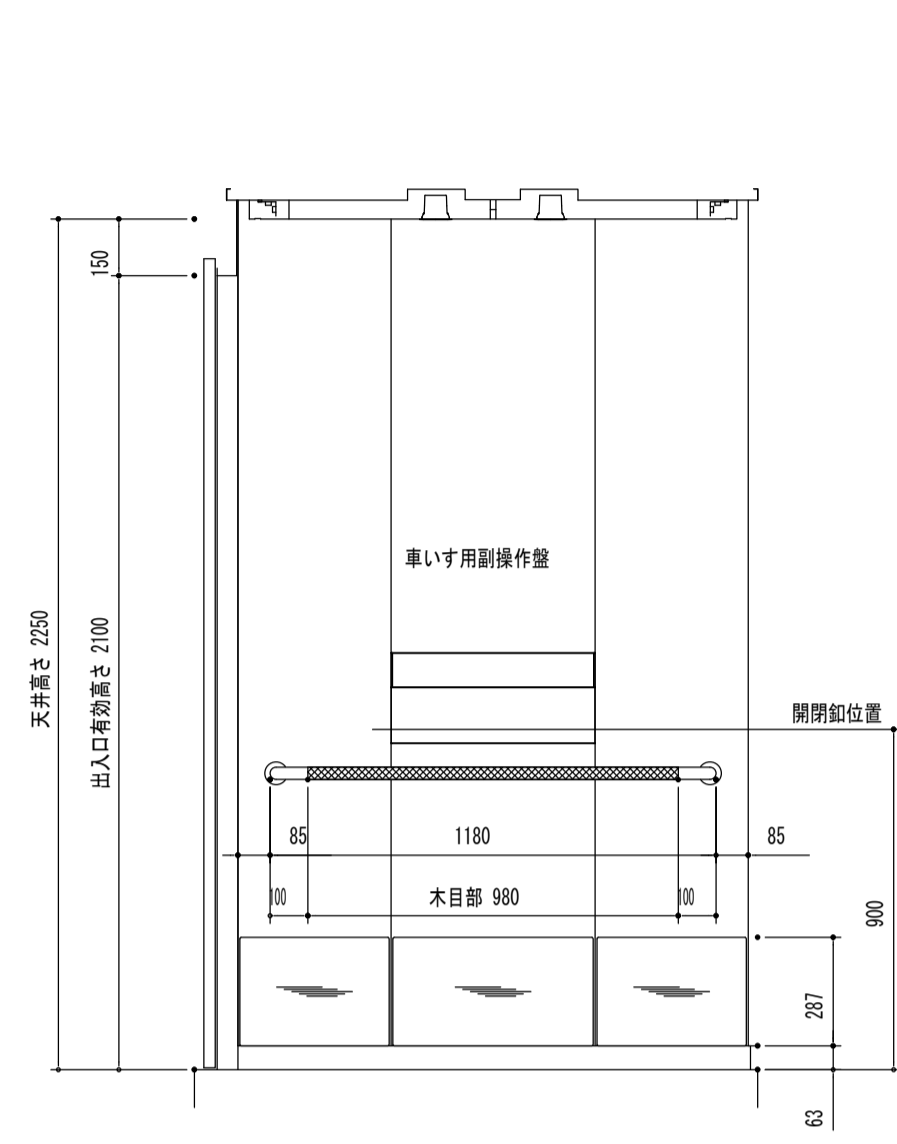
a	20kN 吊りビーム H-125×125×6.5×9	(建築工事)
b	PL-12t	
e	L-65×65×6	
f	L-65×65×6	
g	L-90×90×7	
A	巻上機	(EV工事)
B	制御盤	
C	変電箱・ピットラップ	
D	地震感知器	

電源設備 (1台あたり) 【電気工事】		引込み高さ	引出し高さ
動力用電源	3φ 3W AC 21W H60		
	幹線サイズ (mm) *	3.5	5.5 8
	幹線こう長 (m)	35	54 77
	電気室ブレーカ (A)	30	
	接地線 (mm) *	2.0	
	電源設備容量 (kVA)	5.0	
照明用電源	別室内独立トランス容量 (kVA)	0.15	
	1φ 2W AC 100W H60		
	照明用電源容量 (kVA)	1.0	
ピットコンセント	AC100V 10A 1個	引+200	
電話回線用配線	別途打合せによる	引+100	450 mm
弱電関係用配線	別途打合せによる	引+100	800 mm

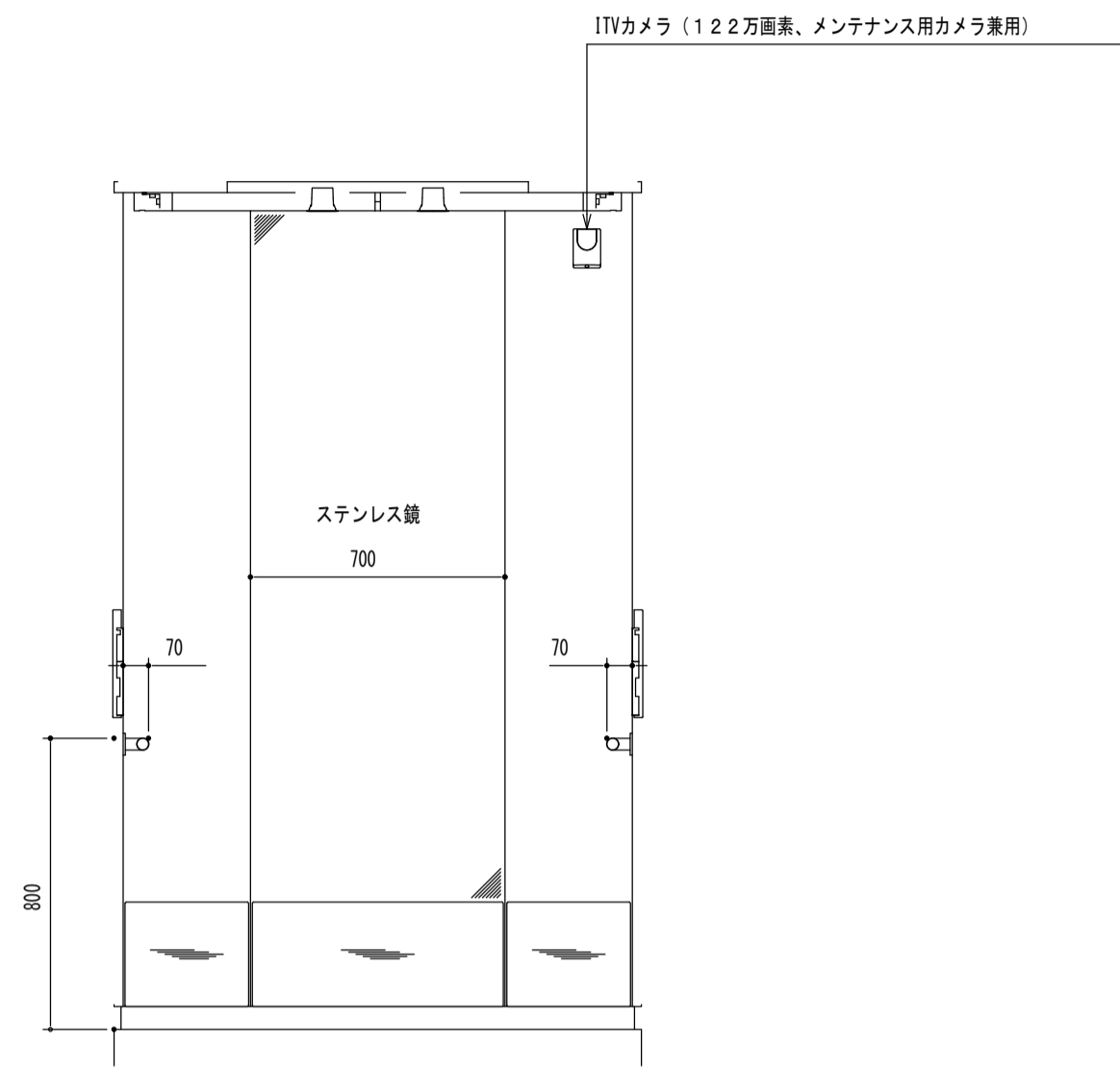
高調波対策
高調波漏れ電流と高調波ノイズの影響を低減するため、できるだけ建屋側でも下記対策をお願いします。
1. 漏電遮断器等を設置する場合は「インバータ対応型」とし、感度電流値は昇降機1台あたり50mA (感度設定値100mA相当) の漏れ電流として設定下さい。
2. 昇降機と同一電源トランスを使用している機器の漏電遮断器、漏電警報器にも「インバータ対応型」を使用して下さい。
3. 昇降機の動力線と弱電機器の電源・信号線は、平行に配線しないで下さい。やむを得ず平行配線する場合は、1m以上離して下さい。
4. 昇降機の電源トランスと弱電機器の電源トランスを分離して下さい。
5. 昇降機のアース線と弱電機器のアース線は、各々独立して配線のうえ、接地下さい。(接地線は同一で構いません。)
6. 昇降機の昇降路や動力線の近くにラジオや通信機器のアンテナを設置しないで下さい。



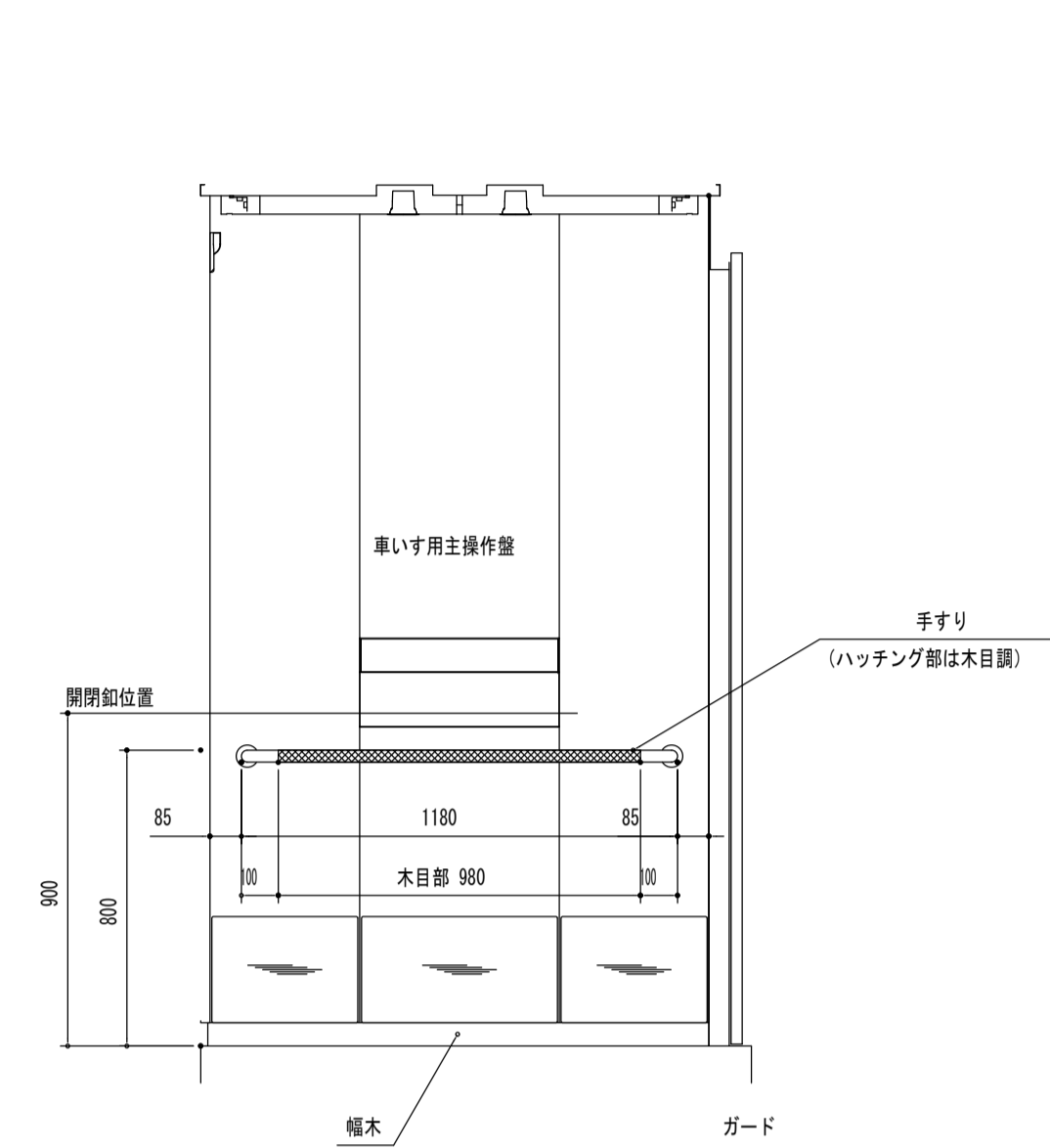
ALCパネル取付金物施工時の注意事項



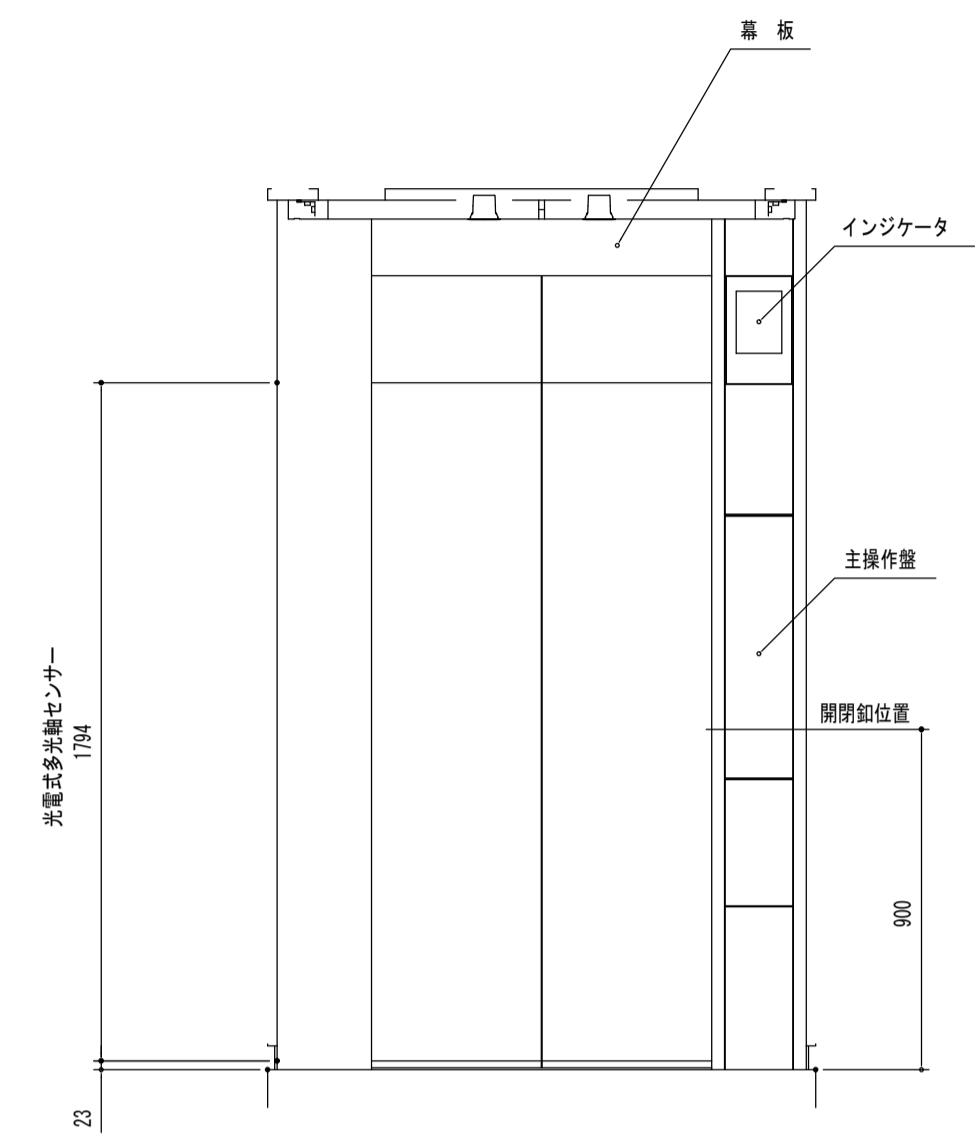
u矢視 A



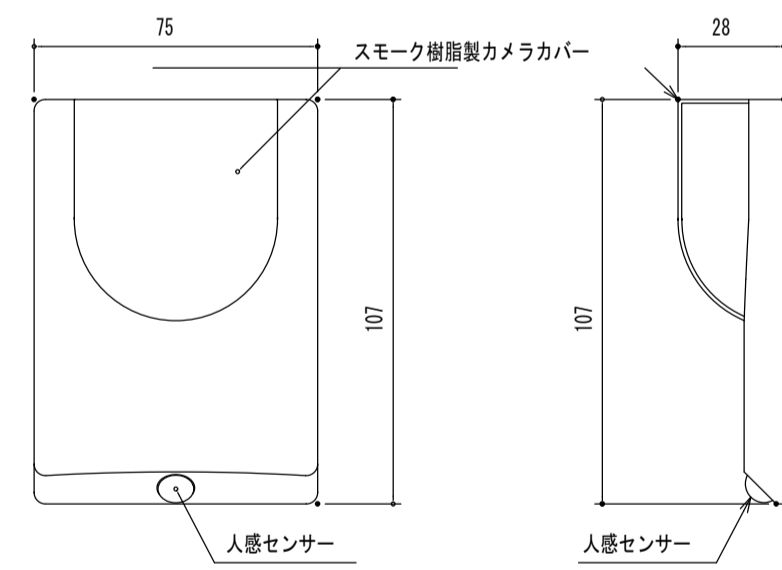
u矢視 B



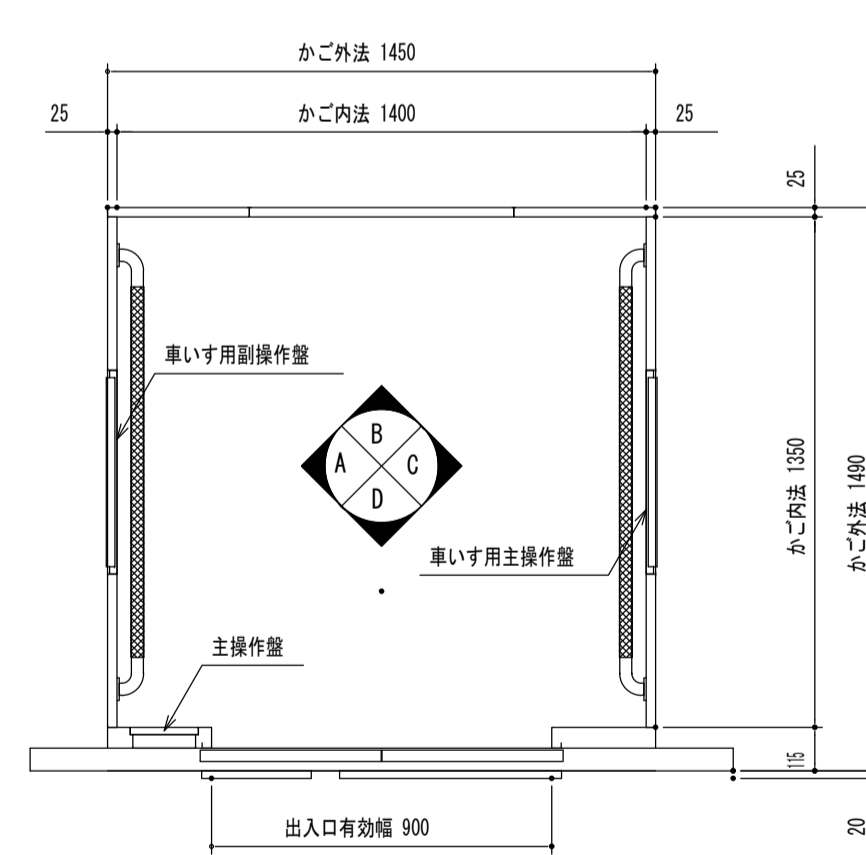
u矢視 C



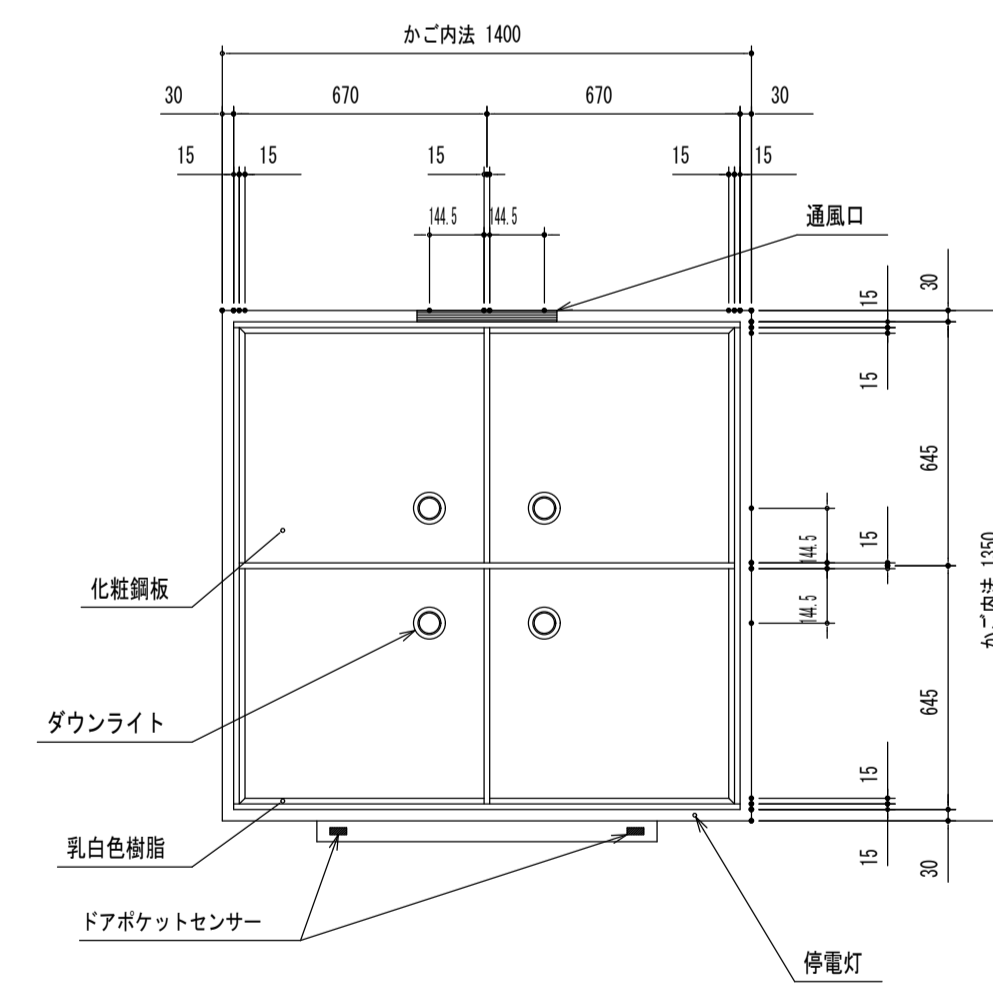
u矢視 D



uカメラ詳細図



uかご平面図

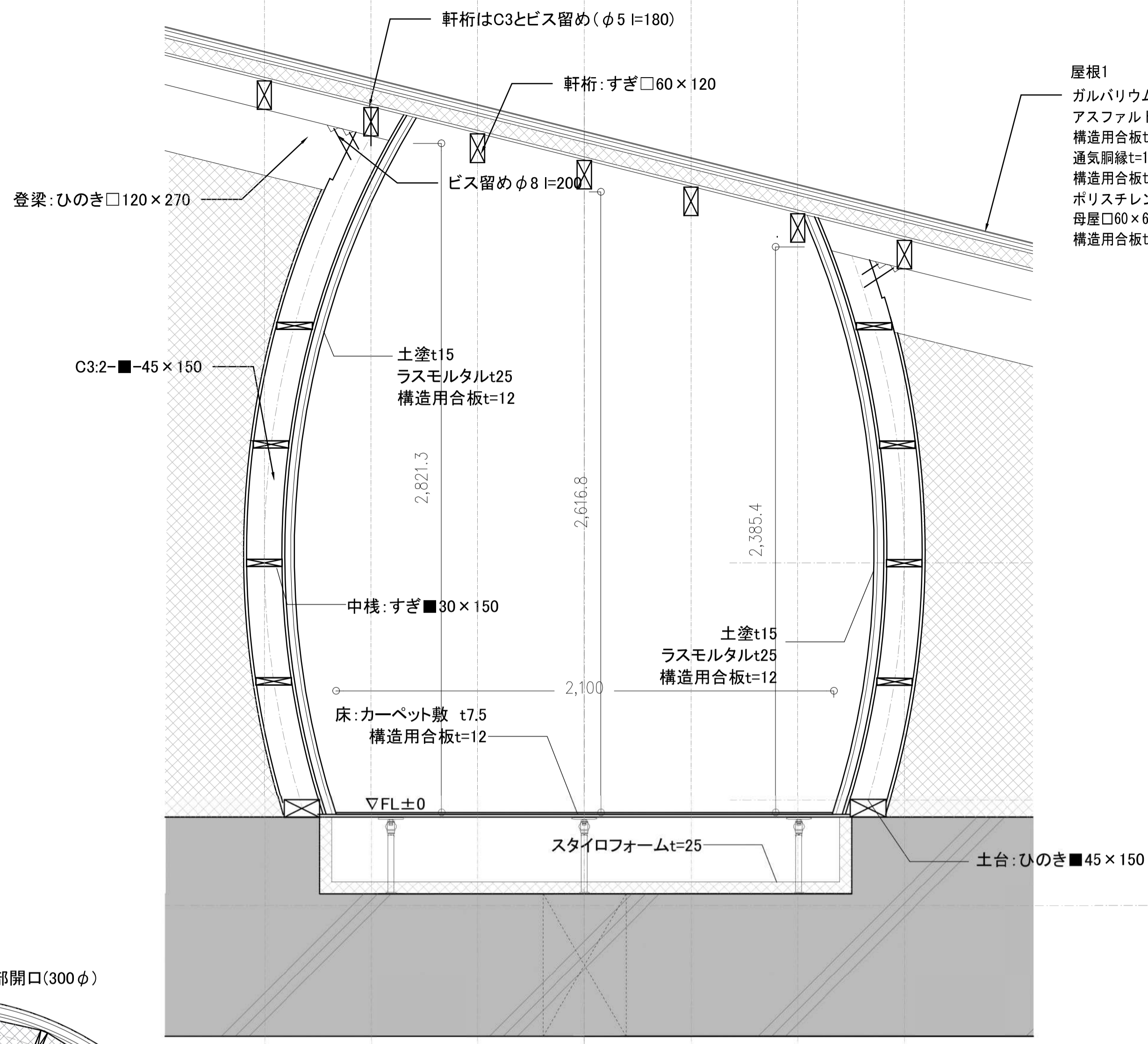
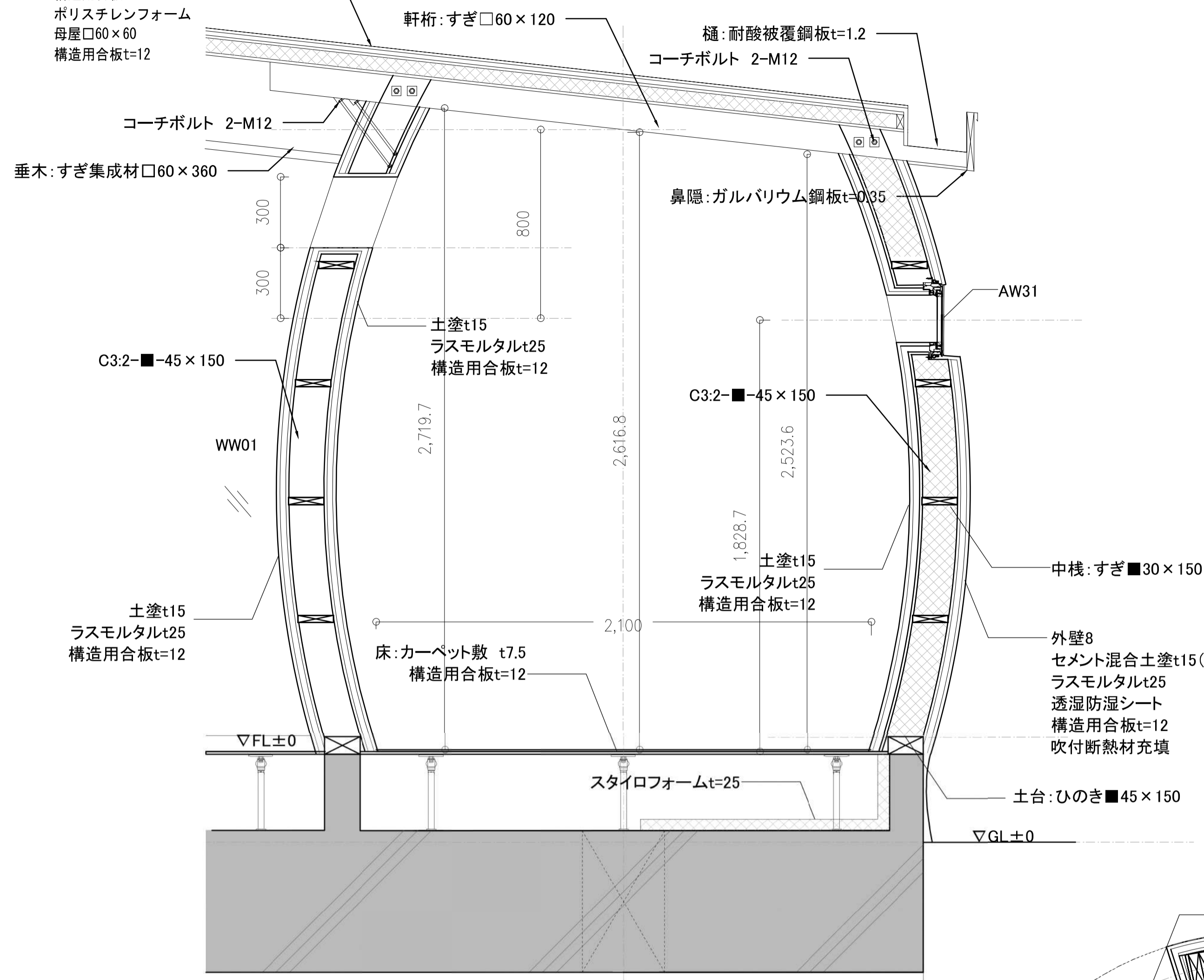


u天井見上図

訂正事項		<p align="center">水原・芦澤設計共同体</p> <p>株式会社 水原建築設計事務所 芦澤電一建築設計事務所</p> <p>一級建築士事務所 滋賀県知事登録 第63号 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (ロ) 第2425号</p> <p>一級建築士登録 第21928号 北村 浩 一級建築士登録 第29813号 芦澤 電一</p> <p>滋賀県彦根市長倉橋南町443番地 TEL. 0749-22-1679 大阪府大阪市北区中崎西1-1-4 tel. 06-6465-2017</p>	<p align="center">北部図書機能・コミュニティ機能整備工事</p>	エレベーター詳細図3		SHEET NO. A-422	
				DATE	SCALE		A1:1/50 A3:1/100
				2021.12			

屋根1
 ガルバリウム鋼板t=0.35
 アスファルトルーフィングシート
 構造用合板t=12
 通気胴縁t=18
 構造用合板t=12
 ポリスチレンフォーム
 母屋口60×60
 構造用合板t=12

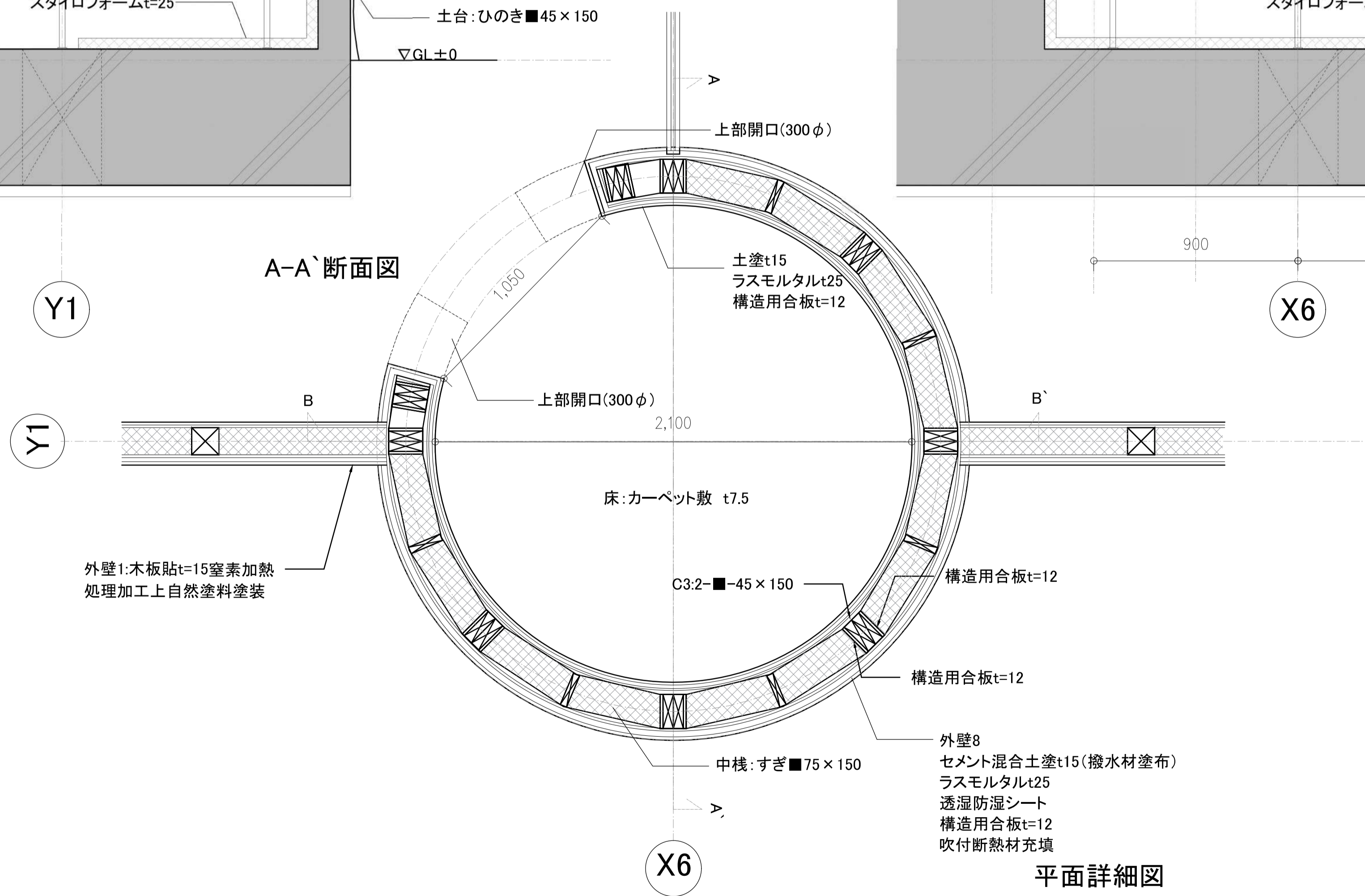
※接合詳細はS-25を参照



屋根1
 ガルバリウム鋼板t=0.35
 アスファルトルーフィングシート
 構造用合板t=12
 通気胴縁t=18
 構造用合板t=12
 ポリスチレンフォーム
 母屋口60×60
 構造用合板t=12

A-A'断面図

B-B'断面図



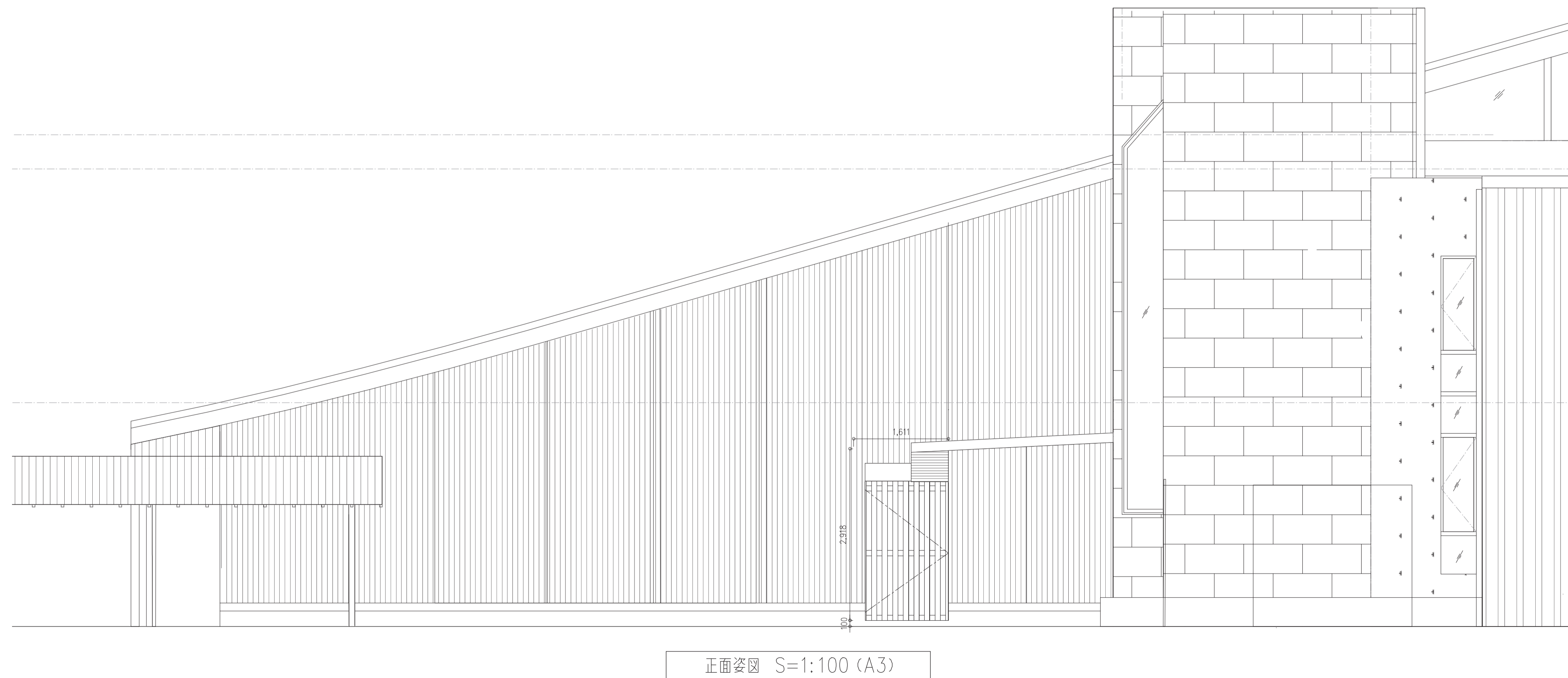
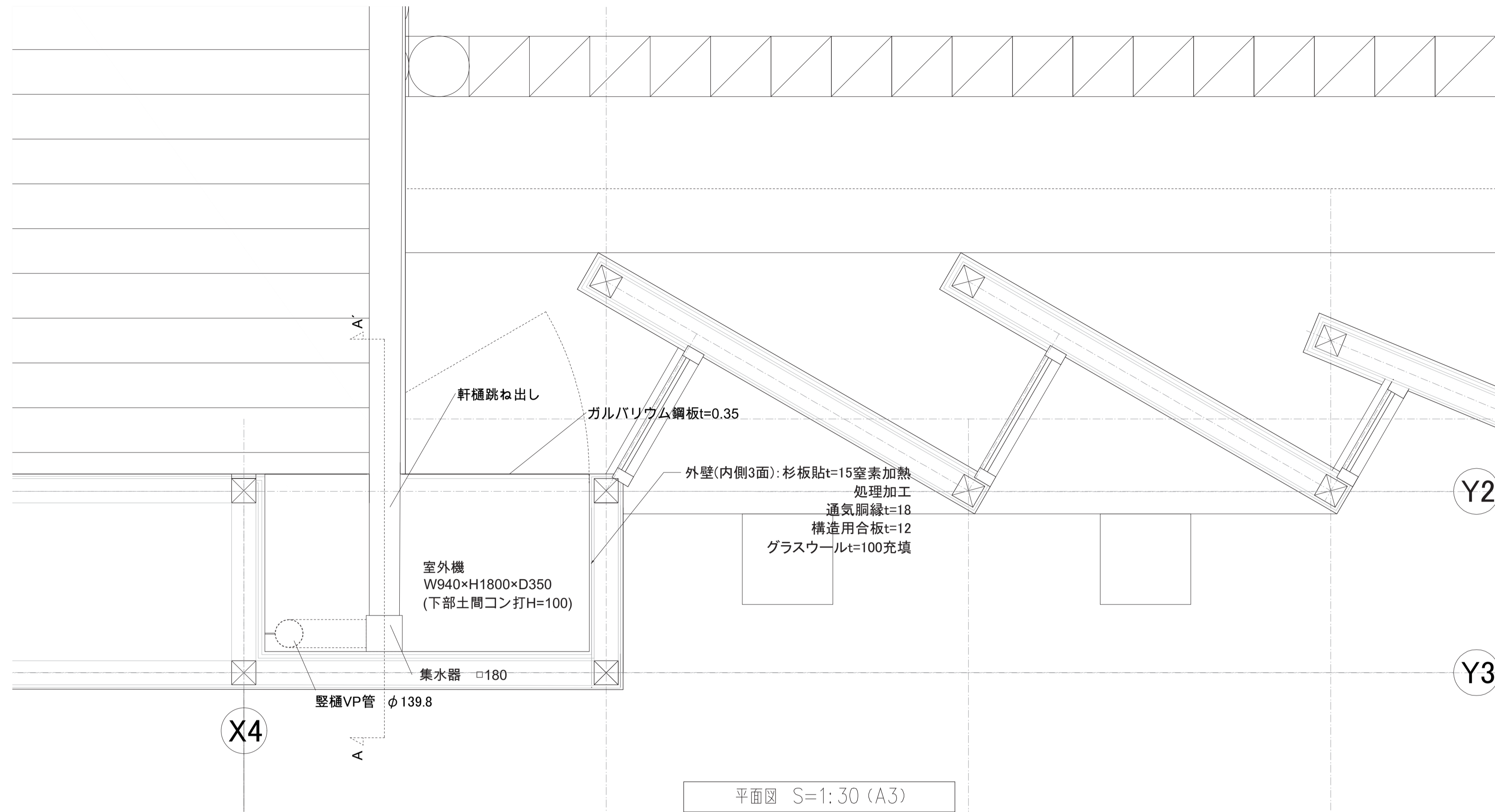
平面詳細図

訂正事項	

水原・芦澤設計共同体
 株式会社 水原建築設計事務所
 一級建築士事務所 滋賀県知事登録 第63号
 一級建築士登録 第219285号 北村 通
 滋賀県彦根市長曾根町445番地 TEL: 0749-22-1679
 芦澤電一建築設計事務所
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (口) 第24257号
 一級建築士登録 第298139号 芦澤 竜一
 大阪府大阪市北区中崎西1-1-4 TEL: 06-6485-2017

北都図書機能・コミュニティ機能整備工事

ドーム詳細図				SHEET NO.
				A-423
DATE	SCALE	A1:1/ 15		
		A3:1/ 30		



訂正事項	

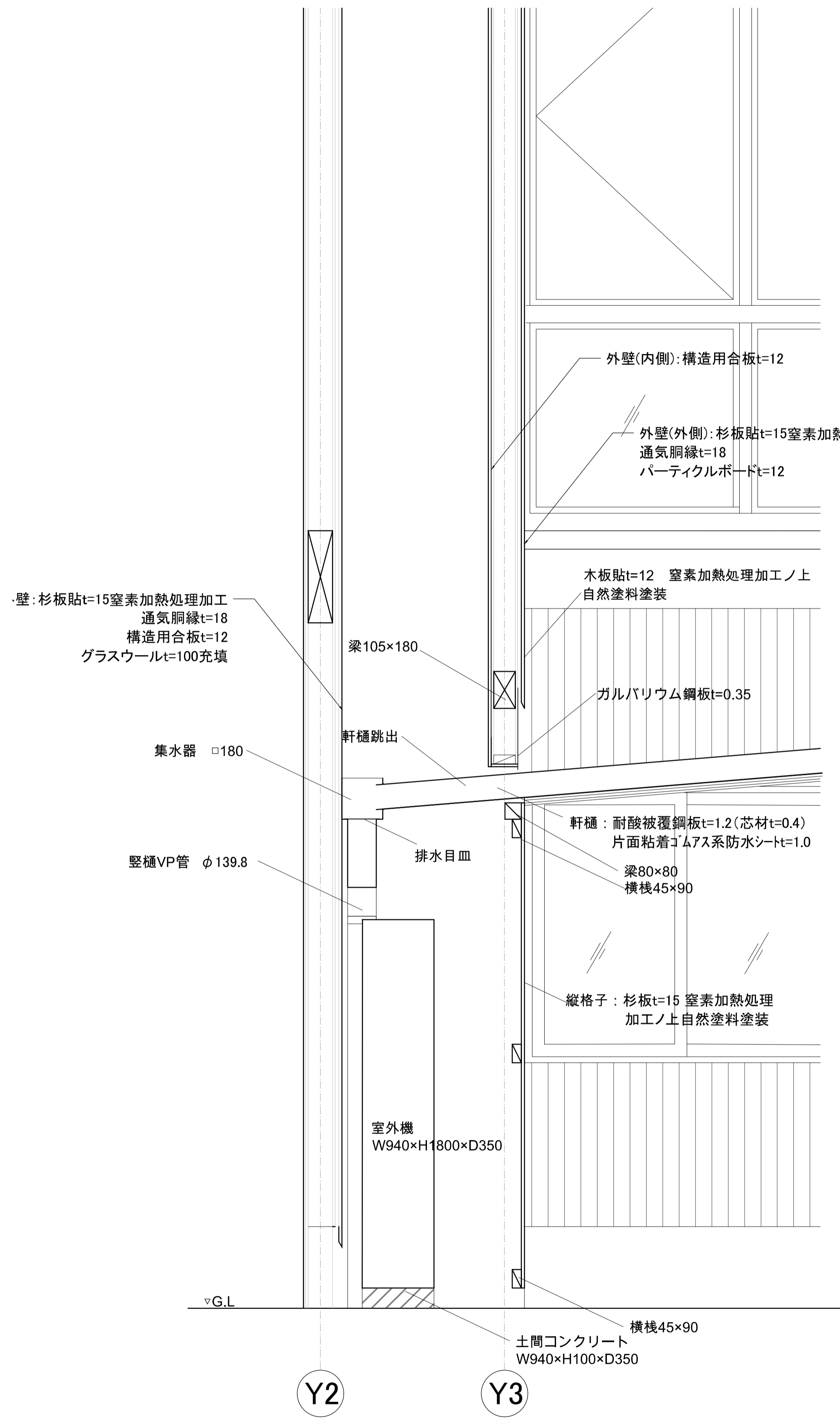
水原・芦澤設計共同体

株式会社 水原建築設計事務所
一級建築士事務所 滋賀県知事登録 第63号
 一級建築士登録 第21925号 北村 浩
 滋賀県彦根市長倉根南町443番地 TEL 0749-22-1679

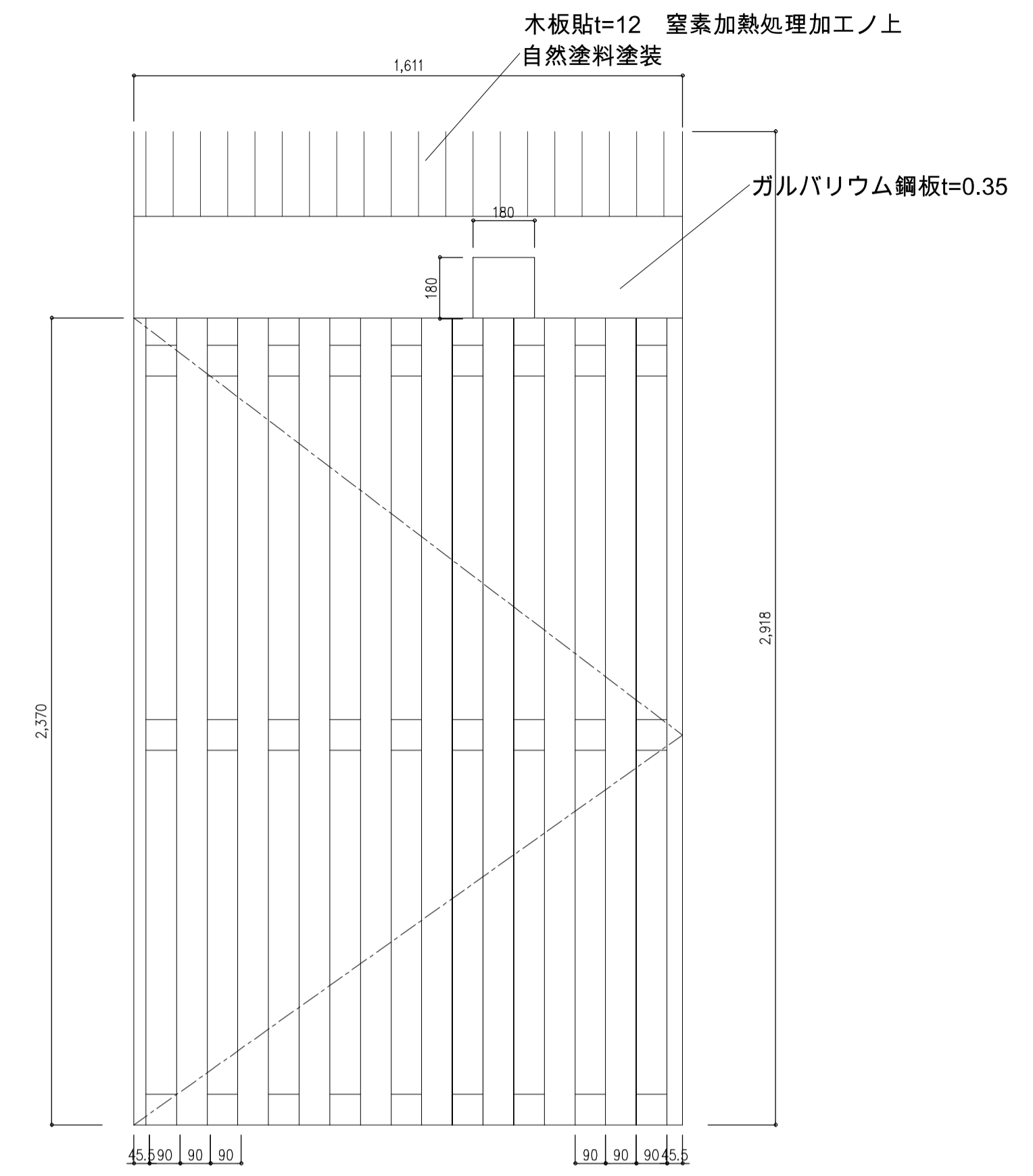
芦澤竜一建築設計事務所
一級建築士事務所 大阪府知事登録 (口) 第24257号
 一級建築士登録 第286139号 井澤 竜一
 大阪府大阪市北区中崎西1-1-4 tel 06-6485-2017

北部図書機能・コミュニティ機能整備工事

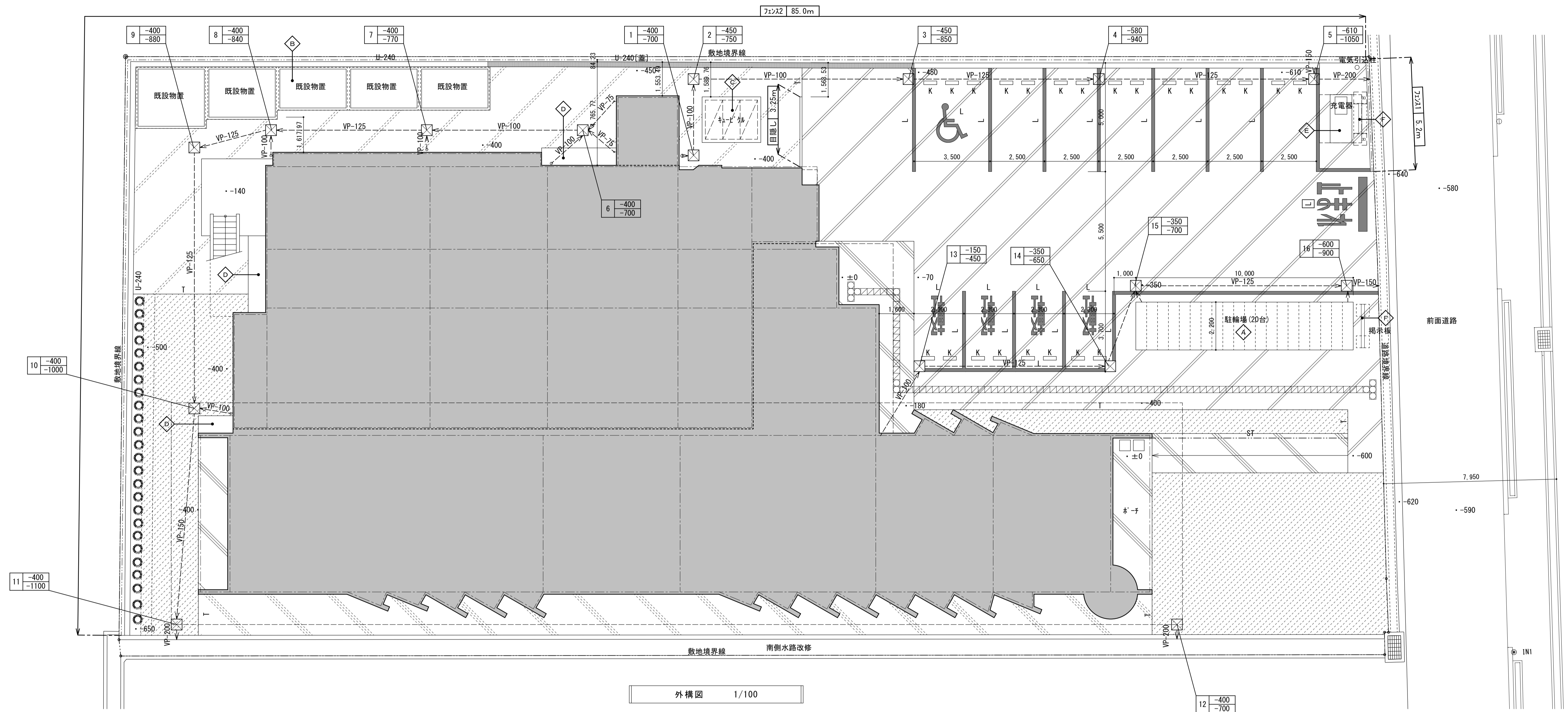
樋詳細図1				SHEET NO.
				A-424
DATE	SCALE	A1:1/ 15,50		
		A3:1/ 30,100		



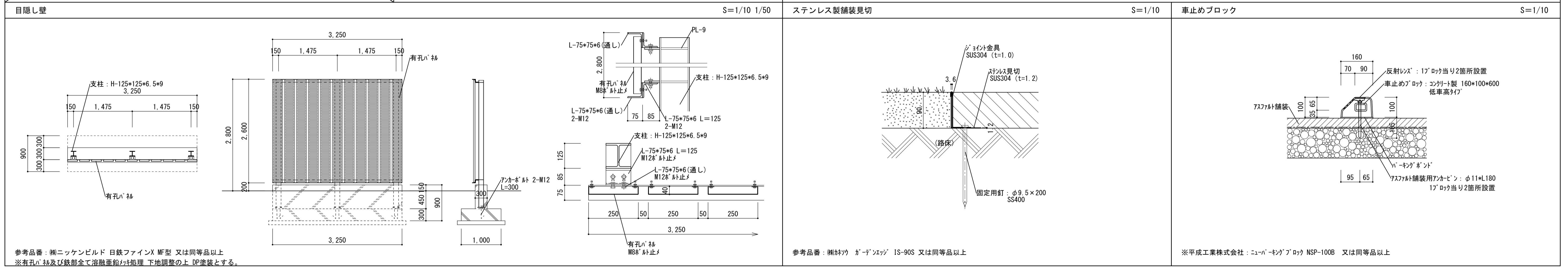
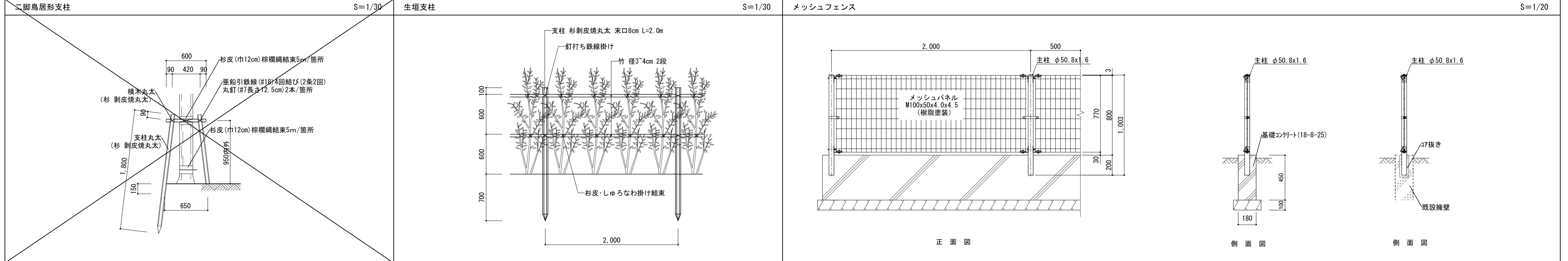
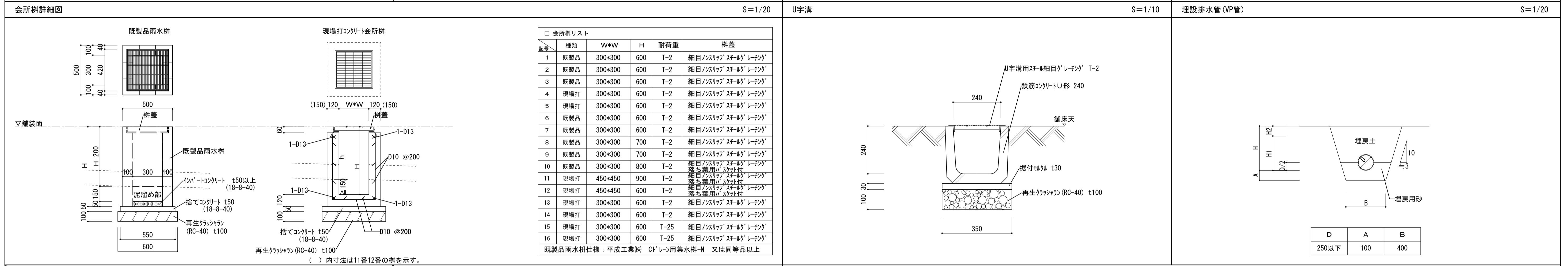
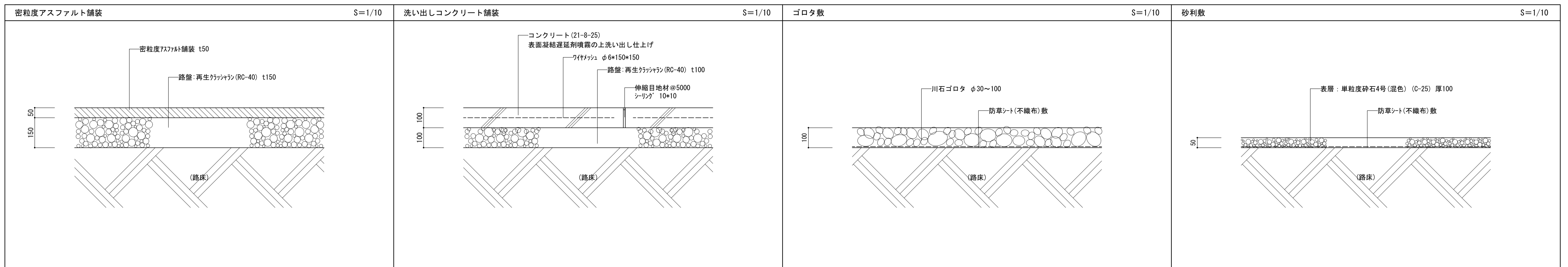
A-A 断面図 S=1:30 (A3)

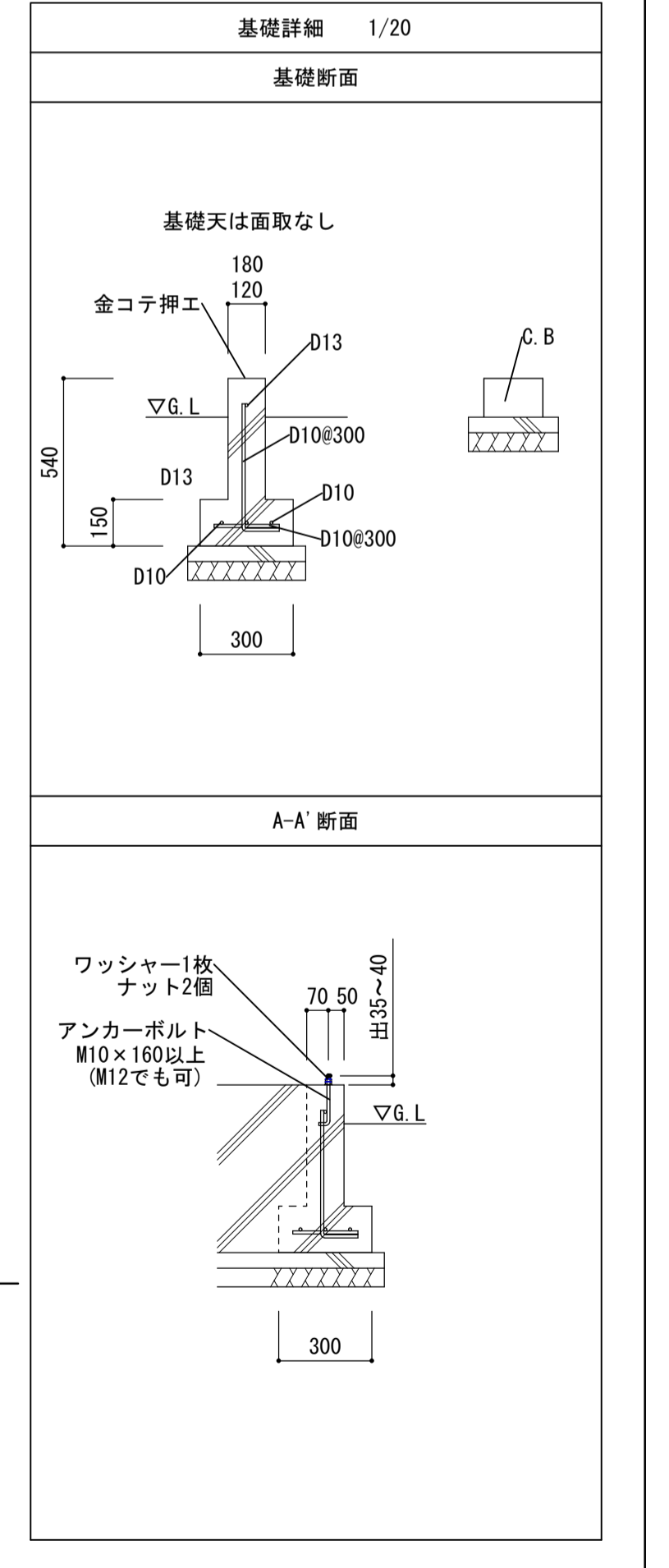
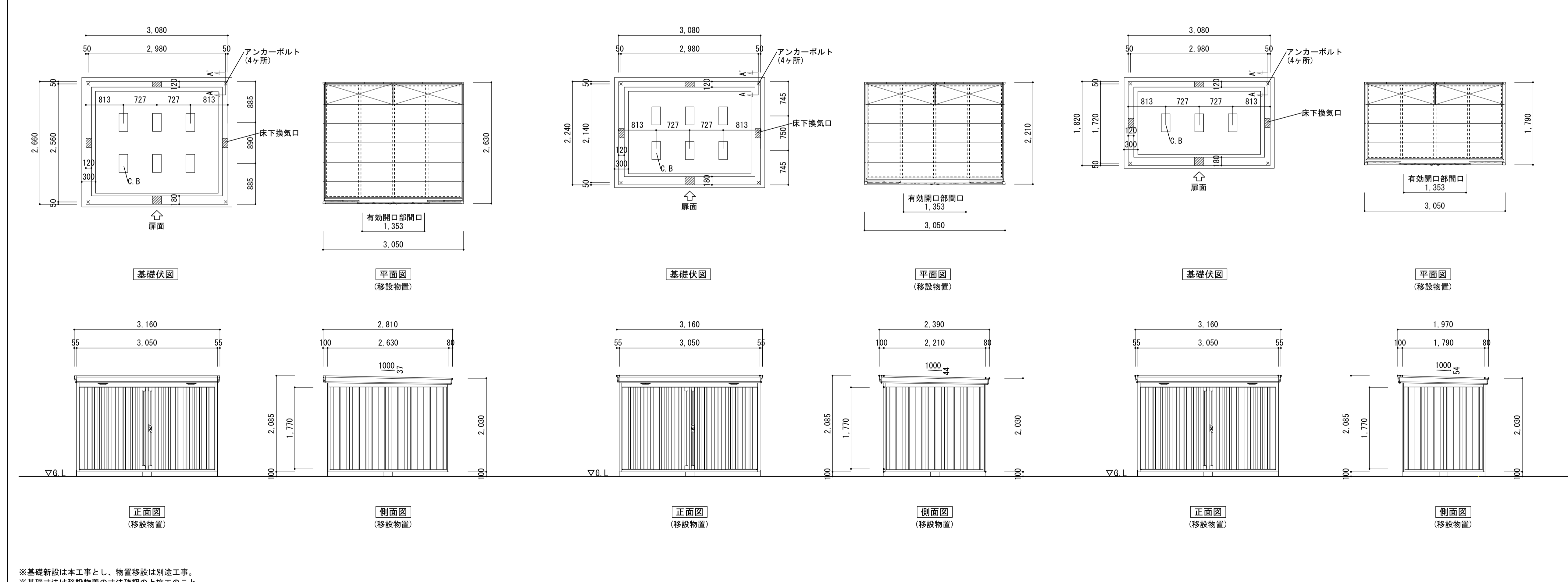
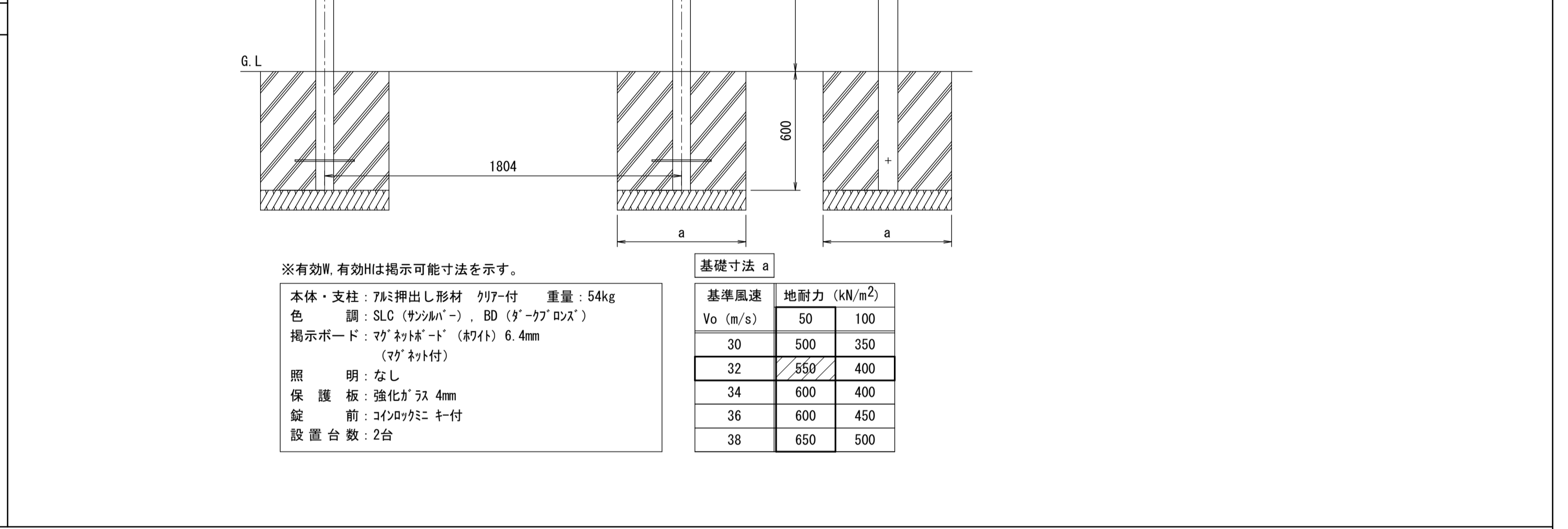
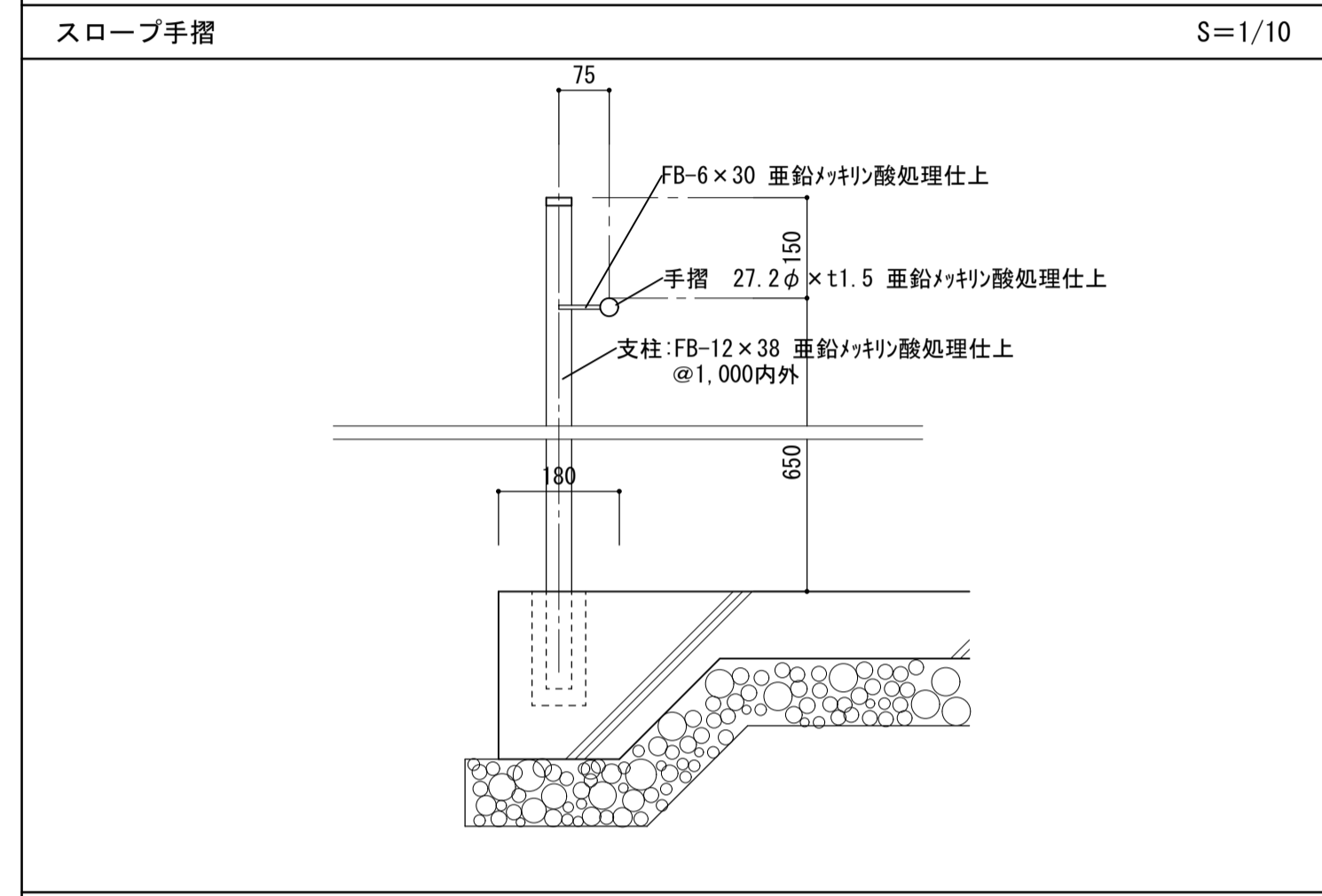
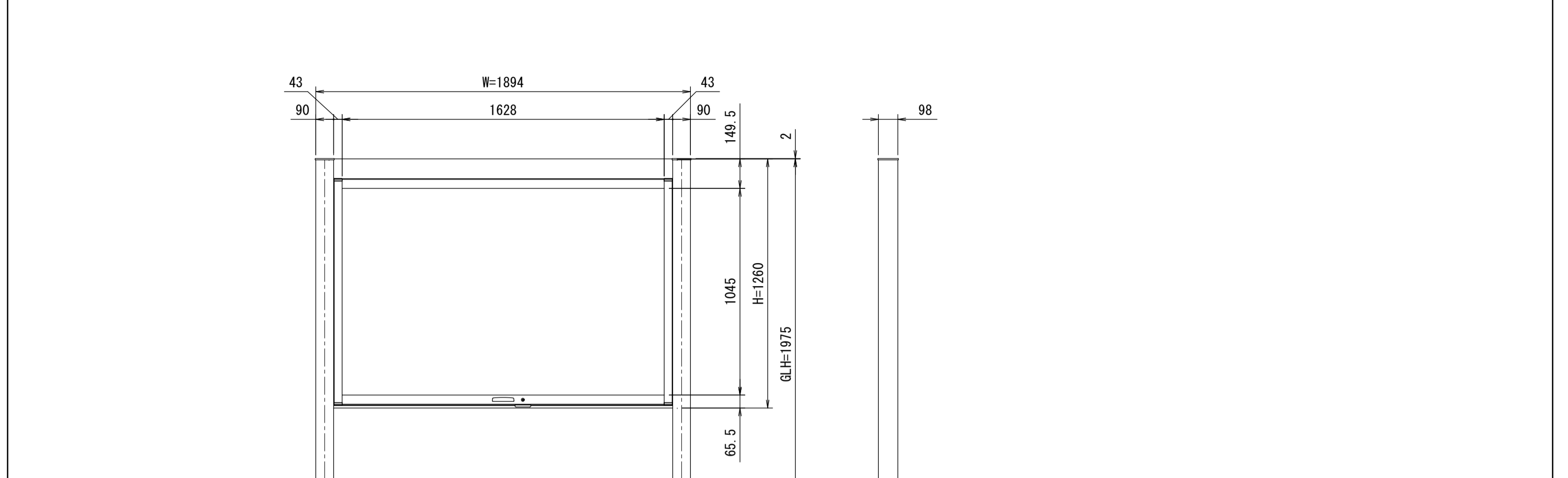
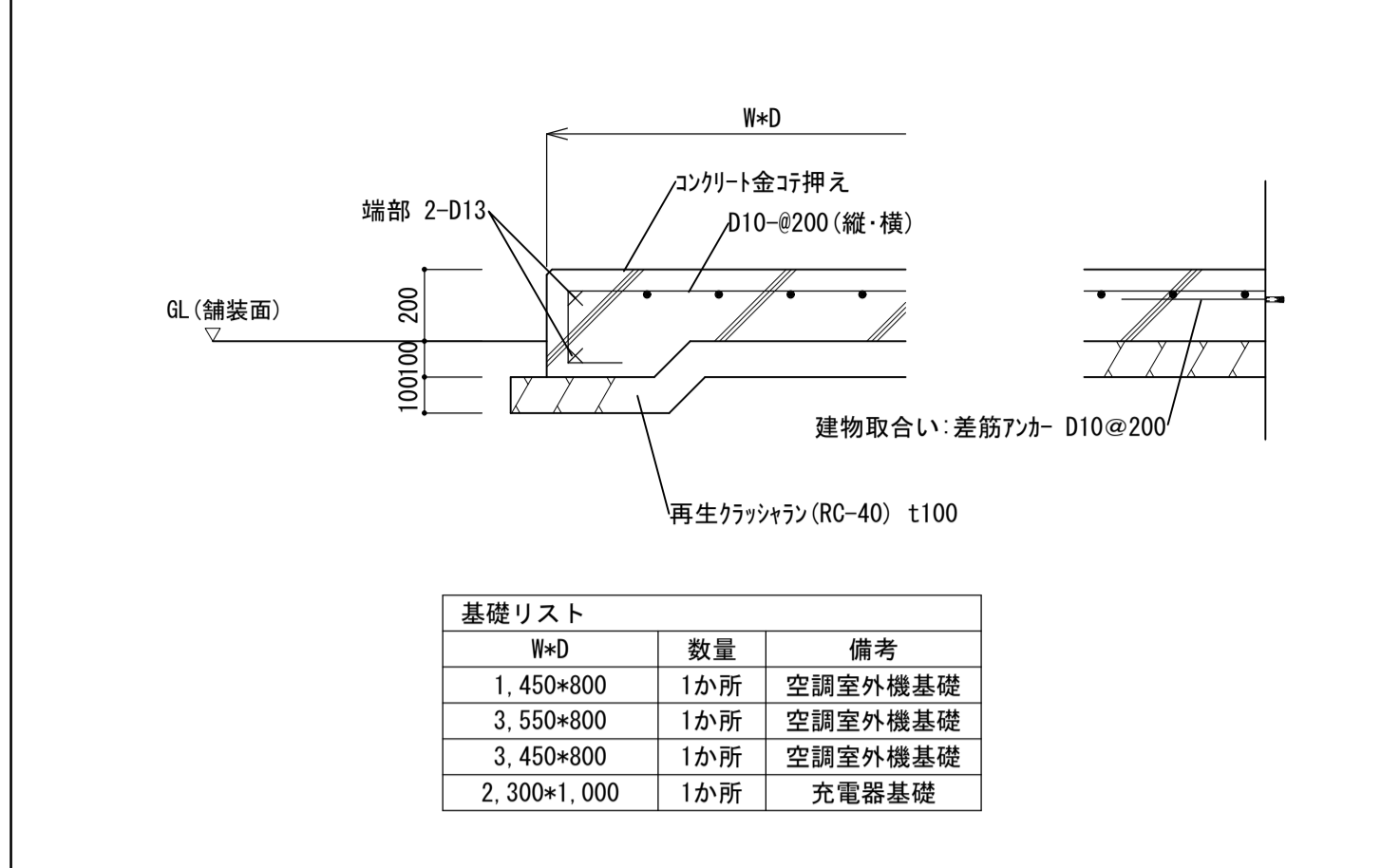
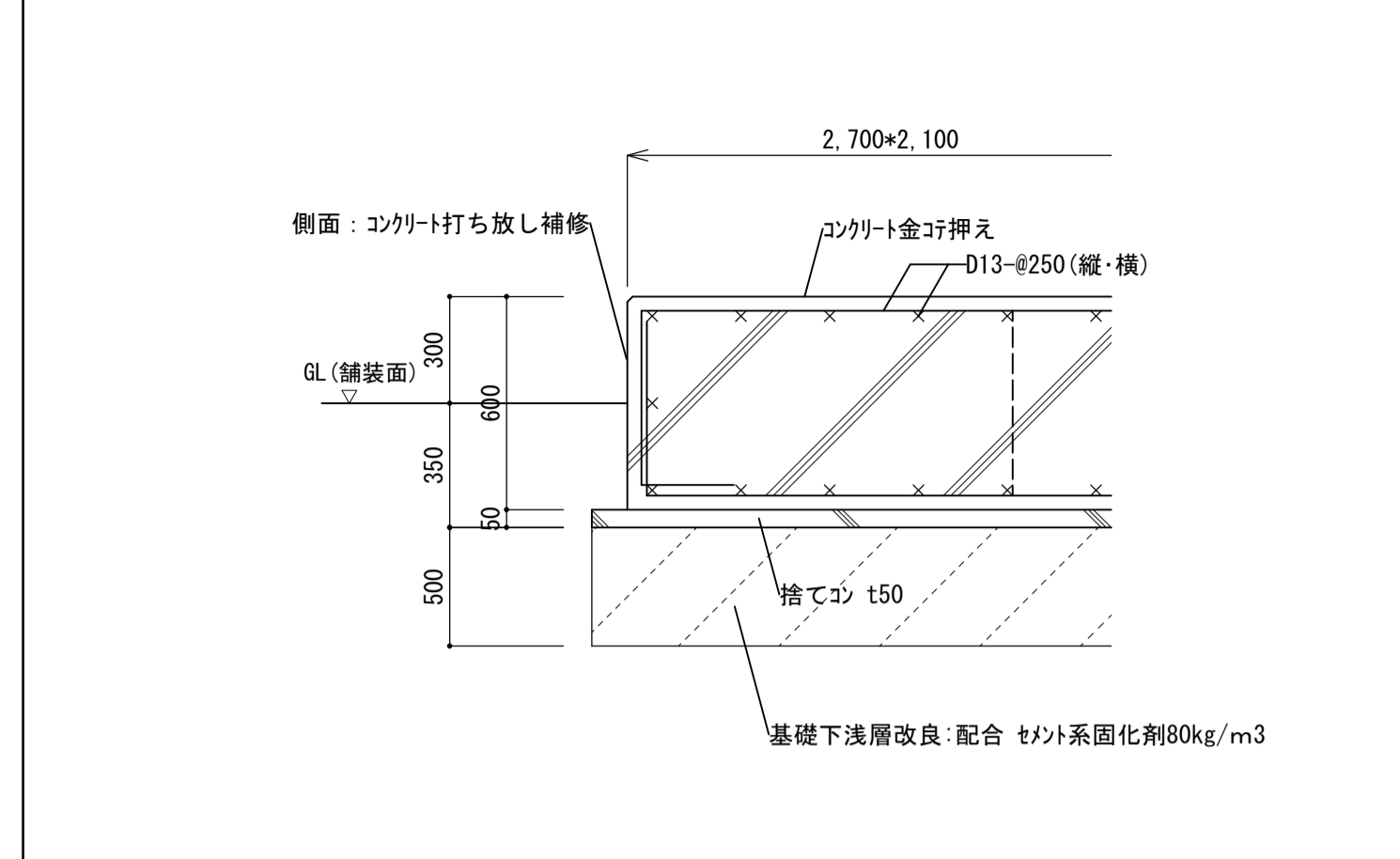


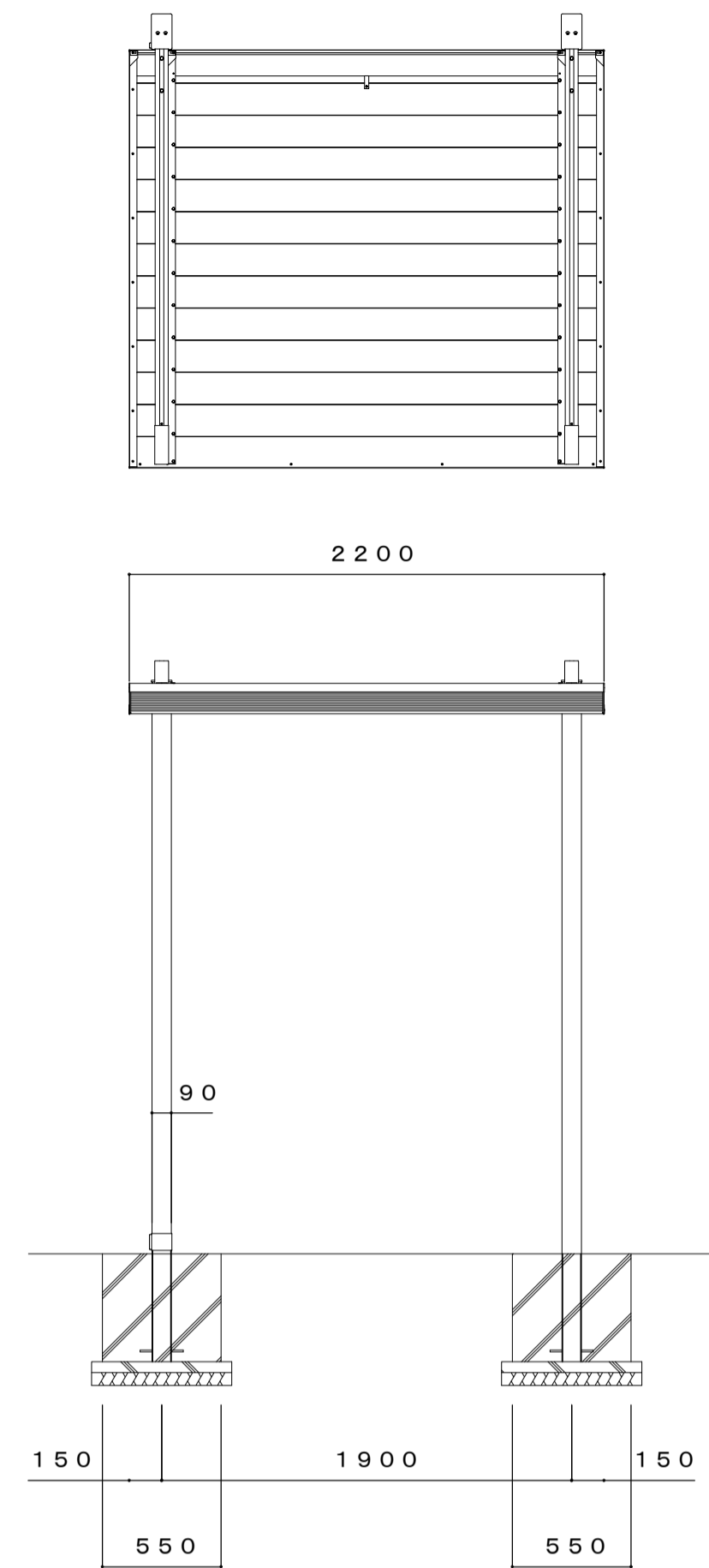
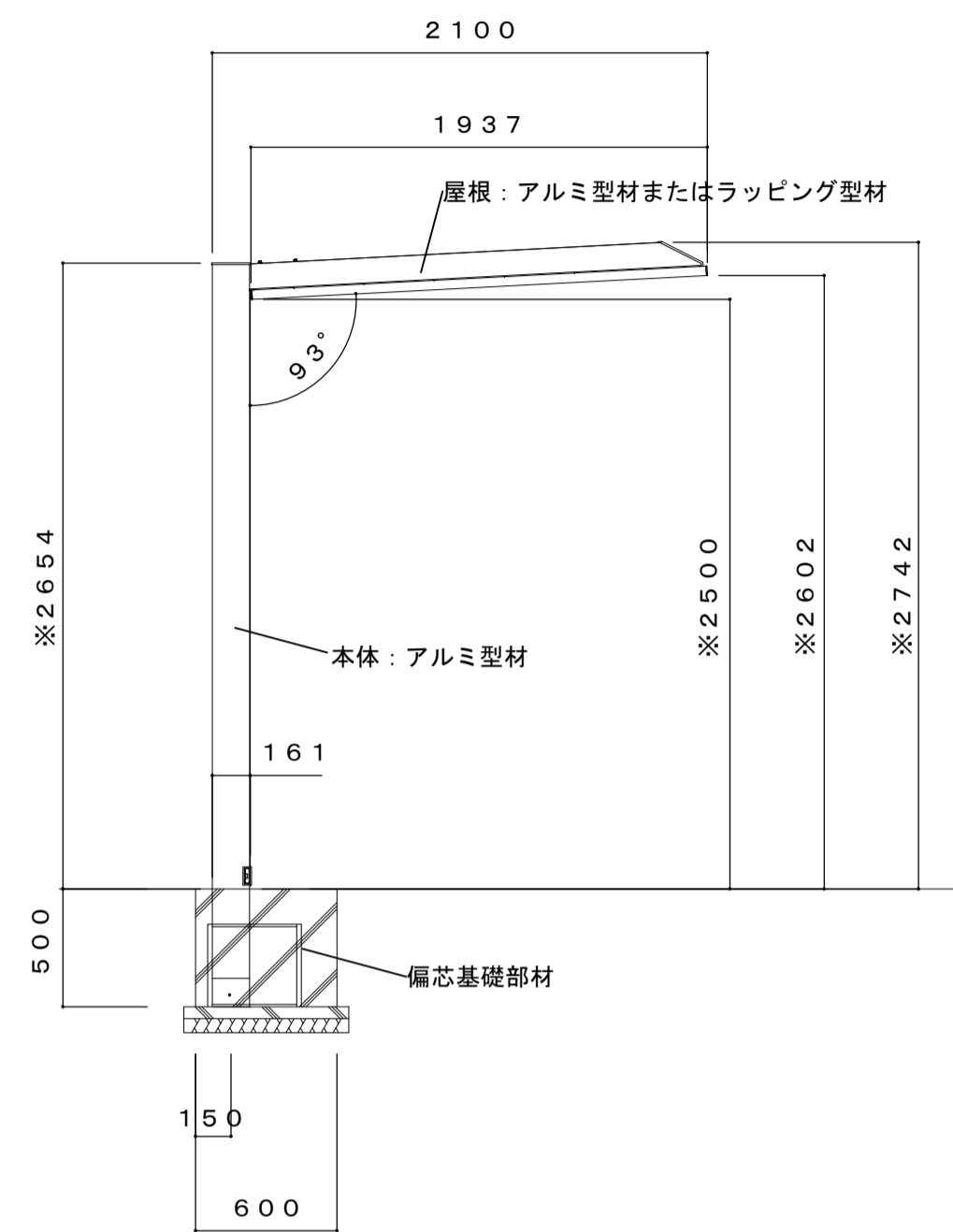
格子・建具姿図 S=1:30 (A3)



■外構図凡例				■特記事項			
(舗装)	(参考数量)	(補栽)	(参考数量)	(囲障・他)	(参考数量)	(参考数量)	
±0	図中の数字はKBM±0からの外構仕上高さを示す。	野芝張り 客土(真砂土)深さ≧15cm	155㎡	コンクリート	10.0m	1	1. 外構に記載されるも概要を示すもので、詳細は現状調査の上、監督職員と打合せの上承諾を得ること。(水勾配等)
密粒度アスファルト舗装	別紙詳細図参照 355㎡	生垣 ヲヨク H1.8 @500 生垣支柱共	15.7m	コンクリート	0.0m	1	2. 排水管勾配は、原則として1/100以上とすること。
コンクリート洗い出し舗装	別紙詳細図参照 57.4㎡			目隠し	0.0m	1	3. 側溝勾配は、原則として1/200以上とすること。
防草シート敷/砂利敷 t50	別紙詳細図参照 110㎡			ST		9m	4. 舗装勾配は、原則として2/100以下とすること。
防草シート敷/コロタ敷 t100	別紙詳細図参照 80㎡			T		32m	5. 図中数量等記載あるも、現場にて多少の増減が生じた場合は工事金額内で処理のこと。
視覚障害者用床材(注意喚起):300角 点字ブロック	図示			K		23個	6. 樹木等:施工図を作成し、配置・樹木等を確認し、監督職員の承諾を得ること。
視覚障害者用床材(誘導):300角 点字ブロック	図示						7. 枯損樹木等:保証期間は引渡日より1年とする。
ライン引:溶融式(機械式)t1.5×幅150~300実線(白) 区画3ヶ所、77m、車椅子マク:1か所、停止線・「止まれ」:1か所、「軽」:4か所							8. 植込用土:客土としハーク堆肥(40%)を混入すること。ハーク堆肥使用量の目安は、樹高0.3mに0.10(袋/本)とする。
(雨水排水)				A		1式	9. 植込用土の深さ:樹高1.0m未満に深さ0.3m以上とする。
会所併(数字は会所樹リサ番号 上段:天端いへ& 下段:管底いへ&)	会所樹リサ参照			B		1式	10. 樹種ごとに銘板を取付けること。
排水管 VP-00 硬質塩化ビニール一般管(数字は管径を示す。)	図示			C		1式	
U-240[蓋] U字溝用溝蓋(スチール製ゲレンゲ T-2 細目ノリツブ)	20m			D		1式	
U-240 既設U字溝 W240 部分改修(既設撤去及び新設)	55m			E		1式	
南側水路改修	別紙詳細図参照			F		1式	







参考品番：LIXIL カネ-ISCs- 又は同等品以上

訂正事項	

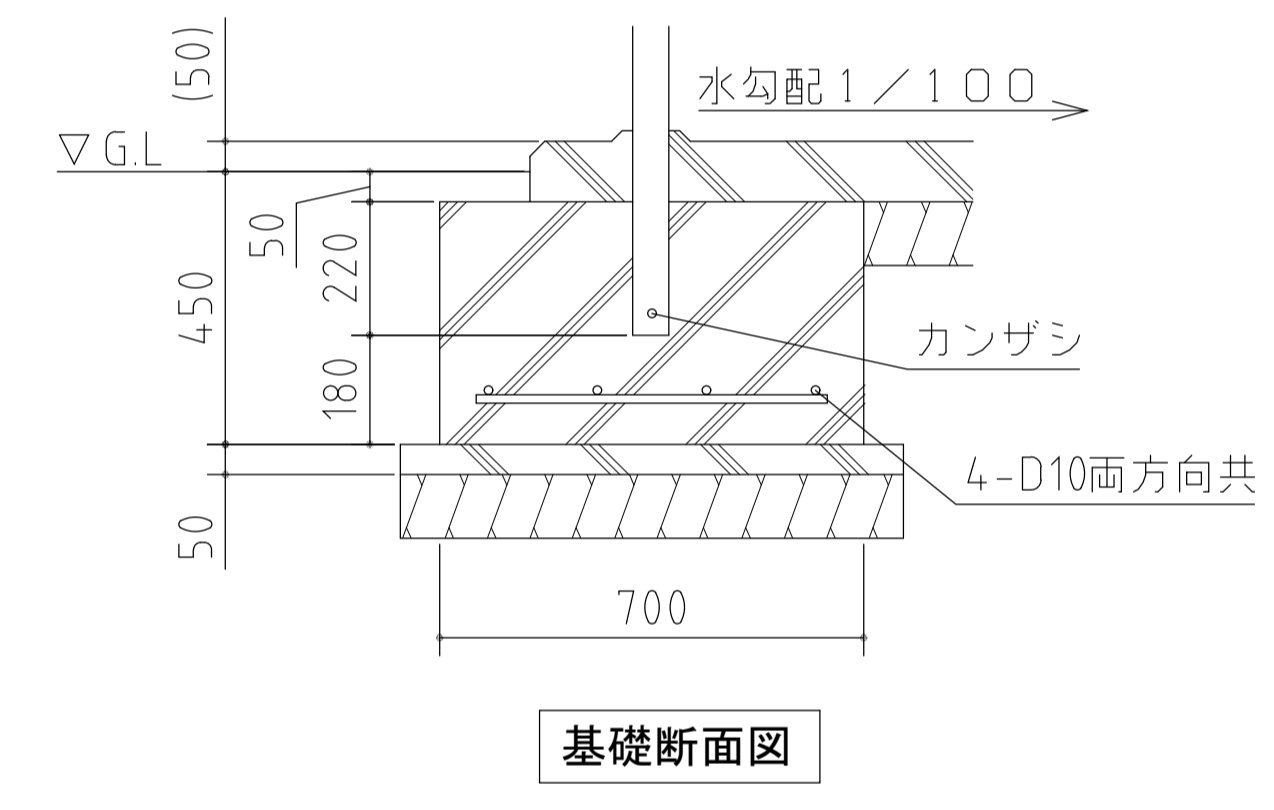
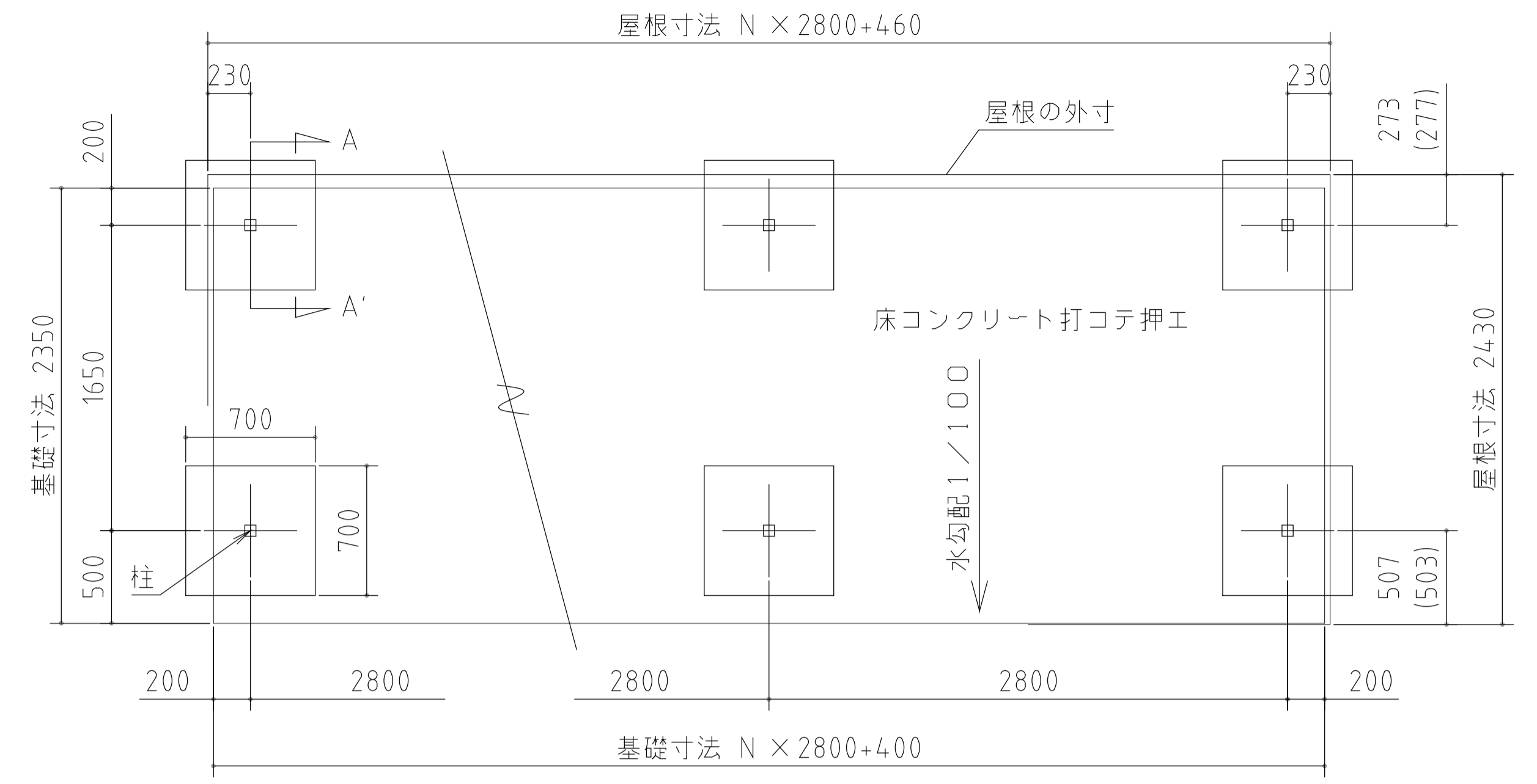
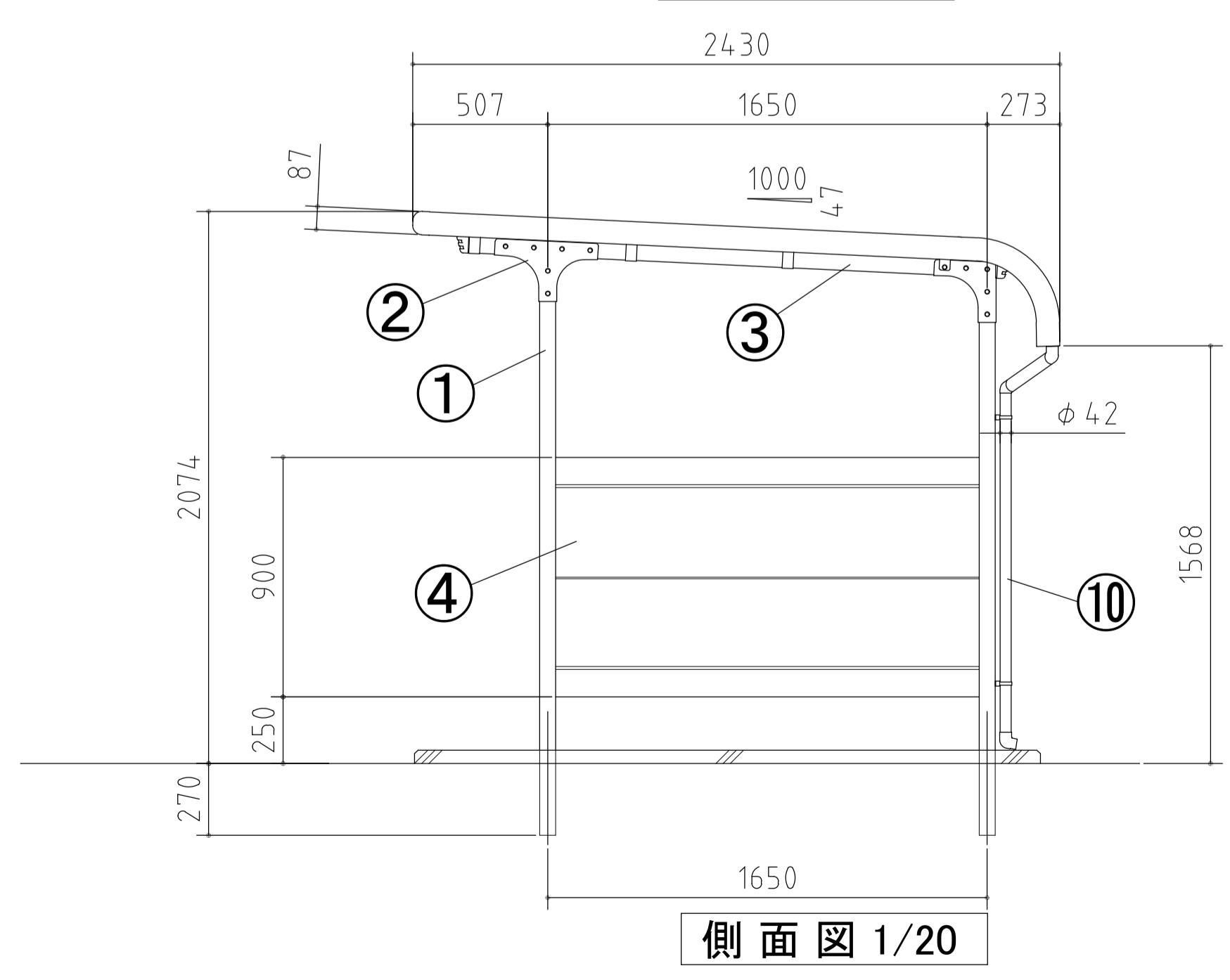
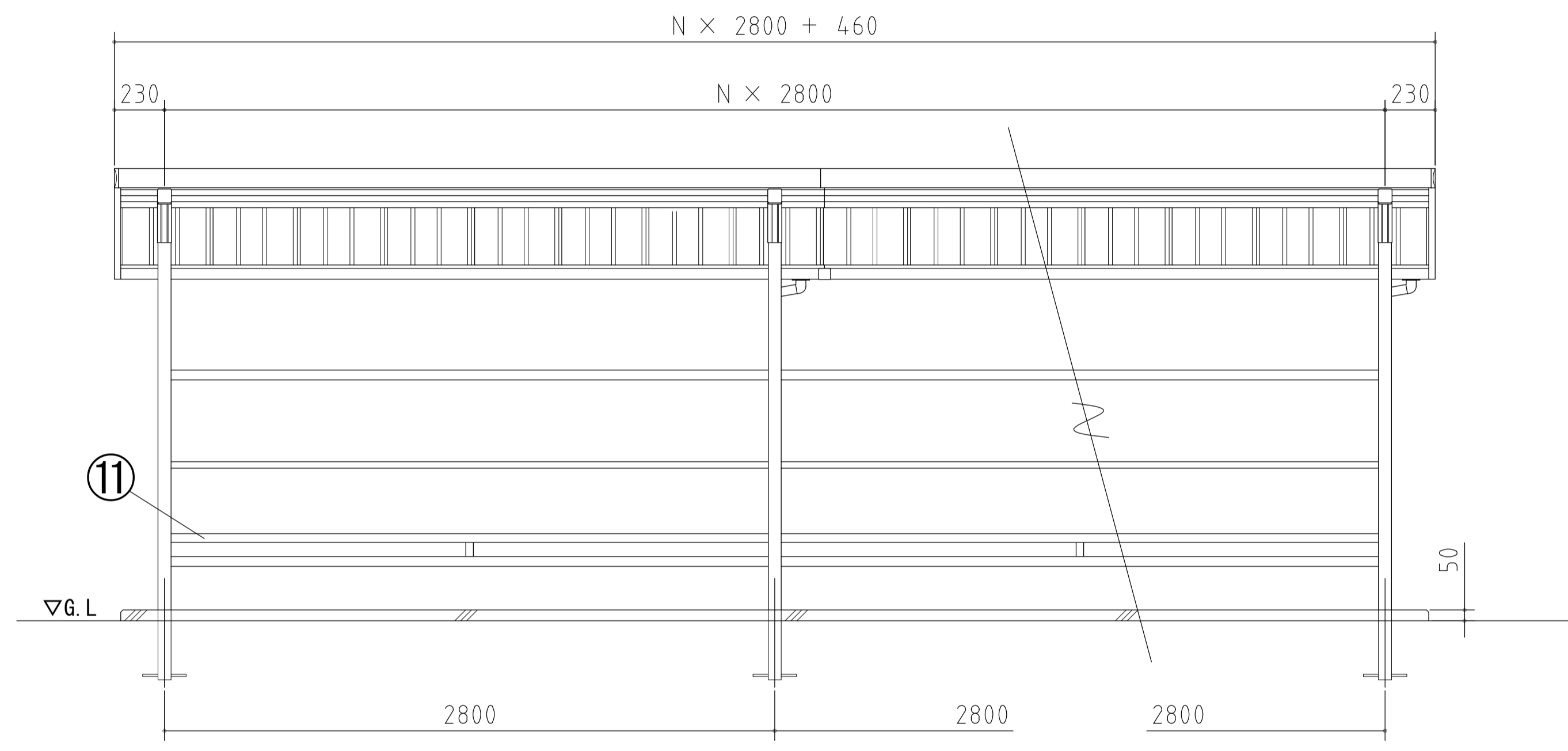
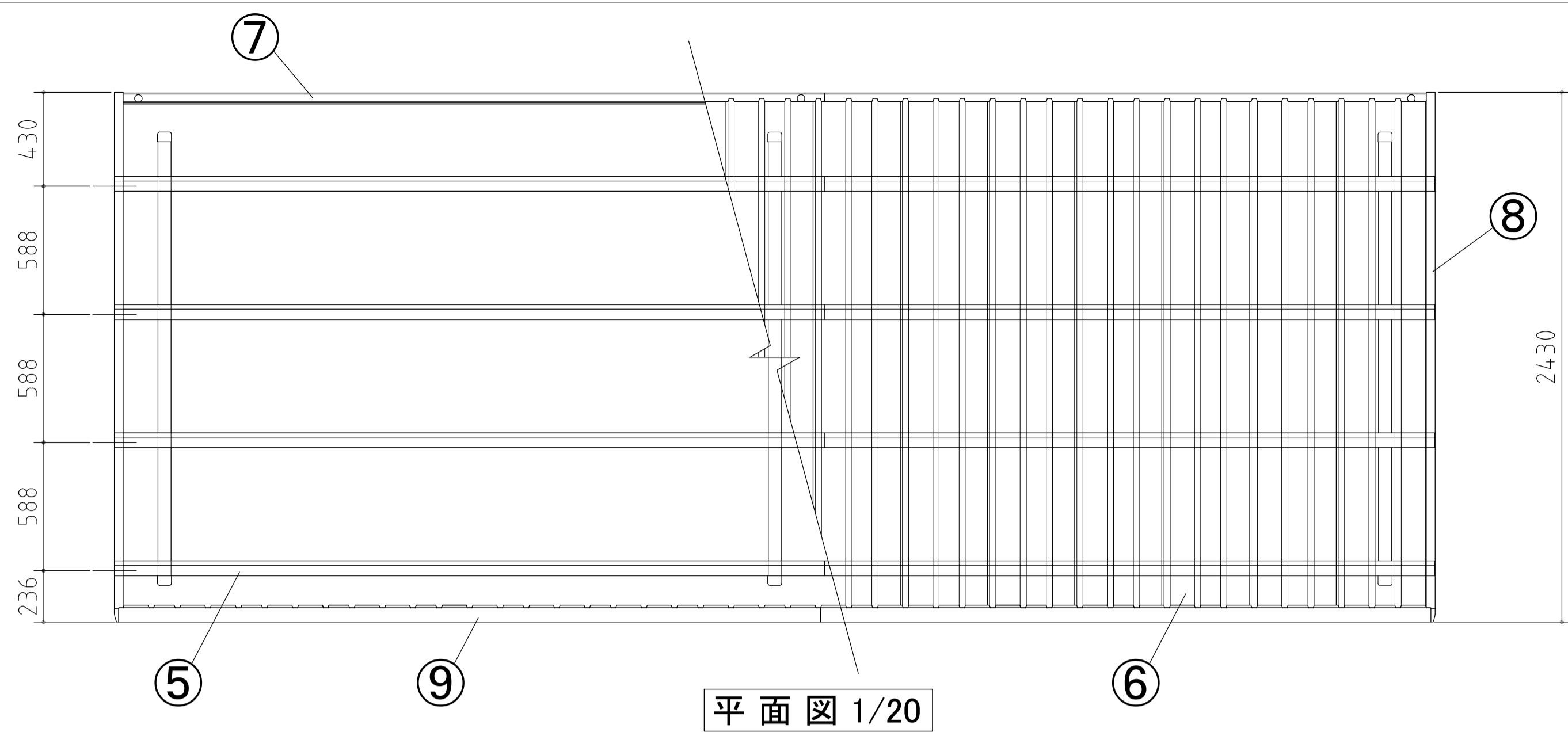
水原・芦澤設計共同体

株式会社 水原建築設計事務所
一級建築士事務所 滋賀県知事登録 第863号
一級建築士登録 第219285号 北村 浩
滋賀県彦根市長巻橋南町443番地 TEL. 0749-22-1679

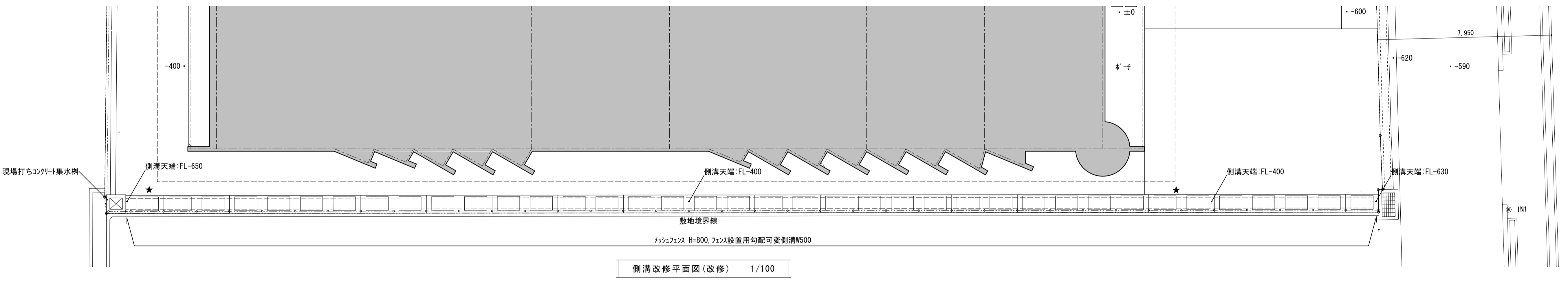
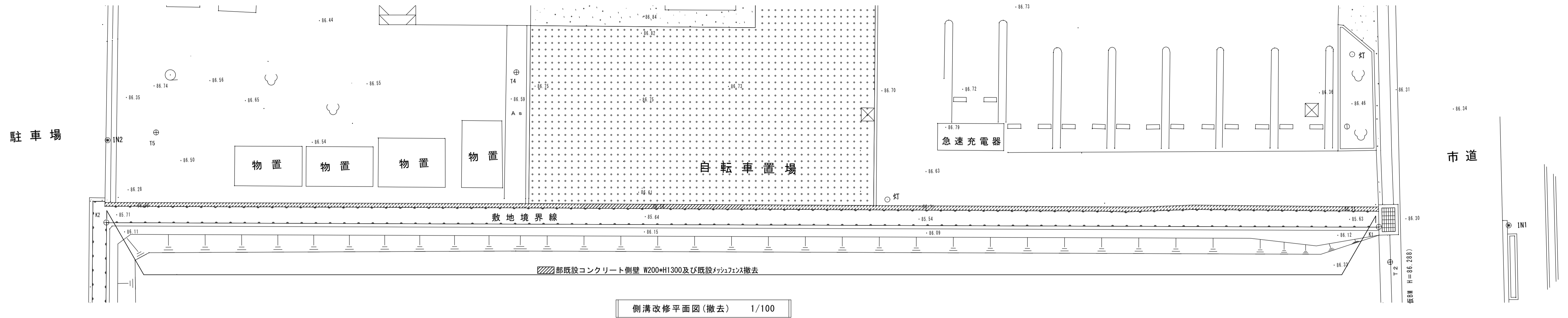
芦澤電一建築設計事務所
一級建築士事務所 大阪府知事登録 (口) 第24257号
一級建築士登録 第298139号 芦澤 電一
大阪府大阪市北区中崎西1-1-4 tel. 06-6465-2017

北部図書機能・コミュニティ機能整備工事

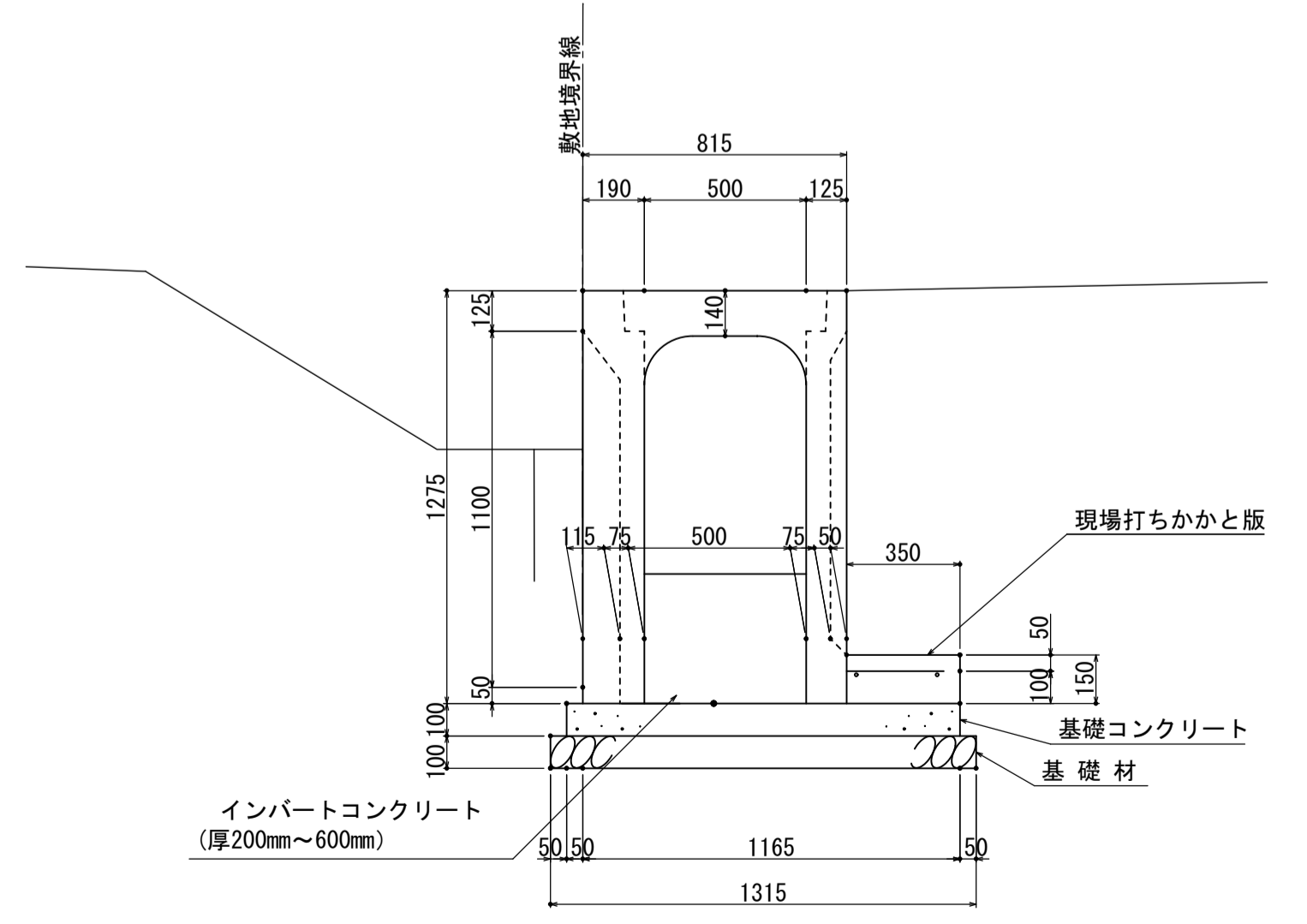
外構詳細図3		SHEET NO. A-504
DATE 2021.12	SCALE A1:1/30 A3:1/60	



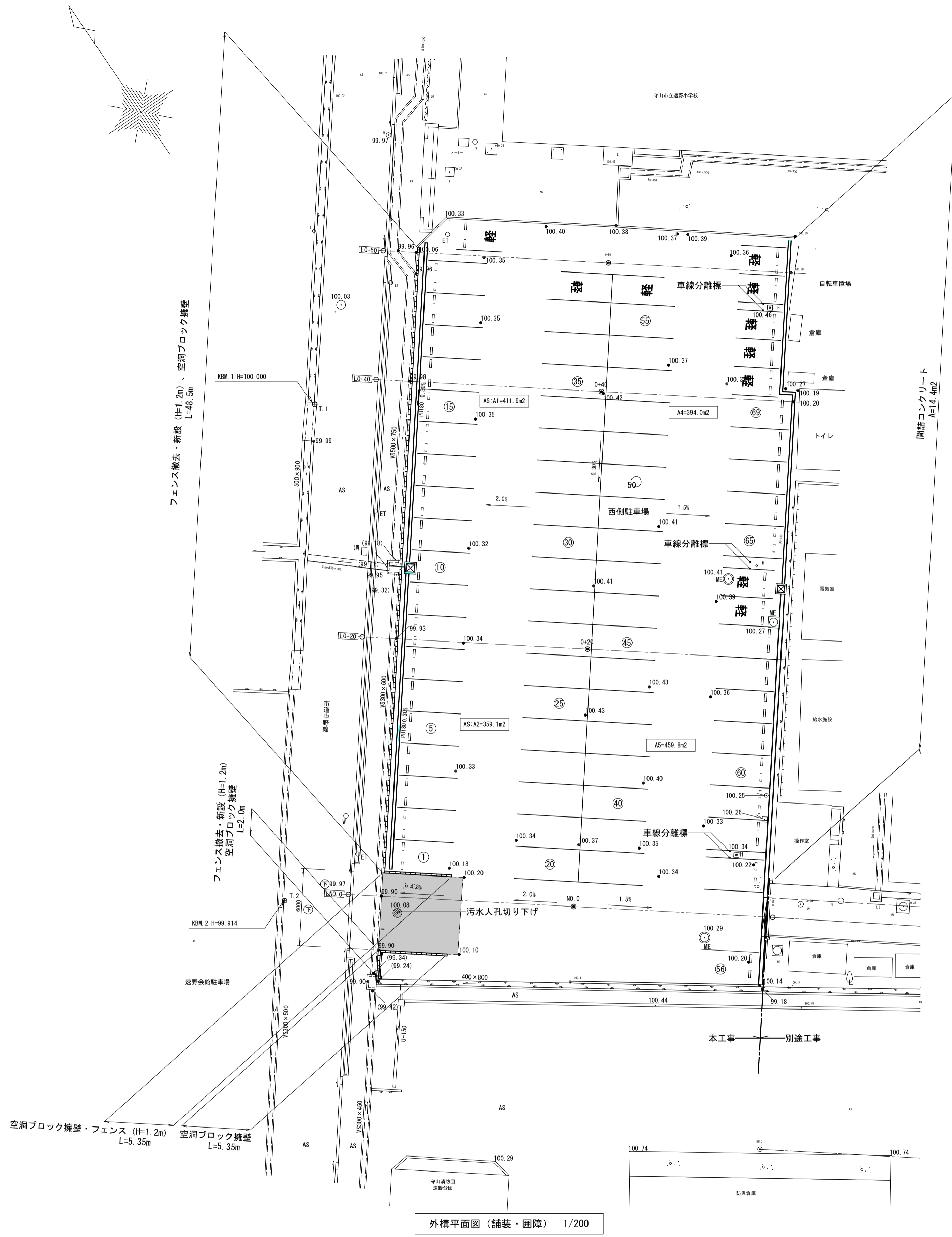
品番	部 品 名	材料(材質)	単位	mm
1	柱	一般構造用角形鋼管	2.3	
2	プレート	溶融亜鉛めっき鋼板	2.3	
3	梁	一般構造用角形鋼管	2.3	
4	腰パネル	溶融亜鉛めっき鋼板	0.6	
5	母屋	”	1.6	
6	屋根パネル	溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板	0.5	
7	軒とい	塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板	0.6	
8	妻板	溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板	0.7	
9	鼻隠し前	”	0.7	
10	雨とい	ASA樹脂		
11	車止め棒	溶融亜鉛めっき鋼板	1.2	
一般構造用角形鋼管→PZ(JIS G 3466)				
溶融亜鉛めっき鋼板→F12(JIS G 3302)				
溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板→Y10(JIS G 3317)				
塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板→AZ150(JIS G 3322)				



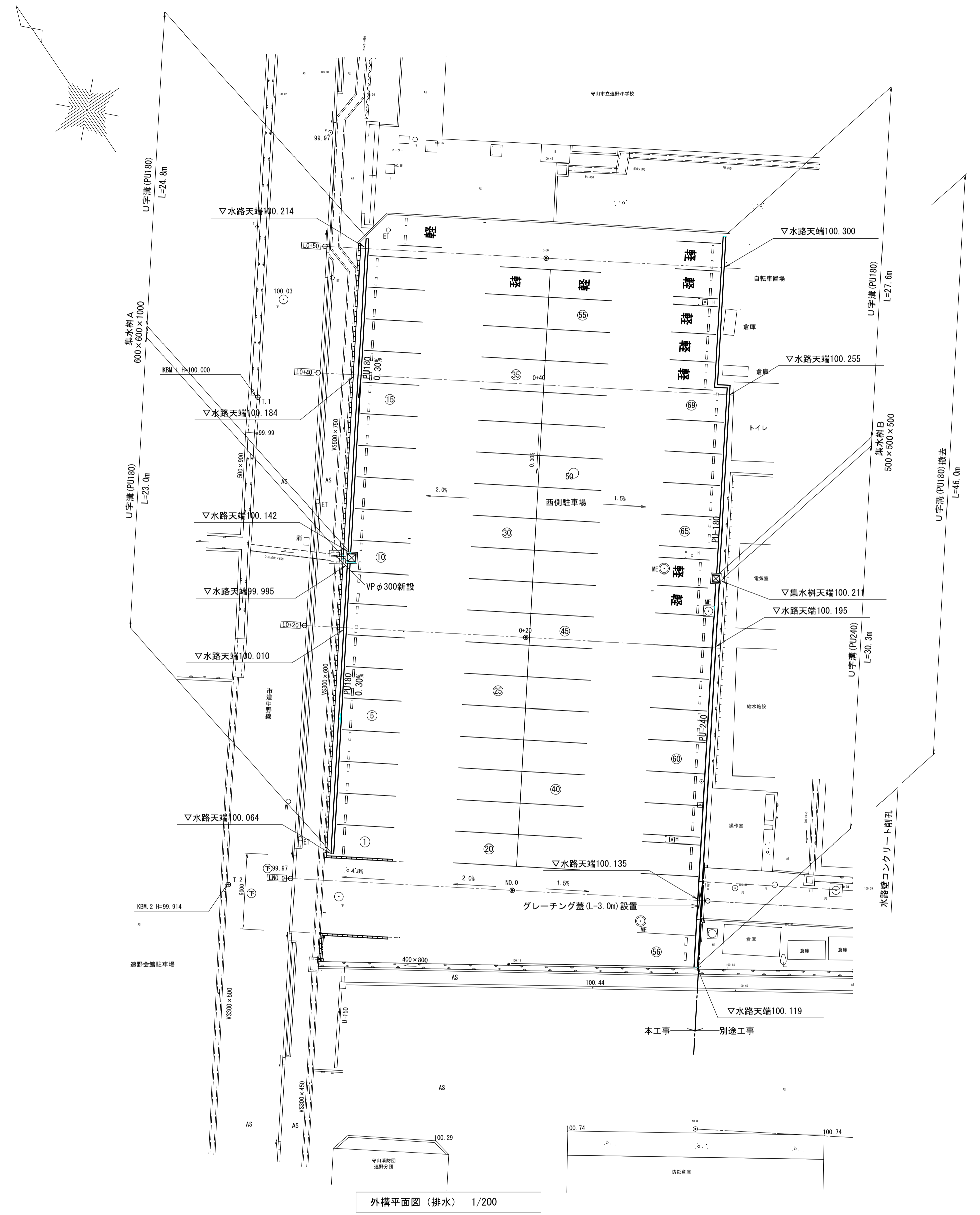
フェンス設置用勾配可変側溝W500 詳細図 1/20



訂正事項	水原・芦澤設計共同体		北部図書機能・コミュニティ機能整備工事		南側水路改修工事	SHEET NO.
	株式会社 水原建築設計事務所 <small>一級建築士事務所 設計員知事登録 第63号 一級建築士登録 第21928号 北村 暁 設置員産都市長登録番号443番地 TEL. 0749-22-1679</small>		芦澤電一建築設計事務所 <small>一級建築士事務所 大阪府知事登録 (口) 第2425号 一級建築士登録 第29819号 芦澤 竜一 大阪府大阪市北区中崎西1-1-4 tel. 06-6465-2017</small>		DATE 2021.12 SCALE A1:1/100, 1/20 A3:1/200, 1/40	A-506



外構平面図 (舗装・団障) 1/200



外構平面図 (排水) 1/200

■外構平面図 (舗装・団障) 凡例・特記事項 1. アスファルト舗装 表層:密粒度アスコン t=5cm、上層路盤:粒度調整砕石 M-30 t=10cm、 下層路盤:切込砕石 t=10cm 路面標示:「軽」文字 10ヶ所 2. 駐車区画 区画線:溶融式区画線 (白色・W15cm) 389.5m、タイヤ止め 79台×2ヶ所 3. 既設土間コンクリート撤去 t=10cm 4. 図中 ⁰⁰⁰ 印の各数字は、現状地盤高さを示す。アスファルト舗装末端高さは標準断面図・横断面図参照のこと。 5. 空洞ブロック擁壁・フェンス等は詳細図参照のこと。		■外構平面図 (排水) 凡例・特記事項 1. 排水溝・集水樹等は詳細図参照のこと。
---	--	---

訂正事項	

水原・芦澤設計共同体

株式会社 水原建築設計事務所
 一級建築士事務所 登録番号知事登録 第63号
 一級建築士登録 第219263号 北村 浩
 設置県産振市長官職権限443番地 TEL. 0749-22-1679

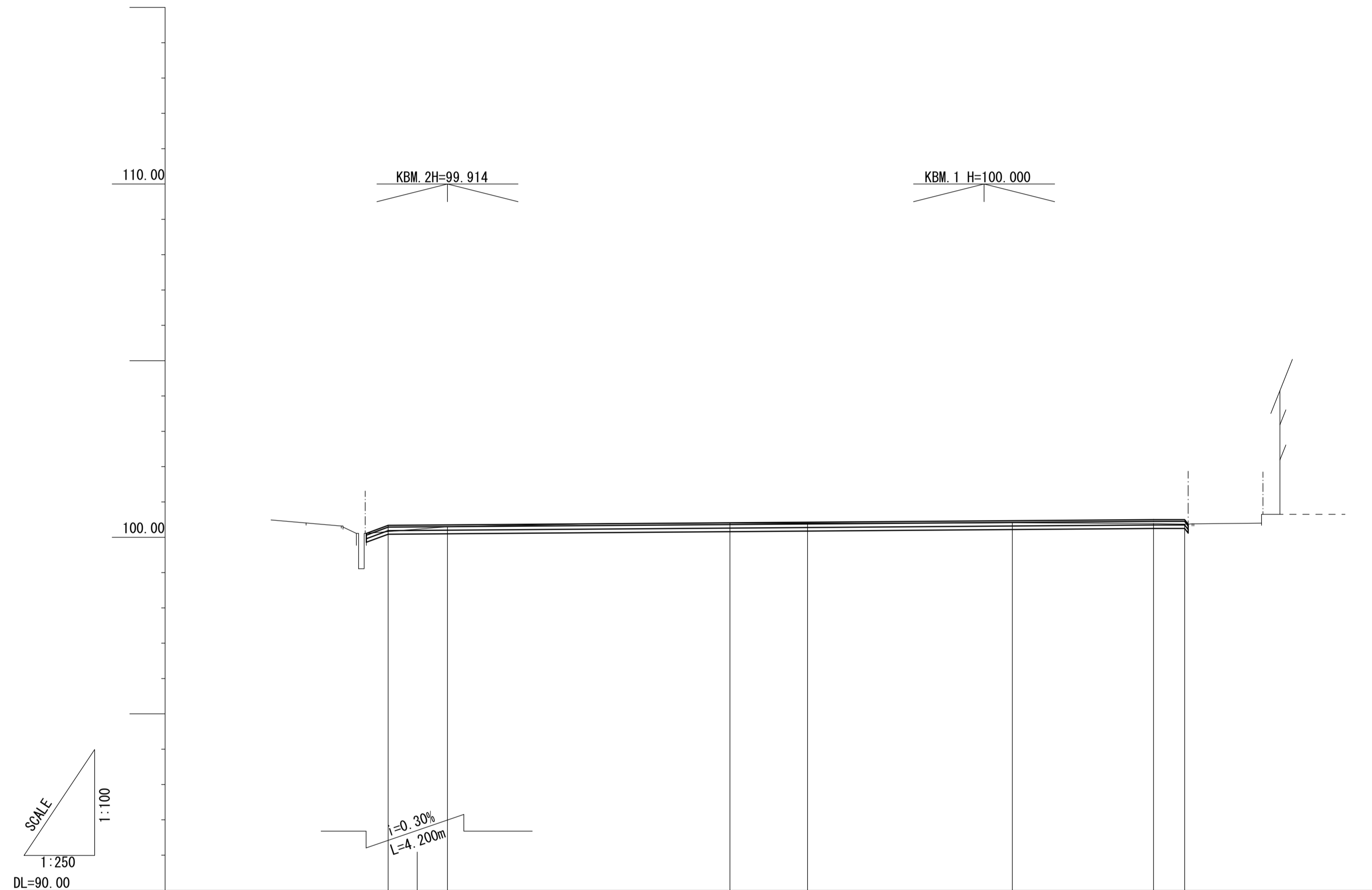
芦澤電一建築設計事務所
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (口) 第2425号
 一級建築士登録 第29819号 芦澤 電一
 大阪府大阪市北区中崎西1-4 TEL. 06-6465-2017

北部図書機能・コミュニティ機能整備工事

東側駐車場整備		SHEET NO. A-507
外構平面図 (舗装・団障)		
外構平面図 (排水)		
DATE 2021.12	SCALE A1:1/200 A3:1/400	

縦断面図

SV=1:100
SH=1:250



勾配										
盛土										
切土										
計画高	100.337	100.350	100.410	100.427	100.470	100.500	100.500			
地盤高		100.30	100.40	100.41	100.41	100.39	100.39			
追加距離	-4.200	0.000	20.000	25.500	40.000	50.000	52.200			
単距離		0.000	20.000		20.000	10.000				
測点	H0-4.2	H0.0	0+20	0+25.5	0+40	0+50	0+52.2			
曲線										

訂正事項	
------	--

水原・芦澤設計共同体

株式会社 水原建築設計事務所
一級建築士事務所 登録番号 第83号
 一級建築士登録 第21928号 北村 博
 設置県庁市長官舎南側44番地 TEL. 0749-22-1679

芦澤竜一建築設計事務所
一級建築士事務所 大阪府知事登録 (口) 第2425号
 一級建築士登録 第29813号 芦澤 竜一
 大阪府大阪市北区中崎西1-4 tel. 06-6465-2017

北部図書機能・コミュニティ機能整備工事

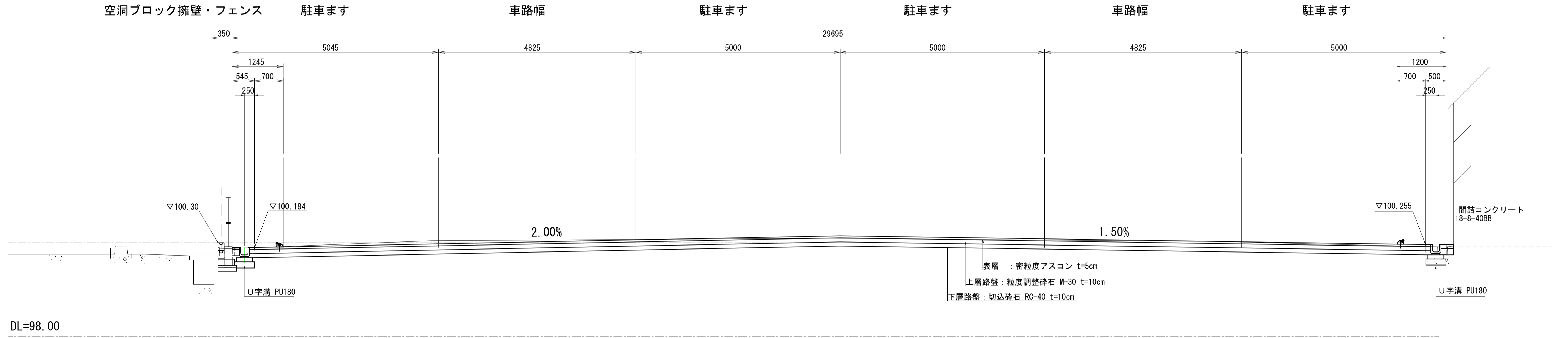
東側駐車場整備		縦断面図	SHEET NO.
DATE	SCALE		
2021.12	A1:1/100, 1/250 A3:1/200, 1/500		A-508

標準断面図

S=1:50

東側駐車場

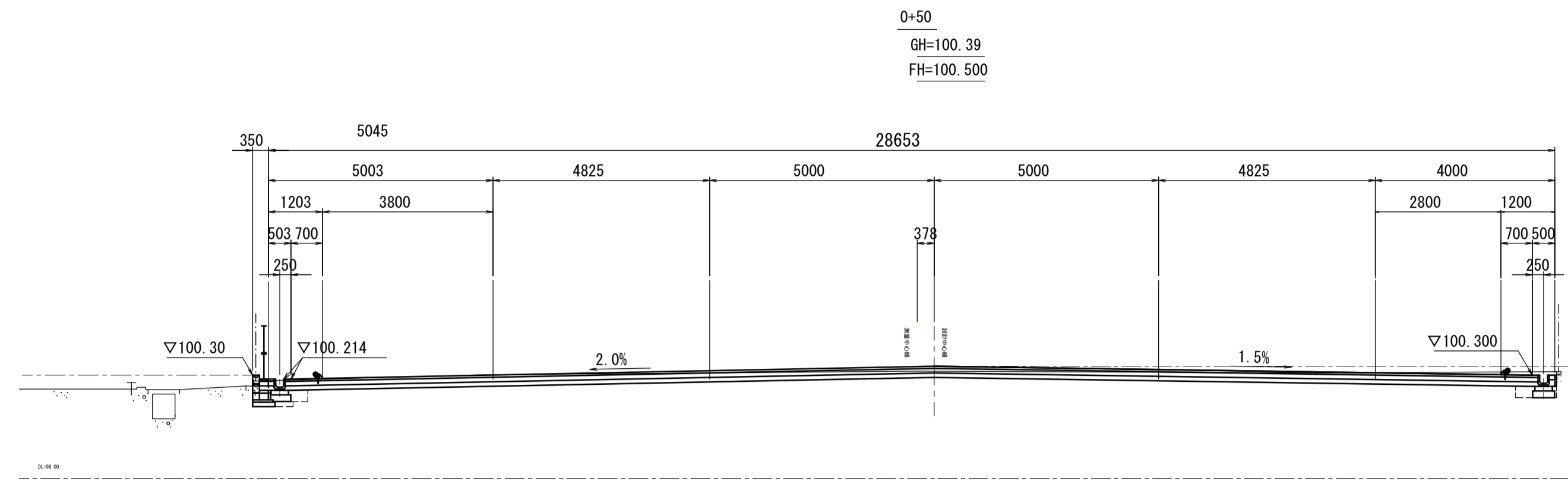
0+40
GH=100.41
FH=100.470



訂正事項		<p align="center">水原・芦澤設計共同体</p> <p>株式会社 水原建築設計事務所 芦澤電一建築設計事務所</p> <p>一級建築士事務所 滋賀県知事登録 第963号 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (口) 第24257号</p> <p>一級建築士登録 第21928号 北村 暁 一級建築士登録 第29813号 芦澤 竜一</p> <p>滋賀県彦根市長登城町443番地 TEL. 0749-22-1679 大阪府大阪市北区中崎西1-1-4 tel. 06-6465-2017</p>	<p align="center">北部図書機能・コミュニティ機能整備工事</p>	東側駐車場整備		SHEET NO.
				標準断面図		
				DATE	SCALE	
				2021.12	A1:1/50 A3:1/100	

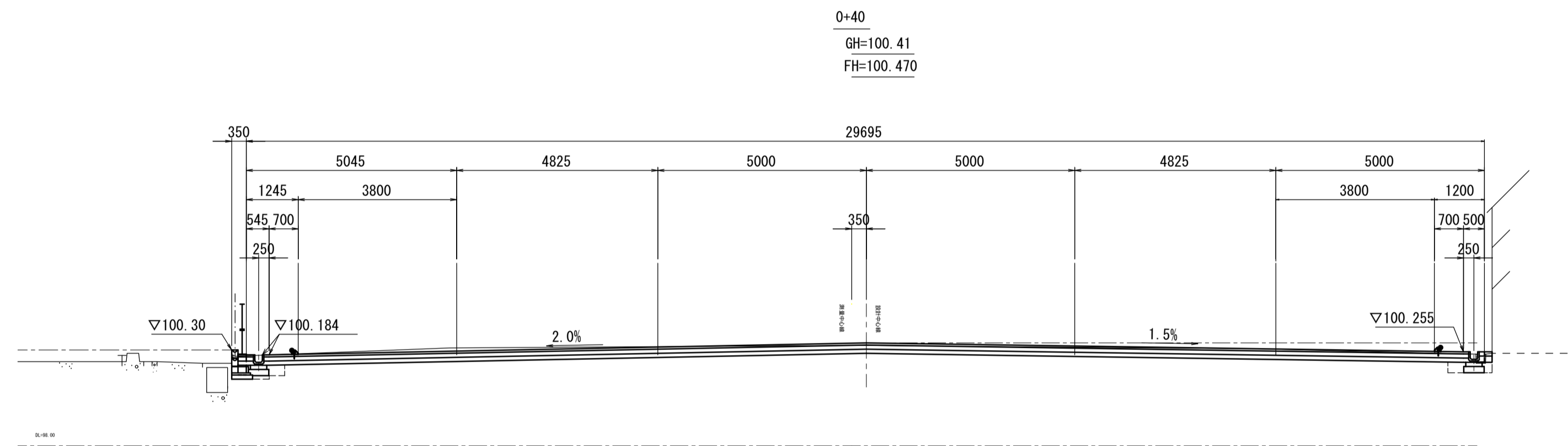
横断図

S=1:100

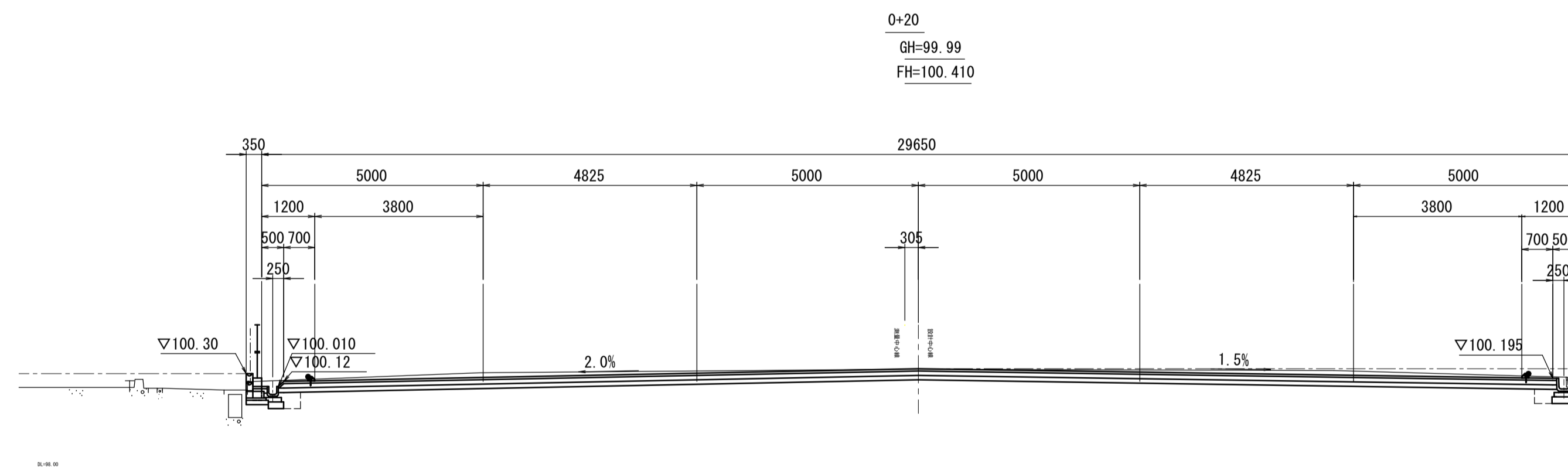


舗装砕石すき取	—	
掘削	6.3	
路体盛土	—	
路床盛土	—	
床掘	0.4	0.2
埋戻	0.2	0.1
間詰コンクリート幅	—	0.16

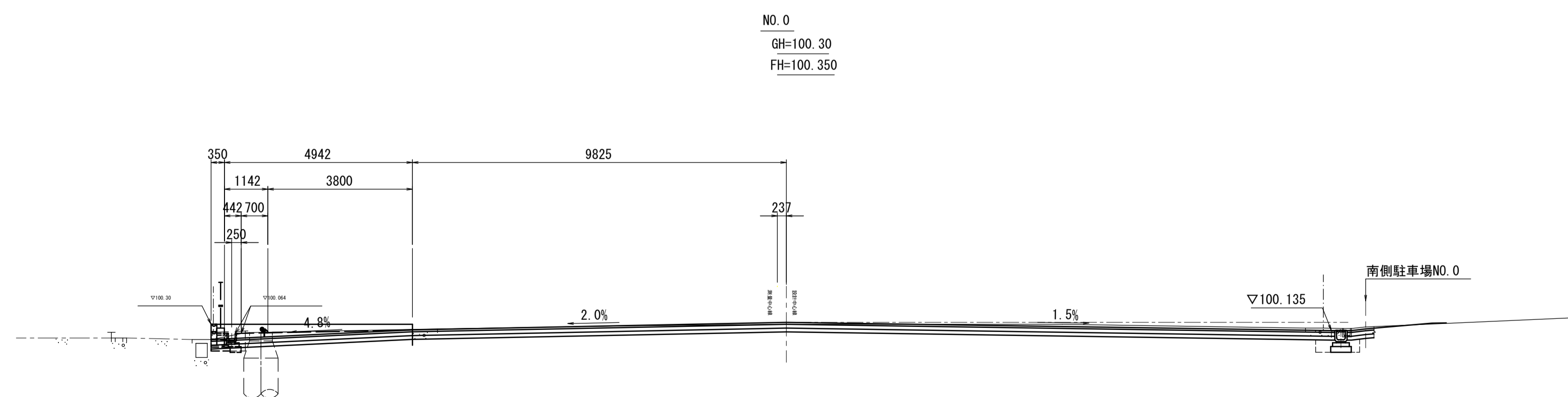
西歩道側 東学校側



舗装砕石すき取	—	
掘削	7.3	
路体盛土	—	
路床盛土	—	
床掘	0.4	0.3
埋戻	0.1	0.2
間詰コンクリート幅	—	0.31



舗装砕石すき取	—	
掘削	9.0	
路体盛土	—	
路床盛土	—	
床掘	0.3	0.4
埋戻	0.2	0.2
間詰コンクリート幅	—	0.33



舗装砕石すき取	—	
掘削	8.8	
路体盛土	—	
路床盛土	—	
床掘	0.5	0.4
埋戻	0.1	0.2

訂正事項	

水原・芦澤設計共同体

株式会社 水原建築設計事務所
一級建築士事務所 滋賀県知事登録 第63号
一級建築士事務所 第219285号 北村 通
滋賀県彦根市長倉根南町443番地 TEL. 0749-22-1679

芦澤竜一建築設計事務所
一級建築士事務所 大阪府知事登録 (口) 第24257号
一級建築士事務所 第298139号 芦澤 竜一
大阪府大阪市北区中崎西1-1-4 tel 06-6485-2017

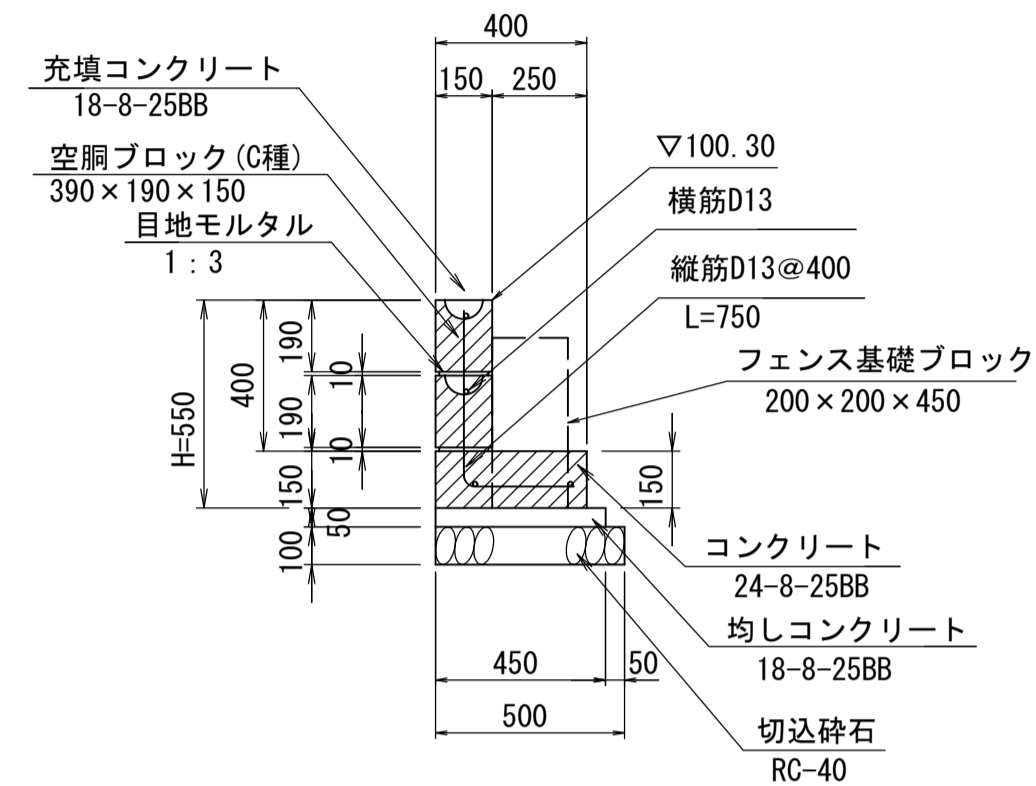
北部図書機能・コミュニティ機能整備工事

東側駐車場整備		SHEET NO.
横断図		
DATE	SCALE	A-510
2021.12	A1:1/100 A3:1/200	

構造図 1

空洞ブロック土留

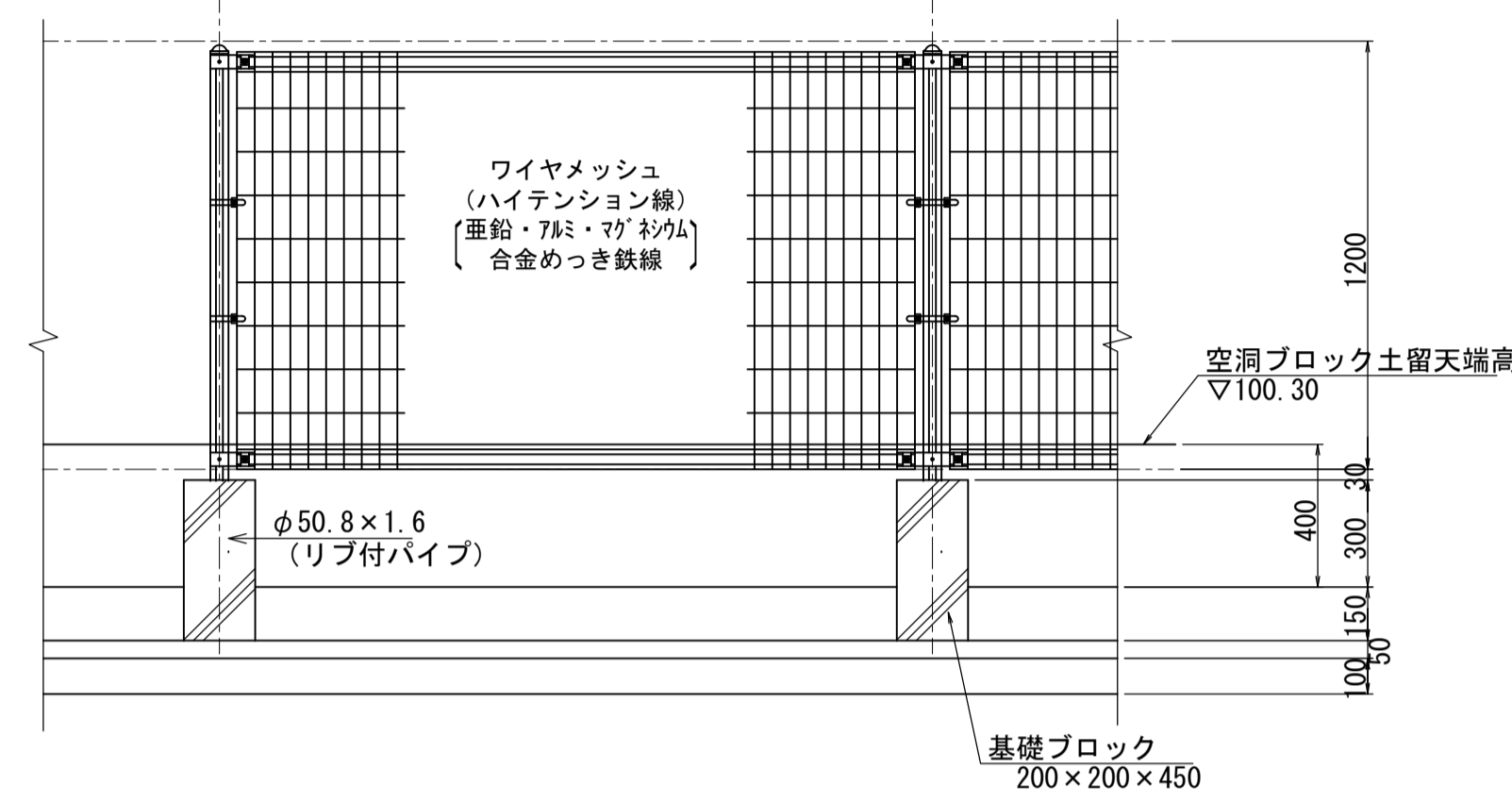
S=1 : 20



※鉄筋はSD295A以上のものを使用
※フェンス基礎ブロックはコンクリート打設時までに設置すること

フェンス復旧

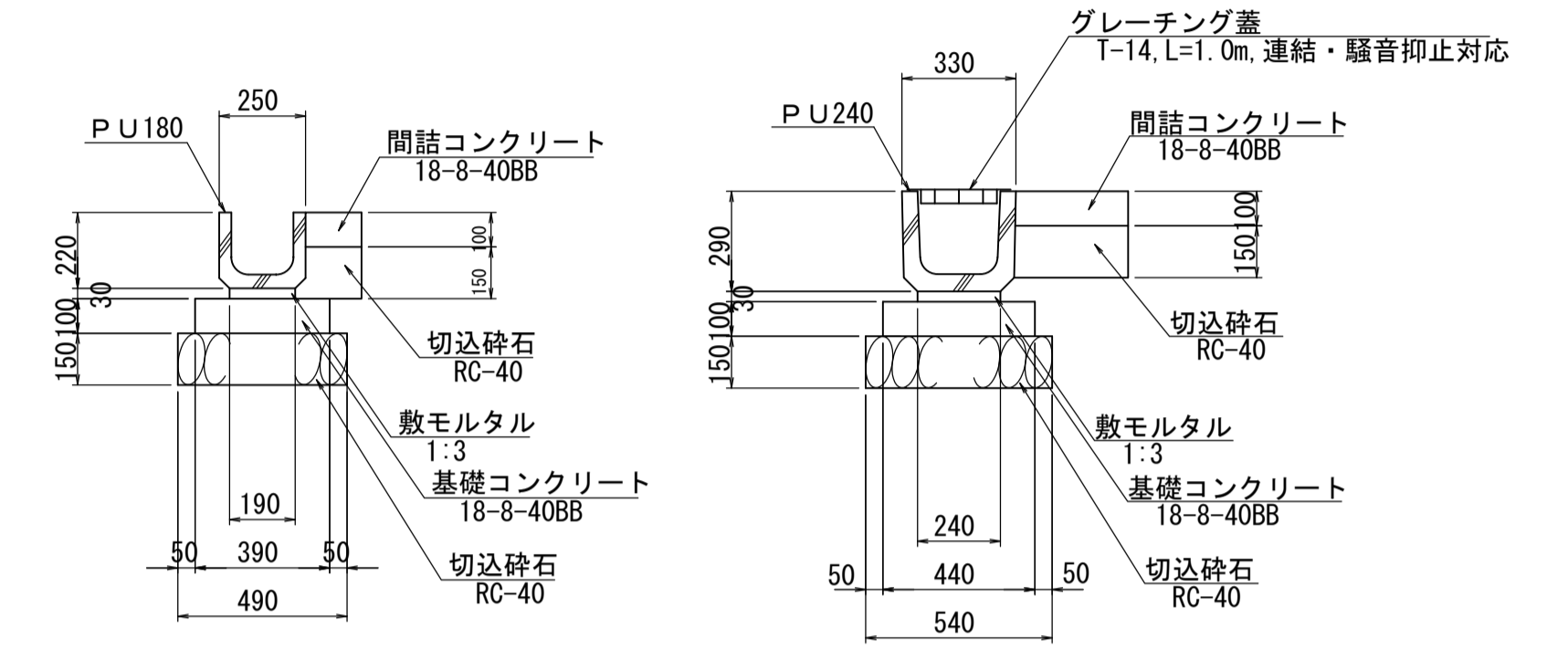
S=1 : 20



U字溝

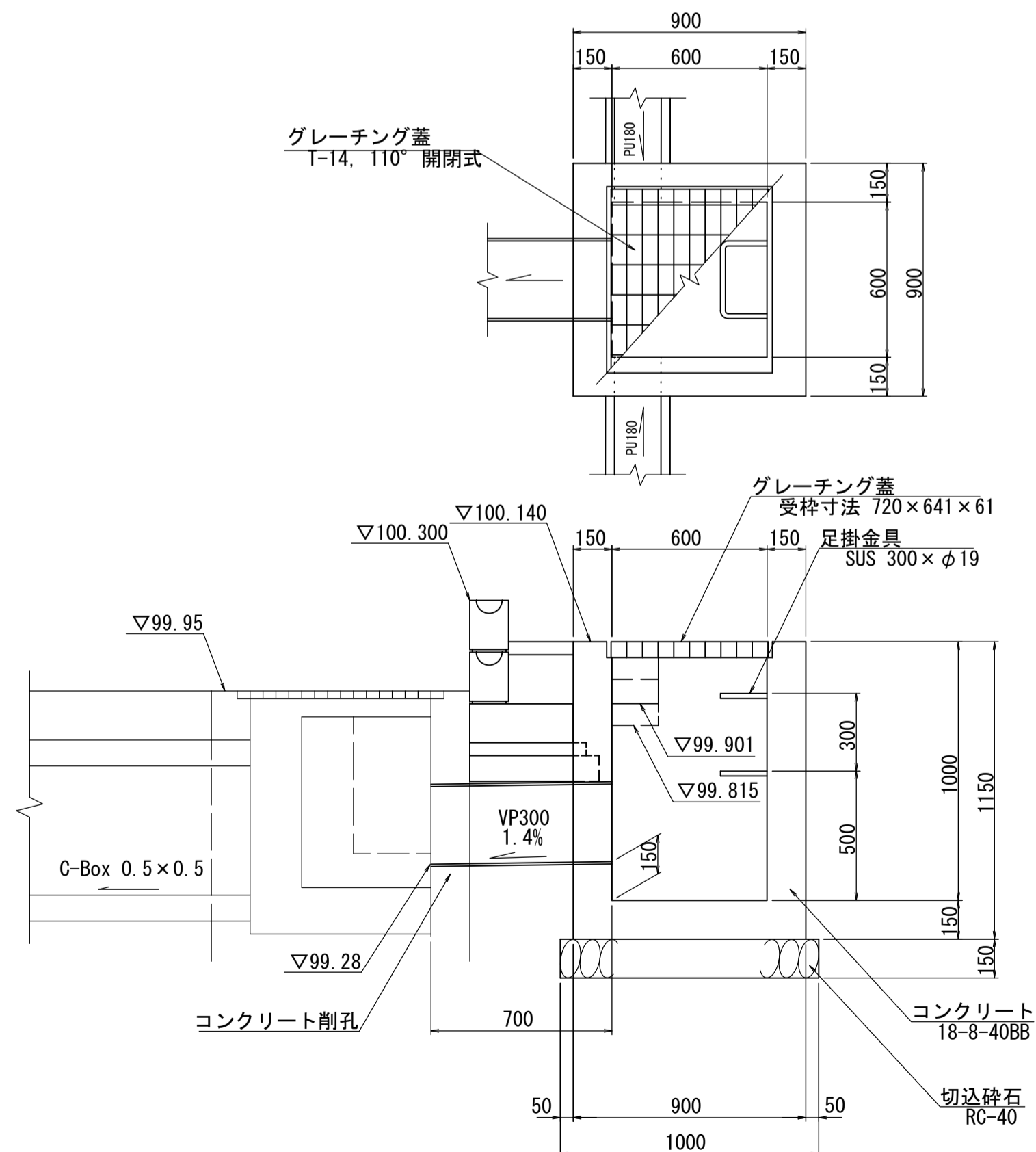
S=1 : 20

※間詰コンクリートは西側駐車場の東端側溝のみに設置
※グレーチング蓋は西側駐車場の南側駐車場連絡通路入口 (L=3.0m) にのみ設置



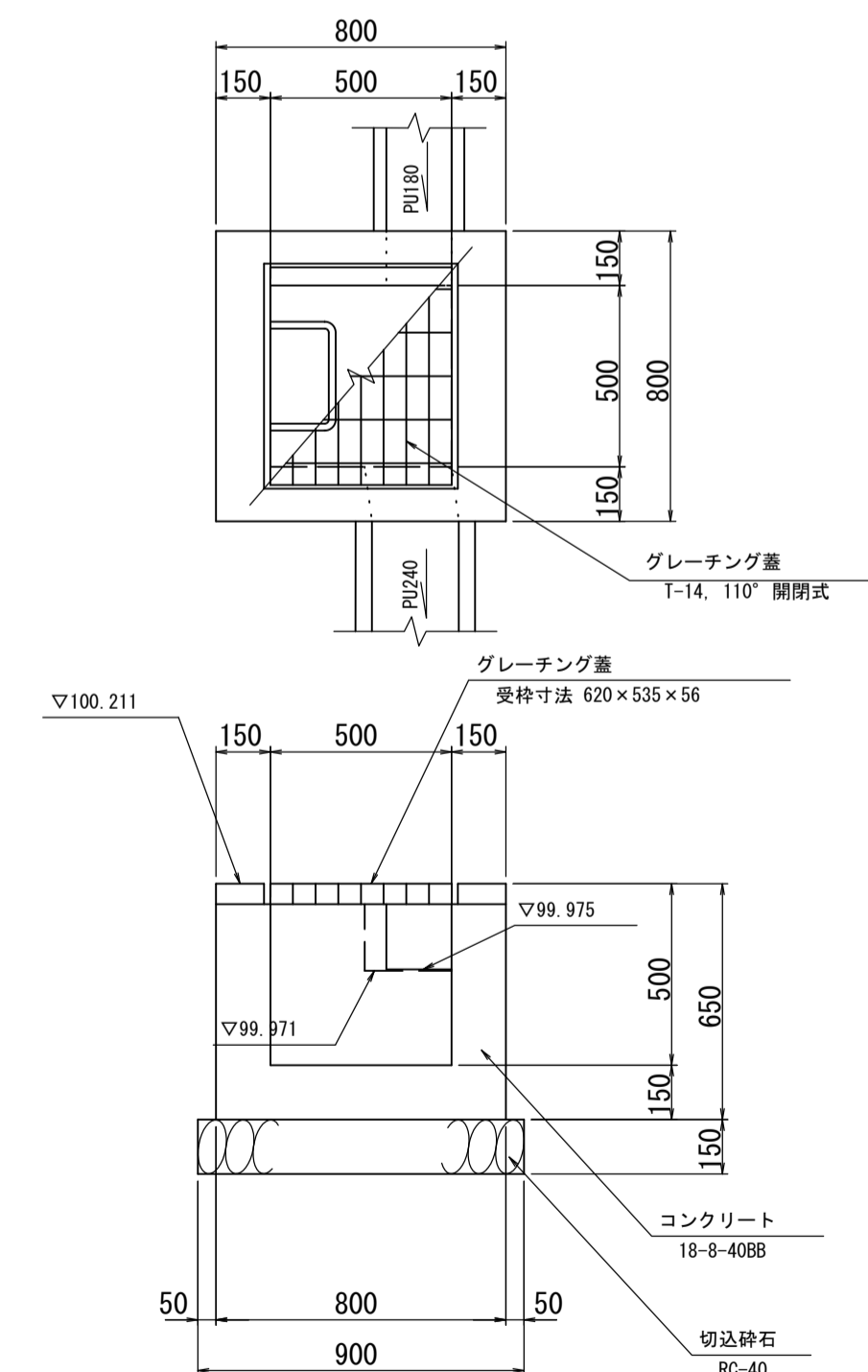
集水桝 A

S=1 : 20



集水桝 B

S=1 : 20



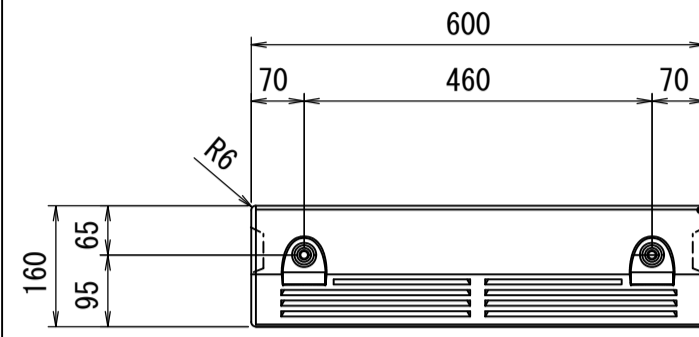
構造図 2

タイヤ止め・区画線

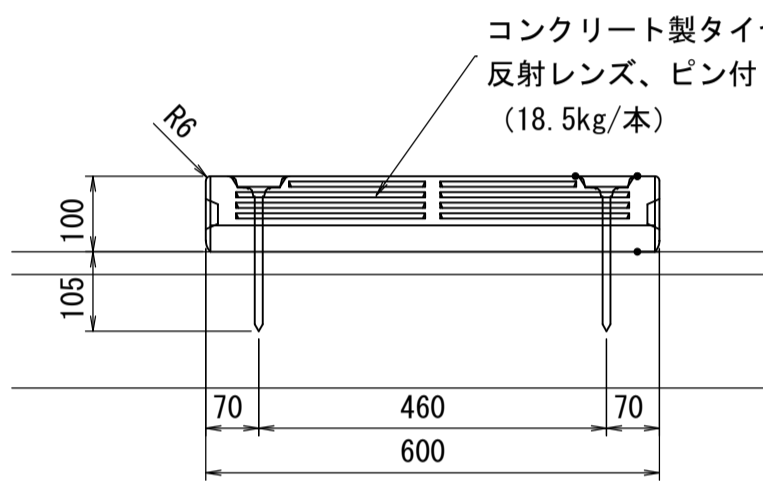
詳細図

S=1:10

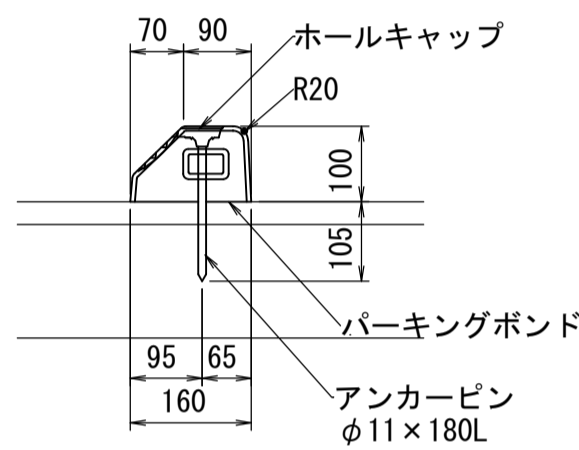
平面図



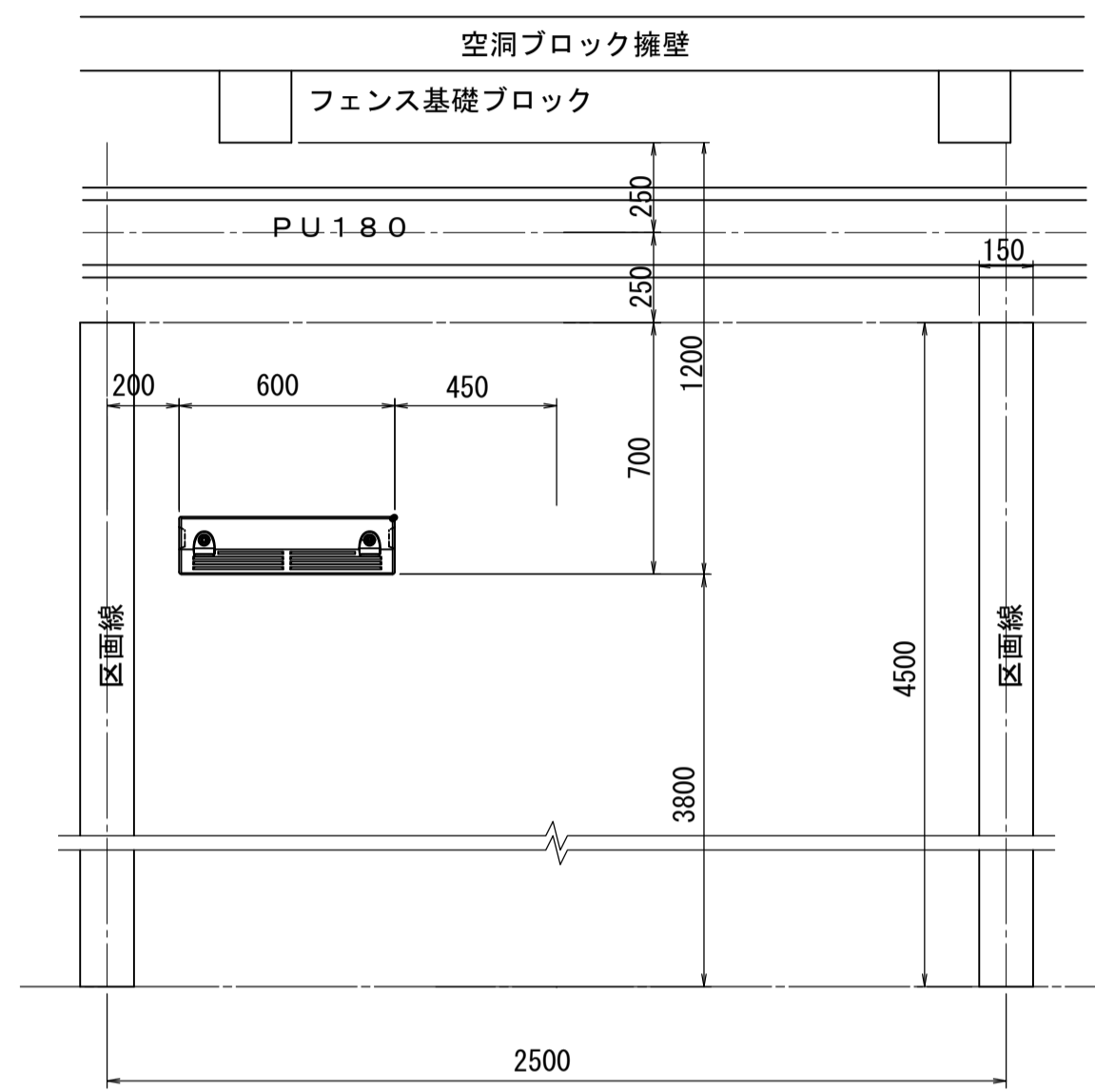
正面図



断面図



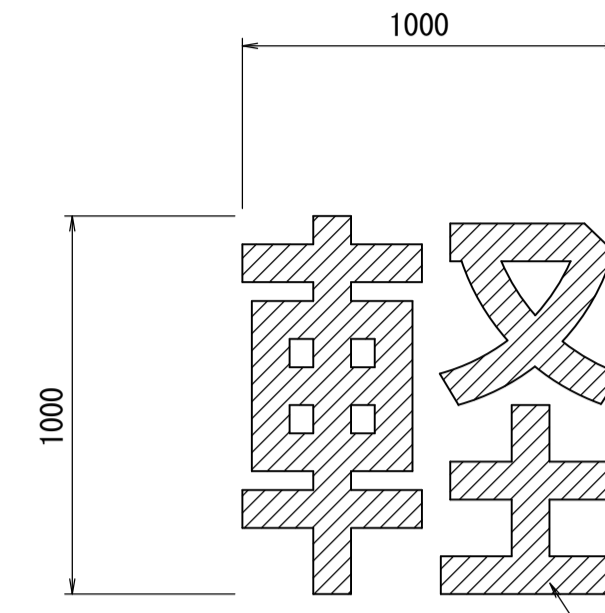
配置平面図



溶融式区画線
実線・白色
W=15cm L=4.5m/1区画

路面標示

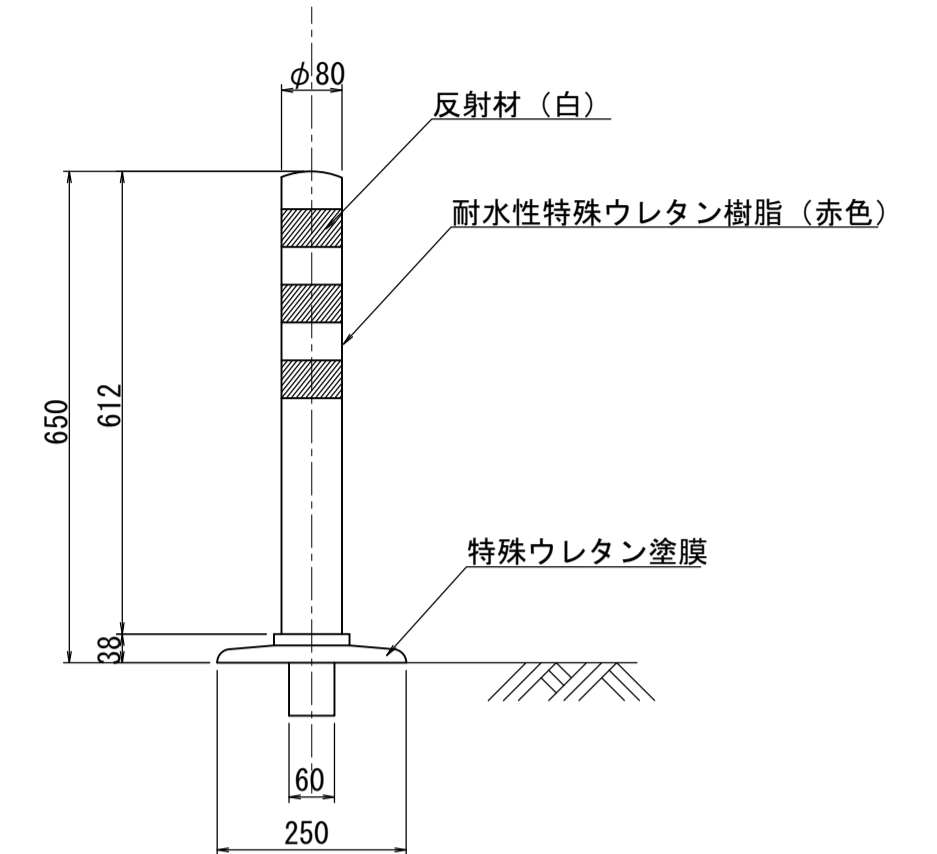
S=1:20



白線路面表示(溶融式)
面積 A=0.6m²
15cm換算長 L=4.0m

車線分離標

S=1:10

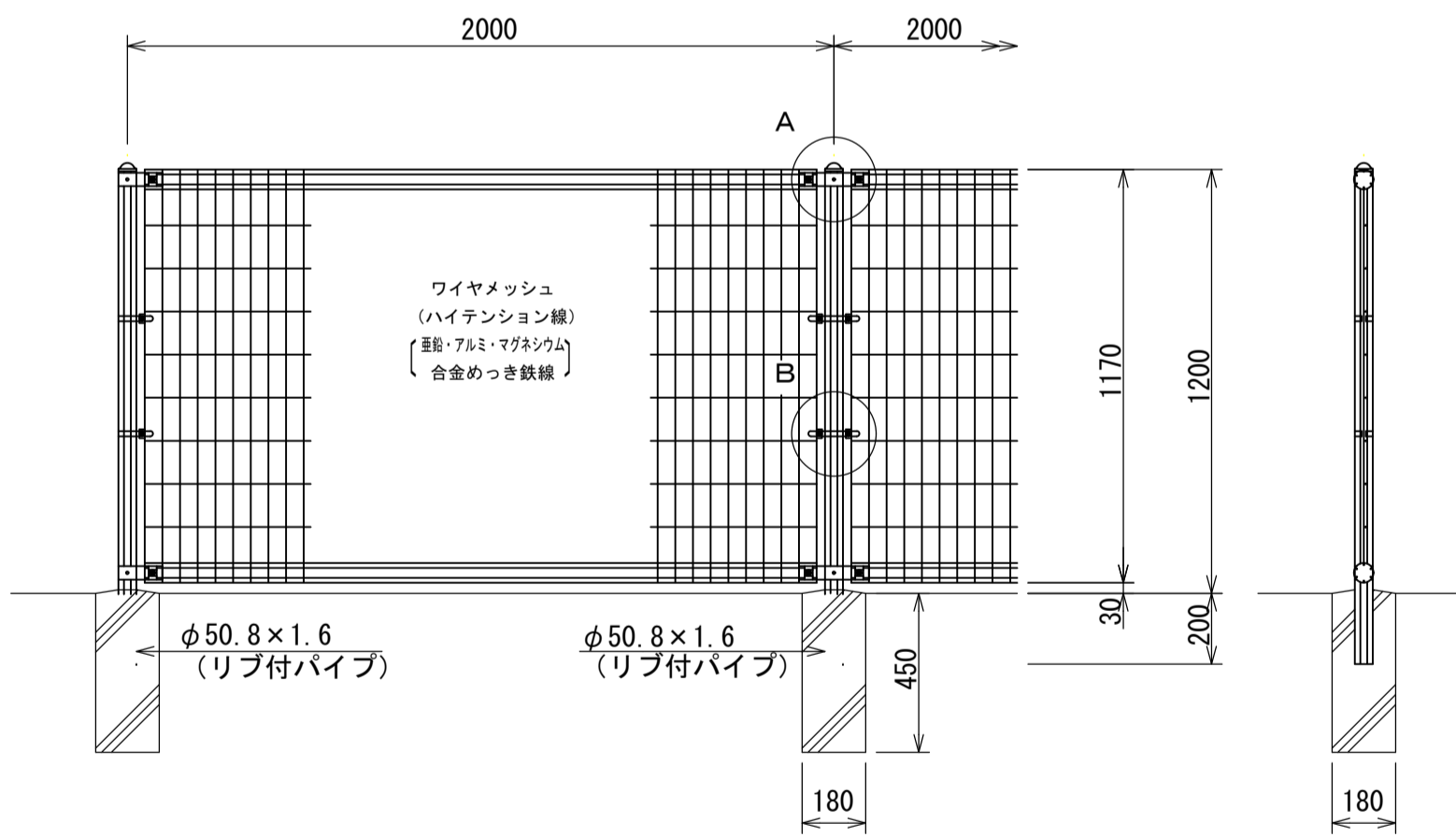


参考図

フェンス復旧詳細図 UN-A1200L-50

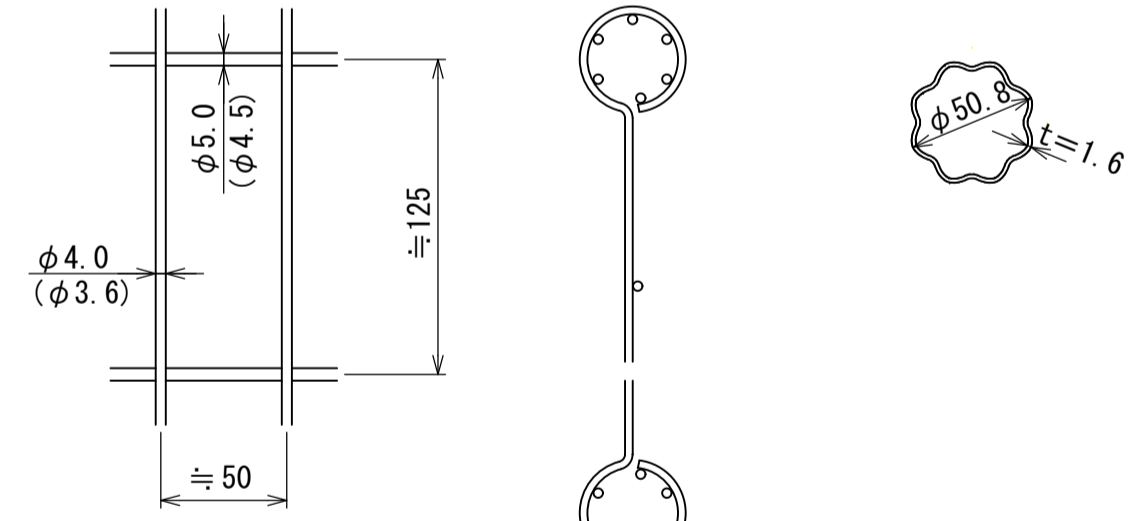
S=1:20

※ 昭和57年改正の建築基準法・同施行令に基づく風圧力 $G L + 0 m$ に依る



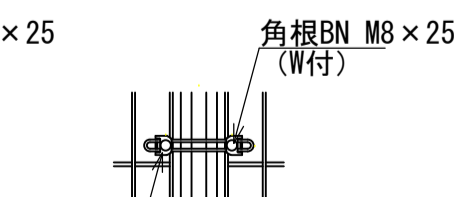
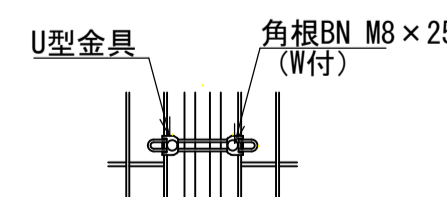
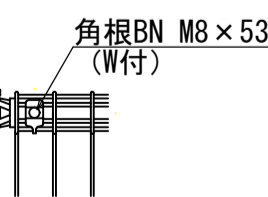
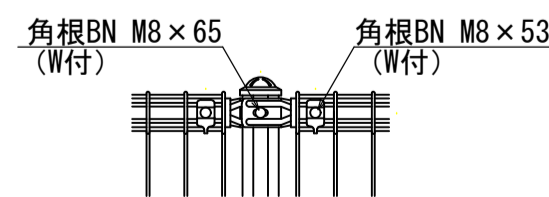
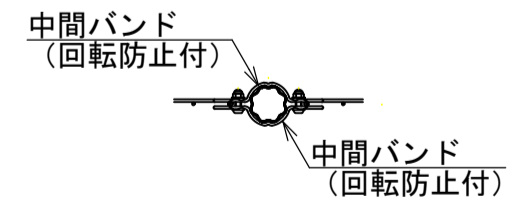
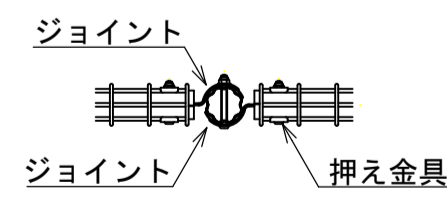
ワイヤメッシュ図
() 内は芯径を示す。

パネル断面図 リブ付パイプ断面図
S=1:3



A部取付図 S=1:10

B部取付図 S=1:5



標準的な取付図

パネルと柱のすきまがせまい場合の取付図

設計条件

設計荷重・・・昭和57年改正の建築基準法・同施行令に基づく風圧力に依る。

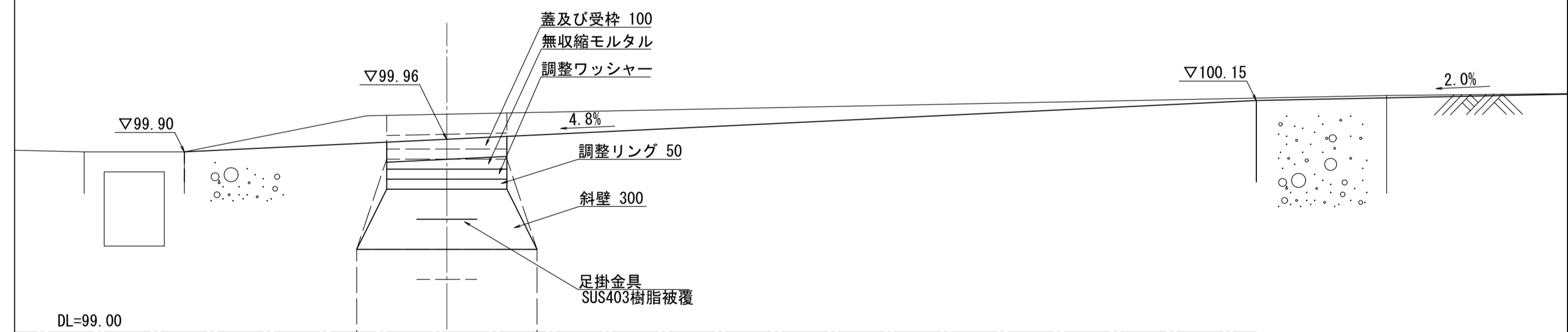
基礎条件・・・長期許容地耐力 $98 kN/m^2 (10 t/m^2)$

備考

- 1. 外装について
 - ・支柱、ジョイント・・・亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきの上高耐候性樹脂粉末塗装
 - ・ワイヤメッシュ
 - ・バンド・・・亜鉛・アルミ合金めっきの上高耐候性樹脂粉末塗装
 - ・U型金具・・・亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきの上防錆着色処理
 - ・ボルト、ナット・・・溶融亜鉛めっきの上防錆着色処理

西側駐車場入り口
汚水人孔切下げ工

S=1:20



訂正事項	

水原・芦澤設計共同体
株式会社 水原建築設計事務所
一級建築士事務所 登録番号 第63号
一級建築士登録 第21928号 北村 浩
設置業都府市長登録番号 443番地 TEL. 0749-22-1679

芦澤電一建築設計事務所
一級建築士事務所 大阪府知事登録 (ロ) 第2425号
一級建築士登録 第29819号 芦澤 電一
大阪府大阪市北区中崎西1-4 TEL. 06-6465-2017

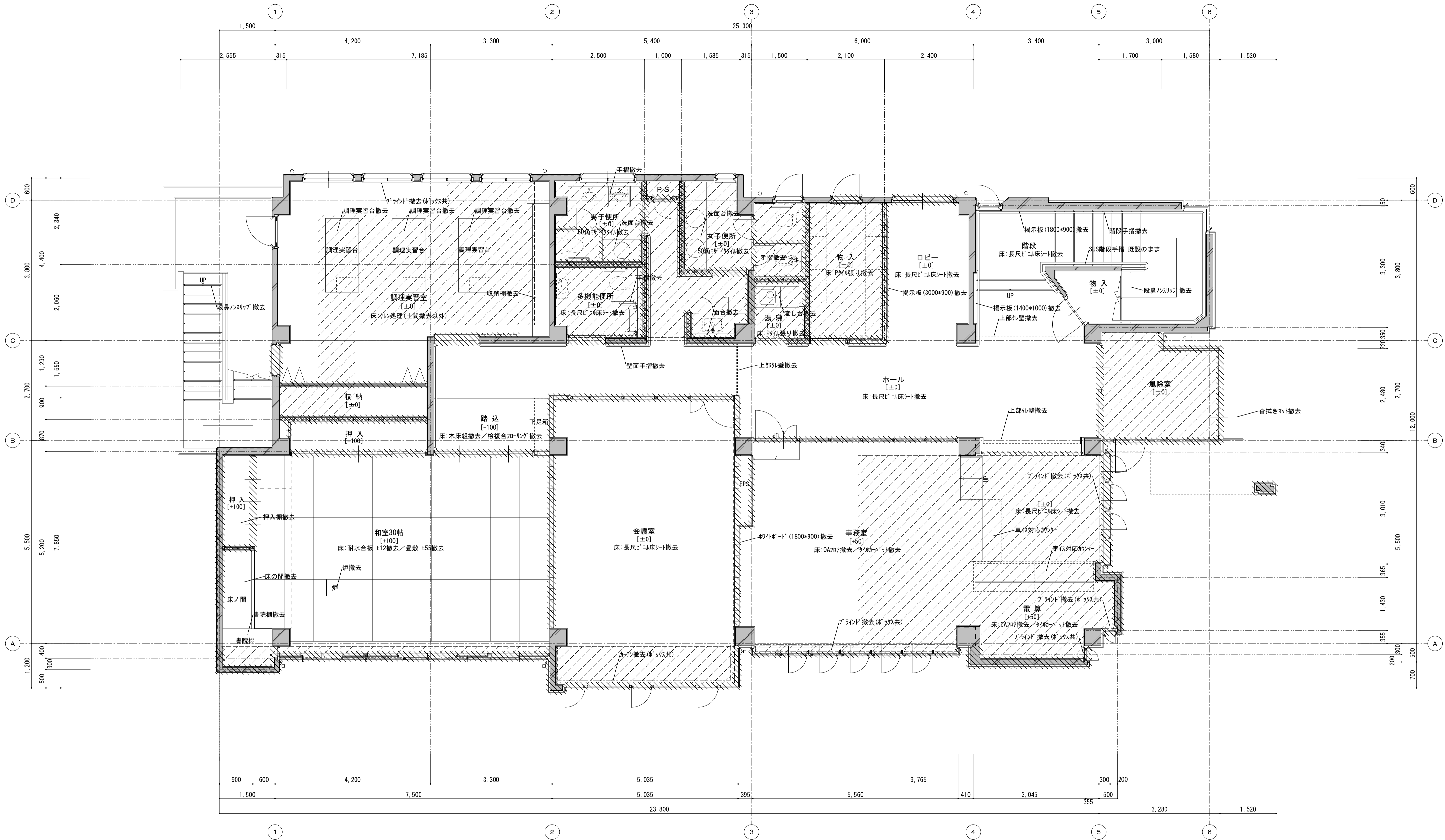
東側駐車場整備
構造図 2 参考図
DATE 2021.12 SCALE A1:1/10 1/20 A3:1/20 1/40

SHEET NO. A-512

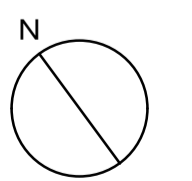
■ 凡例		材料・仕上		廻縁など		その他	
AP	アルミニウムペイント	St	鉄骨(スチール)	A	アルミ製廻縁	PR	ピクチャーレール
SOP	合成樹脂調合ペイント	SUS	ステンレス	V	塩ビ製廻縁	GR	カーテン及び吊下げカーテンレール
FE	フタル酸樹脂エナメル	AL	アルミニウム	W	木製廻縁		
VE(VP)	塩化ビニル樹脂エナメル	GIS	亜鉛鉄板	YVB	横型ブラインド及びボックス		
NAD	アクリル樹脂系非水分散形塗料	Zn	溶融亜鉛メッキ処理	TVB	縦型ブラインド及びボックス		
AE	アクリル樹脂エナメル	GB-R	石膏ボード	RB	ロールブラインド及びボックス		
A-BE	アクリルエナメル(焼付)	GB-P	化粧石膏吸音ボード	ERB	電動ロールブラインド及びボックス		
2-UE	2液形ポリウレタン樹脂エナメル	GB-D (T)	化粧石膏ボード(トラバーチン模様)	CB	カーテン及びボックス		
2-ASE	アクリルシリコン樹脂エナメル	GB-D (W)	化粧石膏ボード(木目模様)				
2-FUE	常温乾燥形フッ素樹脂エナメル	GB-S	シーリング石膏ボード				
XE	エポキシエポキシ樹脂エナメル(焼付)	GB-F	強化石膏ボード				
TXE	タールエポキシ樹脂塗料	GB-F (N)	強化石膏ボード(ガラス網入り)				
EP-G	つや有合成樹脂エマルジョンペイント	GB-N	不燃積層石膏ボード				
EP	合成樹脂エマルジョンペイント	GB-R-H	吸放湿石膏ボード(押入ボード)				
CL	クリアラッカー	FK	ケイ酸カルシウム板				
1-UC	1液形ポリウレタンニス	DR	岩綿吸音板				
2-UC	2液形ポリウレタンニス	LGS	軽量鉄骨				
AC	アクリル樹脂ニス	RC	鉄筋コンクリート				
WX	ワックス	ALC	軽量気泡コンクリート				
OS	オイルステン、アンコール溶性着色材	CB	コンクリートブロック				
EP-M	多彩模様塗料	MO	モルタル				
EP-T	合成樹脂エマルジョン模様塗料	PC	プレキャストコンクリート				
WP	木材保護塗料	W	木				
UV	UVセラミック塗装(減摩材入り)	PL	プレート				
EP-AB	吹付水性高機能環境配慮型塗料	C.PL	チェッカープレート				
U-AB	ウレタン樹脂焼付塗装	D.PL	デッキプレート				
DP	鋼構造物用耐候性塗料(フッ素系)	FB	フラットバー				
EP-Si	1液水系汚染除去性特殊シリコン樹脂塗装	HL	ヘアライン				
		BF	鏡面仕上				
		JP	ジェットバーナー仕上				
		J工法	ジョイントレス工法				
		ECP	押出中空セメント板				
		GW	グラスウール 24k				

既設撤去 外部仕上表		凡例	
区分	部 位	仕 様	凡例 【撤】:撤去 【既設】:既設のまま 【高洗】:高圧洗浄 【ケル】:ケル処理
既設撤去	屋根1(屋上 2FLバ)M	7mm防水【既設】+押入付t60【既設】+防水MO【既設】 +改修シート防水【既設】(立上り部は撤去)	<p>特記事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 外壁1(吹付タ)Mは7mm防水含有のため、関係法令等に基づき専門業者が所定の方法で解体撤去し、適切に処分すること。 既設Pタ、ケル板は7mm防水含有成型板とし、関係法令等に基づき専門業者が所定の方法で解体撤去し、適切に処分すること。 床仕上(長尺ビニルシート類)及び壁仕上(ビニル類)のみの撤去部分の下地もケル処理とする 撤去等範囲については既設撤去図参照のこと 撤去等については改修後意匠図も参照のうえ、監督員と十分協議の上施工のこと 仕上・躯体撤去に際し、既存取合い部は全てカットを行うこと。 躯体撤去部で既存鉄筋露出部は防錆塗装を行うこと。 給排水管、空調・換気ダクトは建築工事にて一括撤去とする。 シート防水残し部分で防水層にふくれ、浮きなどの不良部分がある場合は撤去すること。 シート防水改修部は下地調整材を用いて平滑にすること。
	屋根2(屋上 2FLバ)M	均しMO【撤】/7mm防水【撤】/改修シート防水【撤】	
	屋根3(屋上 2FLバ)M	均しMO防水【高洗】	
	屋根4(屋上 2FLバ)M	改修シート防水【既設】(立上り部は撤去)	
	屋根5(屋上 2FLバ)M	均しMO防水【高洗】	
	屋根(玄関庇)	改修シート防水【撤】	
	笠木	7mm製笠木取り外し・再取付【一部撤】	
	軒天1(和室廻り)	LGS【撤】/FK t8 底地張 7mm吹付【撤】	
	軒天2(玄関軒)	RC【撤】/下地調整の上石目調吹付【撤】	
	外壁1	RC/下地調整の上吹付【高洗】	
	外壁2	RC/下地調整の上石目調吹付【高洗】	
巾木	カット打放し仕上【高洗】		
樋	VPφ100 VP塗【撤】		
建具	7mm製建具【一部撤】		

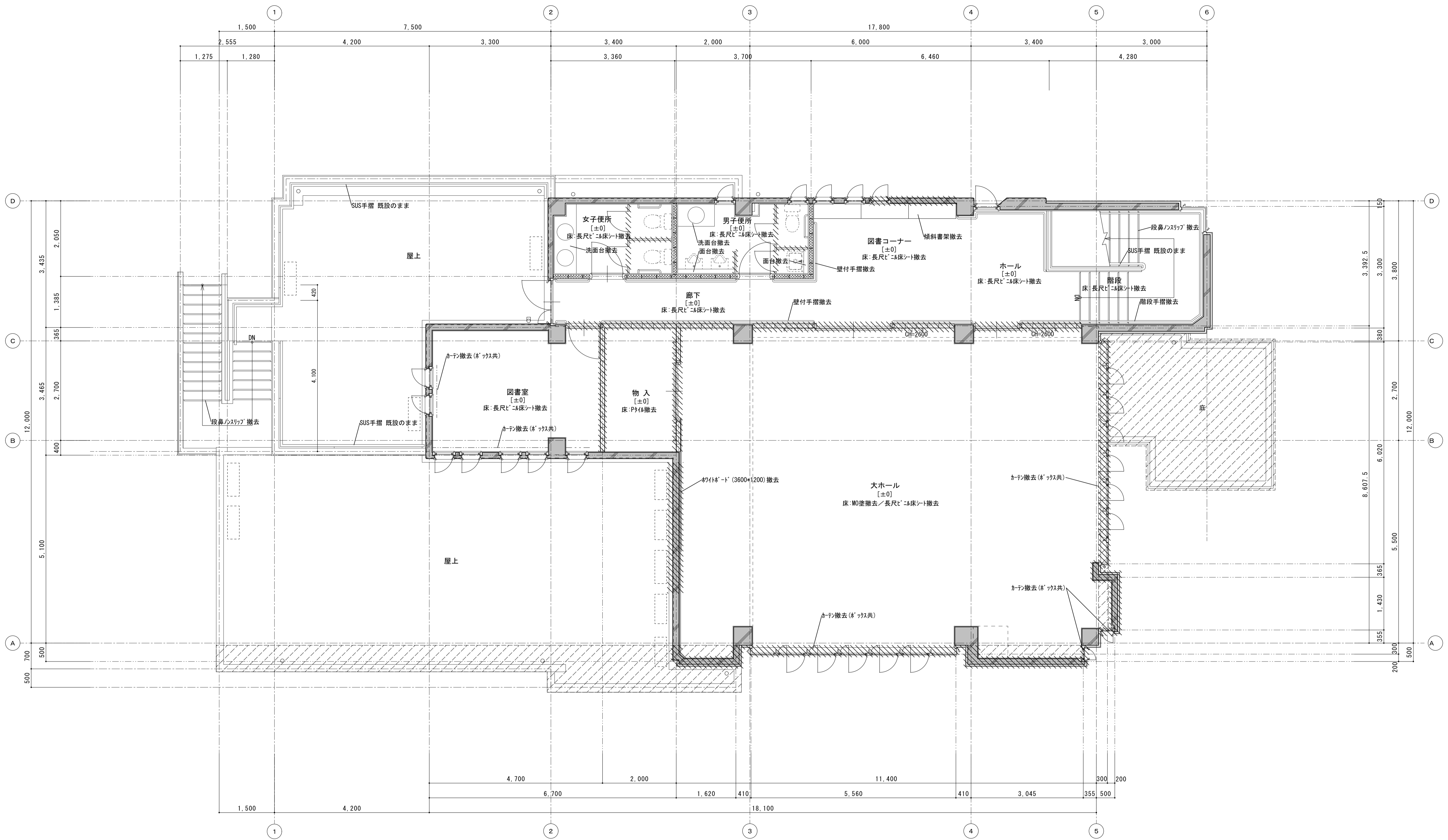
既設撤去 内部仕上表									
階	室名	部位		床	巾木	壁・柱型	天井・梁型	廻縁 など	備考
		天井高	仕上高						
1	風除室1	2.400	±0	MO塗【撤】/150角磁器質タタ張り【撤】	-	MO塗/石目調吹付仕上	RC【撤】/石目調吹付仕上【撤】		掲示板【撤】
		±0	-50	視覚障害者用床材【撤】					
1	ホール ロビー 廊下	2.600	±0	MO塗/長尺ビニルシート張【撤】	ワ巾木 H=100【撤】	MO塗/ビニルシート張【撤】	LGS【撤】/GB-R t9.5+DR t9.0【撤】	W【撤】	廊下手摺【撤】 掲示板【撤】
		±0	-30	視覚障害者用床材【撤】					
		-	-	視覚障害者用床材【撤】					
1	階段	-	-	MO塗/長尺ビニルシート張【撤】	ワ巾木 階段用【撤】	MO塗/ビニルシート張【撤】	LGS【撤】/GB-R t9.5+DR t9.0【撤】	A【撤】	樹脂階段手摺【撤】 中央SUS階段手摺【既設】 掲示板【撤】
		-	-	段鼻ノスリッ金物【撤】					
		-	-	視覚障害者用床材【撤】					
1	事務室 電算	2.550	+50	7mm防水【既設】/タタ張り【撤】	ワ巾木 H=100【撤】	MO塗/ビニルシート張【撤】	LGS【撤】/GB-R t9.5+DR t9.0【撤】	W【撤】	掲示板【撤】 約付ボード【撤】
		±0	-30	一部土間コンクリート(有筋)【撤】					
		±0	-30						
1	会議室	2.600	±0	MO塗/長尺ビニルシート張【撤】	ワ巾木 H=100【撤】	MO塗/ビニルシート張【撤】	LGS【撤】/GB-R t12.5【撤】/ビニルシート張【撤】	W【撤】	カーテン【撤】 カーテンレール【撤】
		±0	-30						
		-30	-30						
1	調理実習室	2.400-2.630	±0	MO塗/塗床ノスリッ【ケル】	ワ巾木 H=100【撤】	MO塗/VP塗【ケル】	LGS【撤】/FK t6.0 VP塗装【撤】	W【撤】	調理台【撤】 収納棚【撤】
		±0	-30	MO塗/長尺ビニルシート張【撤】					
		-30	-30						
1	踏込み	2.500	+100	木床組【撤】/桧複合フローリング t15【撤】	雑巾摺【撤】	MO塗/ビニルシート張【撤】	LGS【撤】/GB-R t9.5+DR t9.0【撤】	W【撤】	下足箱【撤】
		±0	-30						
		-30	-30						
1	和室30帖	2.420-2.600	+100	7mm防水【既設】/耐水合板 t12【撤】	畳寄せ【撤】	MO塗/ビニルシート張【撤】	LGS【撤】/GB-R t9.5【撤】	W【撤】	電気炉【撤】 障子【撤】
		±0	-30	/畳敷 t55【撤】					
		-30	-30						
1	床の間	2.300	+220	木床組【撤】/タタ張り合板 t15【撤】	雑巾摺【撤】	MO塗/ビニルシート張【撤】	LGS【撤】/GB-R t12.5【撤】/ビニルシート張【撤】	W【撤】	
		±0	-30						
		-30	-30						
1	押入	2.150	+100	木床組【撤】/耐水合板 t12【撤】	雑巾摺【撤】	耐水合板 t4.0【撤】	LGS【撤】/耐水合板 t2.5【撤】	W【撤】	中段【撤】
		±0	-30						
		-30	-30						
1	湯沸室	2.500	±0	MO塗/VP塗【撤】	ワ巾木 H=100【撤】	MO塗/VP塗【ケル】	LGS【撤】/GB-R t9.5【撤】	W【撤】	流し台【撤】
		±0	-30	一部MO塗/100角タタ張り【撤】					
		-30	-30						
1	物入	2.500	±0	MO塗/VP塗【撤】	MO塗/VP塗【ケル】	MO塗/VP塗【ケル】	LGS【撤】/GB-R t9.5【撤】	W【撤】	
		±0	-30						
		-30	-30						
1	男子便所 女子便所	2.500	±0	MO塗【撤】/50角タタ張り【撤】	-	MO塗【撤】/100角タタ張り【撤】	LGS【撤】/FK t6.0 EP塗【撤】	A【撤】	
		±0	-30						
		-30	-30						
1	階段下物入	-	±0	MO塗/防塵塗装【ケル】	-	MO塗/VP塗【ケル】	RC打放し	W【撤】	
		±0	-30						
		-30	-30						
1	多機能便所	2.500	±0	MO塗/長尺ビニルシート張【撤】	-	MO塗【撤】/100角タタ張り【撤】	LGS【撤】/FK t6.0 EP塗【撤】	A【撤】	
		±0	-30						
		-30	-30						
2	階段	2.600	±0	MO塗/長尺ビニルシート張【撤】	ワ巾木 階段用【撤】	MO塗/ビニルシート張【撤】	LGS【撤】/GB-R t9.5+DR t9.0【撤】	A【撤】	階段手摺【撤】
		±0	-30	段鼻ノスリッ【撤】					
		-30	-30						
2	廊下	2.600	±0	MO塗/長尺ビニルシート張【撤】	ワ巾木 H=100【撤】	MO塗/ビニルシート張【撤】	LGS【撤】/GB-R t9.5+DR t9.0【撤】	W【撤】	廊下手摺【撤】 傾斜書架【撤】
		±0	-30						
		-30	-30						
2	大ホール	3.000	±0	MO塗【撤】/長尺ビニルシート張【撤】	ワ巾木 H=100【撤】	MO塗/ビニルシート張【撤】	LGS【撤】/GB-R t9.5+DR(R) t12.0【撤】	W【撤】	暗幕【撤】 カーテン【撤】 カーテンレール【撤】 約付ボード【撤】
		±0	-30						
		-30	-30						
2	図書室	2.600	±0	MO塗/長尺ビニルシート張【撤】	ワ巾木 H=100【撤】	MO塗/ビニルシート張【撤】	LGS【撤】/GB-R t12.5【撤】/ビニルシート張【撤】	W【撤】	カーテン【撤】 カーテンレール【撤】
		±0	-30						
		-30	-30						
2	物入	2.500	±0	MO塗/VP塗【撤】	MO塗/VP塗【ケル】	MO塗/VP塗【ケル】	LGS【撤】/GB-R t9.5【撤】	W【撤】	
		±0	-30						
		-30	-30						
2	男子便所 女子便所	2.500	±0	MO塗/長尺ビニルシート張【撤】	-	MO塗【撤】/100角タタ張り【撤】	LGS【撤】/FK t6.0 EP塗【撤】	A【撤】	
		±0	-30						
		-30	-30						



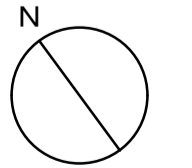
■ 凡例	
	鉄筋コンクリート壁・柱を示す
	コンクリートブロック壁を示す
	軽重鉄骨間仕切壁を示す
	壁・柱等撤去範囲 仕上・躯体の既設取り合い部はカットを原則とする
	土間コンクリート撤去範囲(t120 有筋) 端部カット
	切断部の鉄筋処理: 鉄筋切断の上鎖止め塗装



訂正事項		水原・芦澤設計共同 株式会社 水原建築設計事務所 <small>一級建築士事務所 登録番号 第63号 一級建築士登録 第21928号 北村 浩 設置業都府市長官報第443番地 TEL. 0749-22-1679</small>	<small>芦澤電一建築設計事務所 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (ロ) 第2425号 一級建築士登録 第29819号 芦澤 電一 大阪府大阪市北区中崎西1-4 TEL. 06-6465-2017</small>	北部図書機能・コミュニティ機能整備工事	既設撤去 1階平面図	SHEET NO.
					DATE	SCALE
					2021.12	A1:1/50 A3:1/100



■ 凡例	
	鉄筋コンクリート壁・柱を示す
	コンクリートブロック壁を示す
	軽金属骨間仕切壁を示す
	壁・家具等撤去範囲 仕上・躯体の既設取り合い部は切り切を原則とする
	スラブコンクリート撤去範囲(120有筋) 端部切り切
	切断部の鉄筋処理: 鉄筋切断の上錆止め塗装



訂正事項	

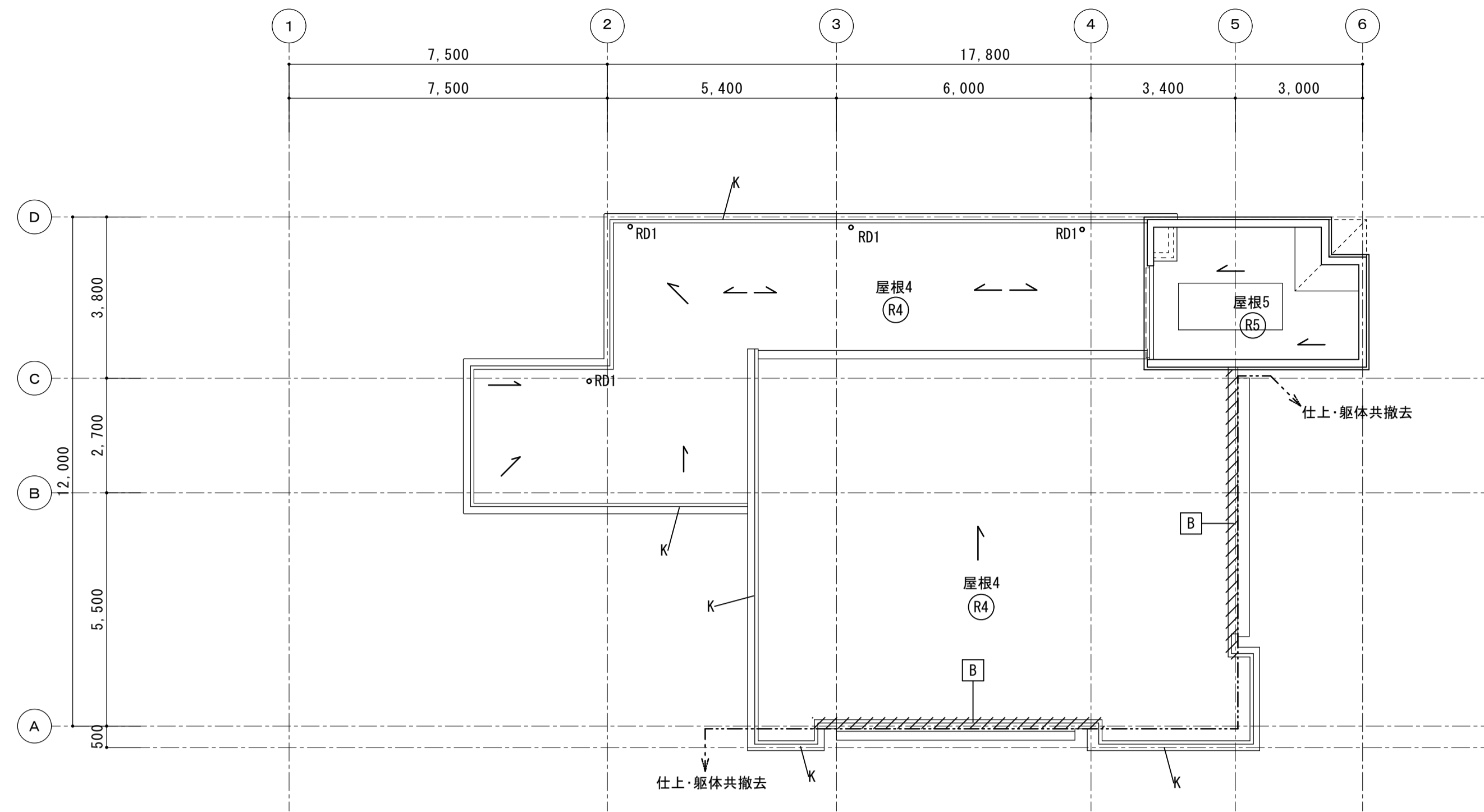
水原・芦澤設計 共同

株式会社 水原建築設計事務所
一級建築士事務所 滋賀県知事登録 第83号
 一級建築士登録 第21928号 北村 浩
 滋賀県彦根市長巻橋南町44番地 TEL. 0749-22-1679

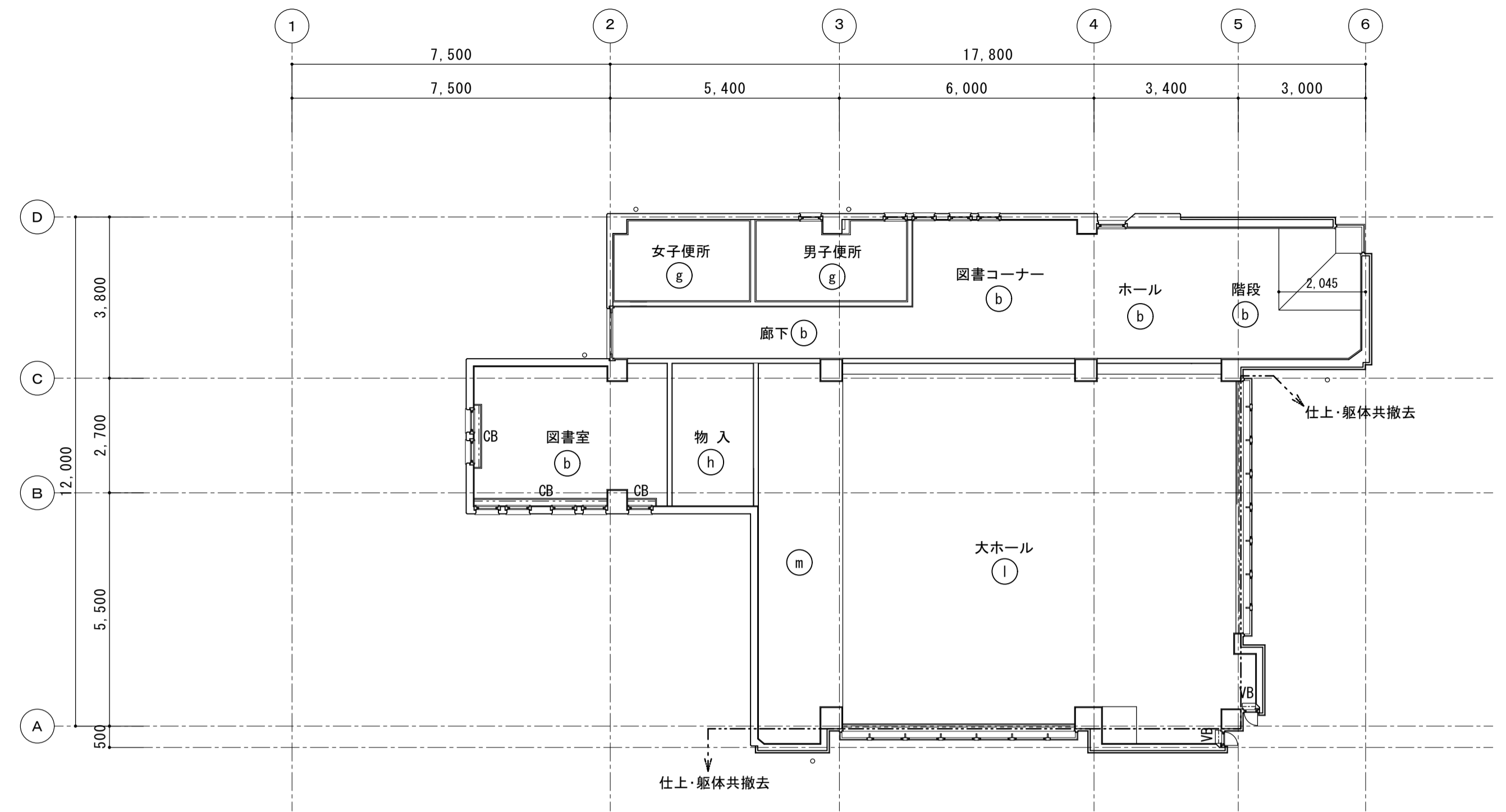
芦澤電一建築設計事務所
一級建築士事務所 大阪府知事登録 (ロ) 第2425号
 一級建築士登録 第29819号 芦澤 電一
 大阪府大阪市北区中崎西1-4 TEL. 06-6465-2017

北部図書機能・コミュニティ機能整備工事

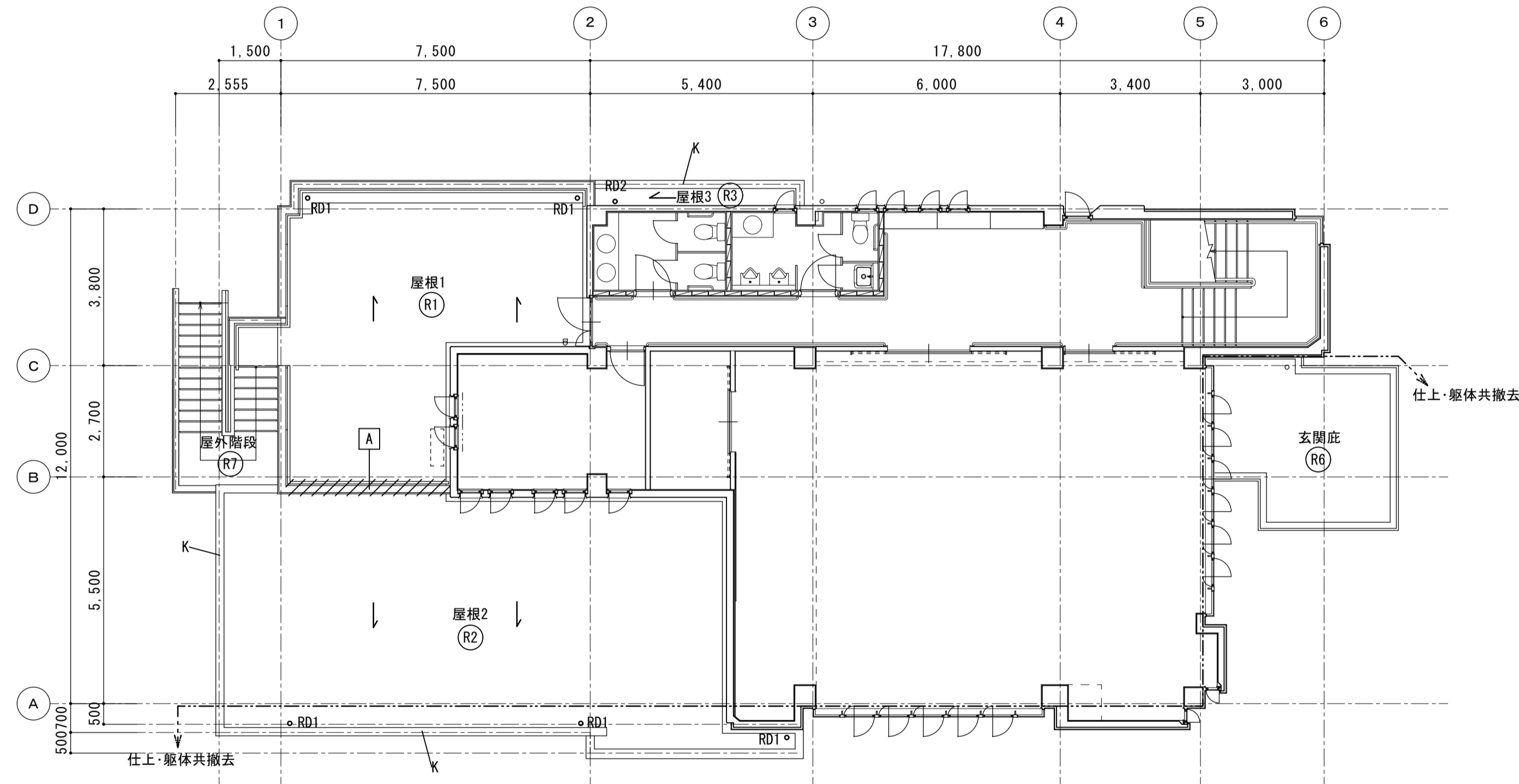
既設撤去 2階平面図		SHEET NO.
		A-603
DATE	SCALE	
2021.12	A1:1/50 A3:1/100	



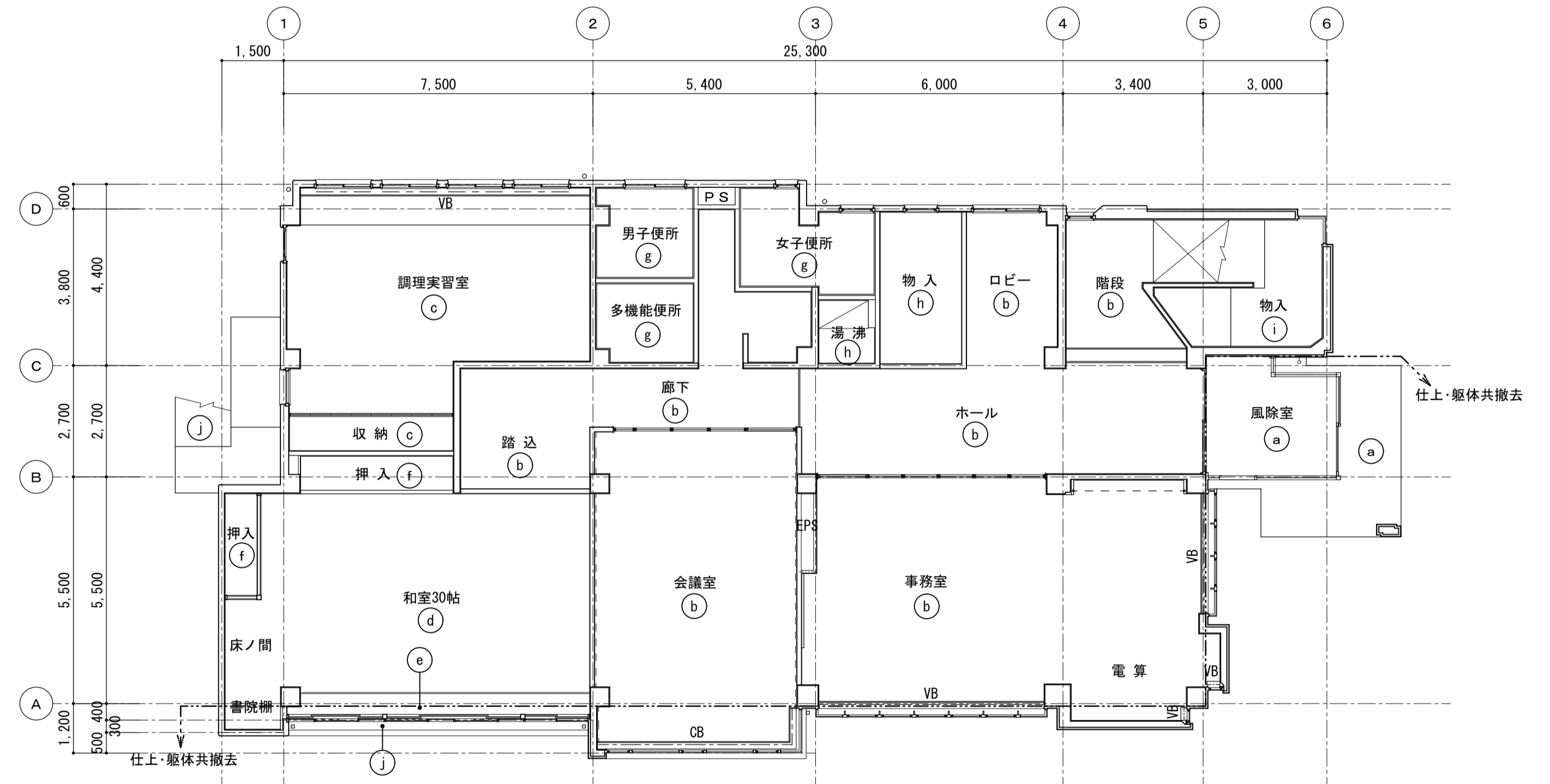
R階屋根伏図



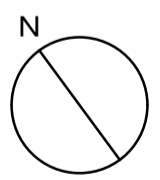
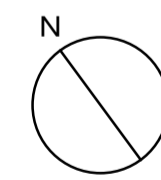
2階天井伏図



2階屋根伏図

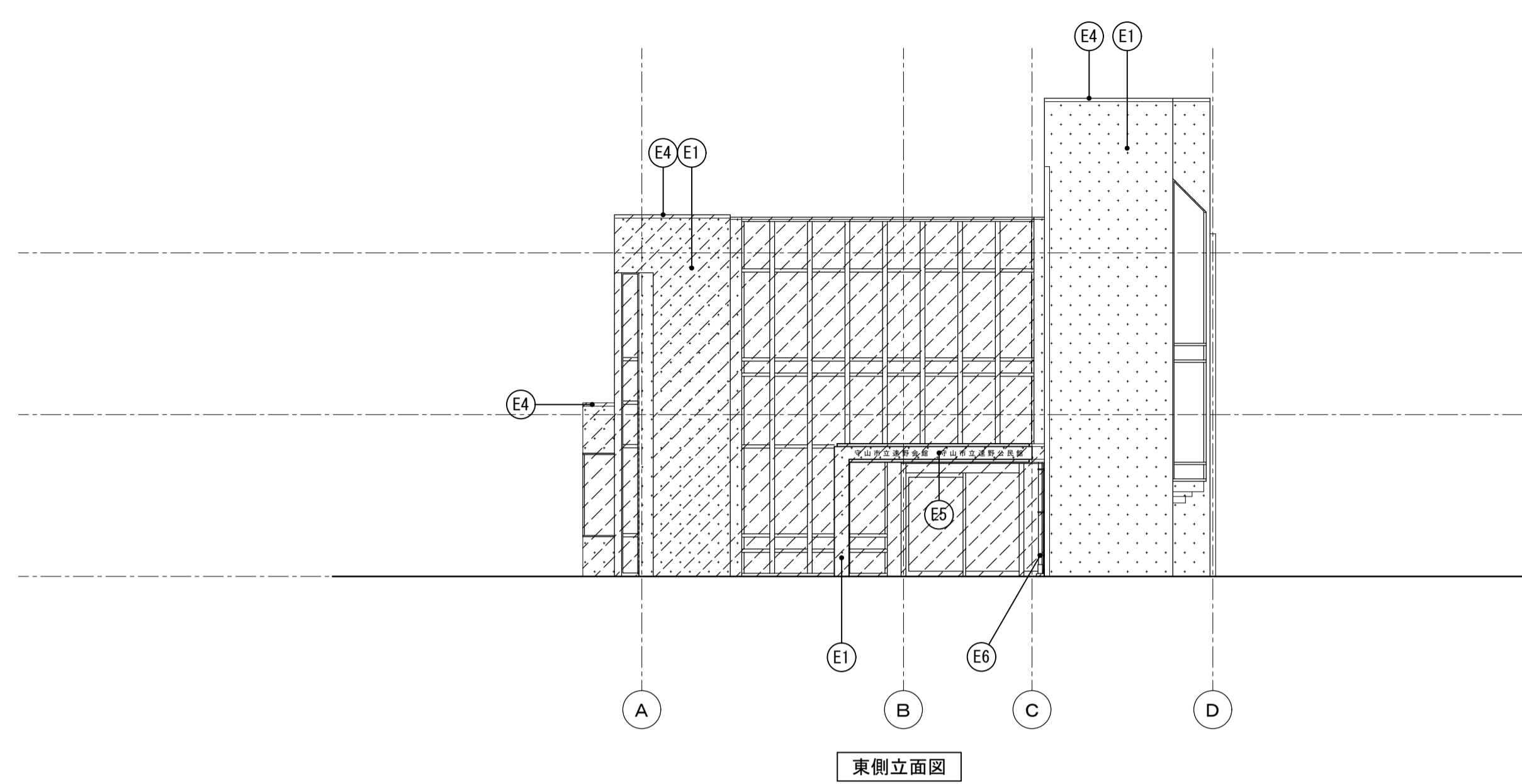


1階天井伏図

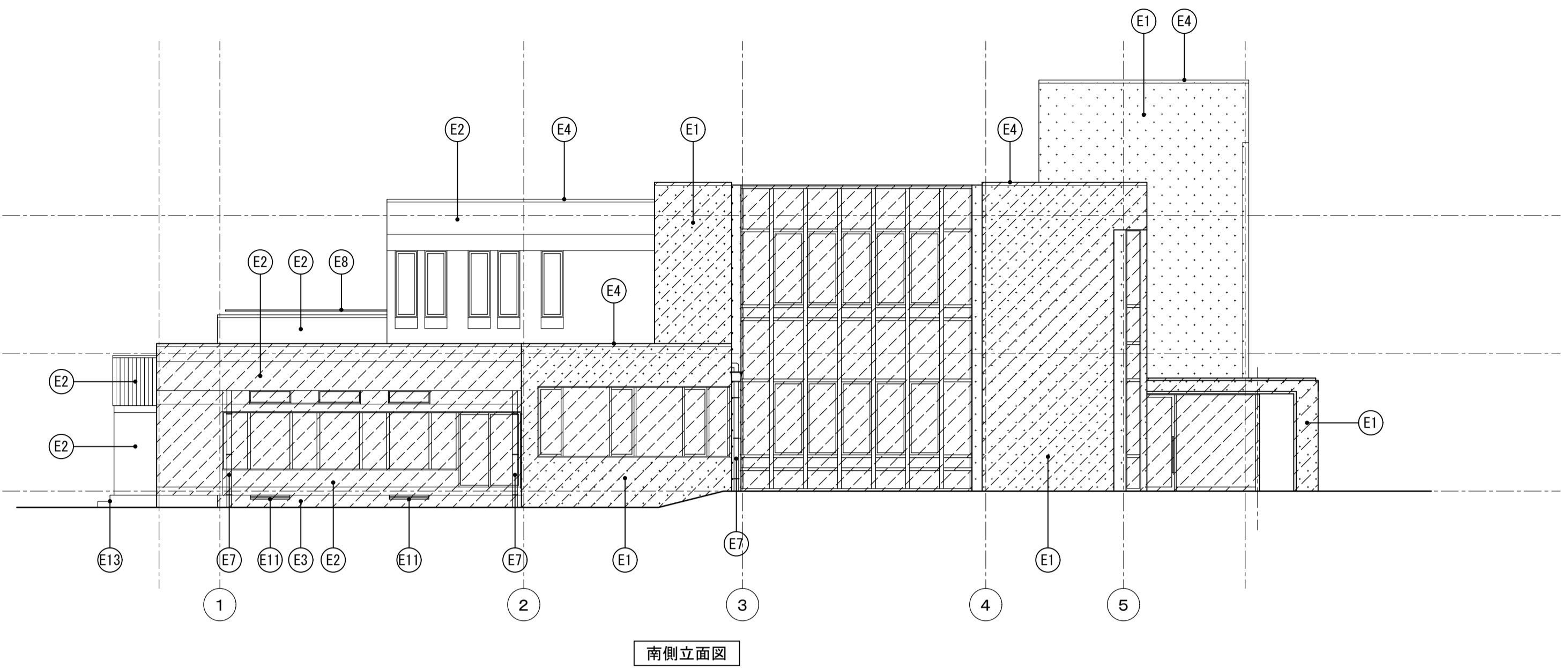


(R1)	アスファルト防水+押コンクリートt60+防水M0+改修シート防水 既設残し(立上り部のみ撤去)	RD1	改修フドレン 撤去
(R2)	均しM0 撤去/アスファルト防水 撤去/改修シート防水 撤去	RD2	改修フドレン 既設のまま
(R3)	ケレン塗膜防水 高圧洗浄	K	7mm笠木(既製品)取り外し・再取付
(R4)	改修シート防水 既設残し(立上り部のみ撤去)	A	RC壁立上り壁(有筋)撤去
(R5)	ケレン塗膜防水 高圧洗浄	B	ハバコ立上り(有筋)撤去
(R6)	改修シート防水 撤去		
(R7)	ケレン塗膜防水 高圧洗浄(段鼻ノスリッパ 撤去)		

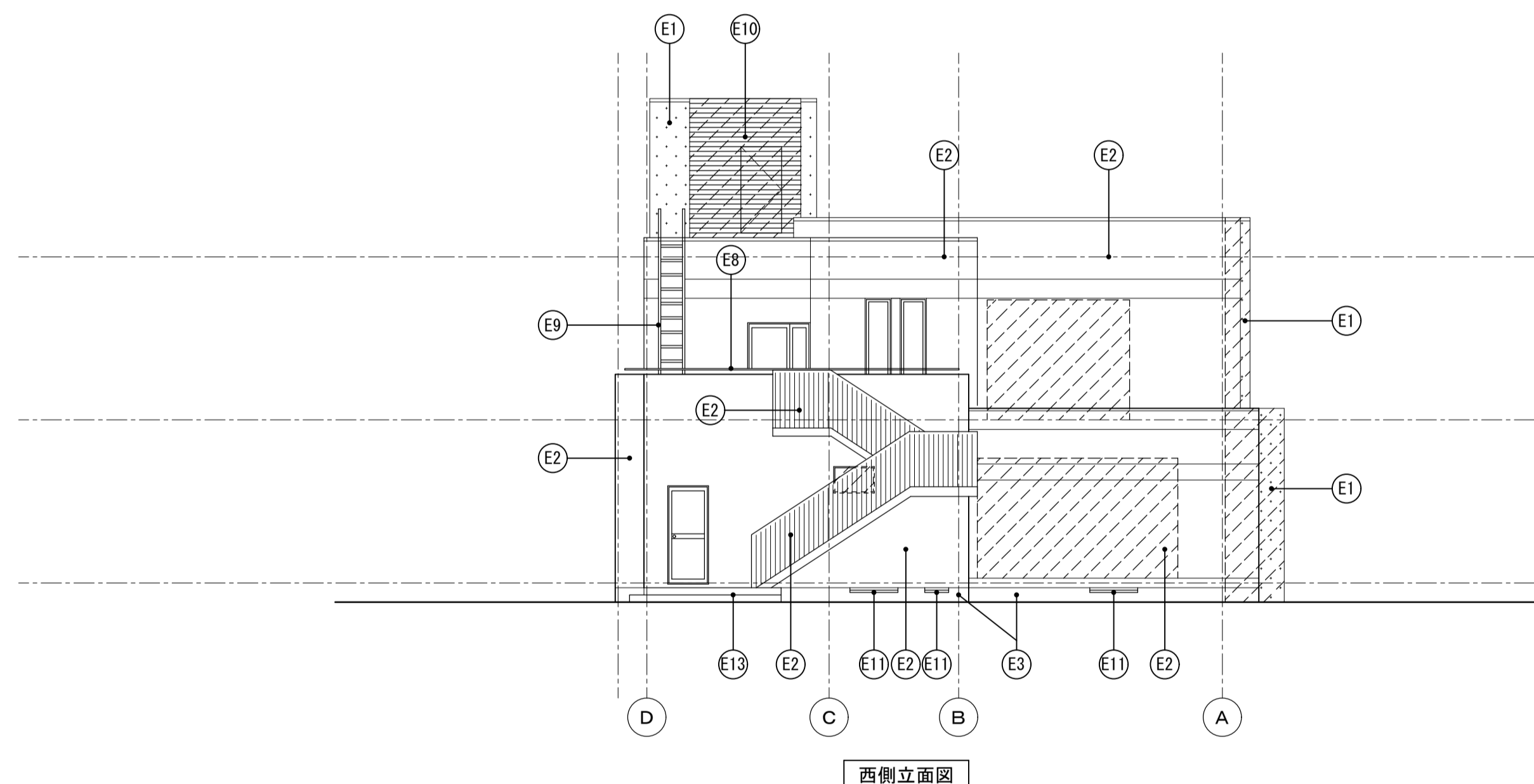
(a)	RC 撤去/石目調吹付 撤去	(i)	RC打放し ケン処理
(b)	LGS 撤去/GB-R t9.5+DR t9 撤去	(j)	RC打放し 吹付タイル 水洗い
(c)	LGS 撤去/FK t6.0 VP塗 撤去	(k)	LGS 撤去/FK t6.0 7mm巾引付 撤去
(d)	LGS 撤去/GB-D(M) t9.5 撤去	(l)	LGS 撤去/GB-R t9.5+DR(R) t12 撤去
(e)	RC 撤去/ビニルクロス張 撤去	(m)	LGS 撤去/GB-R t9.5+ビニルクロス張 撤去
(f)	LGS 撤去/ラワン合板 t2.5 撤去		
(g)	LGS 撤去/FK t6.0 EP塗 撤去	CB	カーテン及びカーテンボックス撤去
(h)	LGS 撤去/GB-D(T) t9.5 撤去	VB	ブラインド及びブラインドボックス撤去



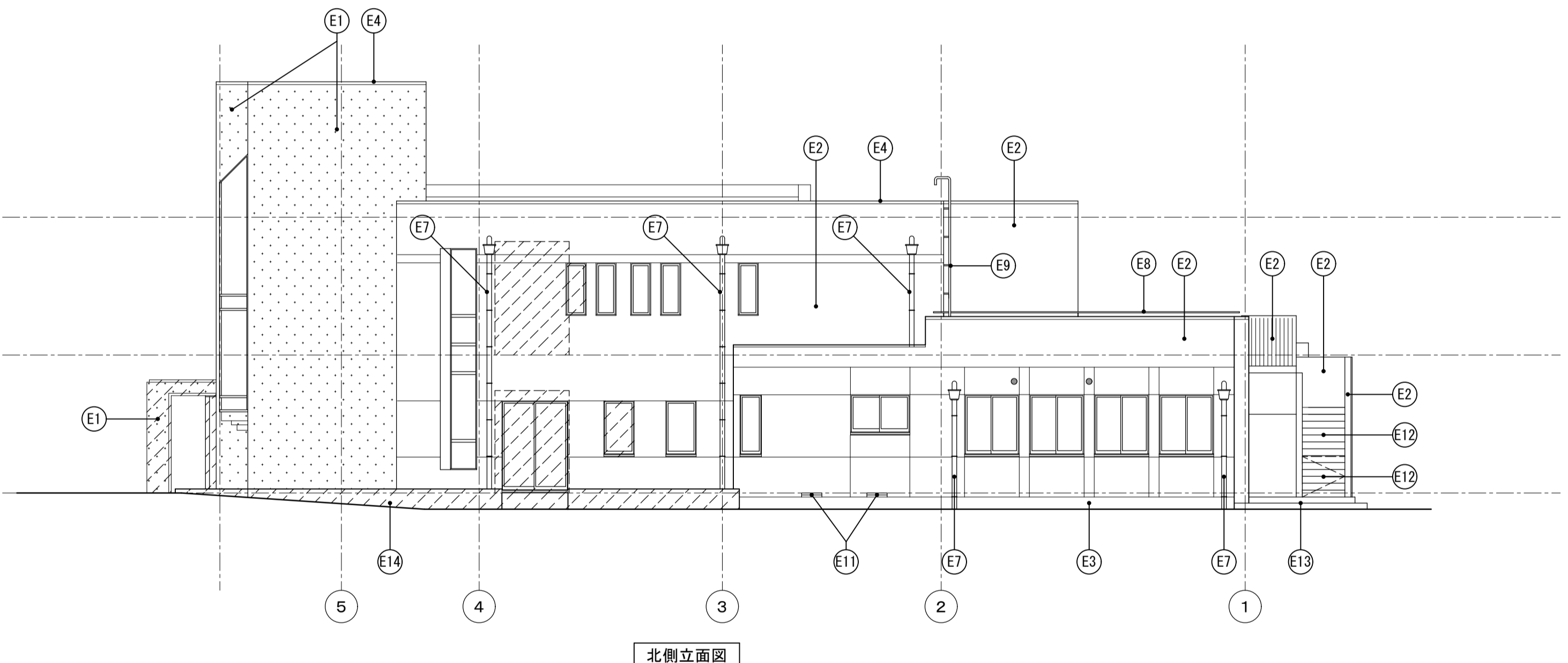
東側立面図



南側立面図



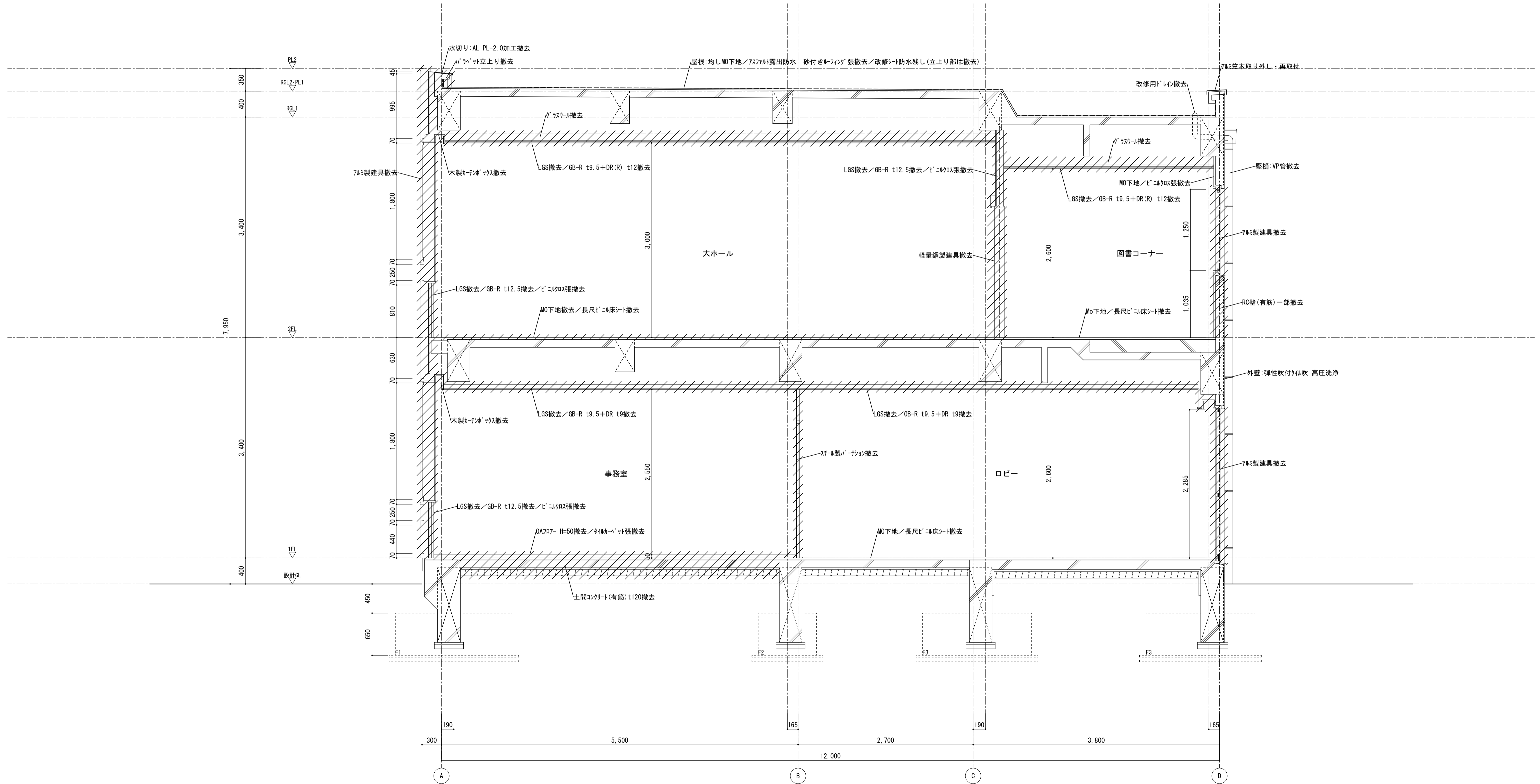
西側立面図



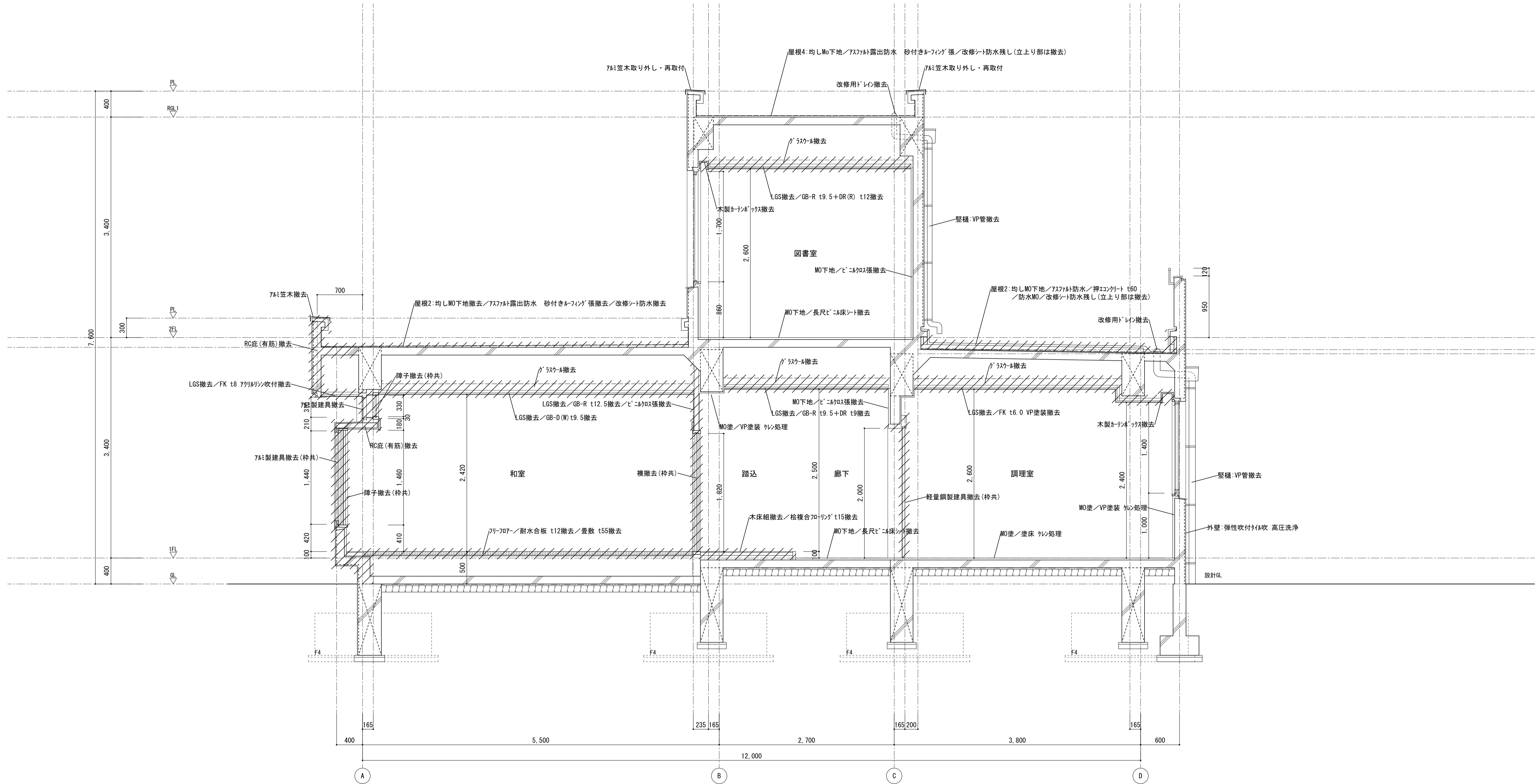
北側立面図

□ 凡例			□ 特記事項		
(E1)	外壁1：石調吹付け仕上げ 化粧目地	高压洗浄 一部撤去	(E9)	スチールタラップ：ケレン2種+下地調整+FP塗	ケレン処理 DP塗装
(E2)	外壁2：弾性吹付け仕上げ	高压洗浄 一部撤去	(E10)	フレキサラムレーパー（片開きドア、ストリングア、下地鉄骨共）	撤去
(E3)	巾木：コナリト打放し仕上げ	高压洗浄 一部撤去	(E11)	床下換気孔：スチール製 FP塗	ケレン処理 DP塗装
(E4)	アルミ笠木（既製品）	取り外し・再取付	(E12)	階段の踏面、蹴込み部分：防水モルタル 段鼻：ステンレスノンスリップ	高压洗浄
(E5)	建物銘板：ステンレス箱文字 150角 厚さ20mm 17文字	撤去	(E13)	床部、階段部モルタルヌリコテ押エ（目地切）	高压洗浄
(E6)	縦樋：ステンレスφ75 t0.8	撤去	(E14)	橋立ち上がり部：コンクリート打放し化粧	高压洗浄
(E7)	縦樋：VP管 φ100+VP塗	撤去	(E15)	防護柵	ケレン処理 DP塗装
(E8)	ステンレス手摺 HL仕上げ	既設のまま			
					撤去範囲を示す

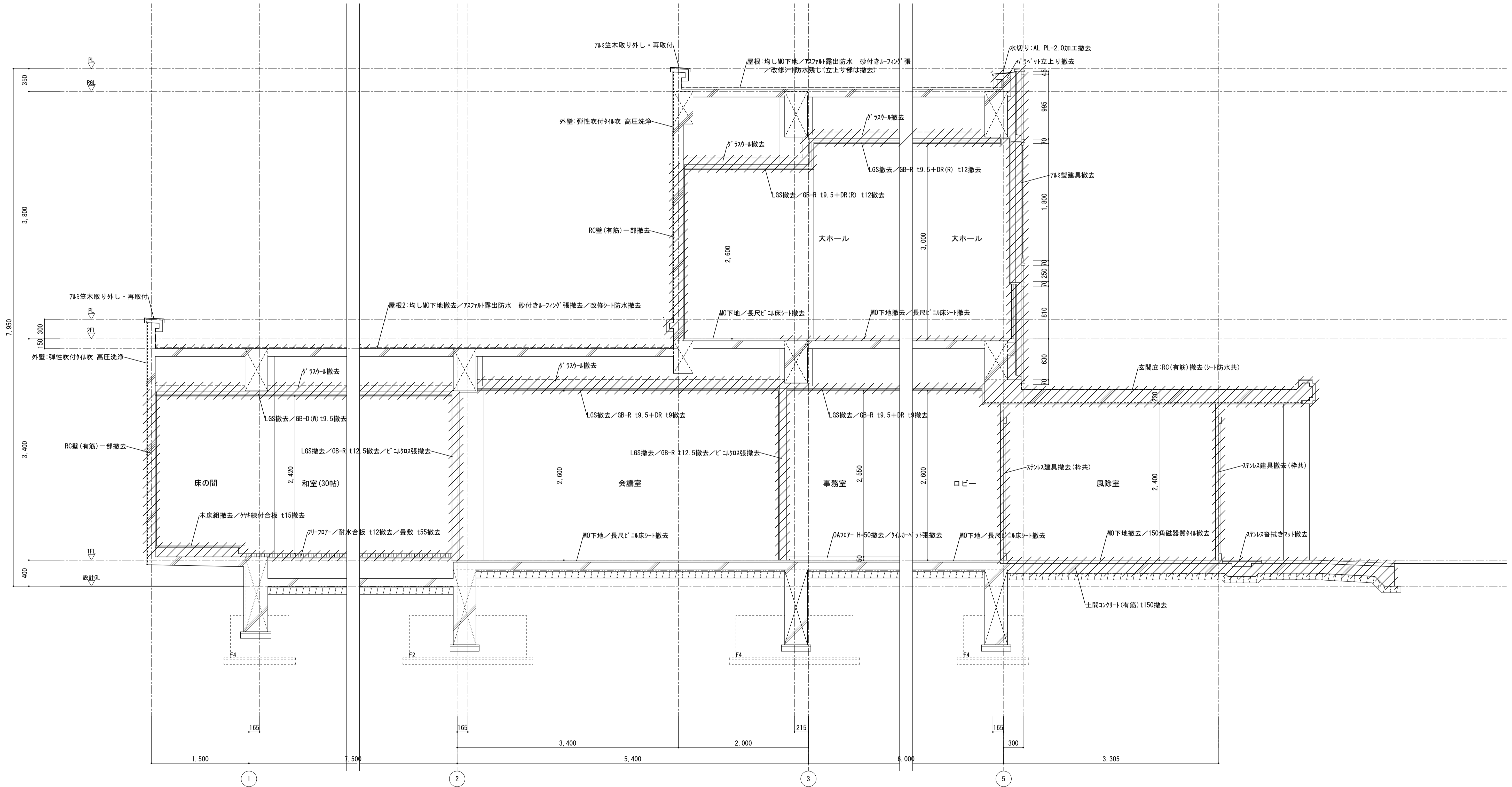
1. 高压水洗機の加圧力は試験施工を行い監督職員の承諾を受ける事。
2. 既設ひび割れ部はエポキシ樹脂注入工法にて補修のこと。（数量：全体面積の20%程度）
3. 既設浮き部はアンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法にて補修のこと。（数量：全体面積の20%程度）
4. 既設外部タタキは磨き洗浄仕上げとする。



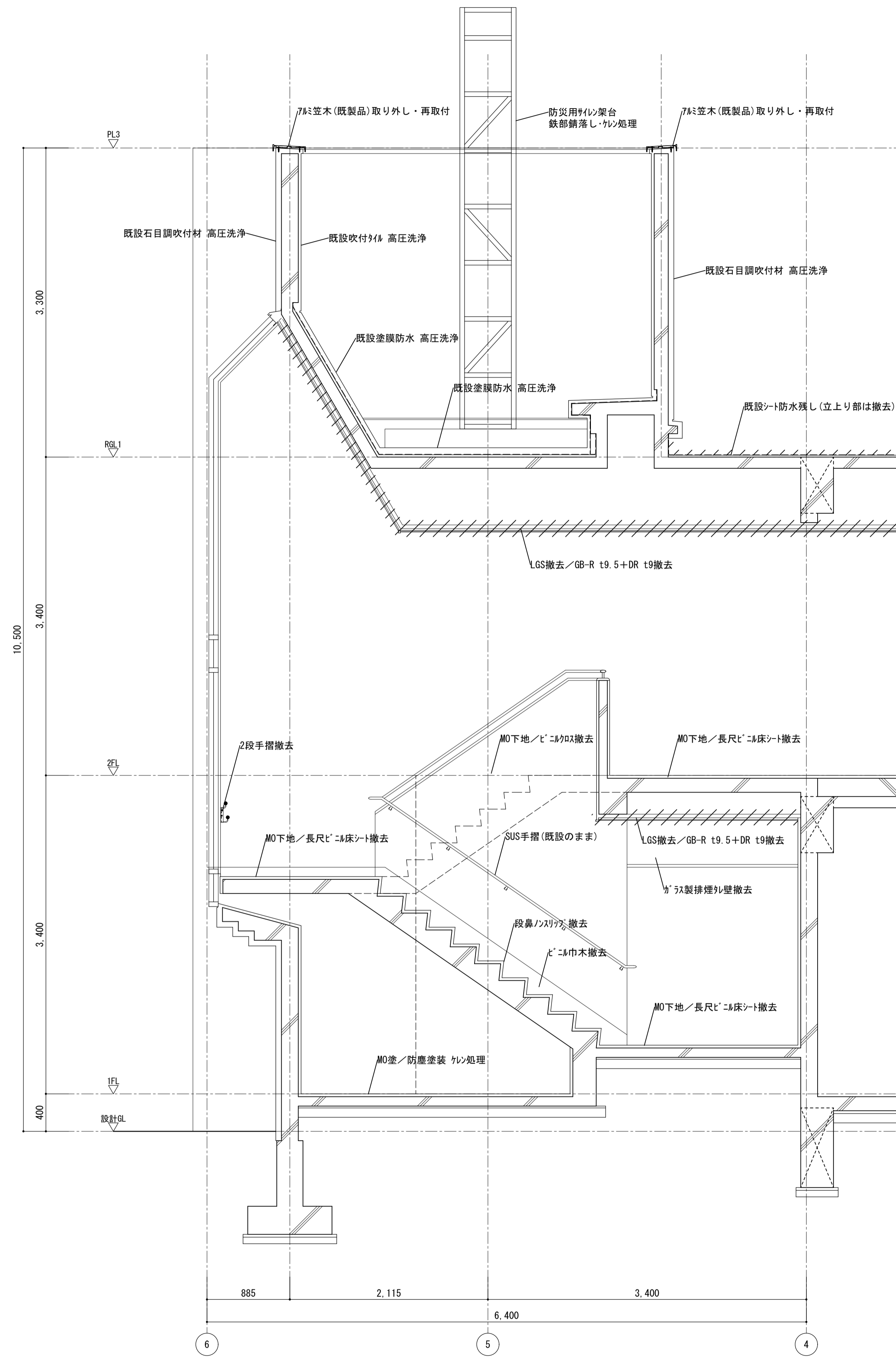
訂正事項	水原・芦澤設計共同体		北部図書機能・コミュニティ機能整備工事		既設撤去 矩計図1		SHEET NO.
	株式会社 水原建築設計事務所		芦澤電一建築設計事務所				A-606
	<small>一級建築士事務所 登録番号 第33号 一級建築士登録 第21928号 北村 浩 設置県産都市長官候補者443番地 TEL. 0749-22-1679</small>		<small>一級建築士事務所 大阪府知事登録 (口) 第24257号 一級建築士登録 第29819号 芦澤 電一 大阪府大阪市北区中崎西1-4 TEL. 06-6465-2017</small>		DRAWN BY	CHECKED BY	SUBMITTED BY
						2021.12	SCALE A1:1/30 A3:1/60



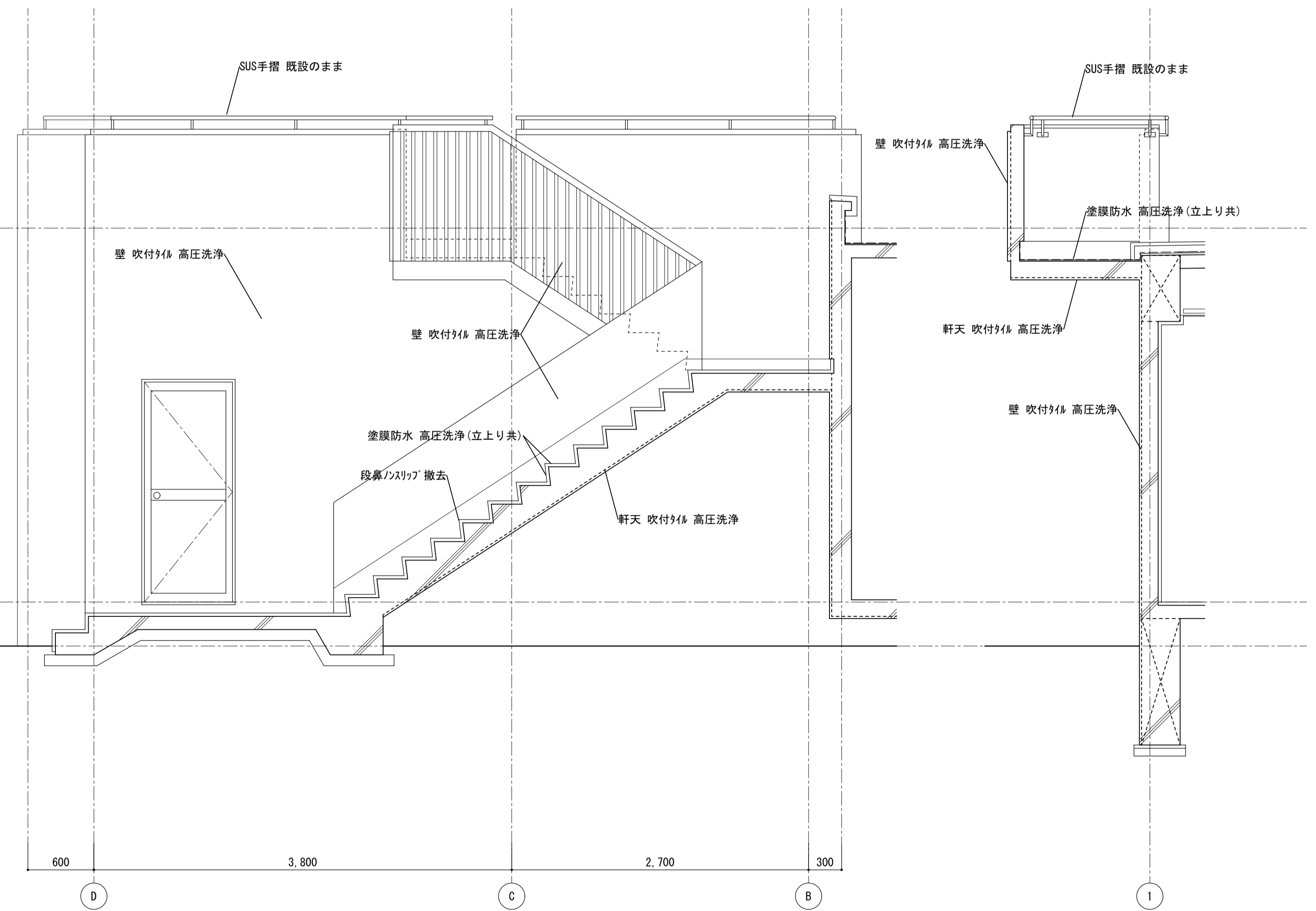
訂正事項	水原・芦澤設計共同体		既設撤去 矩計図2		SHEET NO. A-607
	株式会社 水原建築設計事務所 <small>一級建築士事務所 登録 東京都知事登録 第63号 一級建築士事務所 第21928号 北村 浩 設置県庁市長官舎南側44番地 TEL. 0749-22-1679</small>		芦澤電一建築設計事務所 <small>一級建築士事務所 大阪府知事登録 (口) 第24257号 一級建築士事務所 第29819号 芦澤 竜一 大阪府大阪市北区中崎西1-4 TEL. 06-6465-2017</small>		
北部図書機能・コミュニティ機能整備工事					



訂正事項	水原・芦澤設計共同体		既設撤去 矩計図3		SHEET NO.
	株式会社 水原建築設計事務所				A-608
	芦澤電一建築設計事務所 <small>一級建築士事務所 登録 第219283号 北村 浩 一級建築士事務所 登録 第298139号 芦澤 電一 大阪府大阪市北区中崎西1-4 tel. 06-6465-2017</small>		北部図書機能・コミュニティ機能整備工事		DATE 2021.12
				SCALE A1:1/30 A3:1/60	



内部階段1 詳細図 1/30



外部階段 詳細図 1/30

訂正事項	

水原・芦澤設計共同体

株式会社 水原建築設計事務所 芦澤電一建築設計事務所

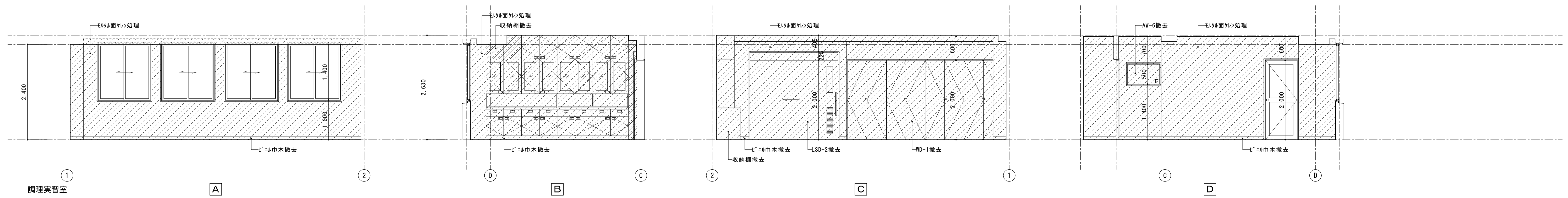
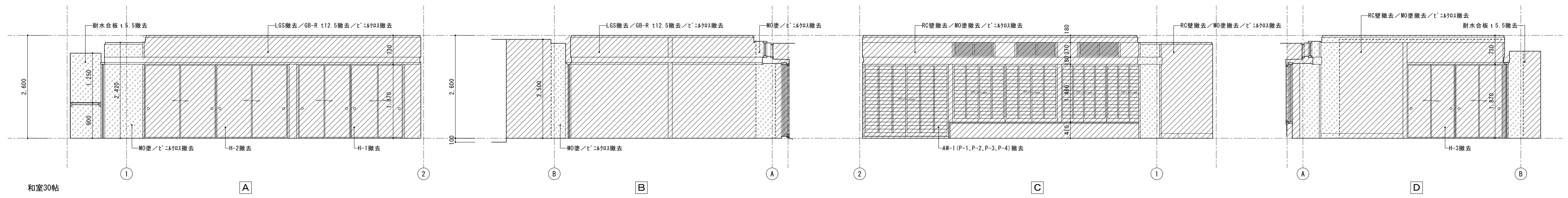
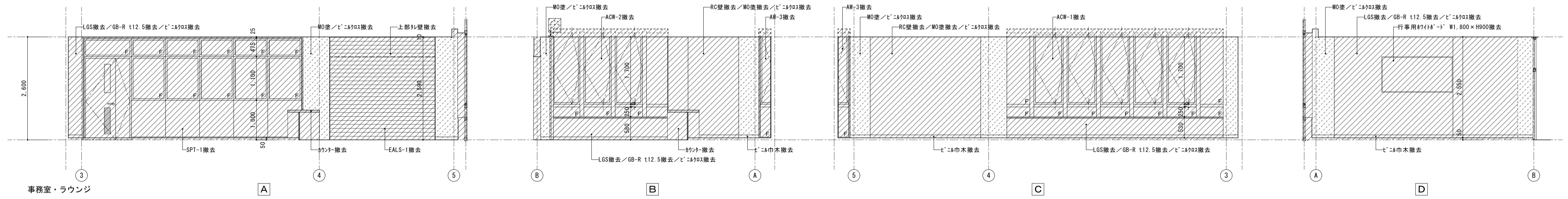
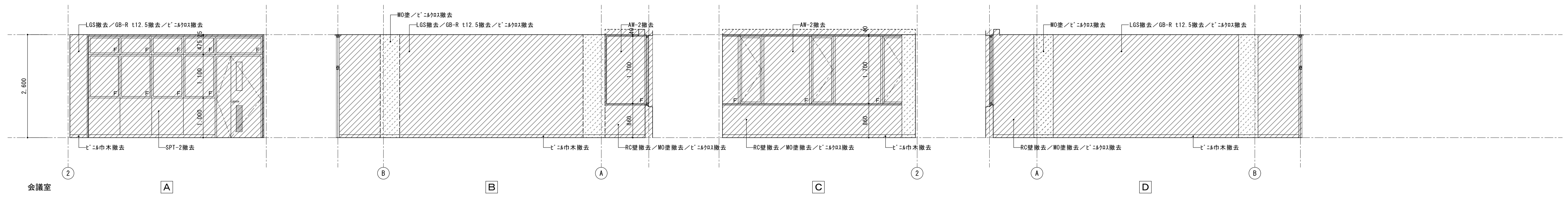
一級建築士事務所 登録番号 第63号 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (ロ) 第2425号

一級建築士登録 第21928号 北村 浩 一級建築士登録 第29819号 芦澤 電一

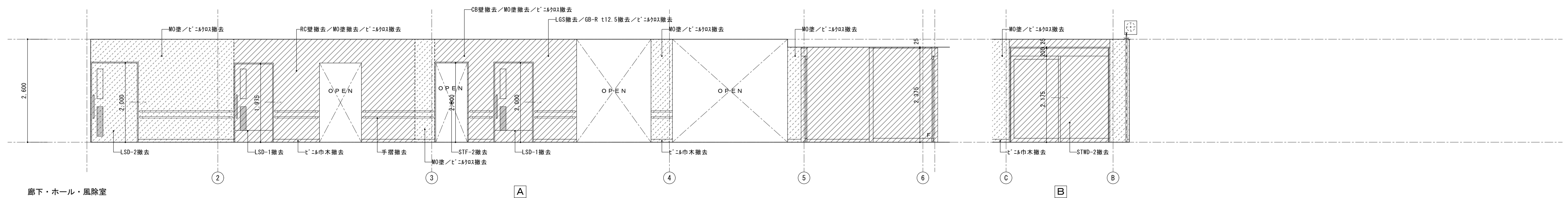
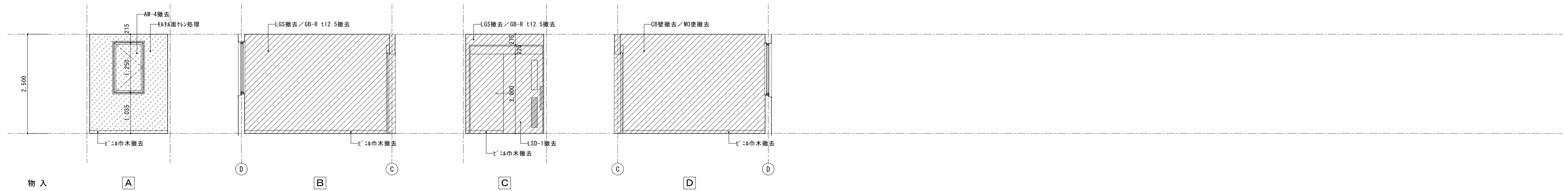
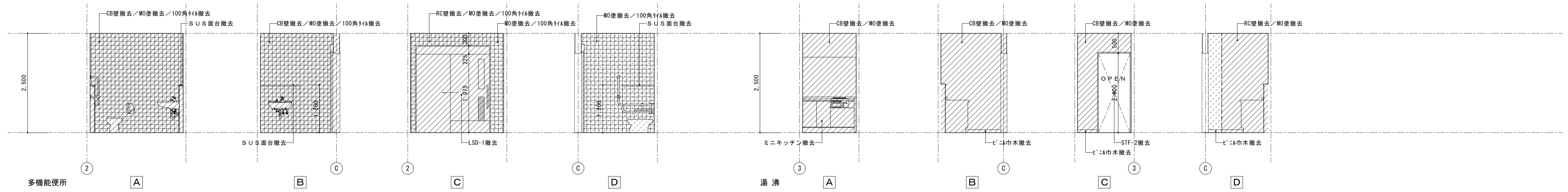
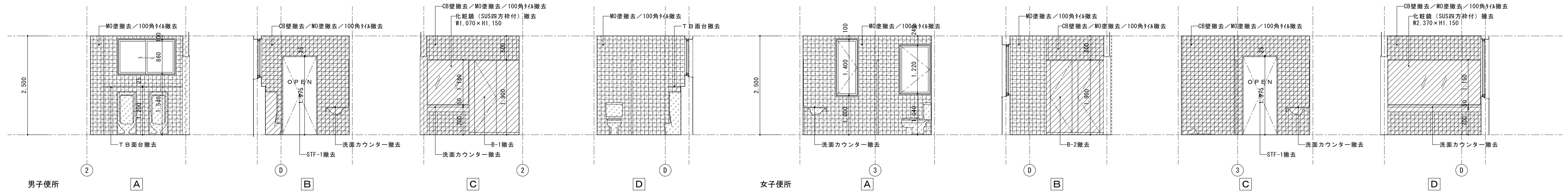
大阪府堺市長曾根南町44番地 TEL. 0749-22-1679 大阪府大阪市北区中崎西1-4 TEL. 06-6465-2017

北部図書機能・コミュニティ機能整備工事

既設撤去 階段詳細図		SHEET NO.
		A-609
DATE	SCALE	
2021.12	1/30	



訂正事項			水原・芦澤設計共同体		既設撤去 展開図1		SHEET NO. A-610	
			株式会社 水原建築設計事務所		芦澤電一建築設計事務所			DATE 2021.12
			一級建築士事務所 登録番号 第639号 一級建築士事務所 第219285号 北村 浩 設置業都府市長登録番号 443番地 TEL. 0749-22-1679		一級建築士事務所 大阪府知事登録 (ロ) 第24257号 一級建築士事務所 第29613号 芦澤 電一 大阪府大阪市北区中崎西1-4 tel. 06-6465-2017			
北部図書機能・コミュニティ機能整備工事								



訂正事項	

水原・芦澤設計共同体

株式会社 水原建築設計事務所 芦澤電一建築設計事務所

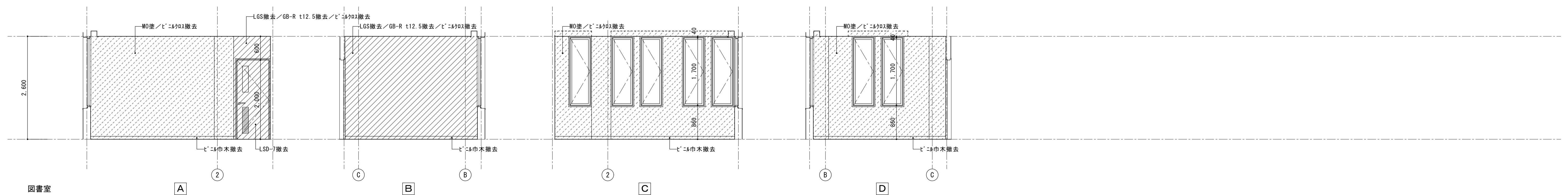
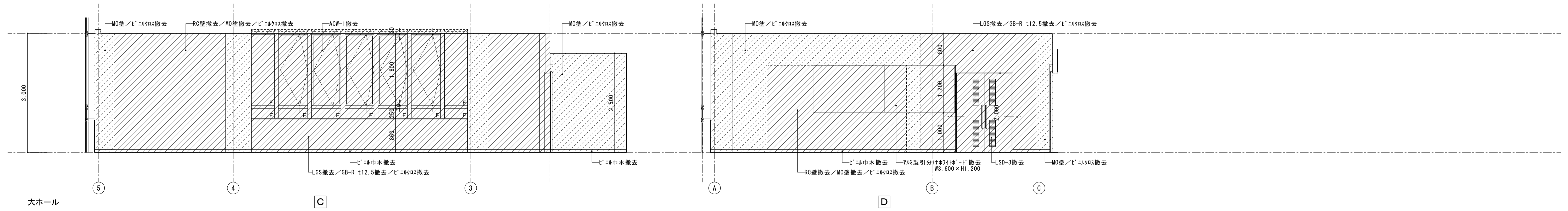
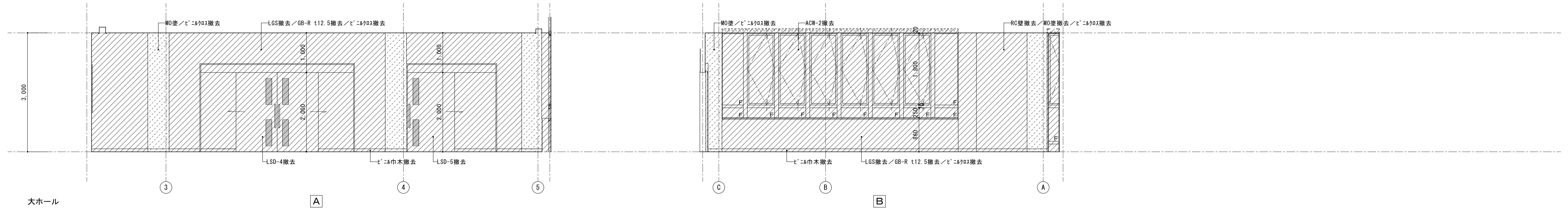
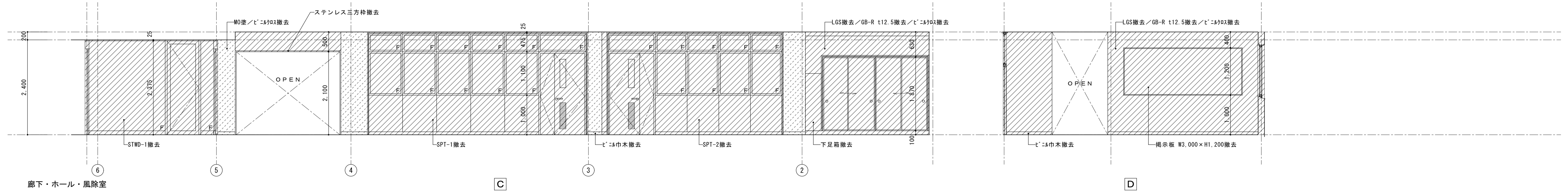
一級建築士事務所 登録番号 第63号 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (印) 第2425号

一級建築士事務所 第21928号 北村 通 一級建築士事務所 第29813号 芦澤 電一

設置県産市長官舎南町44番地 TEL. 0749-22-1679 大阪府大阪市北区中崎西1-4 TEL. 06-6465-2017

北部図書機能・コミュニティ機能整備工事

既設撤去 展開図2		SHEET NO. A-611
DATE 2021.12	SCALE A1:1/50 A3:1/100	



訂正事項	

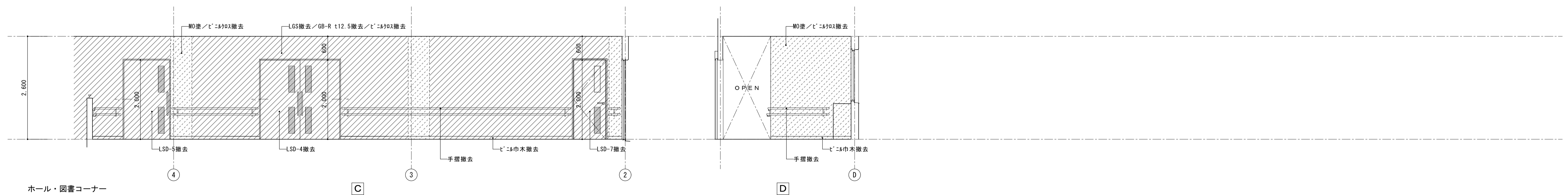
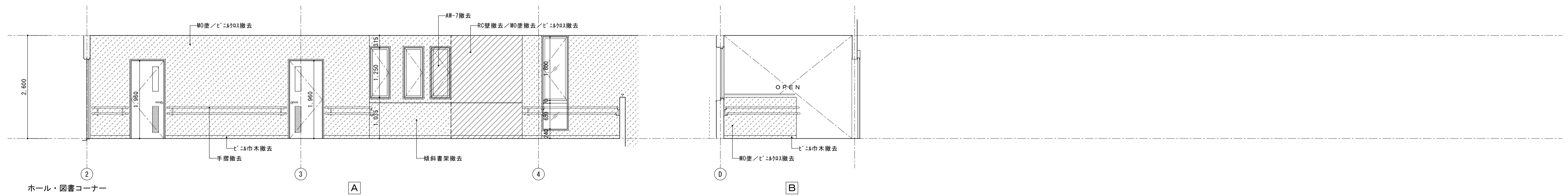
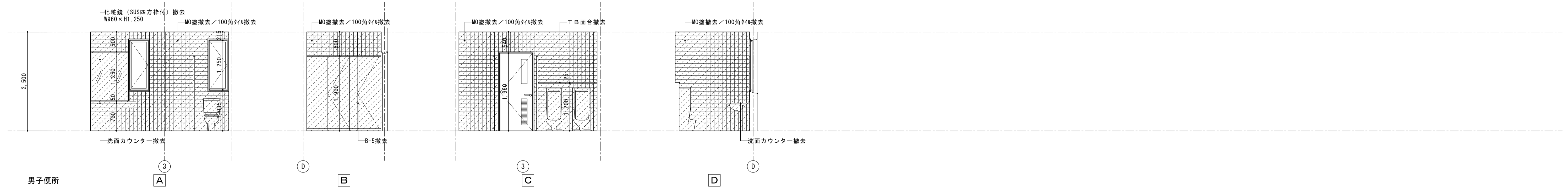
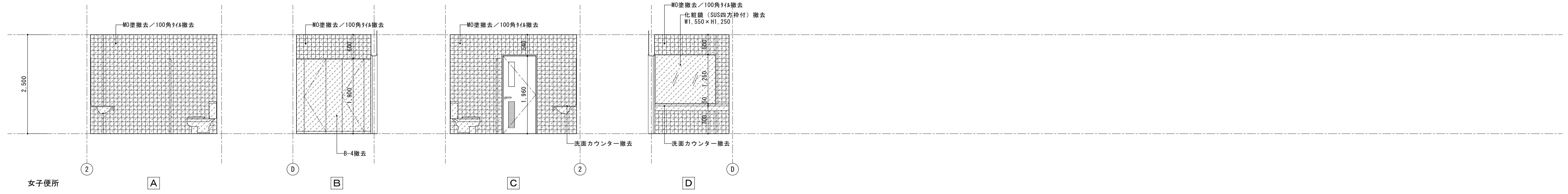
水原・芦澤設計共同体

株式会社 水原建築設計事務所
一級建築士事務所 登録番号 第83号
 一級建築士登録 第21928号 北村 浩
 設置県産市長官舎南町44番地 TEL. 0749-22-1679

芦澤電一建築設計事務所
一級建築士事務所 大阪府知事登録 (ロ) 第2425号
 一級建築士登録 第29819号 芦澤 電一
 大阪府大阪市北区中崎西1-4 tel. 06-6465-2017

北部図書機能・コミュニティ機能整備工事

既設撤去 展開図3		SHEET NO.
		A-612
DATE	SCALE	
2021.12	A1:1/50 A3:1/100	



訂正事項	

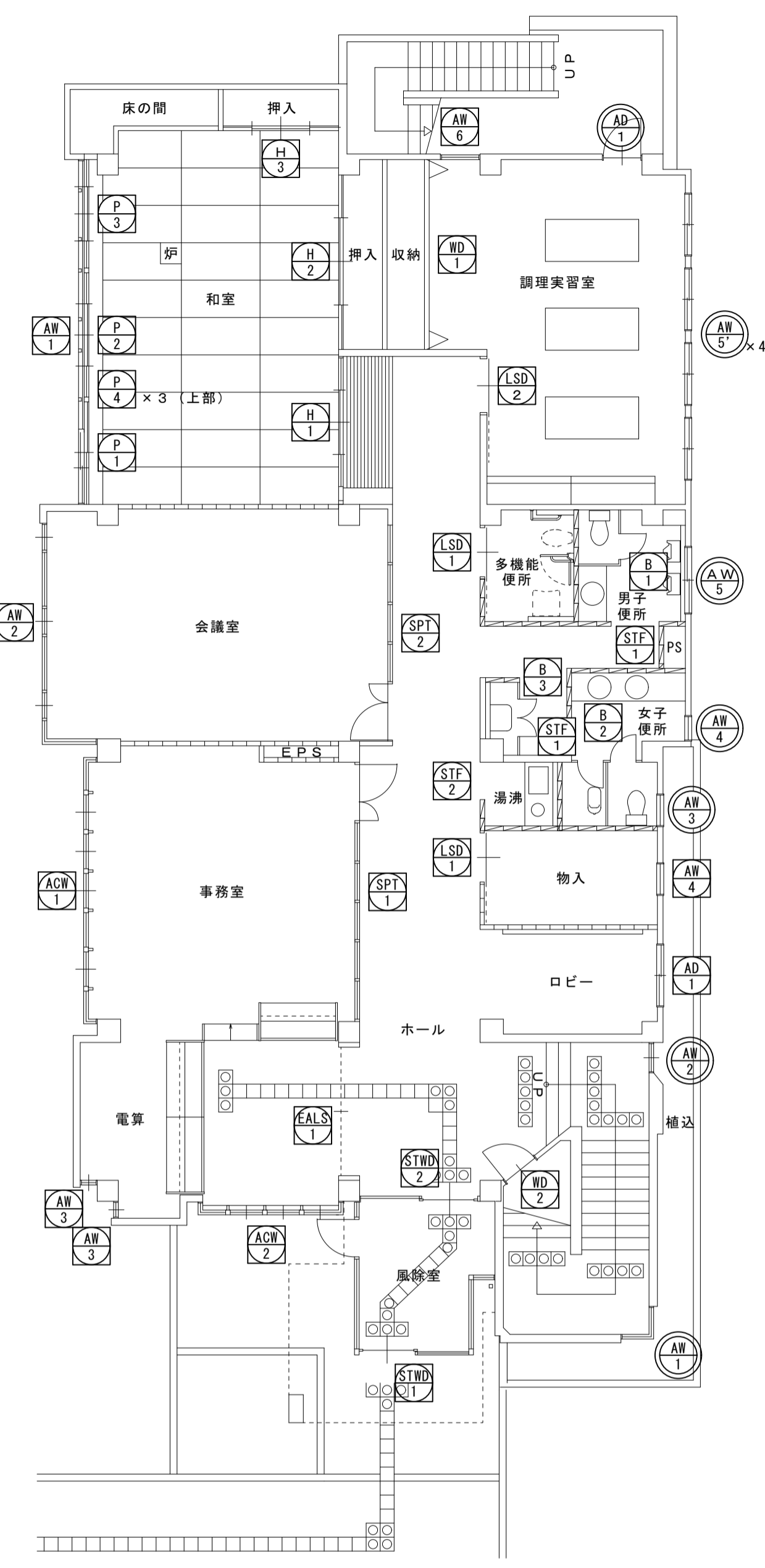
水原・芦澤設計共同体

株式会社 水原建築設計事務所
 一級建築士事務所 登録番号 第33号
 一級建築士事務所 第21928号 北村 浩
 設置県庁市長官舎南側44番地 TEL. 0749-22-1679

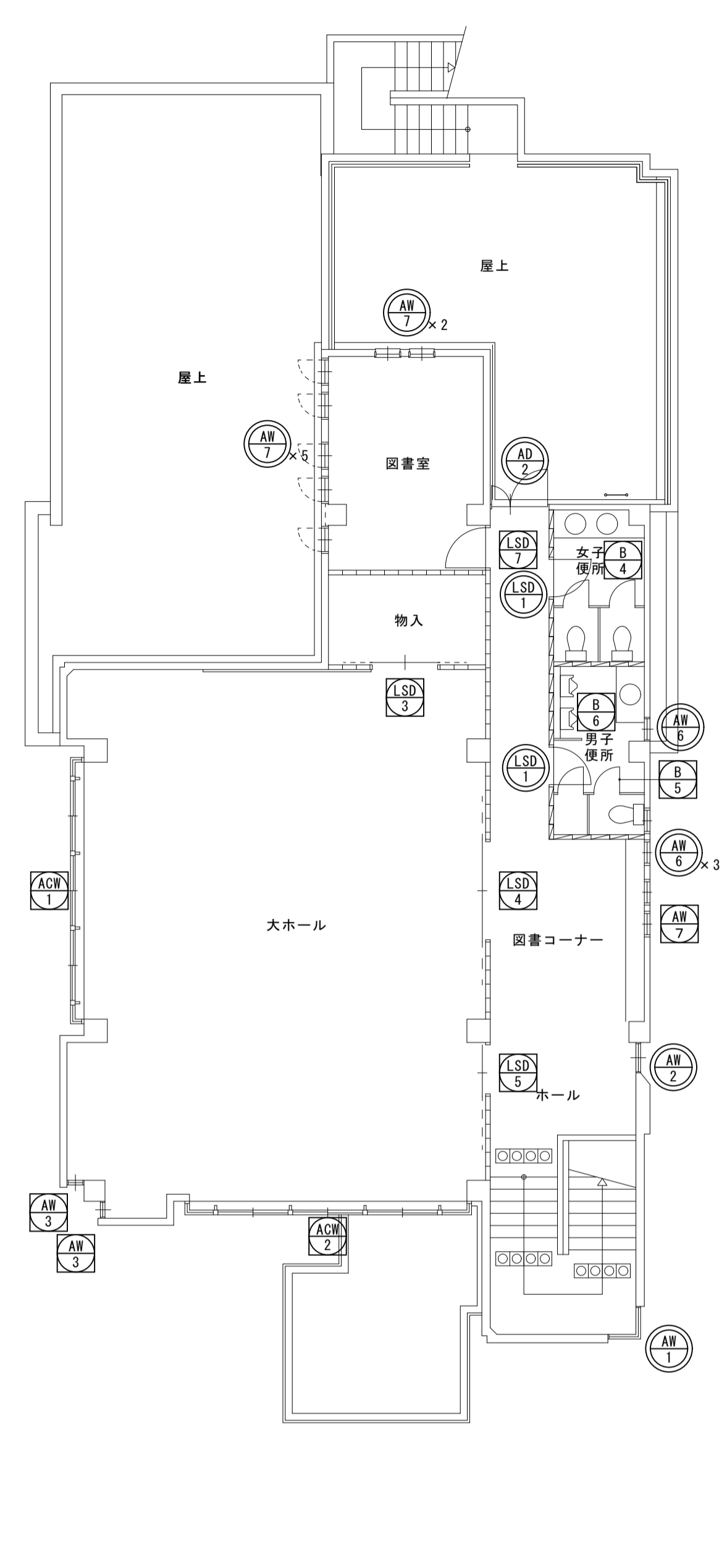
芦澤竜一建築設計事務所
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (印) 第24257号
 一級建築士事務所 第29813号 芦澤 竜一
 大阪府大阪市北区中崎西1-4 tel. 06-6465-2017

北部図書機能・コミュニティ機能整備工事

既設撤去 展開図4		SHEET NO.
		A-613
DATE	SCALE	
2021.12	A1:1/50 A3:1/100	



1階建具案内図 S 1:100



2階建具案内図 S 1:100

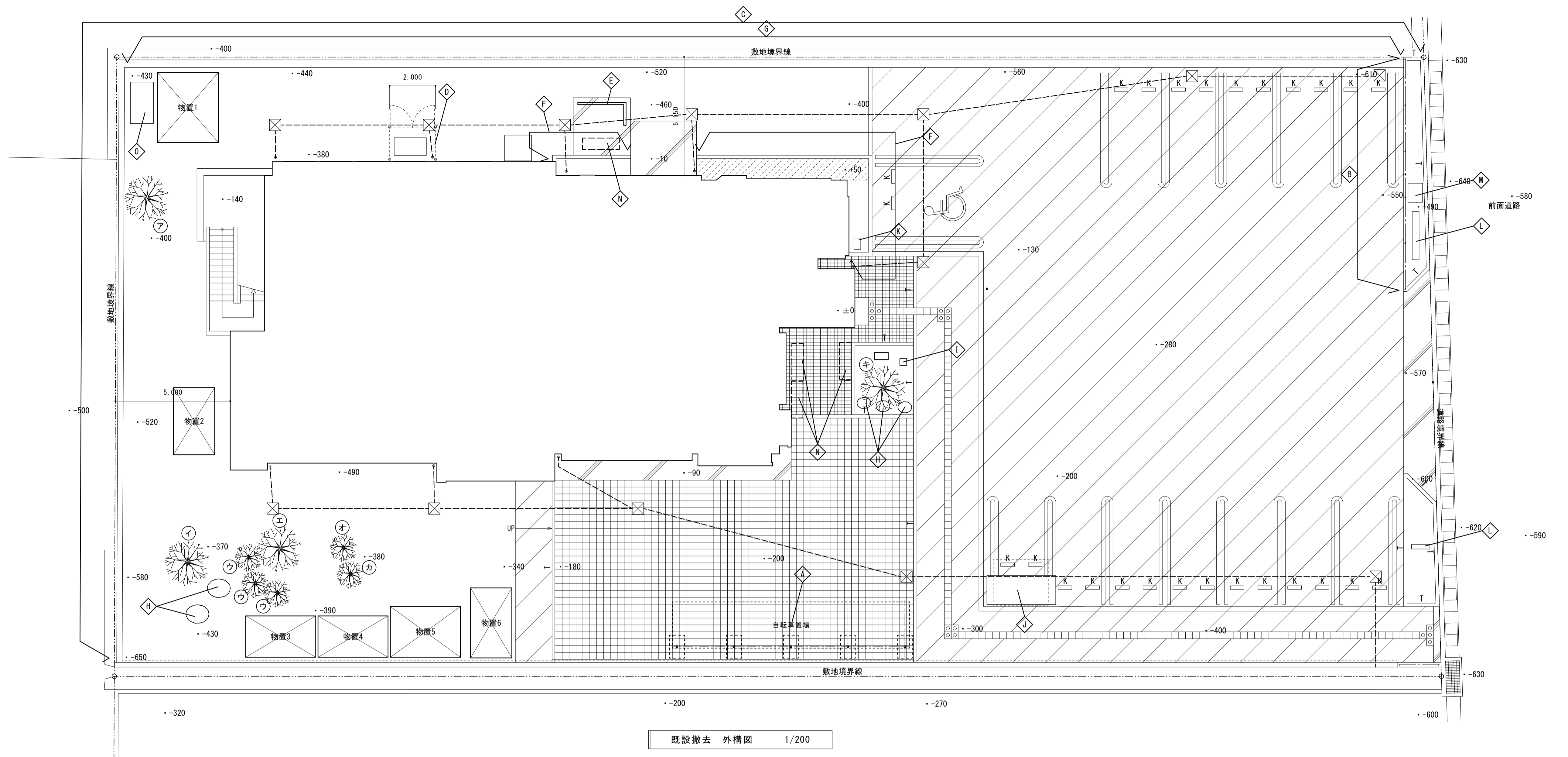
記号	名称	7F製カテナール	7F製カテナール	7F製建具
AW 1	7F製カテナール	枠共全面撤去	7F製カテナール	7F製建具
姿図				
室名	数量	1階:事務室 2階:大ホール 1か所	1階:事務室 2階:大ホール 1か所	1階:事務室 2階:大ホール 1か所
仕上材質	硝子	アルミ(ジュラクロン) 熱線反射ガラス t6.8	アルミ(ジュラクロン) 熱線反射ガラス t6.8	アルミ(ジュラクロン) 熱線反射ガラス t6.8
金物	備考	アルミ額縁、付属金物	アルミ額縁、付属金物	アルミ額縁、付属金物

記号	名称	7F製建具	7F製建具
AW 4	7F製建具	枠共全面撤去	7F製建具
姿図			
室名	数量	1階:和室 1か所	1階:会議室 1か所
仕上材質	硝子	アルミ(ジュラクロン) 熱線反射ガラス t6.8	アルミ(ジュラクロン) 熱線反射ガラス t6.8
金物	備考	付属金物	付属金物

記号	名称	7F製建具	7F製建具	7F製建具	7F製建具	7F製建具	ステンレス製建具
AW 4	7F製建具	枠共全面撤去	7F製建具	7F製建具	7F製建具	7F製建具	ステンレス製建具
姿図							
室名	数量	1階:物入 1か所	1階:調理実習室 4か所	1階:調理実習室 4か所	2階:廊下 1か所	1階:廊下 1か所	1階:風除室 1か所
仕上材質	硝子	アルミ(ジュラクロン) F-4	アルミ(ジュラクロン) F-5	アルミ(ジュラクロン) F-4	アルミ(ジュラクロン) F-5	アルミ(ジュラクロン) F-5	ステンレス HL FL-8
金物	備考	アルミ額縁、アルミ二重水切、BU、AS、カムラッチハンドル 付属金物	アルミ額縁、アルミ二重水切、K、戸車 ステンレス製防虫アミ戸、アシスト把手、付属金物	アルミ額縁、アルミ二重水切、付属金物	アルミ額縁、アルミ二重水切、付属金物	アルミ額縁、アルミ二重水切、付属金物	光線スイッチ、安全光線装置、SUSガイドレール、AD、PD、FH、引手 ステンレス製衝突防止金物(両面、φ30)、付属金物

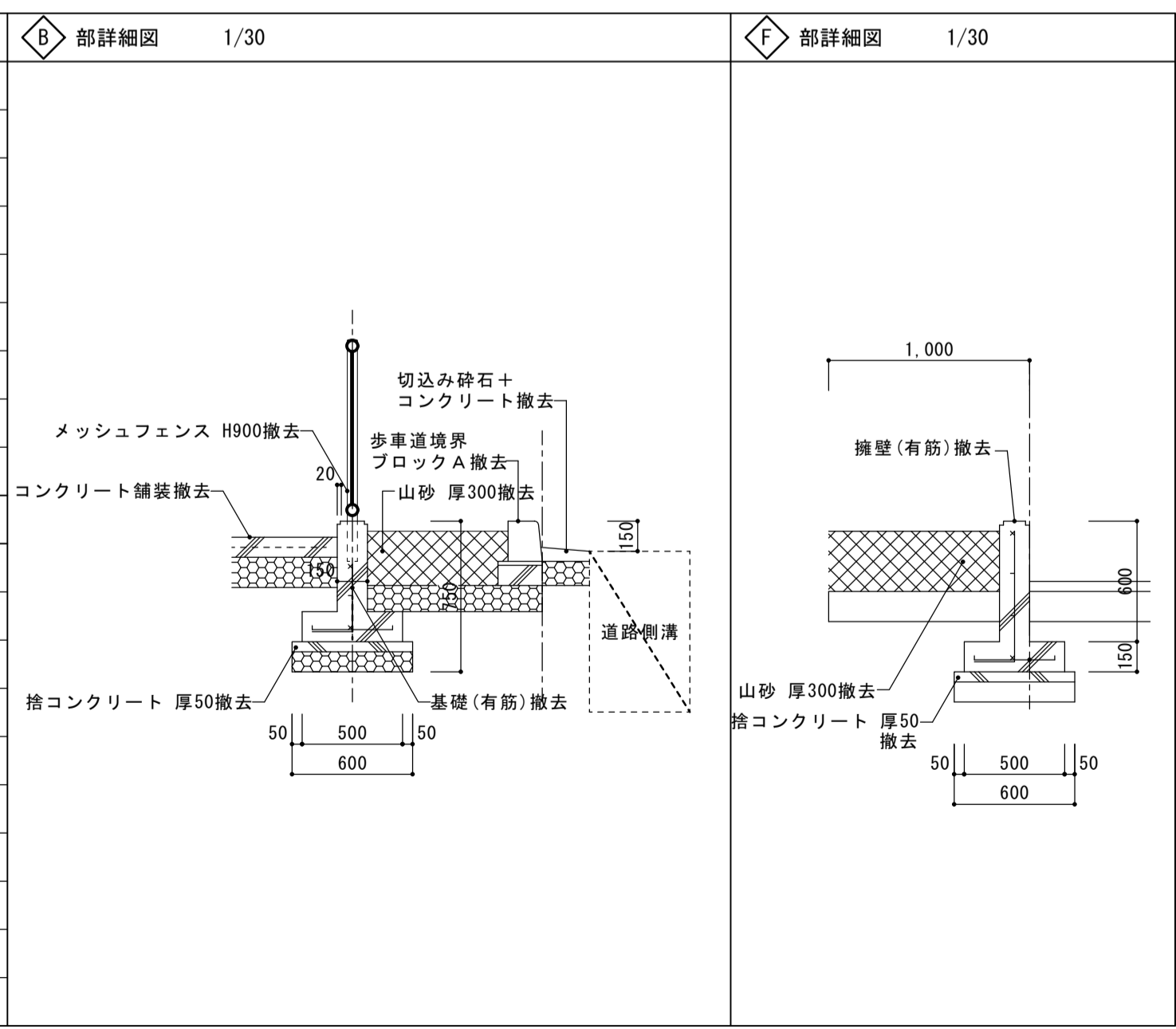
記号名称	軽量鋼製建具 枠共全面撤去	軽量鋼製建具 枠共全面撤去	軽量鋼製建具 枠共全面撤去	軽量鋼製建具 枠共全面撤去	軽量鋼製建具 枠共全面撤去	軽量鋼製建具 枠共全面撤去	軽量鋼製建具 枠共全面撤去
姿図							
室名数量	1階: 風除室 1か所	1階: 多機能便所, 物入 2か所	1階: 調理実習室 1か所	2階: 物入 1か所	2階: 大ホール 1か所	2階: 大ホール 1か所	2階: 男子便所, 女子便所 2か所
仕上材質	ステンレス HL	化粧鋼板 t0.8 焼付塗装 枠: OP 塗	化粧鋼板 t0.8 焼付塗装 枠: OP 塗	化粧鋼板 t0.8 焼付塗装 枠: OP 塗	化粧鋼板 t0.8 焼付塗装 枠: OP 塗	化粧鋼板 t0.8 焼付塗装 枠: OP 塗	化粧鋼板 t0.8 焼付塗装 枠: OP 塗 小松ワナ MW-LSD 程度
硝子	FL-8	F-4	F-5	F-5	F-5	F-5	F-4
金物備考	光線スイッチ、安全光線装置、SUSガイドレール、AD、PD ステンレス製衝突防止金物(両面、φ30)、付属金物	額縁一体スチール三方枠、ハンガーレール、吊車、SUS引手 SUSガイドレール、HK、GT、AG、自閉装置、付属金物	額縁一体スチール三方枠、ハンガーレール、吊車、SUS引手 SUSガイドレール、HK、GT、AG、自閉装置、付属金物	額縁一体スチール三方枠、ハンガーレール、吊車、SUS引手 SUSガイドレール、HK、GT、AG、自閉装置、付属金物	額縁一体スチール三方枠、ハンガーレール、吊車、SUS引手 SUSガイドレール、HK、GT、AG、自閉装置、付属金物	額縁一体スチール三方枠、ハンガーレール、吊車、SUS引手 SUSガイドレール、HK、GT、AG、自閉装置、付属金物	額縁一体スチール三方枠、ステンレス番摺(ST-2)、 BU、DC、CR、GT、AG
記号名称	軽量鋼製建具 枠共全面撤去	ステンレス三方枠 枠共全面撤去	ステンレス三方枠 枠共全面撤去	7桁電動式シャッター 枠共全面撤去	スチールパネーション 枠共全面撤去	スチールパネーション 枠共全面撤去	
姿図							
室名数量	2階: 図書室 1か所	1階: 男子便所, 女子便所 2か所	1階: 湯沸 2か所	1階: 事務室 1か所	1階: 事務室 1か所	1階: 会議室 1か所	
仕上材質	化粧鋼板 t0.8 焼付塗装 枠: OP 塗	ステンレス HL	ステンレス HL	アルミスラット	化粧鋼板 t0.8 焼付塗装	化粧鋼板 t0.8 焼付塗装	
硝子	FL-3				FL-5	FL-5	
金物備考		額縁一体スチール三方枠、ステンレス番摺(ST-2)、 BU、DC、CR、GT、AG、付属金物		ステンレスガイドレール、ステンレスマグサ、ステンレス座板 電動巻上装置、付属金物	BU、DC、CR、GT、AG、付属金物	BU、DC、CR、GT、AG、付属金物	
記号名称	木製建具 枠共全面撤去	木製建具 枠共全面撤去	襖 枠共全面撤去	襖 枠共全面撤去	襖 枠共全面撤去	障子 枠共全面撤去	障子 枠共全面撤去
姿図							
室名数量	1階: 収納(調理実習室) 1か所	1階: 階段下倉庫 1か所	1階: 和室 1か所	1階: 和室 1か所	1階: 和室 1か所	1階: 和室 1か所	1階: 和室 1か所
仕上材質	ポリ合板 小口: スプルス UC	ポリ合板 小口: スプルス UC 枠: 既設ケレン OP 塗	新鳥の子紙 枠: クワマガイ	新鳥の子紙 枠: クワマガイ	新鳥の子紙 枠: クワマガイ	スプルス アクリル障子紙	スプルス アクリル障子紙
硝子							
金物備考	木額縁、上下アルミレール、取手、付属金物	BU、DC、CR、GT、AG、付属金物	引手、付属金物	引手、付属金物	引手、付属金物	引手	引手
記号名称	4枚引キ連イ障子 枠共全面撤去	障子 枠共全面撤去	トイレブース 枠共全面撤去	トイレブース 枠共全面撤去	トイレブース 枠共全面撤去	トイレブース 枠共全面撤去	トイレブース 枠共全面撤去
姿図							
室名数量	1階: 和室 1か所	1階: 和室 3か所	1階: 男子便所 1か所	1階: 女子便所 1か所	1階: 女子便所 1か所	2階: 女子便所 1か所	2階: 男子便所 1か所
仕上材質	スプルス アクリル障子紙	スプルス	メラミン化粧樹脂板	メラミン化粧樹脂板	メラミン化粧樹脂板	メラミン化粧樹脂板	メラミン化粧樹脂板
硝子							
金物備考	引手		ステンレス笠木、ステンレス巾木、戸当り帽子掛け グレビティーヒンジ、スライド表示錠、付属金物	ステンレス笠木、ステンレス巾木、戸当り帽子掛け グレビティーヒンジ、スライド表示錠、付属金物	ステンレス笠木、ステンレス巾木 グレビティーヒンジ、付属金物	ステンレス笠木、ステンレス巾木、戸当り帽子掛け グレビティーヒンジ、スライド表示錠、付属金物	ステンレス笠木、ステンレス巾木、戸当り帽子掛け グレビティーヒンジ、スライド表示錠、付属金物

記号名称	トイレブース 枠共全面撤去						
姿図							
室名数量	2階: 男子便所 1か所						
仕上材質	メラミン化粧樹脂板						
硝子	硝子						
金物備考	ステンレス笠木、ステンレス巾木						
記号名称	74製建具	74製建具	74製建具	74製建具	74製建具	74製建具	74製建具
姿図							
室名数量	階段室 1か所	階段室 1か所	1階: 女子便所 1か所	1階: 女子便所 1か所	1階: 男子便所 1か所	1階: 調理室 4か所	2階: 廊下、男子便所 4か所
仕上材質	アルミ【既設のまま】	アルミ【既設のまま】	アルミ【既設のまま】	アルミ【既設のまま】	アルミ【既設のまま】	アルミ【既設のまま】	アルミ【既設のまま】
硝子	図示 【改修内容: ガラス撤去・新設】	図示 【改修内容: ガラス撤去・新設】	F-4 【改修内容: ガラス撤去・新設】	F-4 【改修内容: ガラス撤去・新設】	F-4 【改修内容: ガラス撤去・新設】	F L-5 【改修内容: ガラス撤去・新設】	F L-5 【改修内容: ガラス撤去・新設】
備考	【改修内容: 建具周囲コキング打替】	【改修内容: 建具周囲コキング打替】	【改修内容: 建具周囲コキング打替】	【改修内容: 建具周囲コキング打替】	【改修内容: 建具周囲コキング打替】	【改修内容: 建具周囲コキング打替】	【改修内容: 建具周囲コキング打替】
記号名称	74製建具	74製建具	74製建具	軽量鋼製建具			
姿図							
室名数量	2階: 図書室 7か所	1階: 調理実習室 1か所	2階: 廊下 1か所	2階: 男子便所、女子便所 2か所			
仕上材質	アルミ【既設のまま】	アルミ【既設のまま】	アルミ【既設のまま】	枠: 【下地調整の上SOP再塗装】			
硝子	F-6 【改修内容: ガラス撤去・新設】	PWG-6、8 【改修内容: ガラス撤去・新設】	PWG-6、8 【改修内容: ガラス撤去・新設】	F-4 【改修内容: ガラス撤去・新設】			
備考	【改修内容: 建具周囲コキング打替】	【改修内容: 建具周囲コキング打替】	【改修内容: 建具周囲コキング打替】				



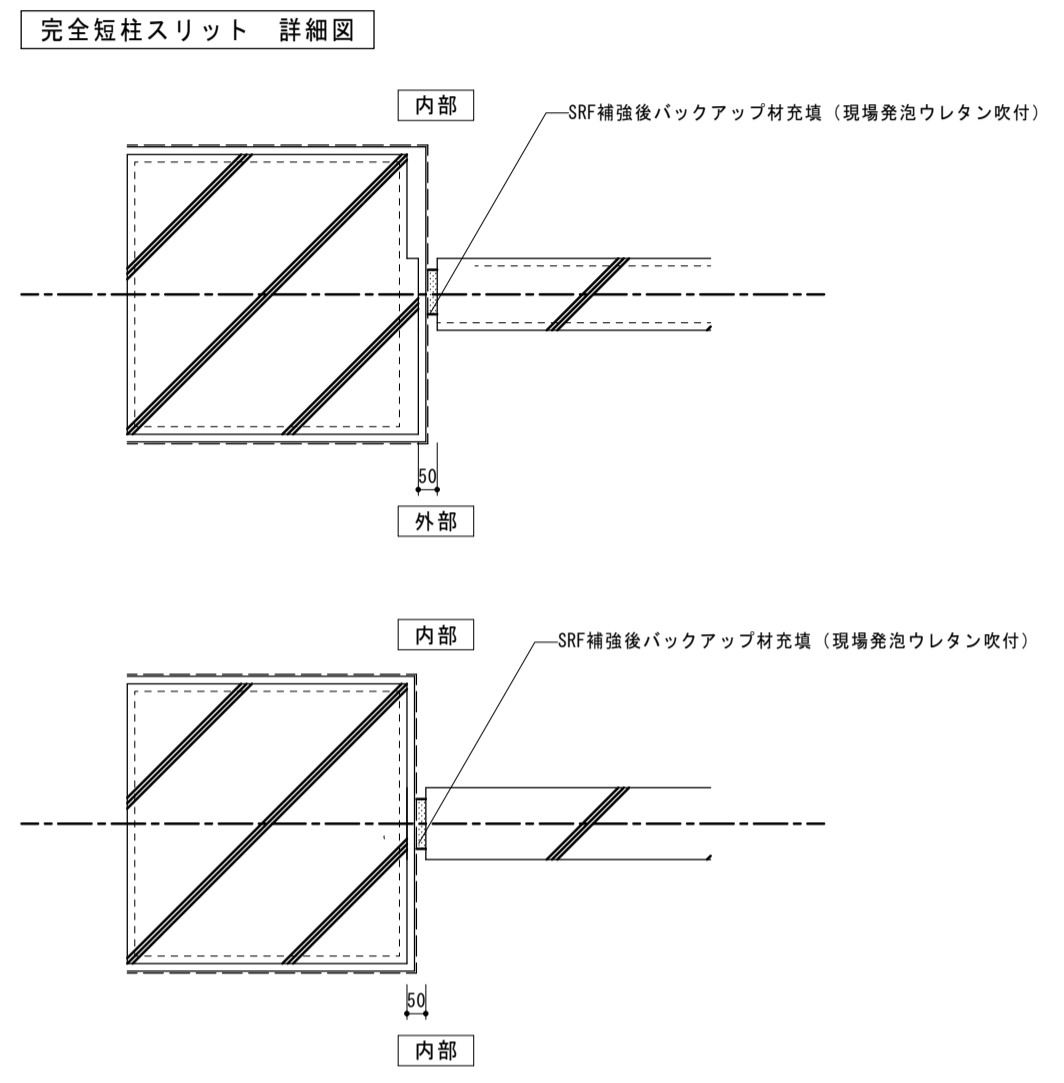
既設撤去 外構図 1/200

□ 凡例		◇ 部詳細図 1/30		◇ 部詳細図 1/30	
	アスファルト舗装 t50 撤去範囲を示す	580.80m ²	◇	石碑W500×H300撤去	1か所
	コンクリート舗装(有筋) t100撤去範囲を示す	26.93m ²	◇	充電器上屋(7尺型)W2400×D2000×H2100撤去 コンクリート基礎 W3000×D1250×H300撤去	1か所
	コンクリート平板舗装 300×300×t60 撤去範囲を示す	136.21m ²	◇	郵便ポスト W400×D300×H600 基礎共撤去	1か所
	磁器質ワイヤメッシュ+土間コンクリート(有筋) t150	20.67m ²	◇	掲示板 W2100×D400×H900 基礎共撤去	1か所
	図中の数字は1FL=±0からの高さを示す。		◇	鉄骨骨組み(Lアングル) 630×830×H2100撤去	1か所
	点字ブロック撤去	12.15m ²	◇	樹脂製ベンチ W1600×D400×H700撤去	4か所
	歩車道境界ブロック・地先境界ブロック撤去	61.94m	◇	スチール鉄板 1800×1000×t9撤去	1か所
	車止めブロック撤去	26か所	◇	施設サイン看板撤去 W800×D150×H3500	1か所
	コンクリート製雨水管撤去	13か所	◇	その他	レガ、木製花壇、自立看板等
	雨水排水管撤去	122.50m	◇		
	自転車庫上屋 撤去 19.3m ² 同コンクリート基礎 1,000×650×H500×5ヶ所	1か所	ア	植栽 撤去(伐根共) W3000 * H3000	1本
	メッシュフェンス H900-コンクリート基礎撤去 詳細図参照	10.20m	イ	植栽 撤去(伐根共) W4000 * H6000	3本
	メッシュフェンス H900(基礎は再利用)	83.51m	ウ	植栽 撤去(伐根共) W600 * H600	1本
	スチール製隠しフェンス H2,000 撤去	4.80m	エ	植栽 撤去(伐根共) W2000 * H2000	1本
	7尺型目隠し壁 H1,800 撤去	3.20m	カ	植栽 撤去(伐根共) W1500 * H600	1本
	コンクリート擁壁 H800 基礎共撤去 詳細図参照	16.10m	キ	植栽 撤去(伐根共) W1000 * H1000	1本
	U字溝 W240撤去	55.95m		植栽 撤去(伐根共) W1500 * H2000	6.5m ²
	景石撤去	≒φ0.5m 3か所 ≒φ1.0m 2か所		低木密植 撤去(伐根共)	



耐震改修工事特記仕様書

項目	共通特記事項	Ⅱ鉄筋工事	Ⅳコンクリート工事	Ⅵ壁スリット工事
1. 近隣からの要請、苦情の処理	<ul style="list-style-type: none"> 近隣からの要請、苦情については、請負者において対話解決し、必要があれば協定書結び、その写しを提出する。 尚、その費用負担については請負者とする。 工事中付近の構造物・道路・地下埋設物等に損害を与えない様万全の処置をなし、又、騒音・振動等については公害防止条例その他の規定に従って十分な養生と防止対策を行う。 	Ⅱ鉄筋工事 <ol style="list-style-type: none"> 材料・形状 <ul style="list-style-type: none"> SD295A規格品D10～D16（JIS G3112）（スパイラル筋はD6とする。） SD345規格品D19以上（JIS G3112） 鉄筋加工及び組み立 <ul style="list-style-type: none"> 鉄筋加工組立は共に用いる。 スパイラル筋 <ul style="list-style-type: none"> D6～φ60 スパイラル径 φ60～φ150（指針8.18.7） SD-295A（JIS G3112） スパイラル筋のピッチは、40～60mmの範囲で、スタッドやアンカーのピッチの1/3～1/6程度とする。 スパイラル筋のラップ長は、ピッチの2倍以上とし結束線で縛ることとする。 鉄筋の継手 <ul style="list-style-type: none"> 重ね継手 ガス圧接継手 ・SD345（径19mm以上） D19～D25、SD390 D29～D32 注意事項 <ul style="list-style-type: none"> スパイラル筋や壁筋等の材料の加工に先立ち構造体寸法を測定し、これらの補強筋等を、実状に合った寸法に加工する。 	Ⅳコンクリート工事 <ol style="list-style-type: none"> コンクリート強度 <ul style="list-style-type: none"> $f_c = 21N/mm^2$以上 $\Delta F (3N/mm^2)$ を割増す事。 温度補正は共に用いる。 セメント <ul style="list-style-type: none"> セメントは、JIS R5210（ポルトランドセメント）に定める普通ポルトランドセメントとする。または、JIS R5211（高炉セメント）、JIS R5212（シリカセメント）、JIS R5213（フライアッシュセメント）に定めるA種のセメントを用いる。 骨材 <ul style="list-style-type: none"> 骨材は、砂、砂利または砕石を用いる。粗骨材の最大寸法は、打込み箇所に応じて定める。 混和剤 <ul style="list-style-type: none"> 通常の場合、A E剤またはA E減水剤を用いる。 混和材 <ul style="list-style-type: none"> 普通ポルトランドセメントを用いる場合に限り、必要に応じてフライアッシュを用いてもよい。ただし、フライアッシュはJIS A6201（フライアッシュ）に規定するものとし、その使用量はJIS R5213（フライアッシュセメント）に規定するA種セメントに相当する量までとする。 膨張混和剤 <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じ、膨張性混和剤を用いてもよい。 増粘性混和剤 <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じ、増粘性混和剤を用いてもよい。 注意事項 <ul style="list-style-type: none"> 増設部分と既存コンクリート体との接合面については既存コンクリート構造体面を直視し、コンクリート打設前に十分な水湿しを行う。 コンクリートの打設にはバイブレーターの使用、又はタタキにより密実なコンクリートとなるように十分な施工計画を立てる。 コンクリートは、乾燥収縮低減を考慮したコンクリートとして配合計画を行う。 コンクリートは梁下20cmまで打設し壁際はグラウトモルタル圧入とする。 コンクリートの強度発現期間内は十分な保湿状態を発生する。（型枠養生は1W以上とする） 	Ⅵ壁スリット工事 <ol style="list-style-type: none"> 施工内容 <ul style="list-style-type: none"> 図示された短柱部分について、じん性の向上を目的としたスリットを新設する。 尚、図中特記なき限り完全スリットにより施工するものとする。 施工上の注意事項 <ul style="list-style-type: none"> 完全スリットの場合 スリット巾は50mmとし、両面より施工の上完全にはつり取るものとする。 施工手順 <ol style="list-style-type: none"> 1) カッター切断・はつり工事 2) 清掃 3) バックアップ材充填（現場発泡ウレタン吹付） 4) 周囲清掃 EXP-Jカバー（50用アルミ製）取付 シーリング打ち
2. 改修工事の記録及び養生	<ul style="list-style-type: none"> 改修工事の着手に当たり、既設建物の記録写真を撮り、現状の仕上材料等を十分調査を行い把握する。 又、工事場所以外の建物設備に支障を及ぼさないよう、仮設・養生に十分留意すると共に、工事中、万一、汚損・損傷を与えた場合には現状に復するものとする。 			
3. 改修工事中の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 本工事は建物を使用しながらの工事となるため、工事期間中は騒音・振動・塵埃飛散等により、その部分の使用に支障を与えない様、又、工事関係者以外の者に対する安全及びプライバシー等十分留意すること。 工事場所には、工事表示看板及びお願ひ看板等を配置すると共に、必要な箇所には安全柵を設けること。 又、万一第三者の生命・財産の障害が生じた場合、及び第三者との間に紛争が生じた場合は、請負者において処理解決しその費用を負担する。 騒音・振動を発生する工事は、土・日作業を原則とする 			
4. 安全管理	<ol style="list-style-type: none"> 工事期間中安全管理については、特に注意し仮設仮囲、安全柵等保安上の処置をとる。又、資材の搬入搬出する場合は関連工事及び別途工事と調整の上、時間帯・方法・経路・集積場所等について施設管理者及び監督員と協議を行い決定する。 火気の使用は権力遅れ、止むを得ず使用する場合は特に取扱い、養生・後始末を十分注意する。又、火気使用の場合は保安担当者へ届ける。 	Ⅲアンカー工事 <ol style="list-style-type: none"> 材料・形状 <ul style="list-style-type: none"> SD295A規格品 SD345規格品 特記なき限り 接着系アンカーとする。 接着系アンカー樹脂カプセルは、有機系のものとする。 接着系横向き・上向き施工を行う場合は、専用カプセルを使用する。 増設壁内に定着するアンカー筋は原則として頭付き異形鉄筋とし、定着長さは20da以上とする。 鉄骨プレースの接着系アンカー長さ設計図による。尚、スタッドジベルとのラップ長さはアンカー筋の1/2以上とする。 接着系アンカーのアンカー筋の先端部の形状は、片側斜め45度でカットする。 アンカー有効埋込長さは7da（埋込長さは8da）以上とする。 開口補強筋及び増打補強筋（主筋）のアンカー有効埋込長さは10da以上とする。 接着系の固着材は、凍結所で保管し、保証期限を過ぎたもの及び流動性が変化したものは使用しない。 素材強度 <ul style="list-style-type: none"> 素材強度については、下記6) に示す試験方法に基づいて定められている各メーカーの品質管理基準により保証されている値以上とする。（指針 表8.2.7） 工事着手前にアンカーの所要性能が確認できる資料を係員に提出する。 事前調査 <ul style="list-style-type: none"> あと施工アンカー設置に先立って鉄筋調査を行い、既設鉄筋が干渉しない位置を確認する。 施工方法 <ol style="list-style-type: none"> ①埋込み位置 <ol style="list-style-type: none"> アンカーの間隔、埋込み深さ等は壁筋リスト及び基準詳細による。 施工面にモルタル等の仕上材がある場合には、必ず取除いた後に施工する。 施工面の躯体には深さ5～10mmの直視を施すこととする。 ②母材穿孔 <ol style="list-style-type: none"> 穿孔径は、各メーカーのアンカーの規格に合った適正なドリルビットの直径とする。 穿孔深さは、アンカー構造規定を満足するものとし、目視し面から孔底の隅までとする。 穿孔深さの管理は、ドリルビットに穿孔深さのマーキングを施すとか、埋込み機械のデップスゲージにより行う。 ③孔の清掃 <ol style="list-style-type: none"> 接着系アンカーでは付着力を低下させるので、必ず専用ブラシを用い孔側面の切り粉を取除く。 雨水等が孔内に入った場合には、孔内の水を除去しアンカーの埋込み時期等は係員の指示による。 ④接着系アンカーの埋込み <ol style="list-style-type: none"> カプセルは使用可能期限内のものであることを確認する。 アンカー筋には必ず埋込み深さのマーキングを施す。 アンカー筋は、埋込み機械により打撃、回転を与えて孔底まで垂直に埋込込。 天井施工で硬化養生中にボルト脱落あるいは樹脂の流失が予想される場合は脱落防止、流失防止の処置を講ずる。 樹脂が硬化するまで養生を行い、その間荷重等をかけない。 ⑤製品の保管 <ol style="list-style-type: none"> 製品の運搬及び貯蔵にあたっては、熱、光熱に対して十分配慮すること。 		
5. 工事中の停電対策	<ul style="list-style-type: none"> 工事期間中は使用中の場所に対し、停電を生じさせないように十分注意する。 			
6. 工事工程	<ul style="list-style-type: none"> 工事工程・作業順序等については施設業務機能に支障がないよう事前に、各所管理者及び監督員と協議を行い、工事工程を作成し承認を得た後、着手すること。 			
7. 図面に記載のない事項について	<ul style="list-style-type: none"> 図面に記載のない事項であっても、機能上、納まり上当然必要と認められるものは監督員の指示により請負金額の範囲内にて施工する。 			
8. 図面寸法	<ul style="list-style-type: none"> 現地再調査のうえ、現地寸法に合わせる。 			
9. 現地施工	<ul style="list-style-type: none"> 耐震補強の施工にあたっては、本仕様書及び混雑員建築工事特記仕様書により施工する。 又、騒音・振動・塵埃等が発生する工事は、原則、土・日曜日・祭日に施工するものとする。 			
10. 施工順序	<ul style="list-style-type: none"> 施工順序は、監督員及び施設担当者との協議に上決定する。 			
11. 施工参考業者	<ul style="list-style-type: none"> 昭和工事㈱、ショーボンド建設㈱、富士工業㈱、ケーエス㈱ 又は同等業者 			
I撤去工事				
1. コンクリート切断	<ul style="list-style-type: none"> 解体工事に際しては、施設及び近隣への騒音対策のための低騒音工法のクラッシュャー工法とし、工事専門業者の施工とする。 撤去工事範囲は図示による。 			
2. 注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 補強工事に先立ち、内装材及びコンクリート部材表面のプラスター、モルタルなどの仕上げ材を除去する。 新しくコンクリートまたはモルタルを打ち次ぐ部分（増設部材と接する既存面）の表面は適当な直視し、またははつりを行う。（平均深さ0.5～1.0cm程度） はつりに際しては、他の部分にひび割れを起こさないよう慎重に行う。（梁・柱・土間コンクリート等との接合部は予めカッターで切り込みを付けてから除去する） 既設配管・配線などを予め調査し、損傷を与えないように十分注意すること。 既設仕上げなどの撤去の際は、最低限必要な範囲とし、範囲外の部分には損傷を与えないよう養生など、十分に注意する。 プレース設置等コンクリート解体の際、特に上側に關しては、コンクリート塊の飛散には十分注意を払い、落下防止対策を講ずること。 解体工事に際して、施設運営に支障をきたすような騒音の出る恐れがある場合、適当な工法を検討すること。尚、やむを得ない場合は休日等に近隣住民などへ配慮の上で施工計画を立てること。 			



項目	コンシステンシーの範囲	圧縮強度	乾燥収縮
Jロート (砂)		(N/mm ²)	(×10 ⁻⁴)
品質	8±2	30	0

⑦ コンクリート工事

1. コンクリート工事計画
 - 1) 一般的注意
補強工事は一般に、建物各部にコンクリートを少量ずつ打込む工事となるので、工事計画はその条件に応じ所定のコンクリートの品質が得られるように定めなければならない。
 - 2) レデーミクストコンクリート工場の選定
レデーミクストコンクリートによる場合、現場でのコンクリートの打込みに要する時間を考慮し、練りませ開始から所定の時間内のコンクリートの打込みを完了することができるような工場を選定する。また、工場は原則としてJIS指定工場とする。
 - 3) 打込み区画
打込み区画は、建物内でのコンクリートの運搬方法、各打込み箇所での打込み、締固めに要する時間、1日の打込み可能量、練りませ開始から打込み完了までの時間の限度などを考慮して、工程に無理が生じないように定める。
2. 調 合
 - 1) 設計基準強度
設計基準強度は既設コンクリートの設計基準強度以上かつ21N/mm²以上とする。
 - 2) 所要スランプ
所要スランプは、原則として18cm以下とし、打込み可能な範囲でできるだけ小さくする。
 - 3) 水セメント比の最大値
水セメント比の最大値は65%とする。
 - 4) 単位セメント量の最小値
単位セメント量の最小値は300kg/m³とする。
3. 打込み前の準備
 - 1) 打込み前に既設コンクリート部材表面の研りあはせは圧縮空気、吸引機、掃除機あるいは水などで十分に掃除する。
 - 2) 打込み前には、せき板、既設コンクリート表面など打込まれるコンクリートに接する面は十分水湿しを行い打込まれるコンクリート中の水分が吸収されないようにする。
4. 打込みおよび締固め
 - 1) 打込みは、下からの圧入や上層スラブに打込み用開口部を設けて打込み面が水平になるように注意しながら行うなど確実な方法による。
 - 2) 増設する部材または打増し部分と既設の上部架構とを一体化する必要がある場合は、上部に高さ15cm程度の空間を残し、グラウト圧入工法を行うことを原則とする。但し、2段打工法を採用する場合は、事前に詳細な施工要領書を監督員に提出し、承諾を得る。
 - 3) 締固めは、振動機を用いるほか、補助的に突き締め、たたき締めを行い、コンクリートを密実に締固める。
5. 養 生
 - 1) コンクリート打込み後は、コンクリート中の水分が発散しないよう、必要に応じ、型わく面に散水したり、覆いをかけるなどの措置を講ずる。
 - 2) 型わくの取りはずし後、引き続き湿潤養生を必要とする場合は、散水やコンクリート表面をシートで被覆するなどの措置を講ずること。
 - 3) 膨張性混和材を用いる場合は、コンクリートを7日間以上湿潤状態に保つこととする。
6. 型わく
 - 1) 型わくは、コンクリート側圧、打設方法、セパレーターの取付け方法などを考慮して設計する。
 - 2) 型わくの組立ては、打上りコンクリート部材の位置および断面寸法の精度が十分保たれるよう、特に注意して行う。また既存部材と型わくの取合い部、モルタル等の漏出が生じないように適切な措置を講ずる。
 - 3) 鋼板を巻いて柱を補強する工法においては、コンクリートの側圧による鋼板のはらみだしを防ぐような適切な処置を講ずる。
 - 4) 型わくは、できるだけ型わく振動機が使用しやすいように組立てる。

⑧ 補強用モルタル工事

1. 適用範囲
本項は、柱補強のために用いるモルタルの工事に適用する。
2. モルタルの調合
 - 1) モルタルの圧縮強度は、既設コンクリートの設計基準強度を下まわらないものとする。
 - 2) コンシステンシーは、打込み箇所および打込み方法に応じて密実な打上り状態が得られる範囲内で、できるだけ硬練りとする。

- 3) 調合はJIS R5210（セメントの物理試験方法）のフロー試験によるモルタルのコンシステンシーに応じ、下表を標準とする。

〔 1 表 〕

フロー値 (mm)	セメント：細骨材 (重量比)
180未満	1：3
180以上240未満	1：2.5
240以上	1：2

打込み方法	打込み箇所断面最小寸法 (cm)	フロー値 (mm)
上から流し込み	6 cm 未満	250～280
	6 cm 以上	220～250
圧 入	—	200～240
吹 付	—	140～160

3. モルタルの打込みまたは吹付け
 - 1) 型わく内または補強用鋼板内にモルタルを打込む場合は、上部から流し込むか下部から圧入する方法によるものとし、均一・密実な仕上がりが得られるようにする。
 - 2) 吹付けによる場合は、JASS15による。
 - 3) 打込みまたは吹付けに先立ち、既設コンクリート表面および吸水性のせき板表面は、十分に吸水した状態とする。
4. 養 生
養生は、コンクリートの場合と同様に行う。

⑨ グラウト工事

1. 適用範囲
本項は、増設壁上部など、既設コンクリート部材と補強部材の接合部を注入または圧入によりグラウトする場合に適用する。
2. 調 合
 - 1) グラウトモルタル（圧入用無収縮モルタルを含む）の圧縮強度は補強部材コンクリートの設計基準強度を下まわらないものとする。
 - 2) コンシステンシーは、注入箇所および注入方法に応じて定める。
3. 製造・運搬
 - 1) グラウトミキサーは、均一なグラウトモルタルが得られるものとする。
 - 2) 運搬はグラウトモルタルが過度に分離しないような方法による。
4. 注入または圧入
 - 1) グラウトモルタルは、注入または圧入により打込む。
 - 2) 注入または圧入に先立ち、既設コンクリート表面および吸水性のせき板表面は、十分に吸水した状態とする。
 - 3) 注入または圧入は適切な圧力で中断しないように行う。
 - 4) 空気抜きを設け、グラウトモルタルが空気抜きに出てくることを確認する。
5. 型わく
 - 1) 型わくは、グラウトモルタルの漏出のないよう組立てる。
 - 2) 型わくは、グラウトモルタルの注入または圧入に対して十分に抵抗できる剛性を持ち、かつグラウトモルタルの膨張圧を適切に拘束できるものとする。
 - 3) 型わくの取りはずしは、グラウトモルタルが十分に硬化し、かつ型わくによる膨張圧の拘束が不要になってから行う。
6. 養 生
養生は、⑦-5によるほか、膨張性混和材を用いた場合は、特に入念な湿潤養生を行う。
7. 施工業者の責任において、供試体を作製し、公的機関で試験を行う。
試験は、1日に施工する毎に、J ロート試験を行い、圧縮試験供試体を作製する。
供試体は、径50mm、高さ100mmの大ききとし、材令28日3本とする。
試験は「コンクリート標準示方書（土木学会）」プレバドコンクリートの圧縮試験方法による。
コンシステンシー試験はJロート試験方法による。

II 鉄骨枠付ブレース補強

1 一般仕様

1. 補強位置 : 鉄骨枠付ブレースによる補強
2. 使用鋼材 : a) SS400規格品
b) 頭付きスタッド JIS B 1198規格品
c) アンカー筋 JIS G 3112 3種
3. 鉄骨製作工場 : 建築工事特記仕様書 第7章による。
4. 塗 装 : JIS K 5622 船丹さび止めペイント1種
(コンクリート、モルタル、グラウト、コーキング等に接する部分に塗装しないこと。)
5. 使用鉄筋 : SD295A規格品 (D記号)
6. 使用コンクリート : 設計基準強度
F_c = 21N/mm²以上
7. 使用モルタル : 設計基準強度 調合仕様は、〔1表〕による。
F_m = 30N/mm²以上
8. あと施工アンカー (接着系アンカー) : メーカーにより素材強度が保証されたもの。
施工資格はRC壁に同じ。
9. 注意事項 : a) H型鋼材及びスライバル筋の材料加工に先立ち躯体寸法を測定し、これらの部材を実状に合った寸法とする。
b) 補強部材と既存コンクリート躯体との接触面については既存コンクリート躯体面を目荒しとし、コンクリート又はモルタル打設前に充分水湿しを行う。
c) アンカー施工に先立ち、鉄筋探知器にて鉄筋位置を確認して施工のこと。
10. 後打コンクリート : 普通コンクリートとして計画、施工する。
11. 無収縮モルタル圧入 : 鉄骨枠と躯体との間に圧入する。
12. その他 : 特記仕様書によるほか、下記による。
あと施工アンカー (接着系) の施工に先立ち、既存鉄筋 (フープ、スタラップ、柱、梁主筋) の位置を確認する為、鉄筋探知器にて、事前にその位置を充分に調査すること。
13. 鉄筋探知器 : 性能は、非破壊式高性能とすること。
14. 現地組立 : 原則として、平面状で組立て溶接後、建て起しての施工とするが、施工不可能な場合は、ピース面に取り付けから溶接すること。
15. 施工順序 : 各通り毎に施工を行い、引越し完了後次の工程に移ること。

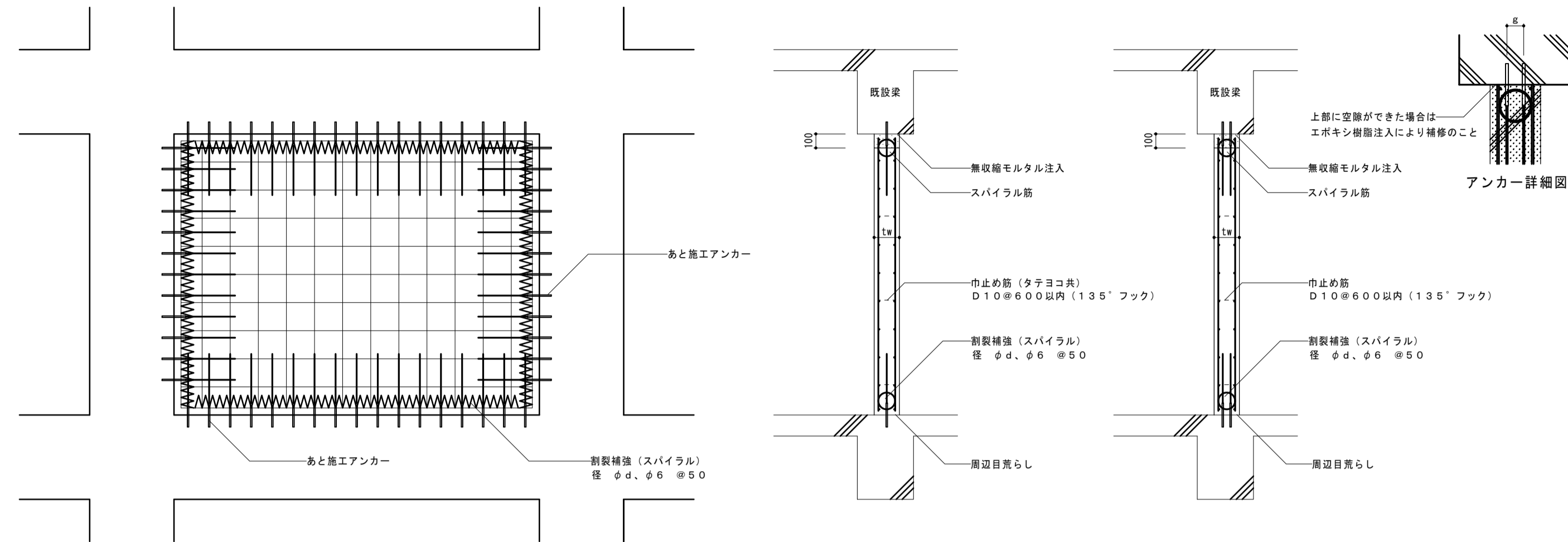
2 モルタル圧入工事

モルタル圧入工事はメーカーの責任施工とし、次の各項を厳守して行うこと。

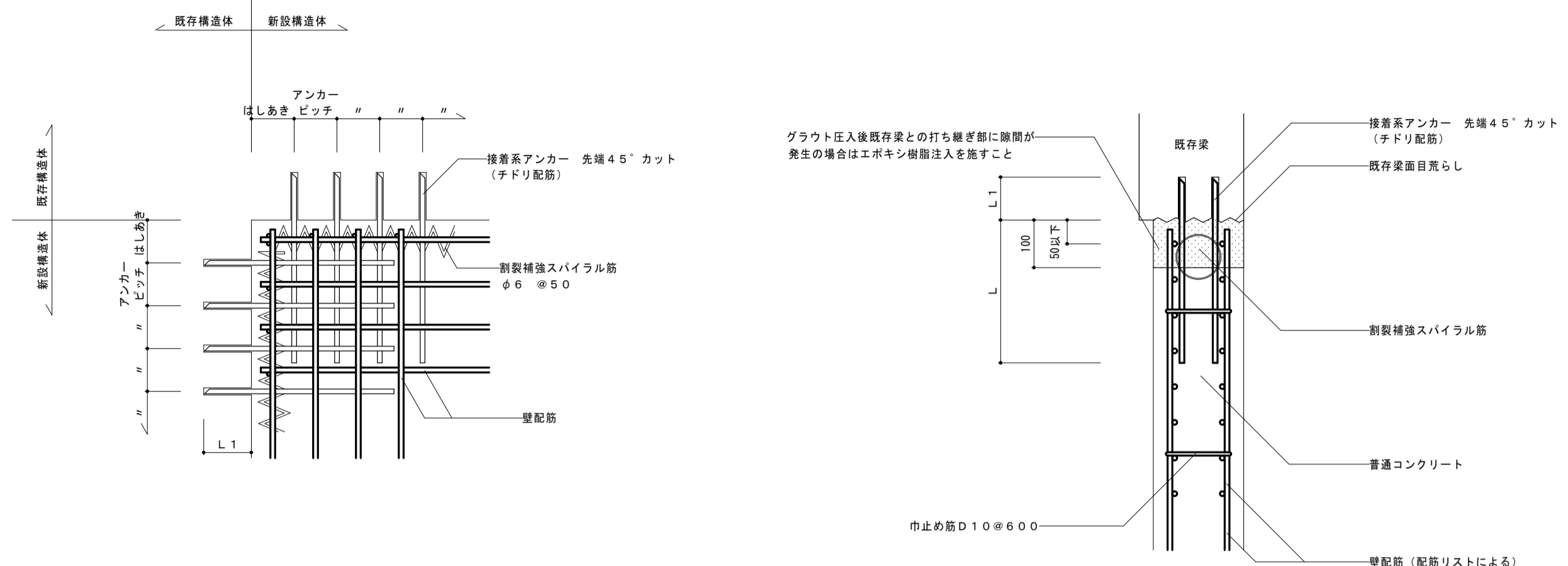
1. 圧入モルタルは、コンクリート増設壁の材料⑨に準ずる。但し、圧縮強度は30N/mm²以上とする。
2. 事前に詳細な施工要領書を監督員に提出し、承諾を得る。特に、既存コンクリート面の目荒しは空気の混入が出来ない方向とする。
3. 打込み前に、既存コンクリート表面及びコンクリート打継ぎ部の清掃及び水湿めを行う。
4. 圧入は、適切な圧力で中断しないように行う。
5. グラウト孔をスパン中央部上下部端に、空気抜きを上部スパンに設ける。
6. グラウト孔にホースを接続し、連続圧送を行う。グラウトモルタルが空気抜きに出てくることを確認した段階で注入を中断し、各空気抜きパイプを確認した後再び加圧グラウトを行い、作業を終了する。
7. モルタル圧入部の型枠は注入圧力に耐え得るグラウト用とし、周囲に急結性または速乾性コーキング材を施し、モルタル漏れのないようにする。
8. モルタルグラウト型枠取り外し時期については、監督員の指示による。(強度を確認の事)
9. 施工時及び養生期間中(7日間以上)は常に湿潤状態を保ち、圧入モルタルの温度を5℃以上を保つ。又、施工時には水温管理も充分に行い、水温10℃以上にて施工する。
10. 圧入モルタルの硬化中は圧入口、空気抜きパイプ等の密閉 (バルブ、コック) を確認し、有害な衝撃、振動を与えない。
11. 施工業者の責任において、供試体を作製し、公的機関で試験を行う。
試験は、1日に施工する毎に、J ロート試験を行い、圧縮試験供試体を作製する。
供試体は、径50mm、高さ100mmの大ききとし、材令28日3本とする。
試験は「コンクリート標準示方書（土木学会）」プレバドコンクリートの圧縮試験方法による。
コンシステンシー試験はJロート試験方法による。

標準図

新設壁の標準配筋要領 (1)



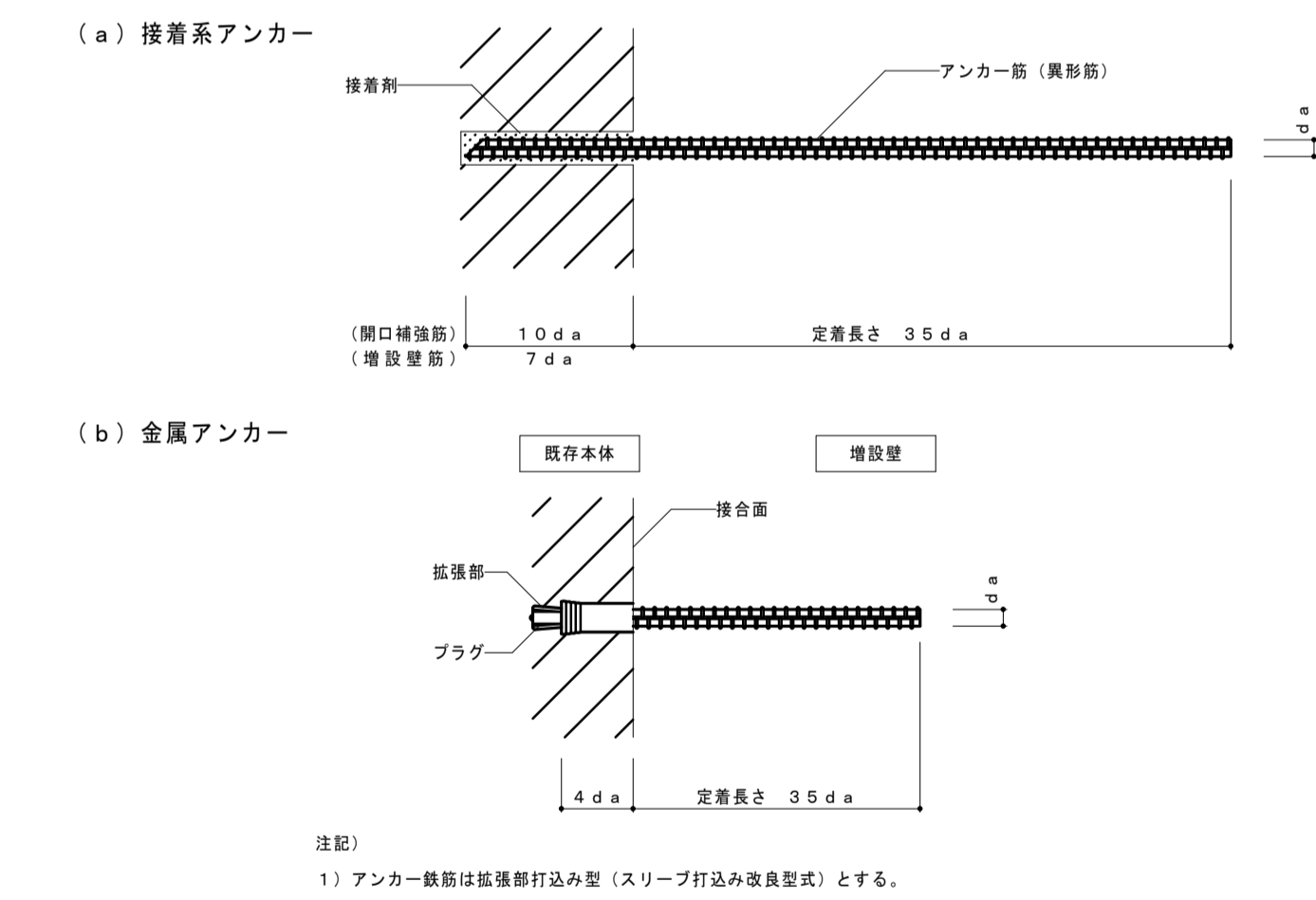
新設壁の標準配筋要領 (2)



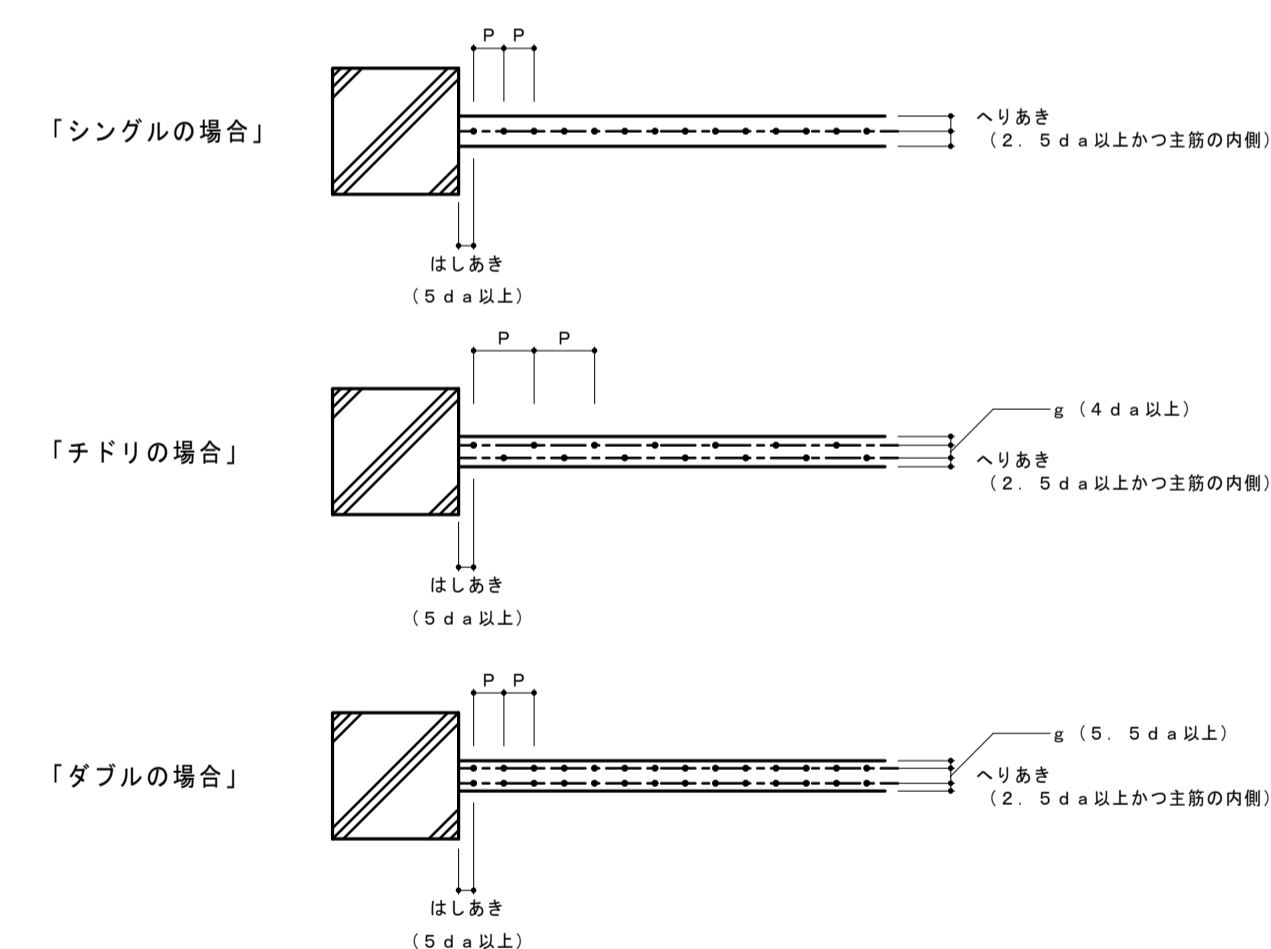
新設配筋リスト (図示)

符 号	壁厚 (mm) (t w)	主 筋 たて筋・よこ筋	アンカーの種類		スパイラル筋 スP径φd	備 考
			接着	金属		

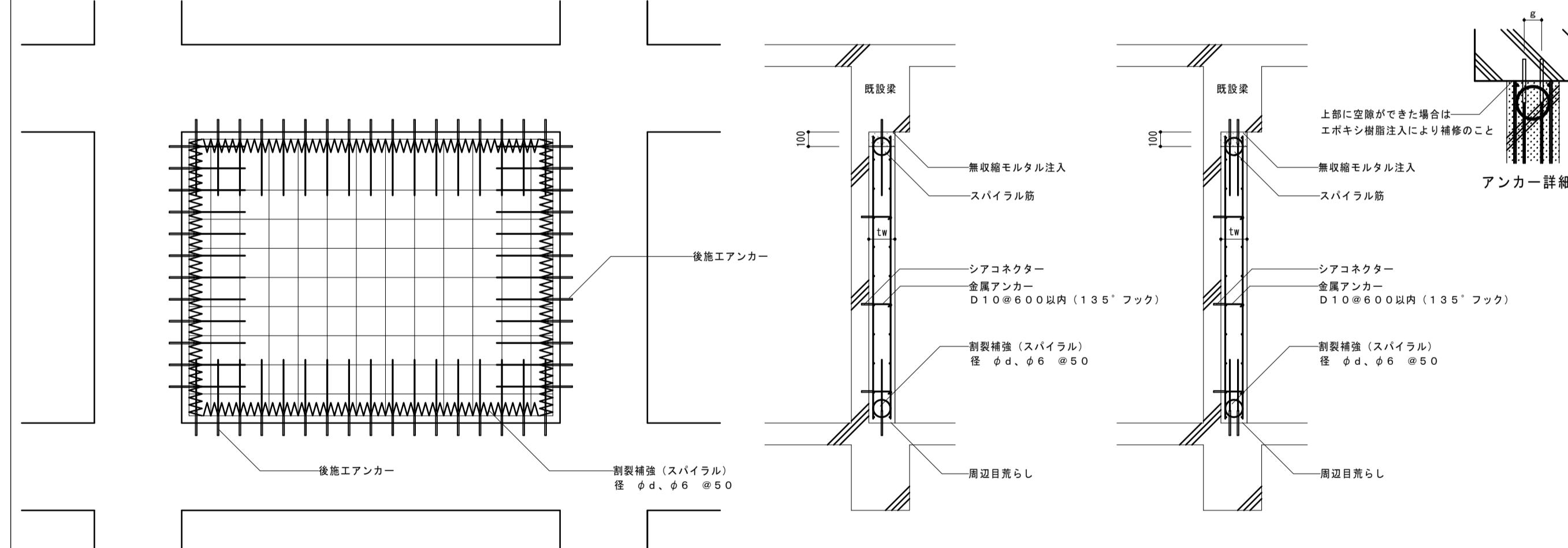
アンカーの形状



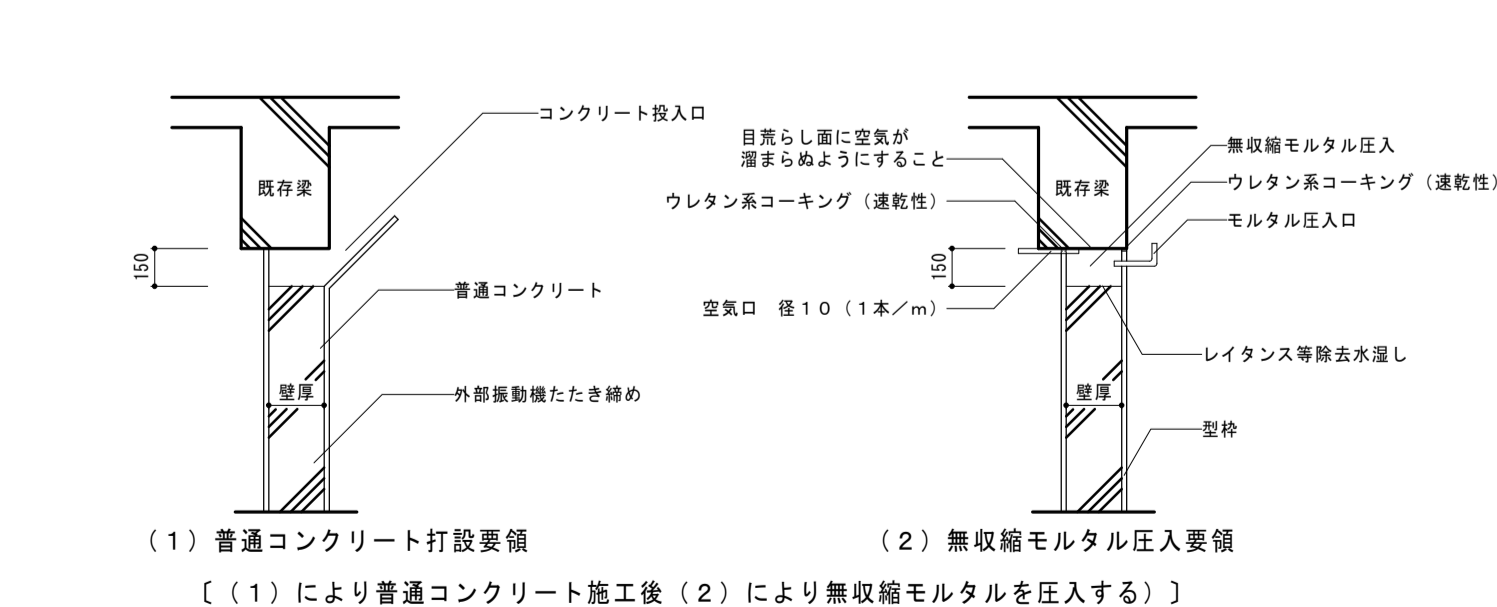
アンカーの間隔



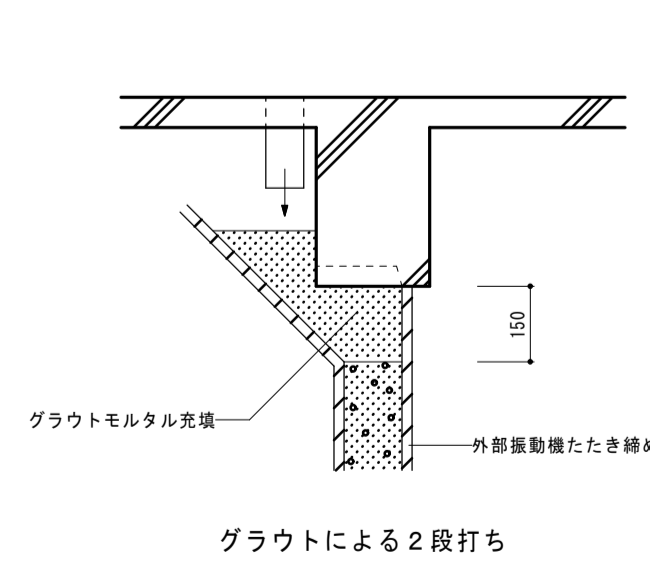
増厚壁の標準配筋要領 (1)



コンクリート及びモルタル圧入要領図



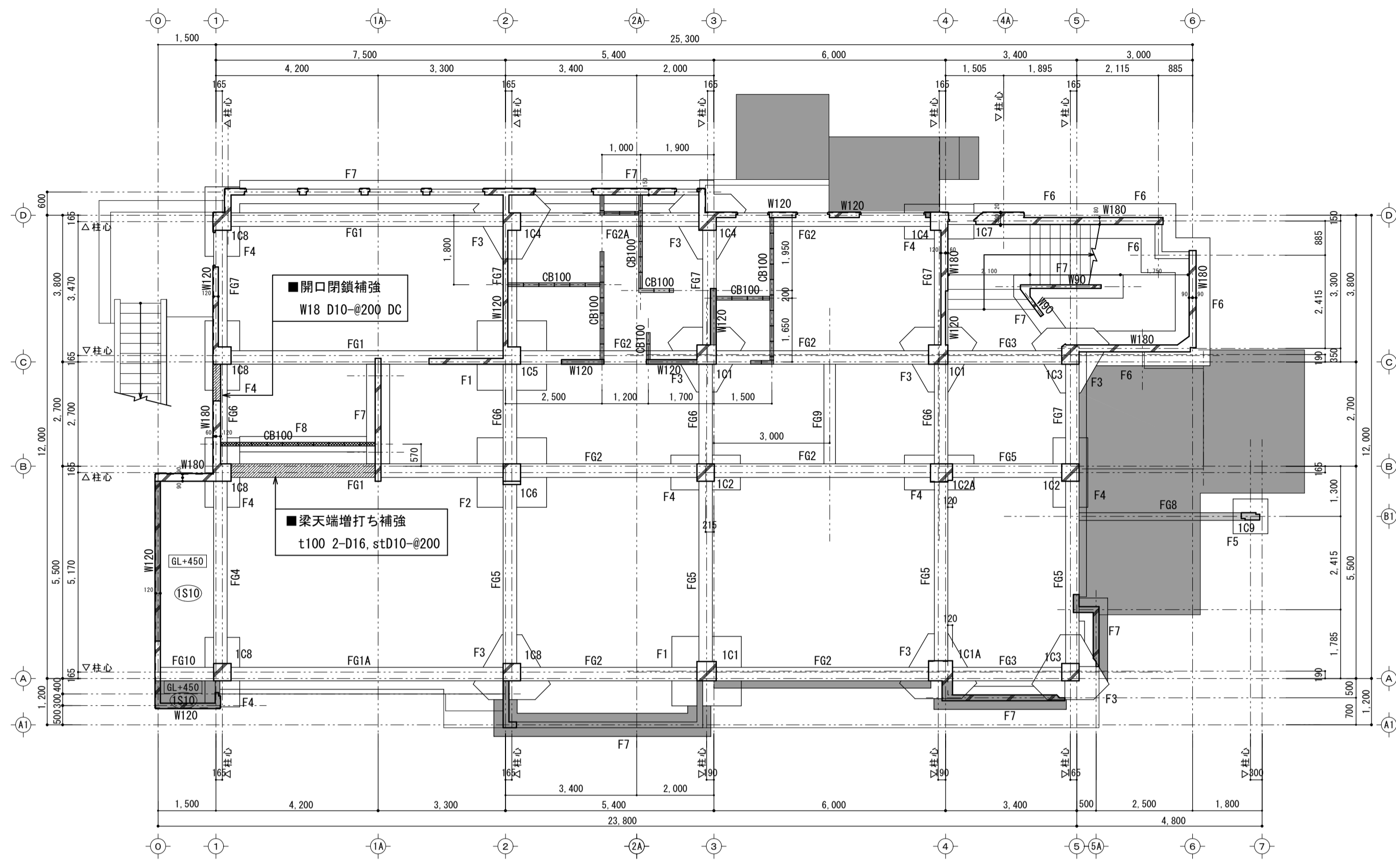
2段打ち工法要領図



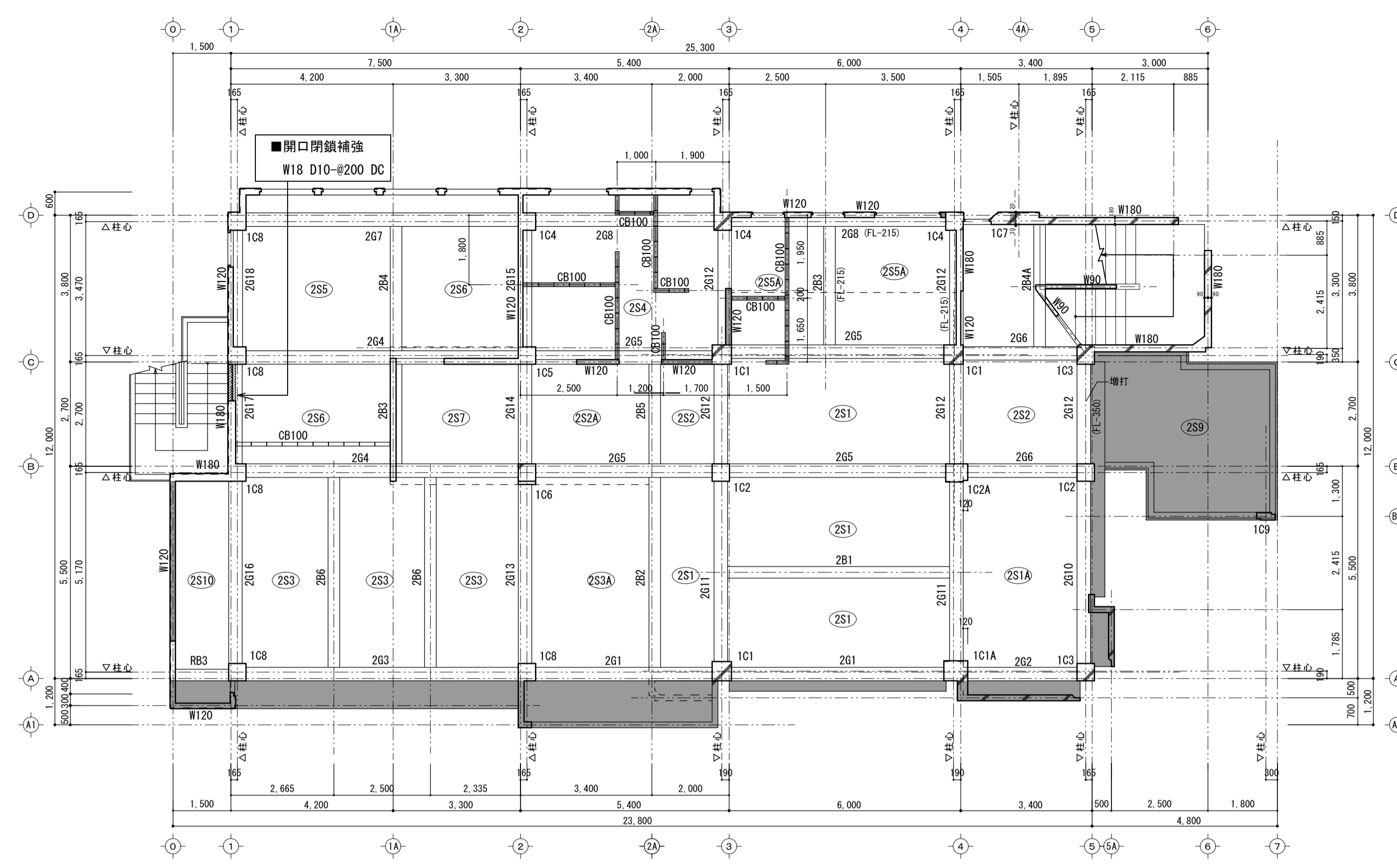
増厚壁配筋リスト

注記1. 符号寸法は、増厚分と既設厚を合計したものを示す。

符 号	増壁厚 (mm) (t w)	主 筋 たて筋・よこ筋	アンカーの種類		スパイラル筋 スP径φd	備 考
			接着	金属		
						既設壁厚
						既設壁厚
						既設壁厚
						既設壁厚
						既設壁厚
						既設壁厚
						既設壁厚
						既設壁厚



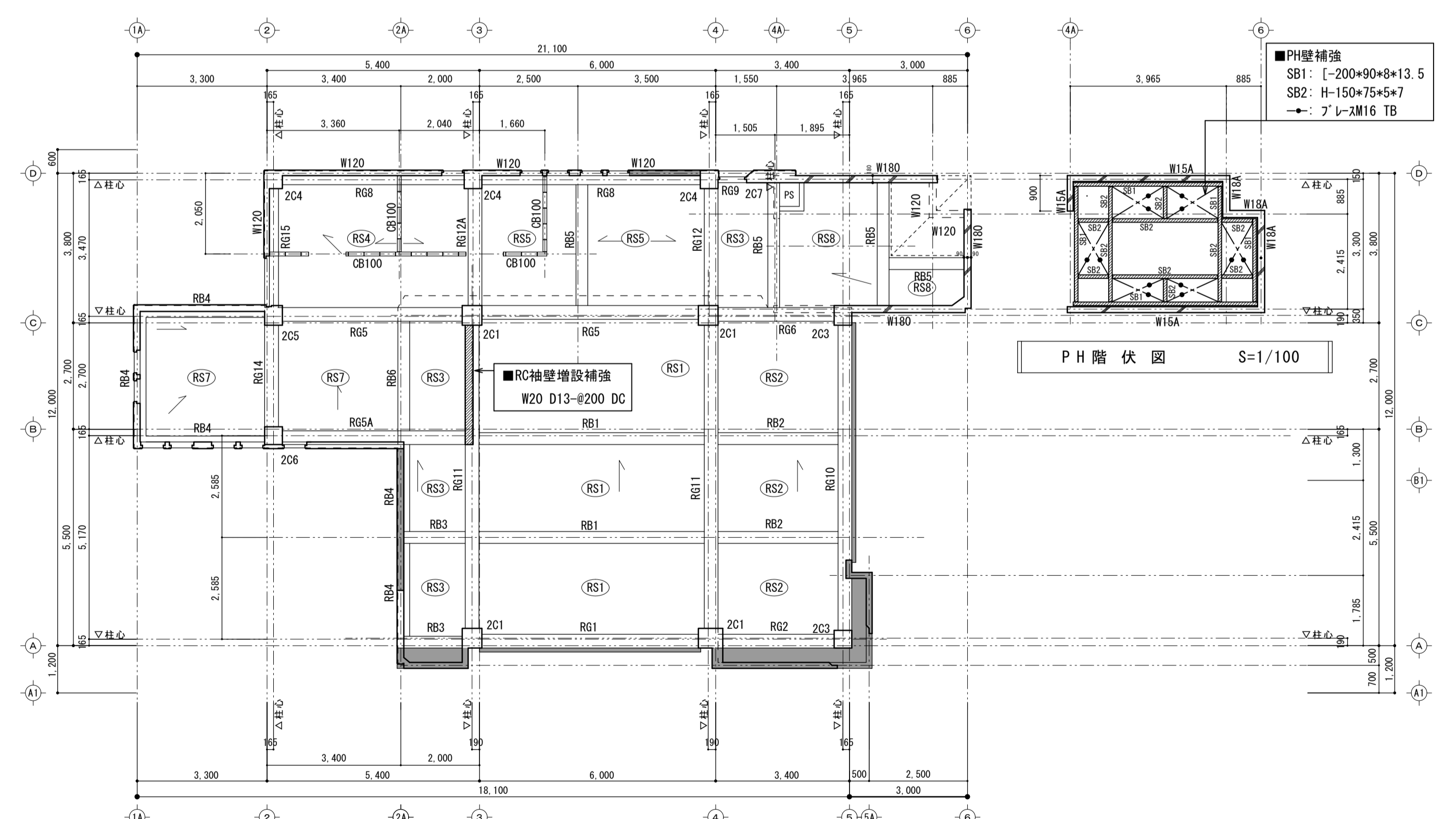
基礎伏図 S=1/100



2階床伏図 S=1/100

凡例・特記事項		
1. 特記なき壁はW150とする	3. 基礎ベース底はGL-1,100とする	5. 図中 部は耐震改修工事を示す。
2. 地中梁天端は設計GL+250とする	4. 図中 部は解体撤去部を示す	

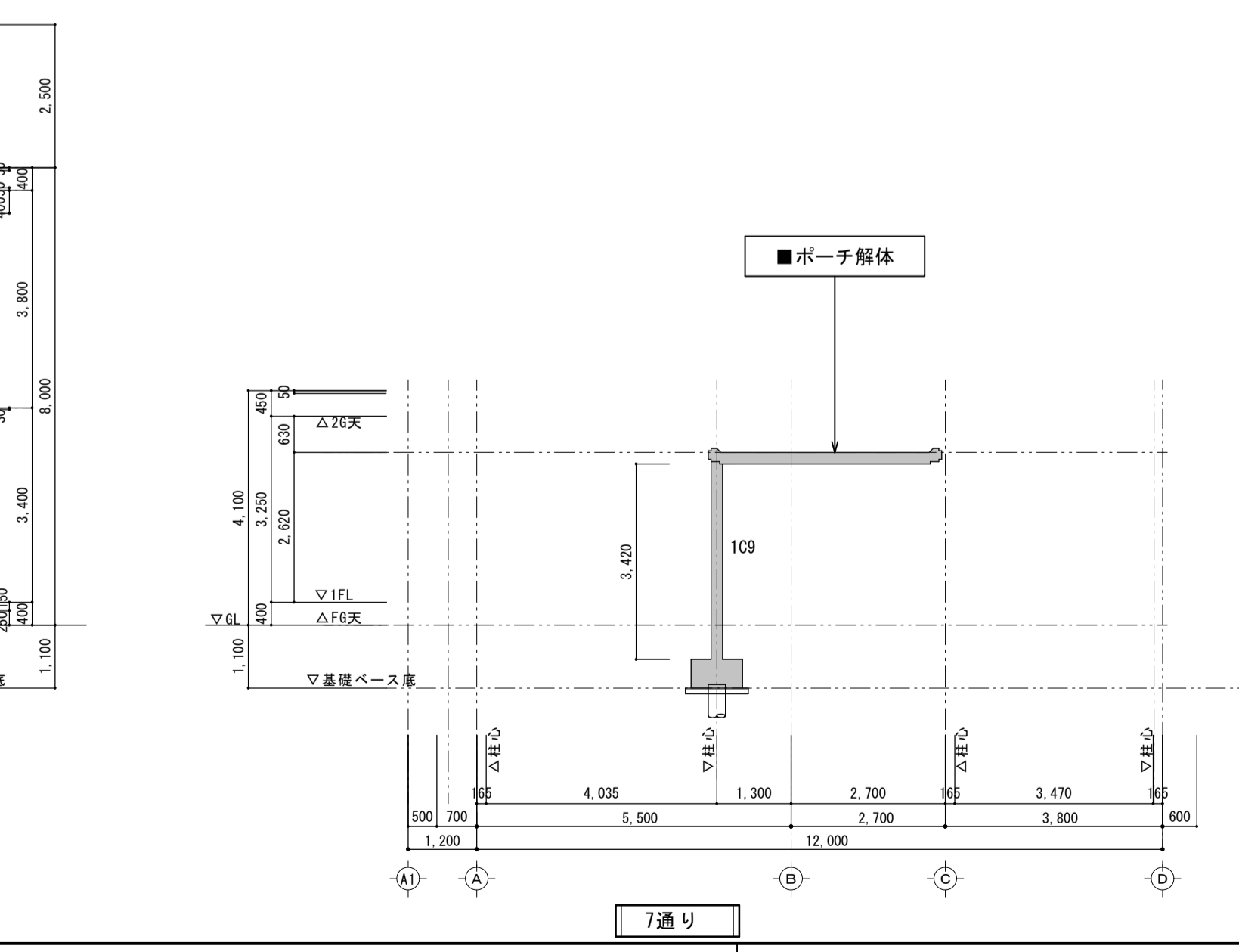
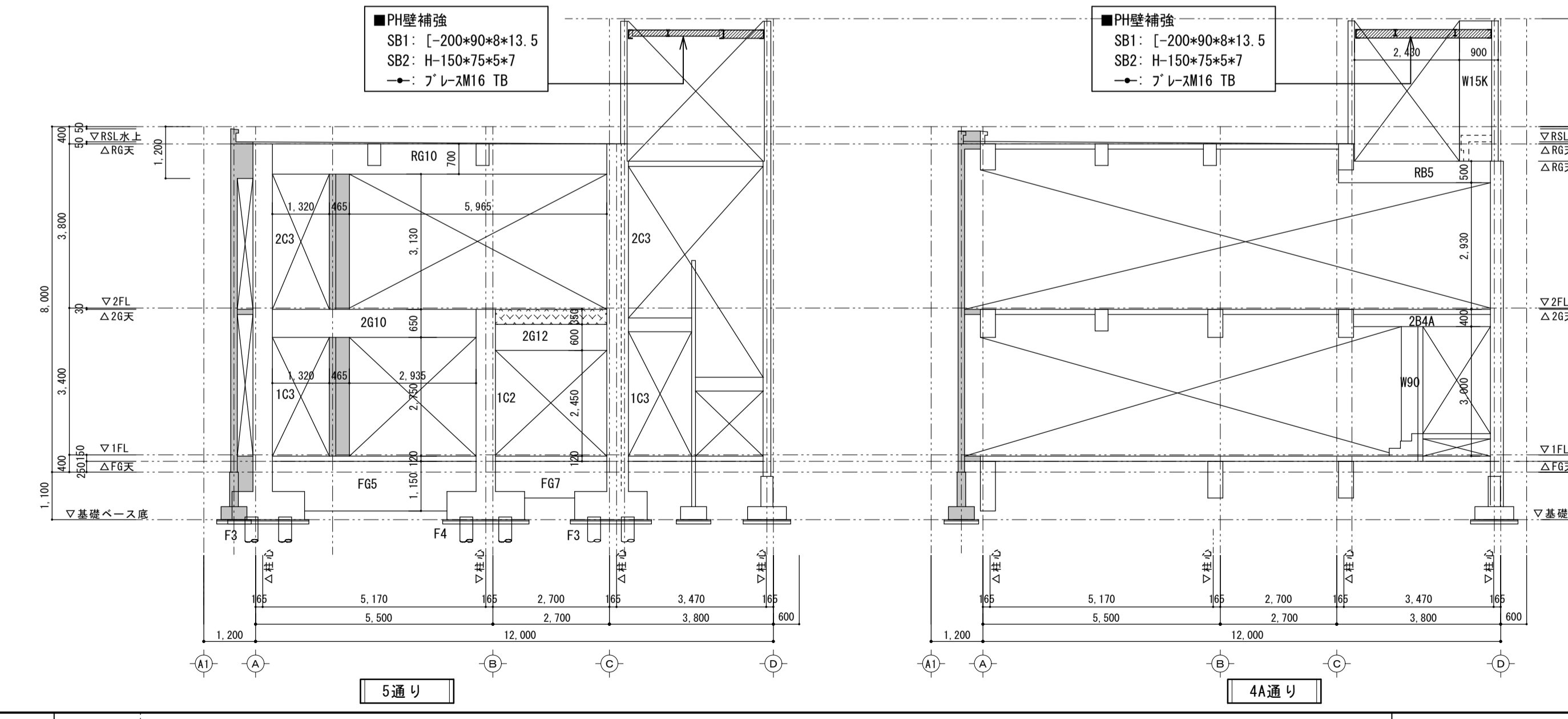
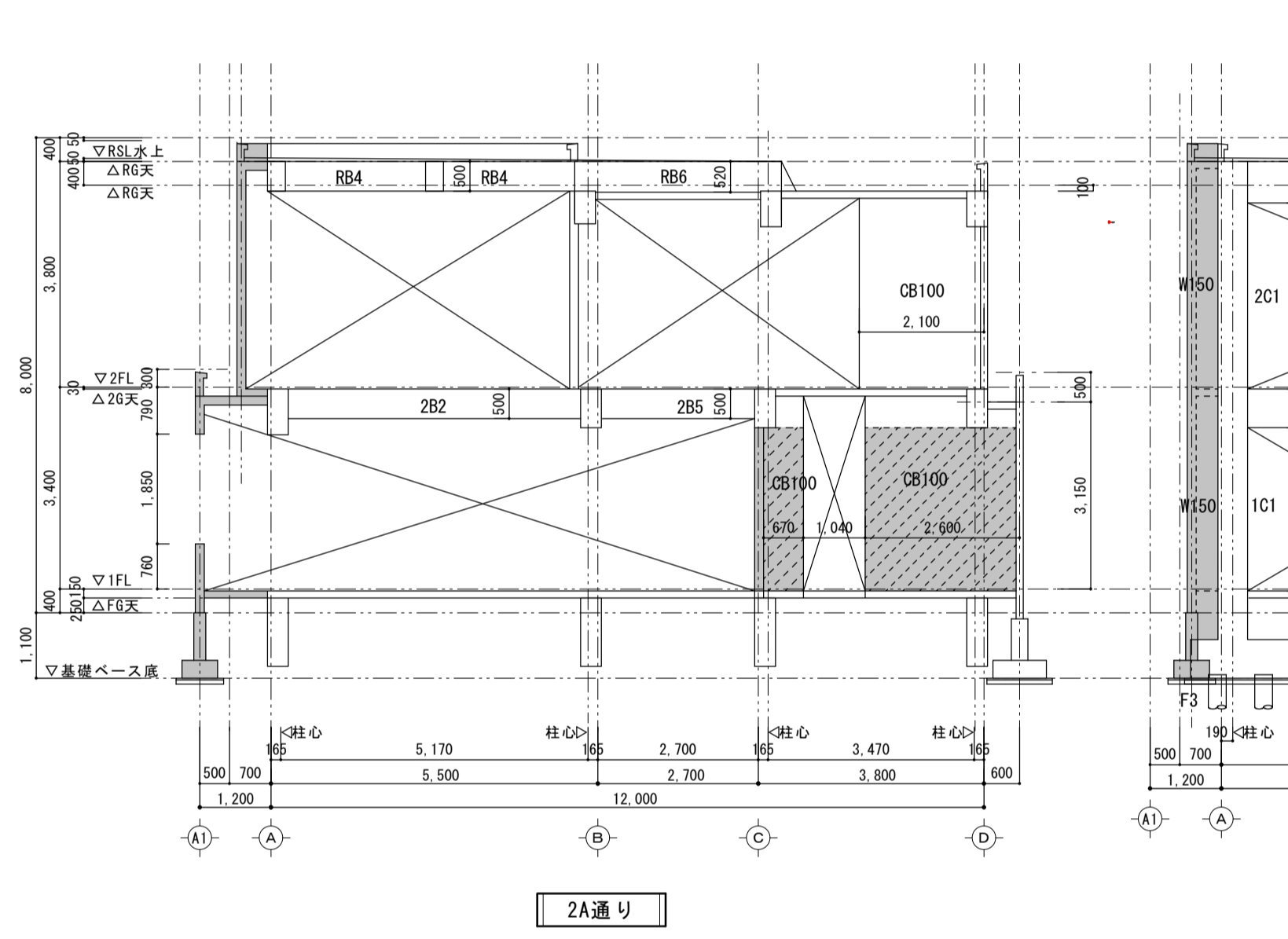
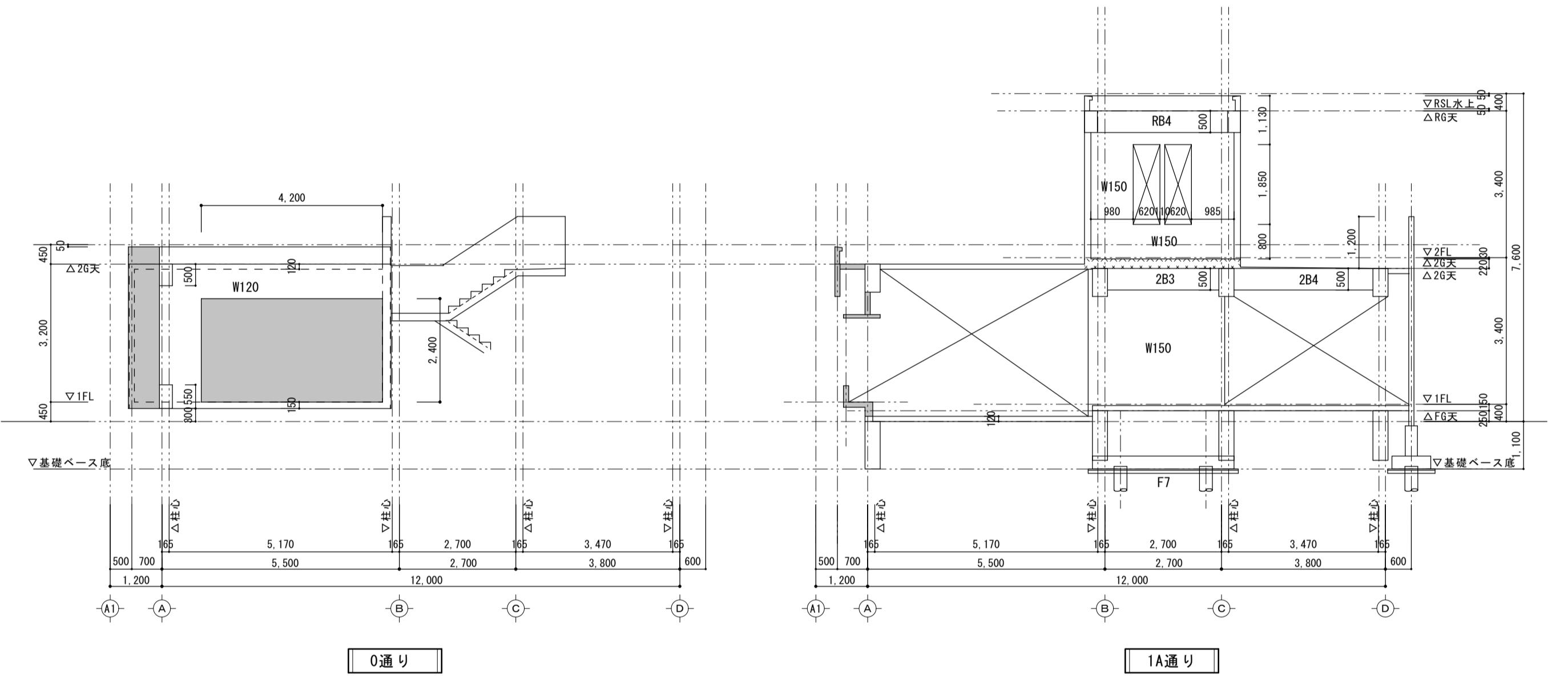
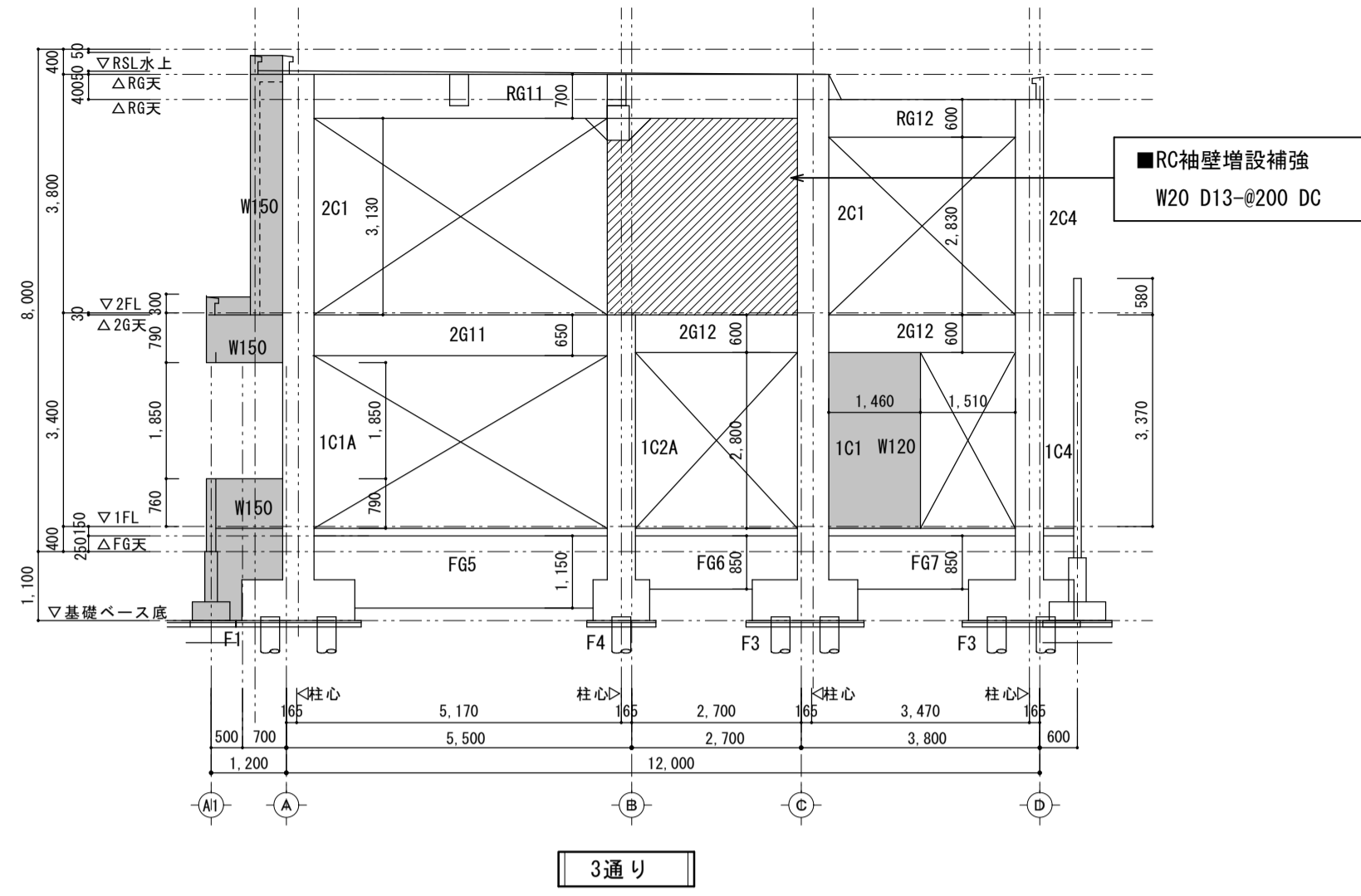
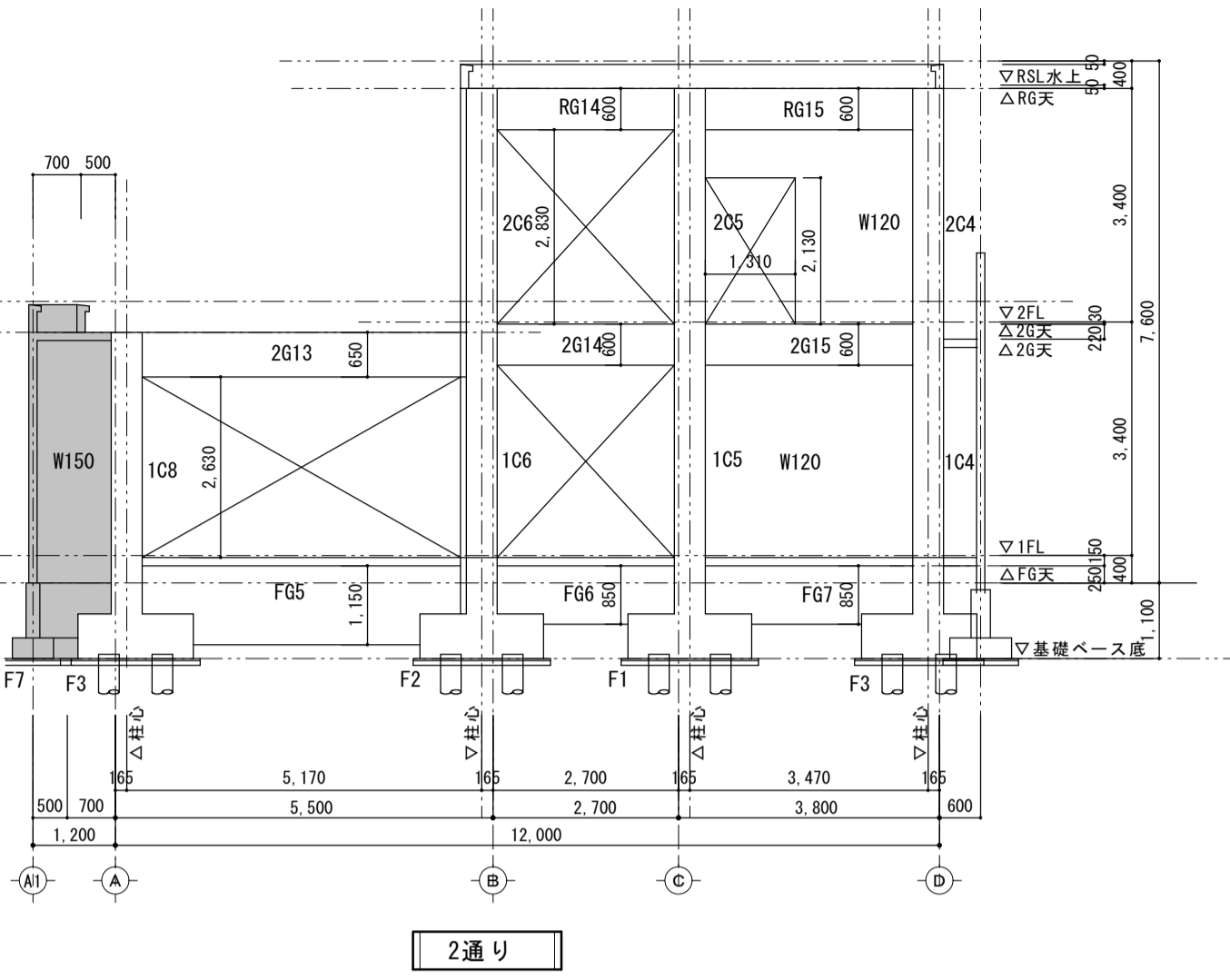
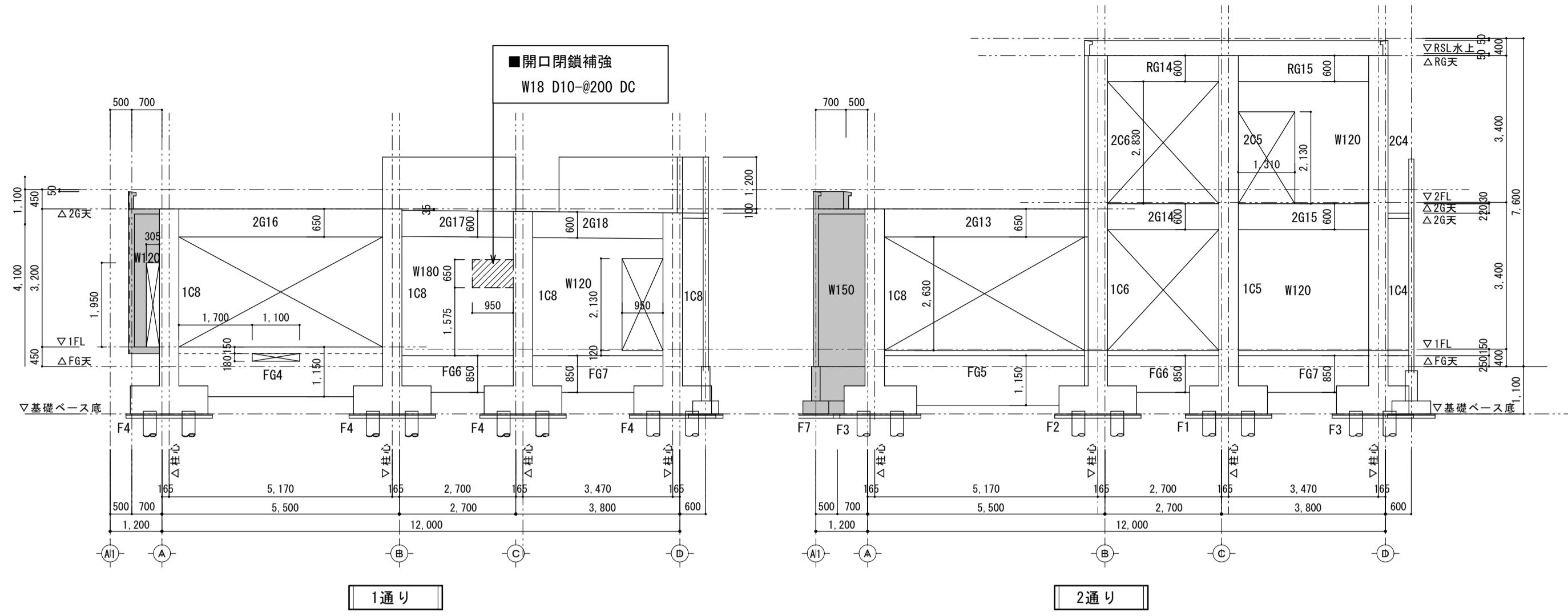
凡例・特記事項		
1. 特記なき壁はW150とする	3. 図中 部は耐震改修工事を示す。	
2. 図中 部は解体撤去部を示す		



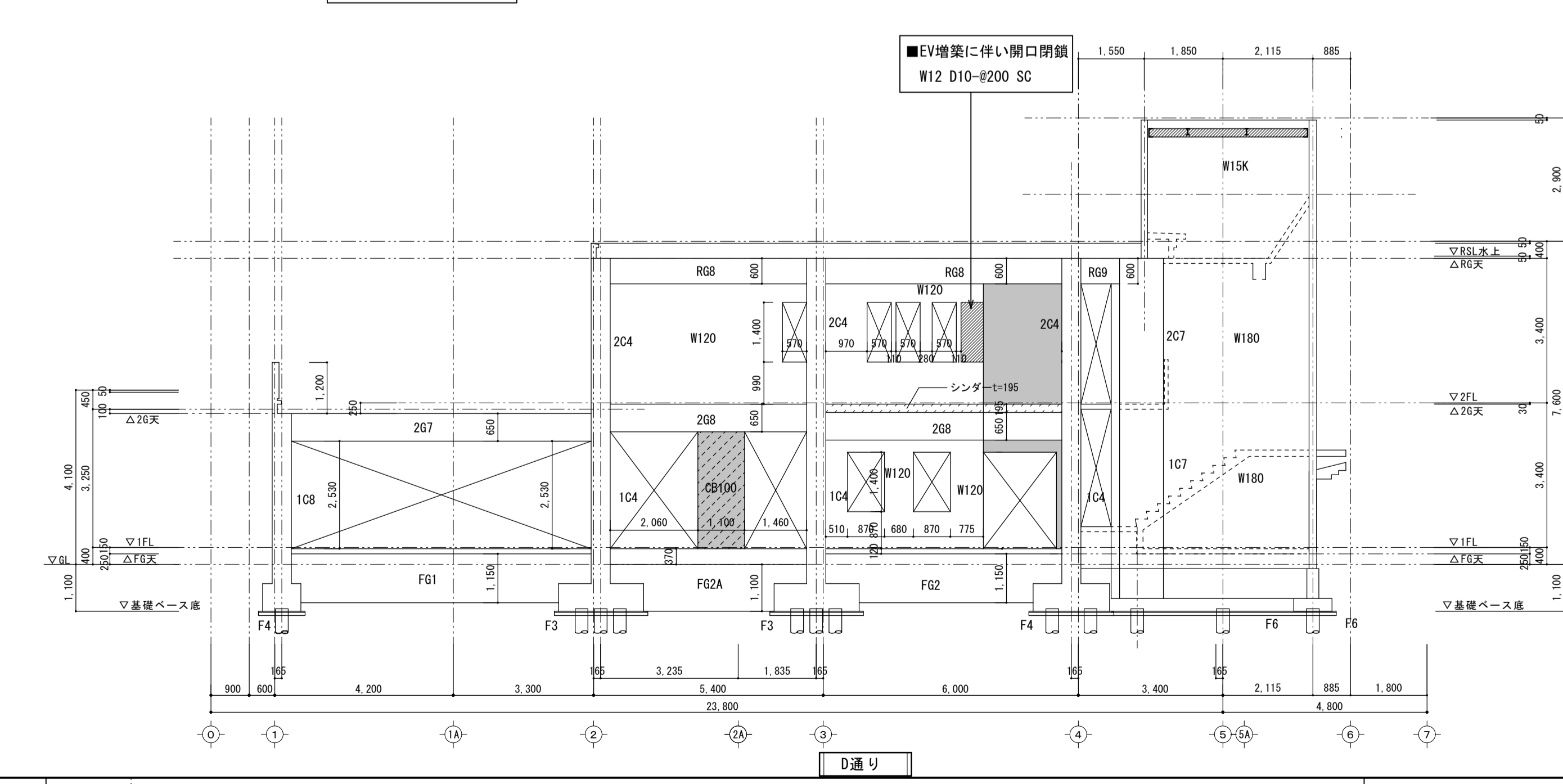
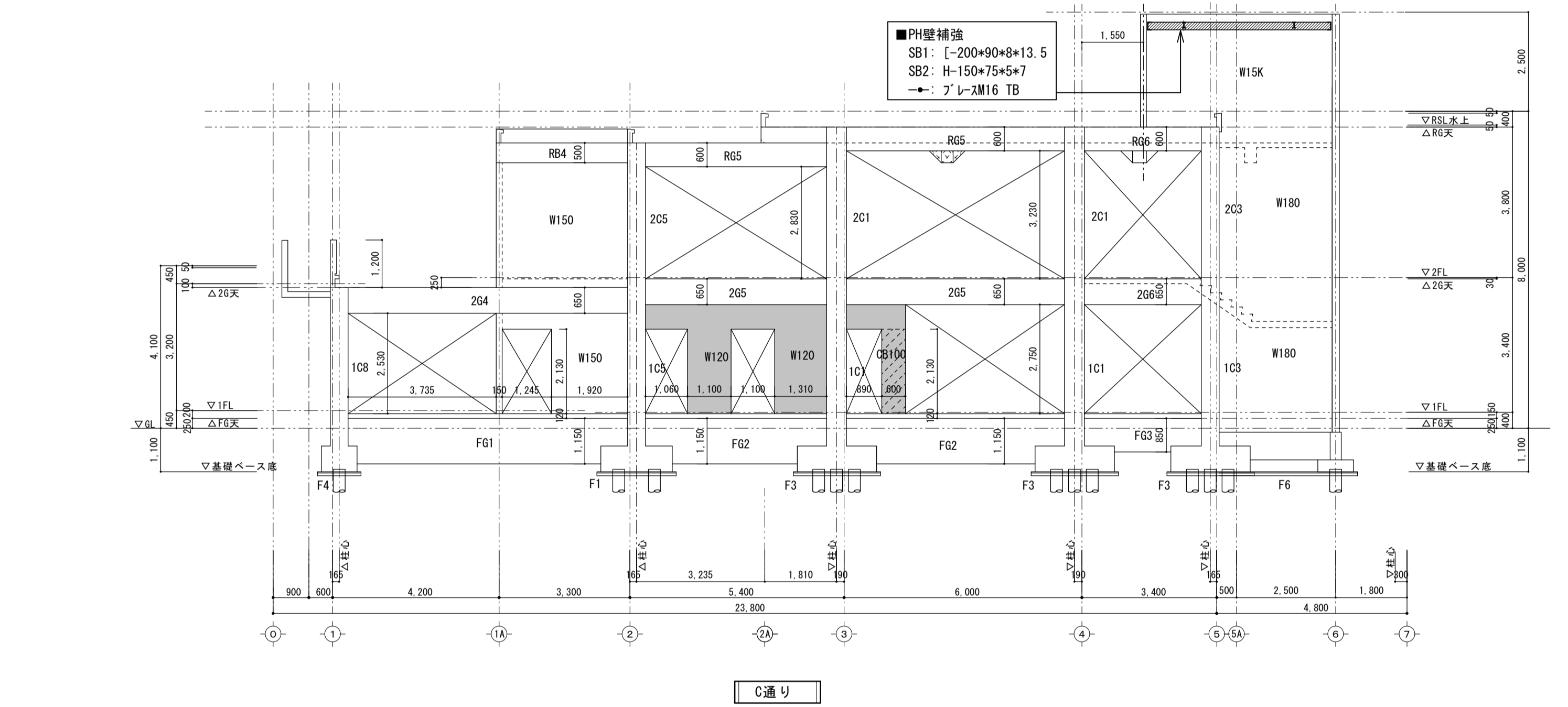
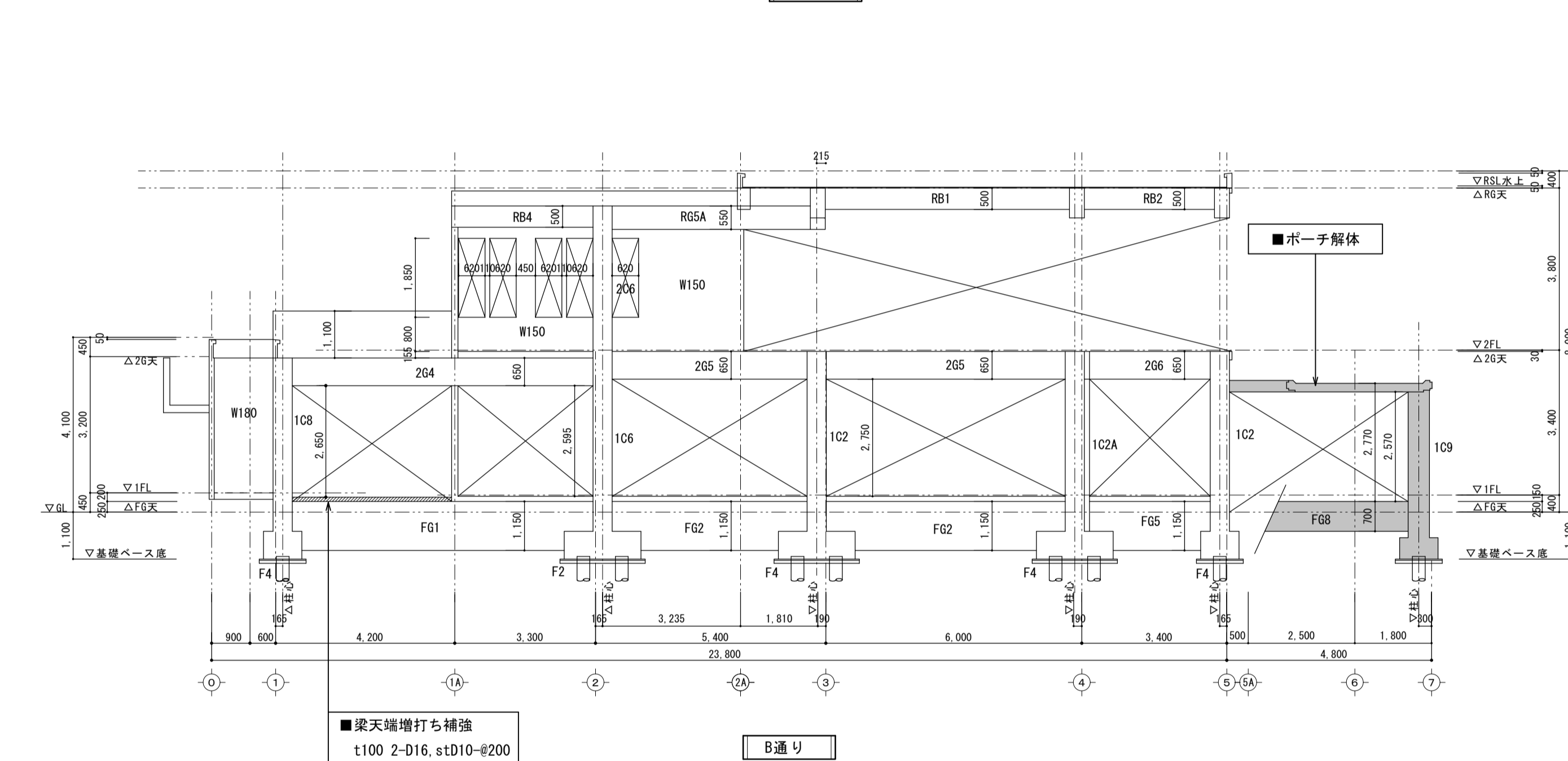
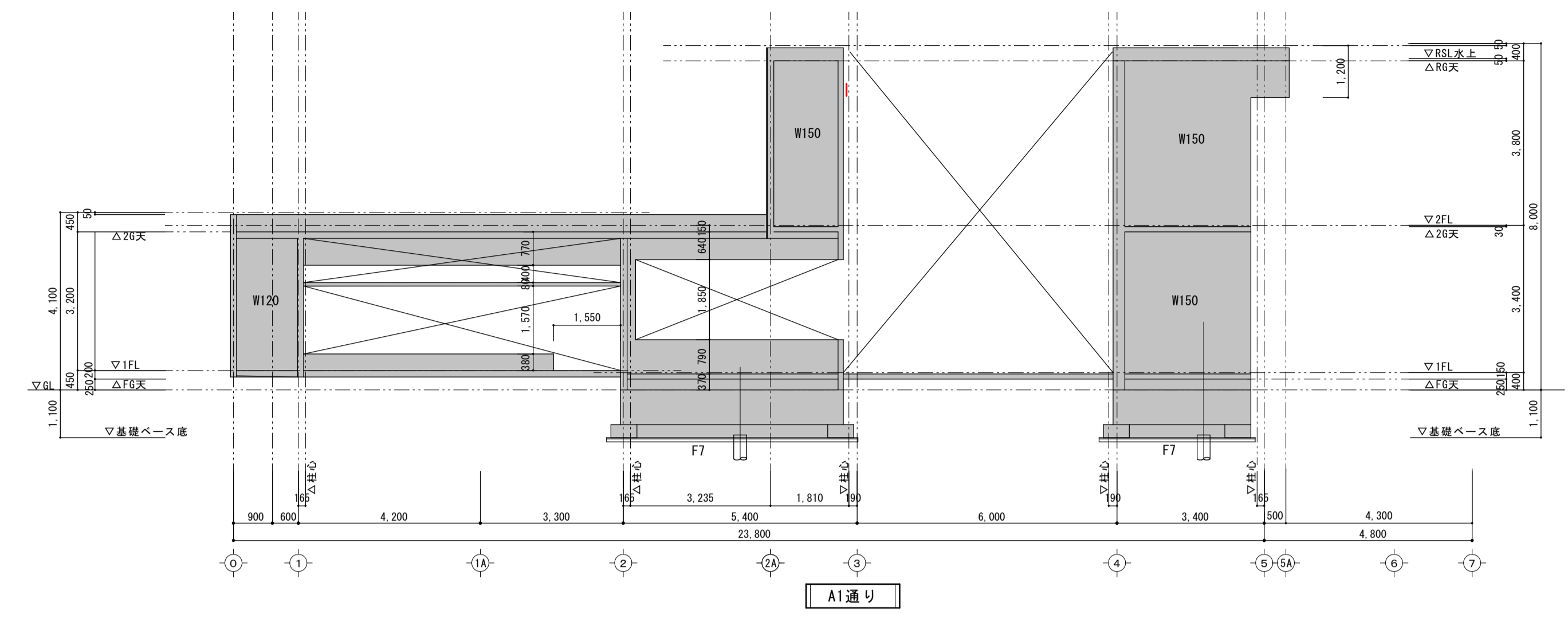
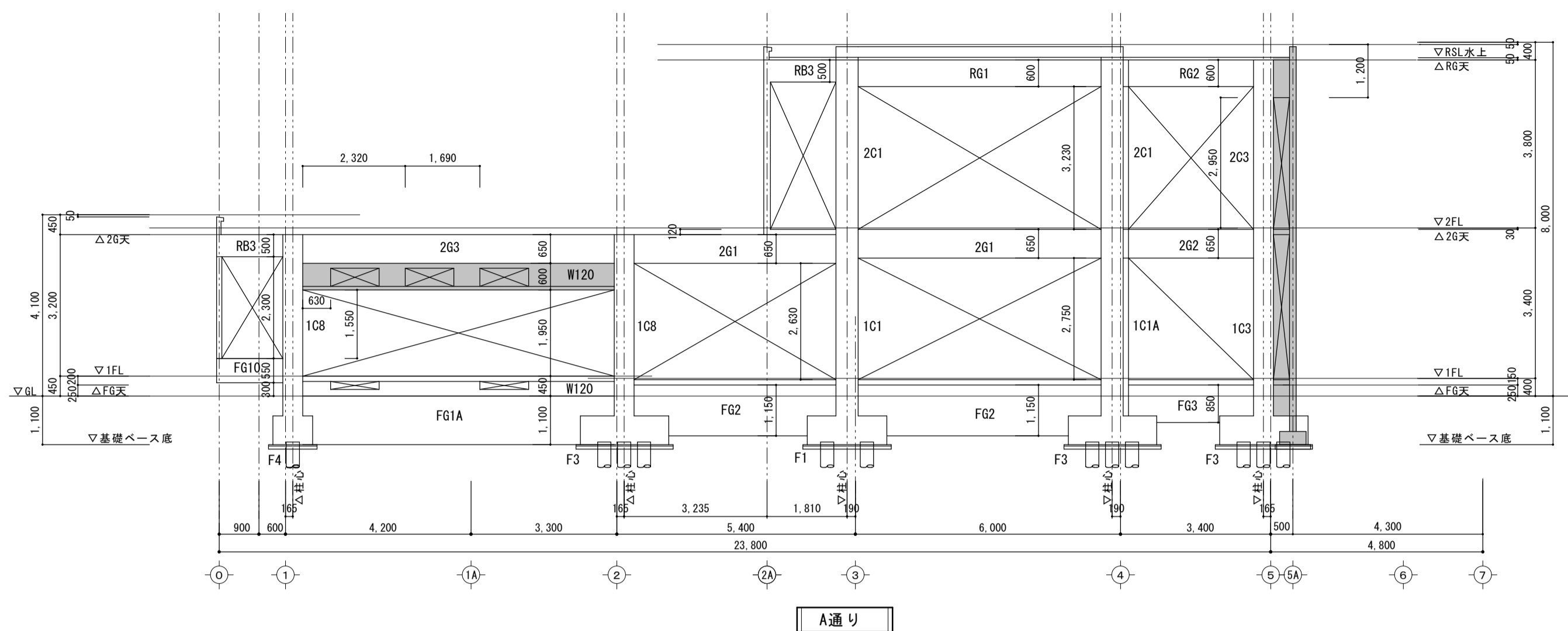
R階伏図 S=1/100

PH階伏図 S=1/100

凡例・特記事項		
1. 特記なき壁はW150とする	2. 図中 部は耐震改修工事を示す。	
2. 図中 部は解体撤去部を示す		



図中 部は解体撤去部を示す



図中 部は解体撤去部を示す

訂正事項	

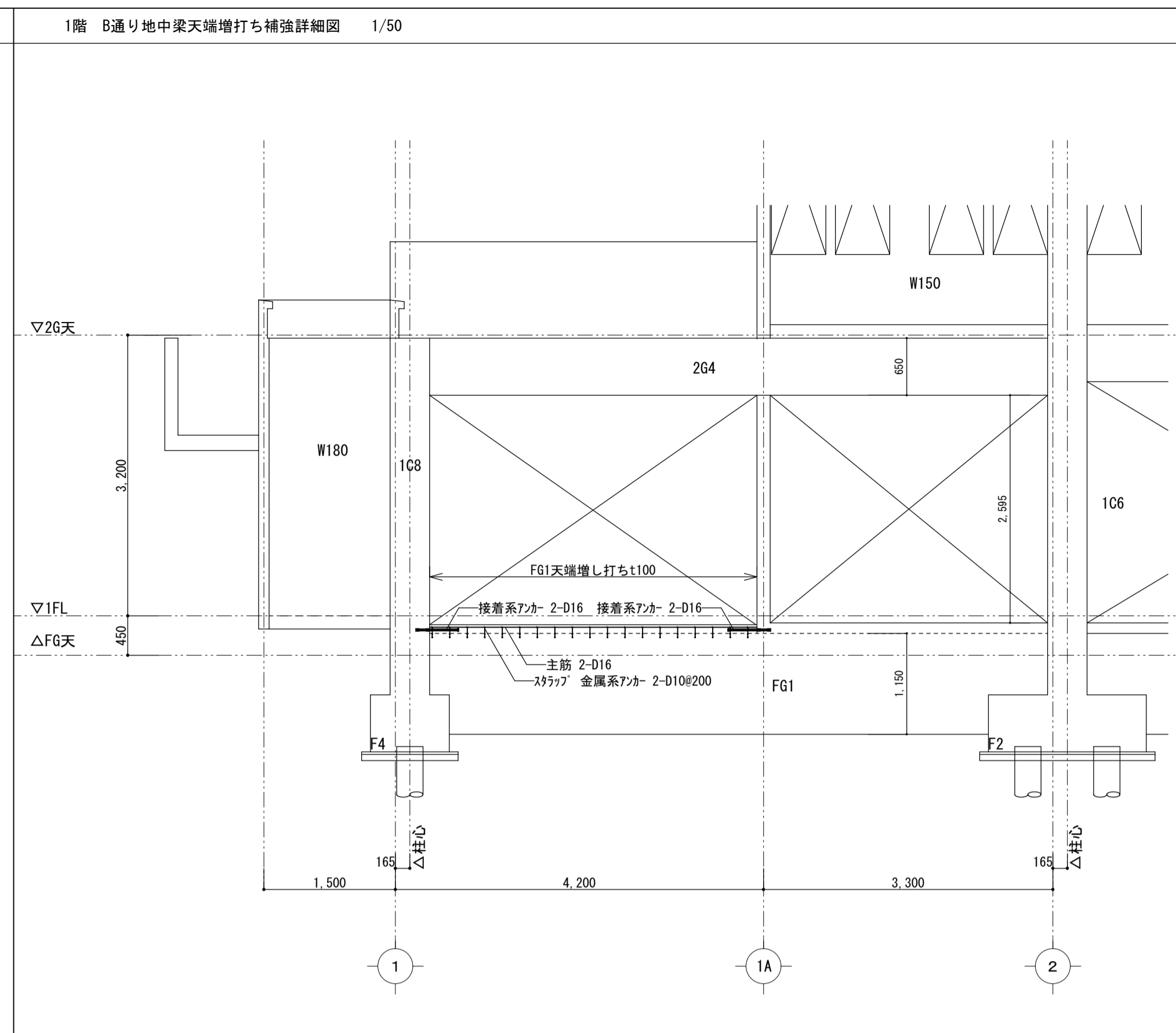
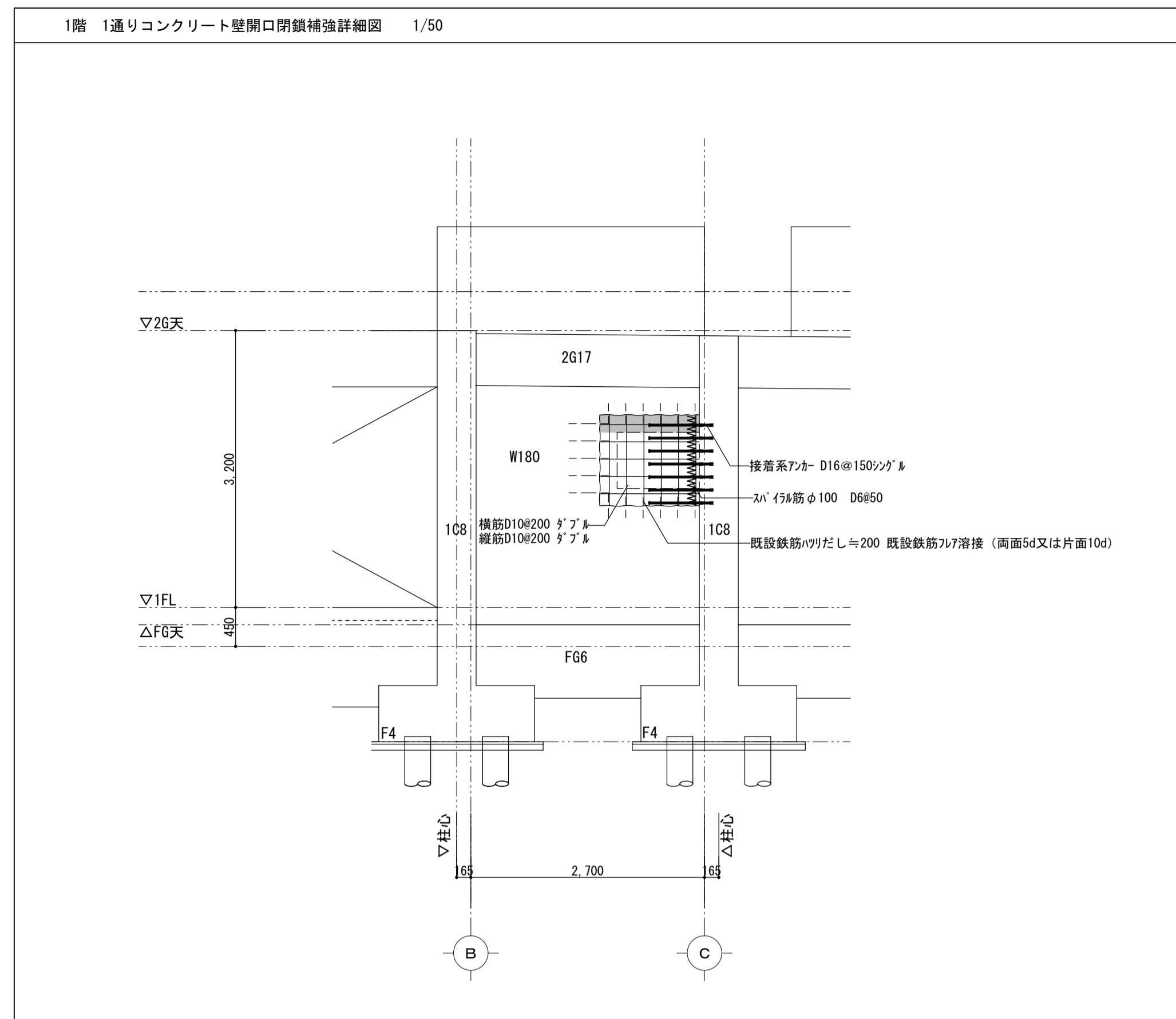
水原・芦澤設計共同

株式会社 水原建築設計事務所
一級建築士事務所 登録番号 第83号
 一級建築士登録 第21928号 北村 浩
 設置県産市長官報欄443番地 TEL. 0749-22-1679

芦澤電一建築設計事務所
一級建築士事務所 大阪府知事登録 (口) 第2425号
 一級建築士登録 第29819号 芦澤 電一
 大阪府大阪市北区中崎西1-4 tel. 06-6465-2017

北部図書機能・コミュニティ機能整備工事

耐震改修・既設撤去図		SHEET NO.
輪組図 2		A-706
DATE	SCALE	
2021.12	A1:1/100 A3:1/200	



特記事項

■アンカー工事

- 材料・形状
 - SD345規格品
 - 接着系アンカーとする。
 - 接着系アンカー樹脂カプセルは、有機系のものとする。
 - 接着系横向き・上向き施工を行う場合は、専用カプセルを使用する。
 - 増設壁内に定着するアンカー筋は原則として頭付き異形鉄筋とし、定着長さは20da以上とする。(開口閉鎖部は40dとする)
 - 接着系アンカーのアンカー筋の先端部の形状は、片側斜め45度にカットする。
 - アンカー有効埋込長さは7da(埋込長さは8da)以上とする。
 - 開口補強筋及び増打補強筋(主筋)のアンカー有効埋込み長さは10da以上とする。

■鉄筋工事

- 材料・形状
 - SD295A規格品D10-D16(JIS G3112)(スパイラル筋はD6とする。)
 - SD345規格品D19以上(JIS G3112)
- スパイラル筋
 - D6-φ50 スパイラル径 φ60~φ150(指針8.18.7)
 - SD-295A(JIS G3112)

■コンクリート工事

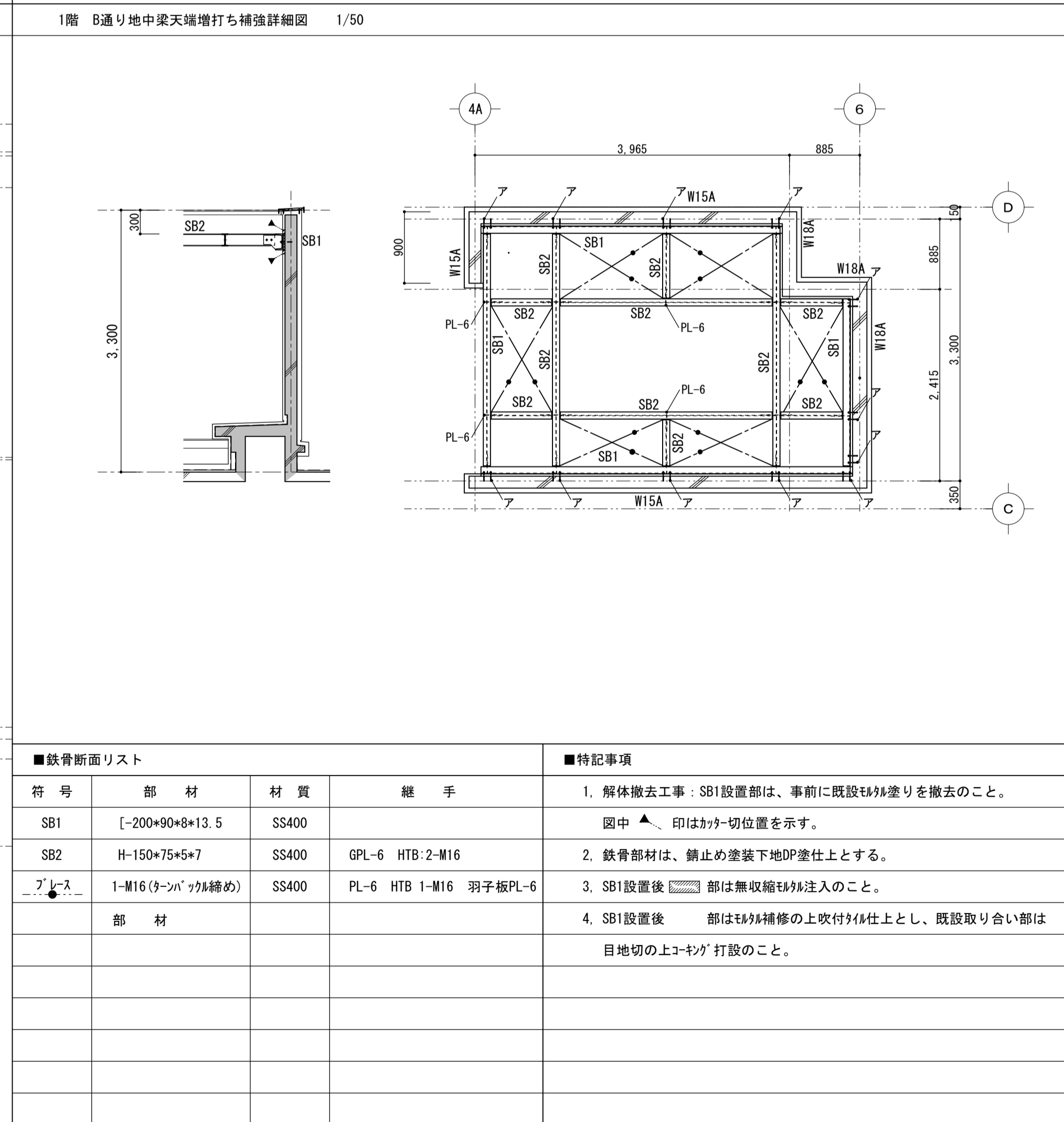
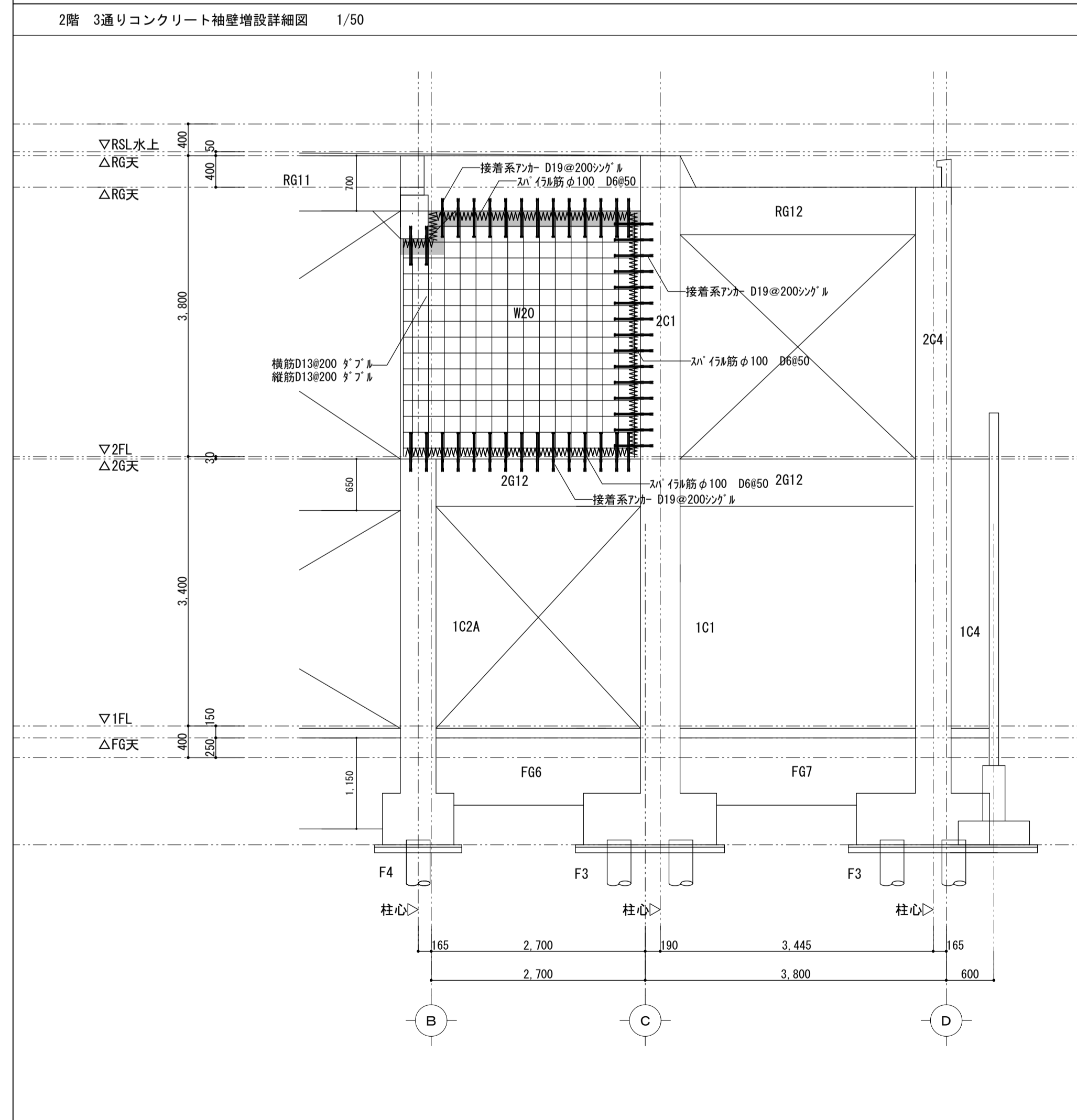
- コンクリート強度
 - $F_c = 21 \text{ N/mm}^2$ 以上 $\Delta F(3 \text{ N/mm}^2)$ を割増する事。
 - 温度補正は共仕による。

■グラウト工事 図中 部分(H=200mm)

- 材料
 - プレミックスタイプのものとする。
- 品質
 - グラウトモルタル(圧入用無収縮モルタル)の圧縮強度は補強部材コンクリートの設計基準強度を下まわらないものとする。

項目	コンシステンシーの範囲 Jロート(砂)	圧縮強度 (N/mm ²)	乾燥収縮 (x10 ⁻⁴)
品質	8±2	30	0

- 圧入
 - グラウトモルタルの硬化中は圧入口、空気抜きパイプ等の密閉(バルブ・コック)を確認し、有害な衝撃、振動を与えない。
 - グラウトモルタルの圧入は適切な圧力で中断しないように行う。
 - 空気抜きを設け、グラウトモルタルが空気抜きに出てくることを確認する。



1. 建築概要・構造設計条件・地業工事

(1) 建物概要・構造設計条件 ※記入なき場合は別資料参照

Table with 2 columns: 建築物の所在地, 計算ルート. Includes details on building name, area, height, and seismic design parameters.

(2) 地業工事

Table detailing foundation and ground improvement work, including support type, bearing capacity, and improvement methods.

(3) 提出書類

Table listing required documents for foundation and ground improvement, such as design drawings and reports.

2. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

Table for concrete specifications, including design strength, material quality, and curing requirements.

- ・コンクリートはJIS A 5308(レディーミクストコンクリート)に適合するJIS認定工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS5を基本とする。
・セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。

(2) 型枠

- ・材料は、合板厚12mmを標準とする。金属製型枠パネルはJIS A8652に規定するものを用いる。
・施工は、JASS5を基本とする。

Table for formwork specifications, detailing types, dimensions, and material requirements for slabs and columns.

- ・スラブ下及び梁下のせき板は、原則として、支柱を取り外したのちに取り外す。
・片持ばり、庇、スパン9.0m以上の梁下、大型スラブ等の支柱の在置期間は、工事監理者の指示による。

(3) 鉄筋・継手

Table for reinforcement and joint specifications, including bar types, diameters, and lap length requirements.

- ・鉄筋は、JIS G3112の規格品を標準とする。施工は標準図に記載されている事項を除き、コンクリートと同様にJASS5を基本とする。
・鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは、「鉄筋コンクリート造配筋標準図(1)(2)」、「壁式コンクリート構造配筋標準図」による。

(4) 提出書類

Table listing required documents for reinforcement and joint work, including design drawings and inspection records.

(5) 検査項目

Table detailing inspection items for reinforcement and joint work, such as lap length and concrete strength.

- ・コンクリート及び鉄筋の試験は原則として公的機関にて行い、工事監理者の承諾を受けること。
・フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を1回の測定ごとに撮影した写真(貼)を保管し、承認を得る。

3. 鉄骨工事

(1) 鉄骨及びその他周辺材料

Table for steel and other materials, listing types, specifications, and certification requirements.

- ・形鋼・鋼板の()内は鋼種識別色を示す。特別な場合を除きこの識別色とする事が望ましい。
・鉄骨工事は指示のない限り下記を基本とする。
①日本建築学会「JASS5」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」

(2) 提出書類

Table listing required documents for steel work, including design drawings and inspection records.

(3) 検査項目

Table detailing inspection items for steel work, such as material inspection and joint inspection.

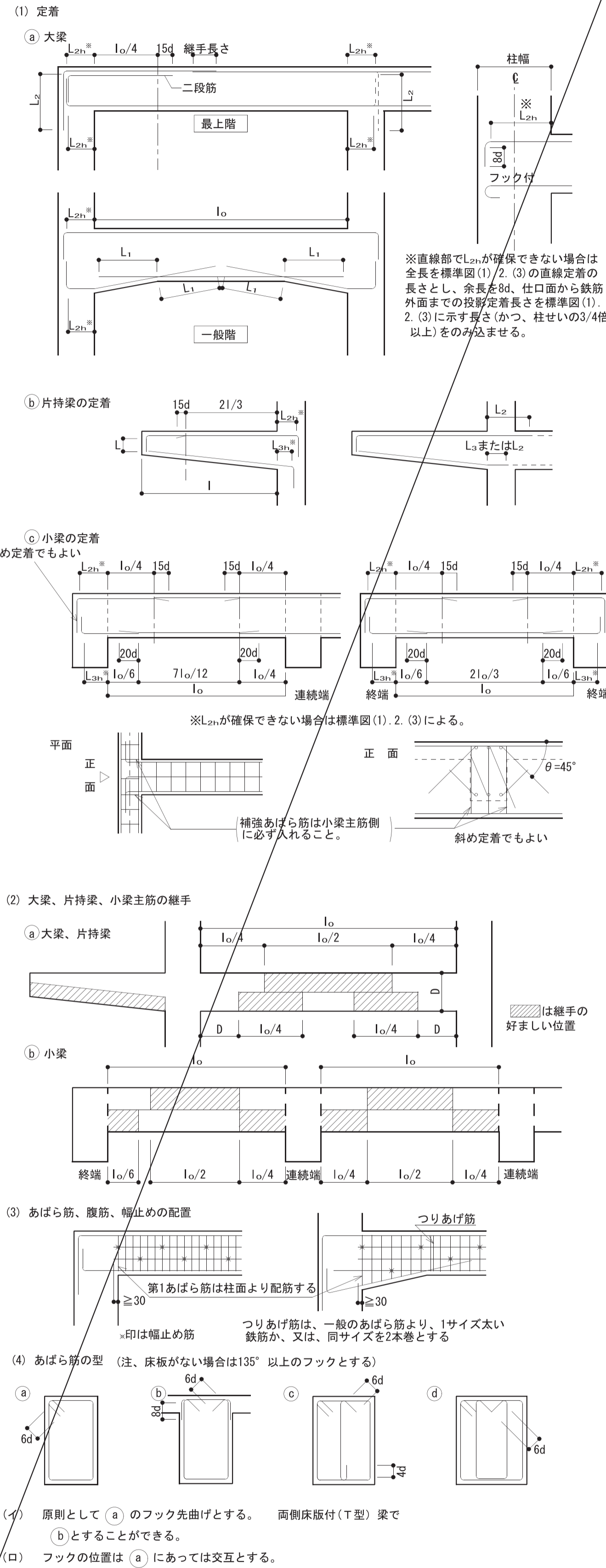
(4) 接合部の検査

- ・溶接部の検査(検査結果は後日工事監理者に報告すること)
・割れの疑いのある表面欠陥には、浸透探傷試験(JIS Z 2343-1)又は磁粉探傷試験(JIS Z 2320-1)を行う。
注)現場溶接部については、原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと。

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

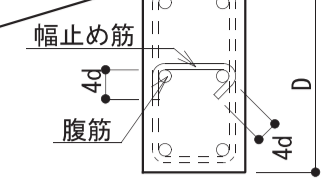
7. 大梁、小梁、片持梁

(大梁主筋定着およびカットオフ位置は設計図書の特記による。特記のない場合は下図による。)



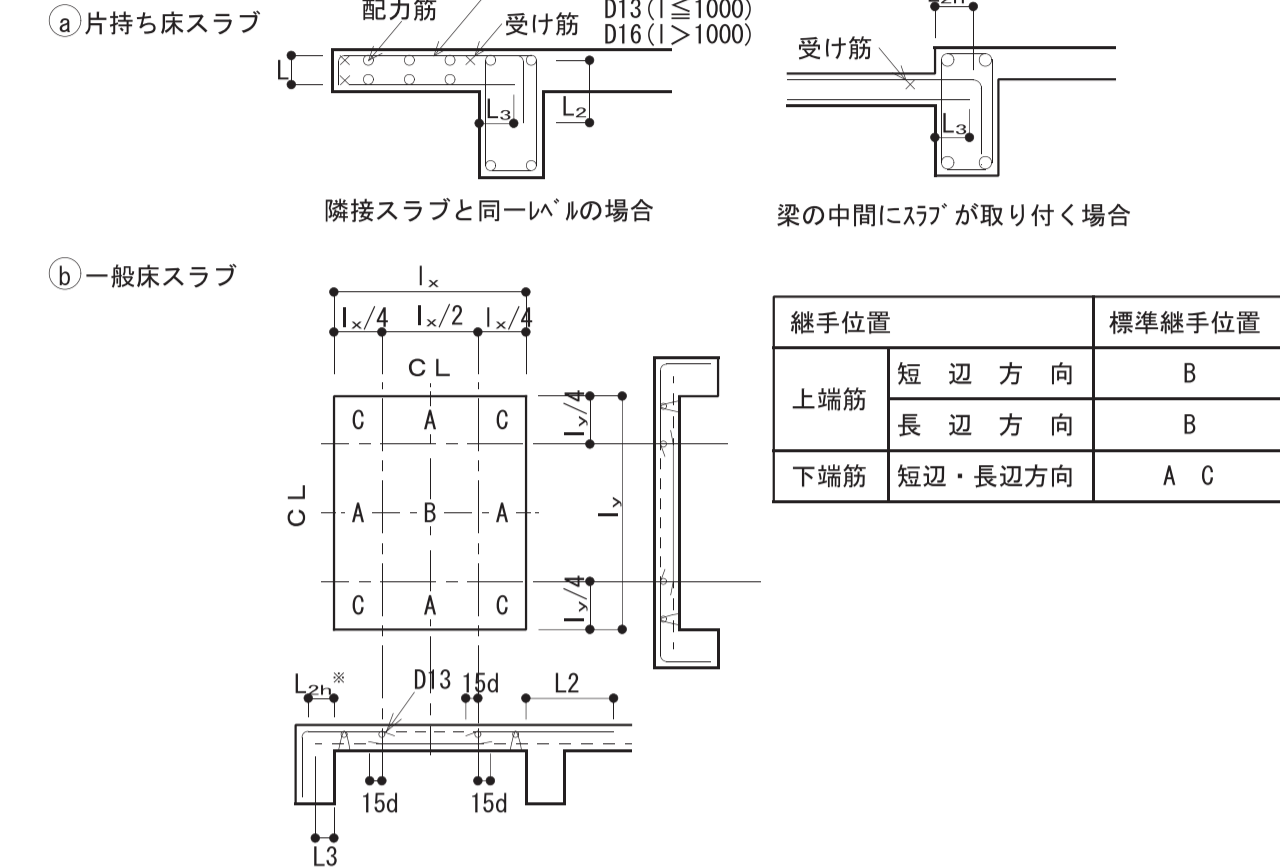
(5) 幅止め筋の本数、加工

腹筋	D < 600 不要	600 ≤ D < 900 2-D10 1段	900 ≤ D < 1200 4-D10 2段	1200 ≤ D < 1500 6-D10 3段	1500 ≤ D D10@300以内
幅止め筋	D10@1000位内で割り付ける				

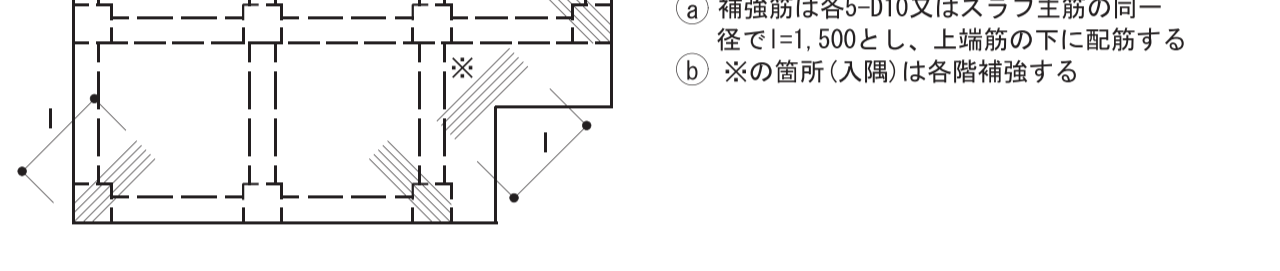


8. 床版

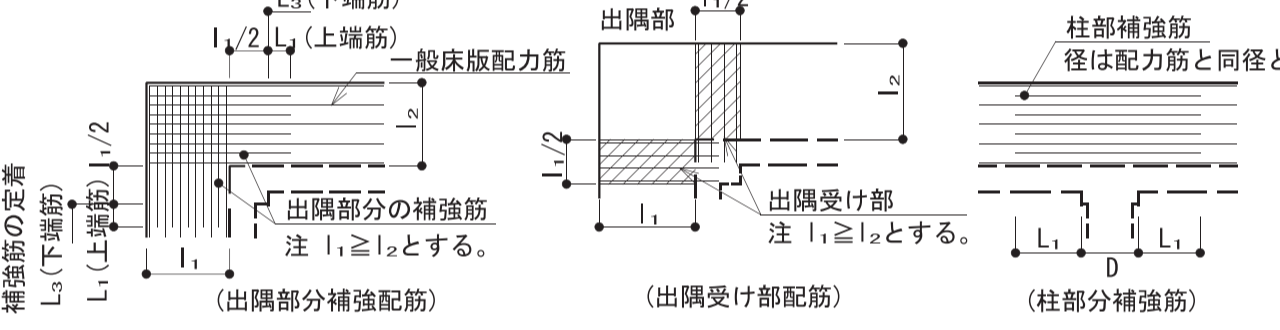
(1) 定着および継手



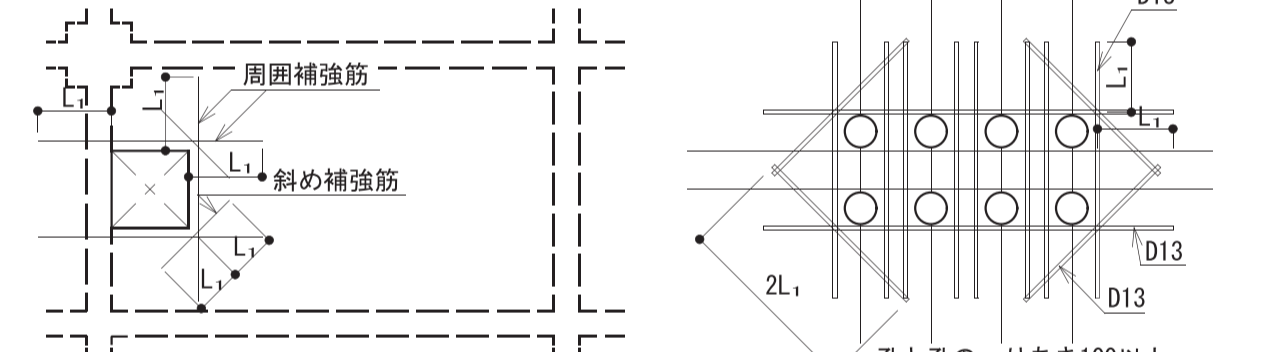
(2) 屋根スラブの補強



(3) 片持ちスラブ出隅部補強(補強筋は設計図書による)

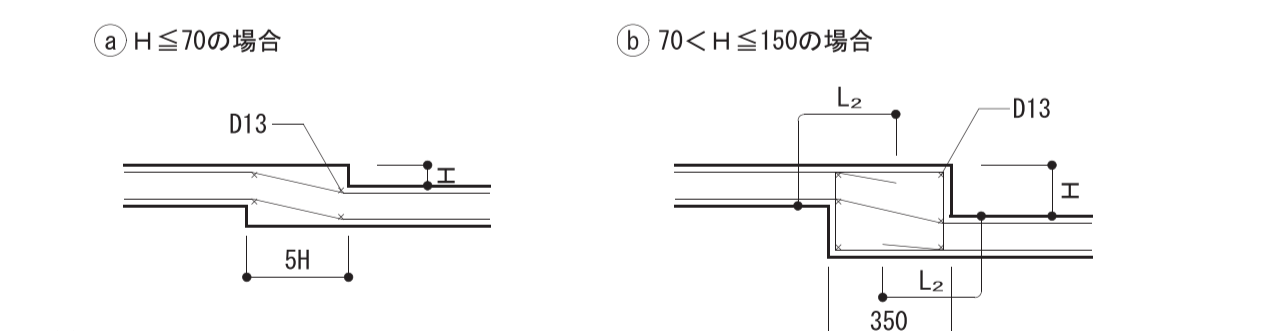


(4) 床版開口部の補強(開口の径500程度の場合)

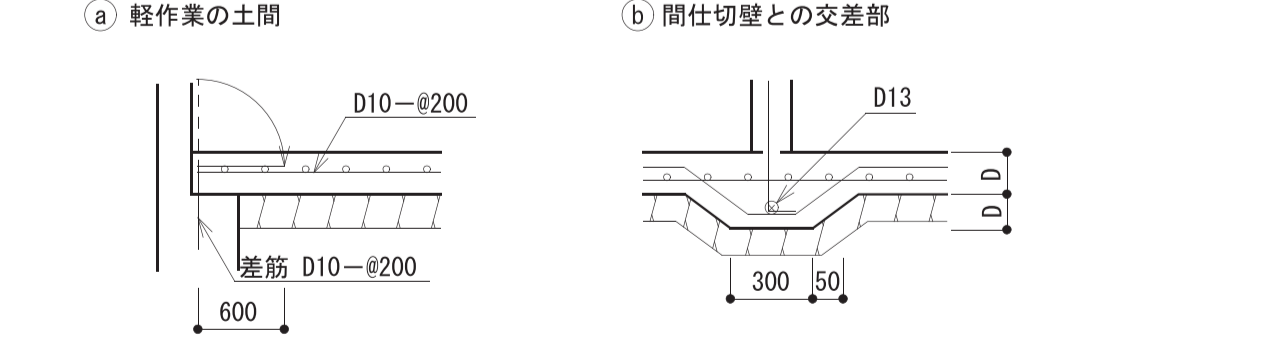


床版厚さD	周囲	斜め
D ≤ 150	各2-D13	各1-D13
150 < D ≤ 200	各2-D13	各2-D13
200 < D ≤ 300	各2-D19	各2-D16

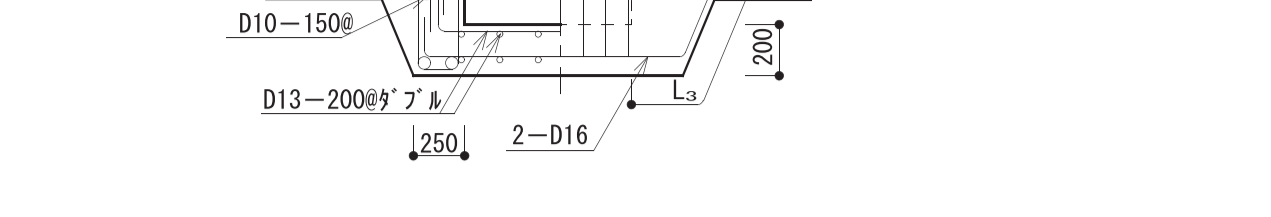
(5) 床版段差



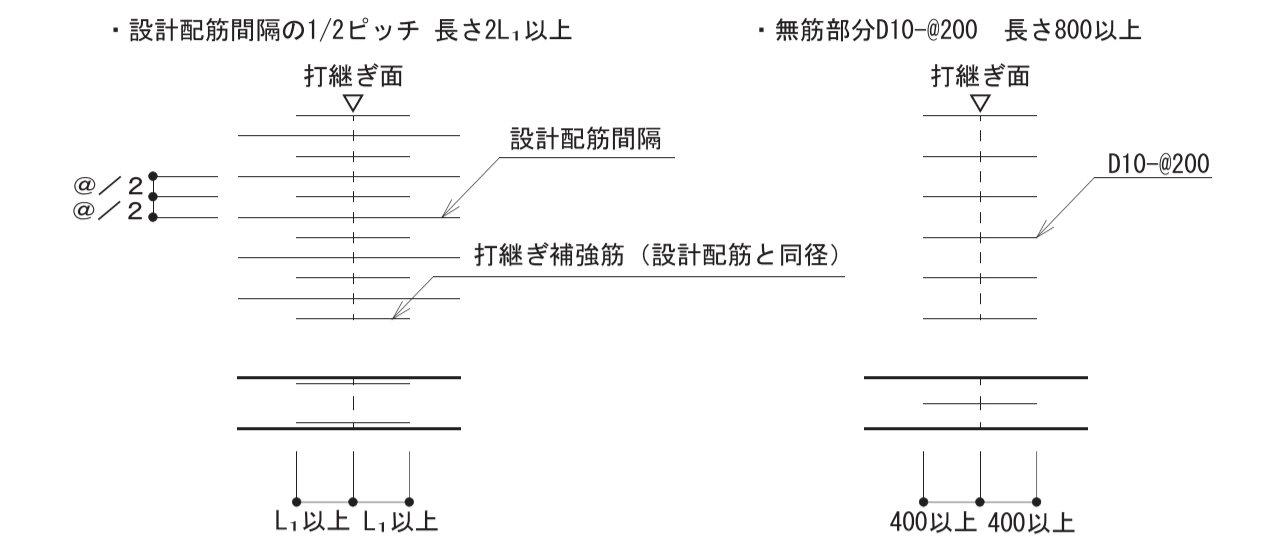
(6) 土間コンクリート



(7) 釜場

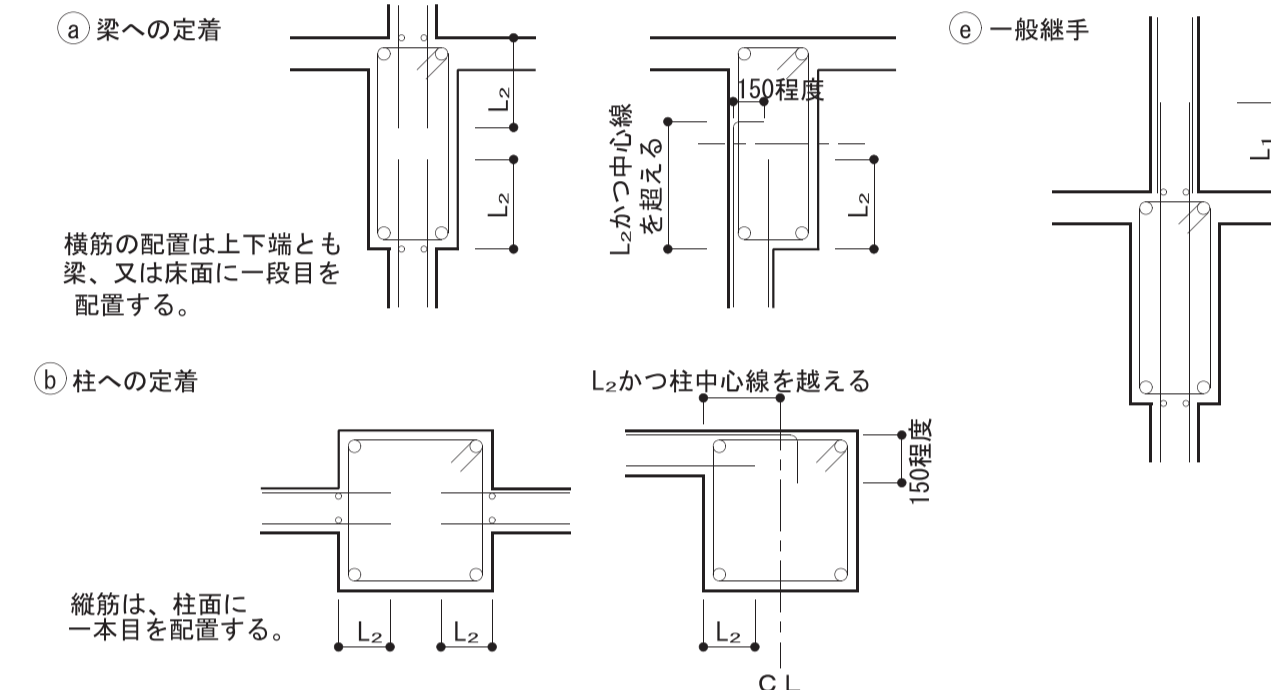


(8) 打継ぎ補強(ダマ穴打継面について)

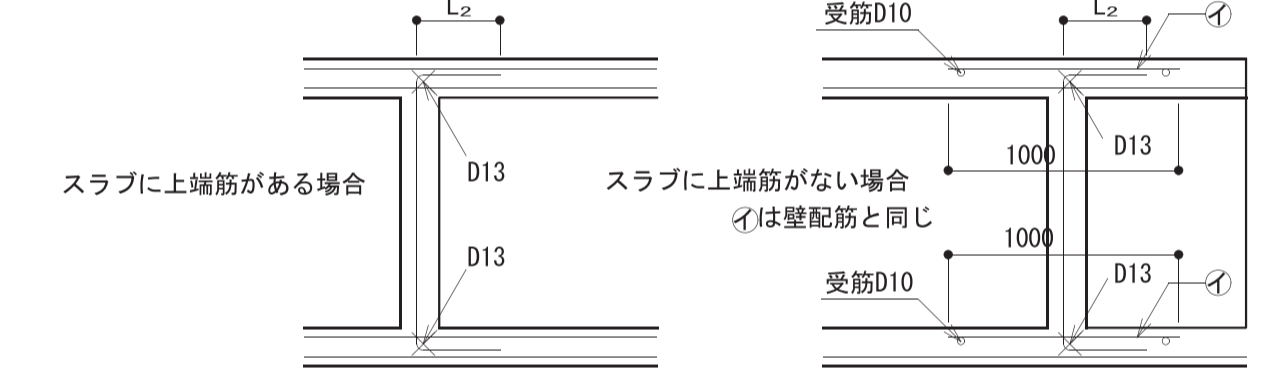


9. 壁

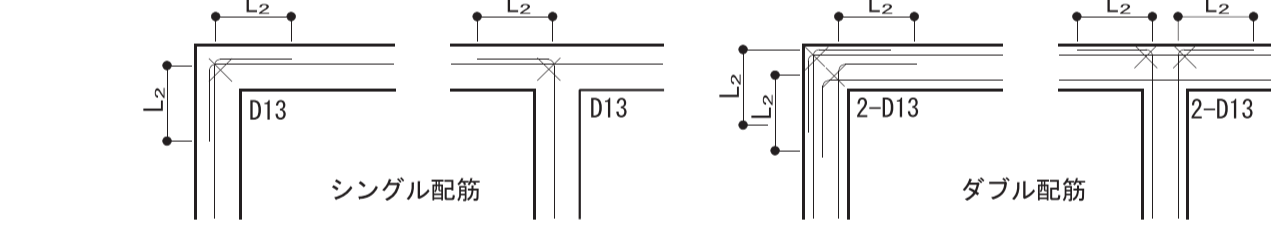
(1) 定着及び継手



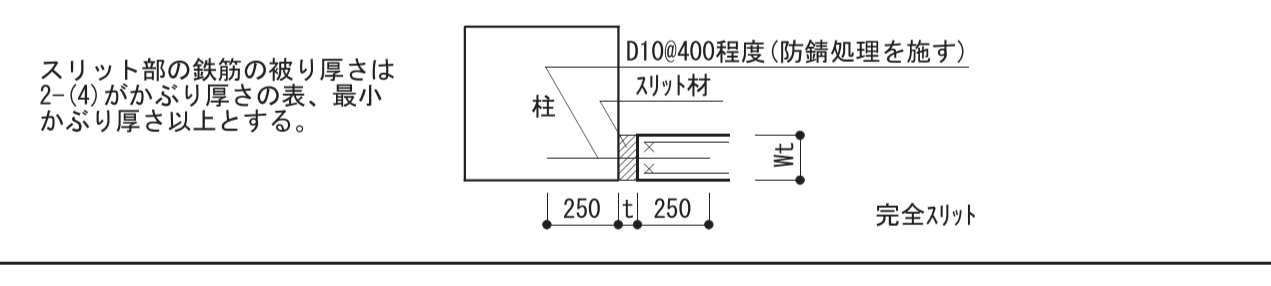
(2) スリット部(設計図に記入のあるとき)



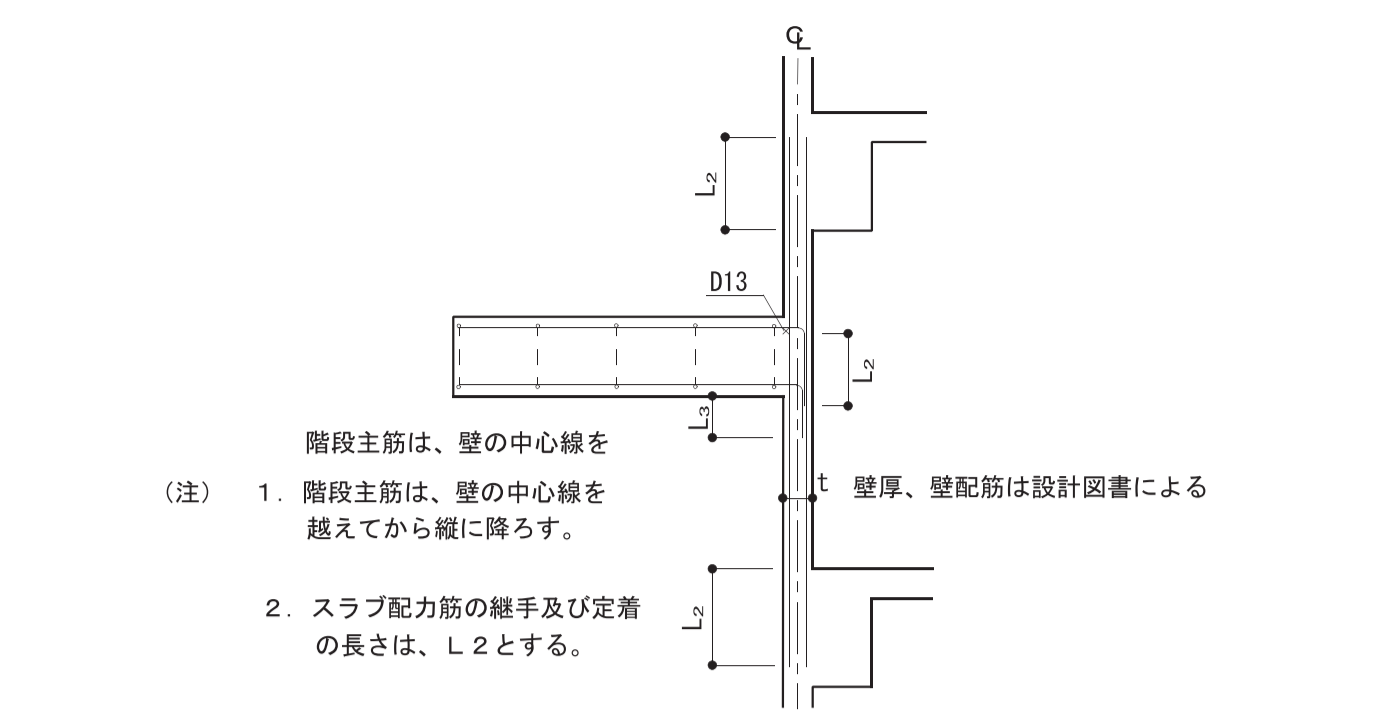
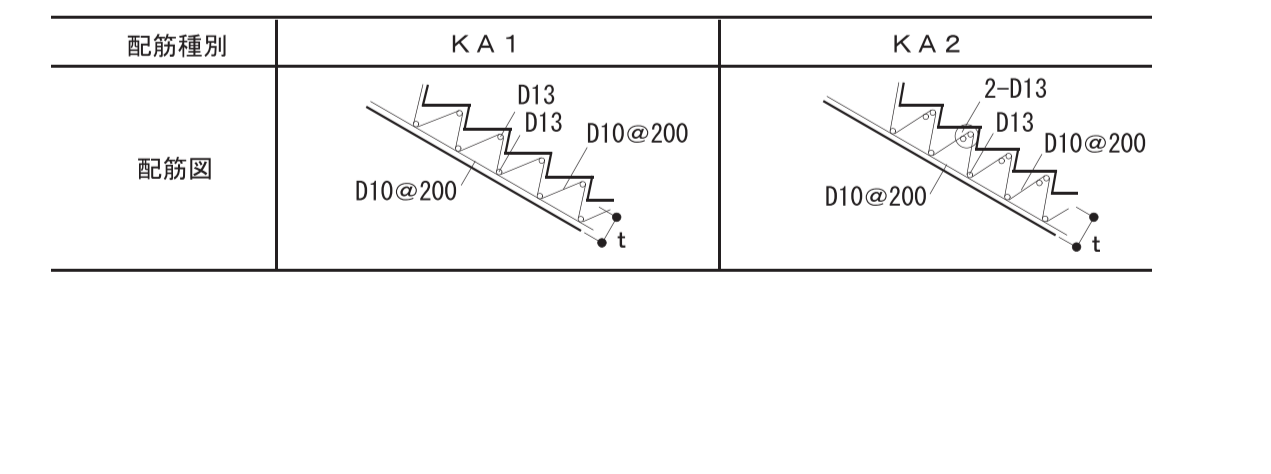
(3) 壁と壁(平面図)



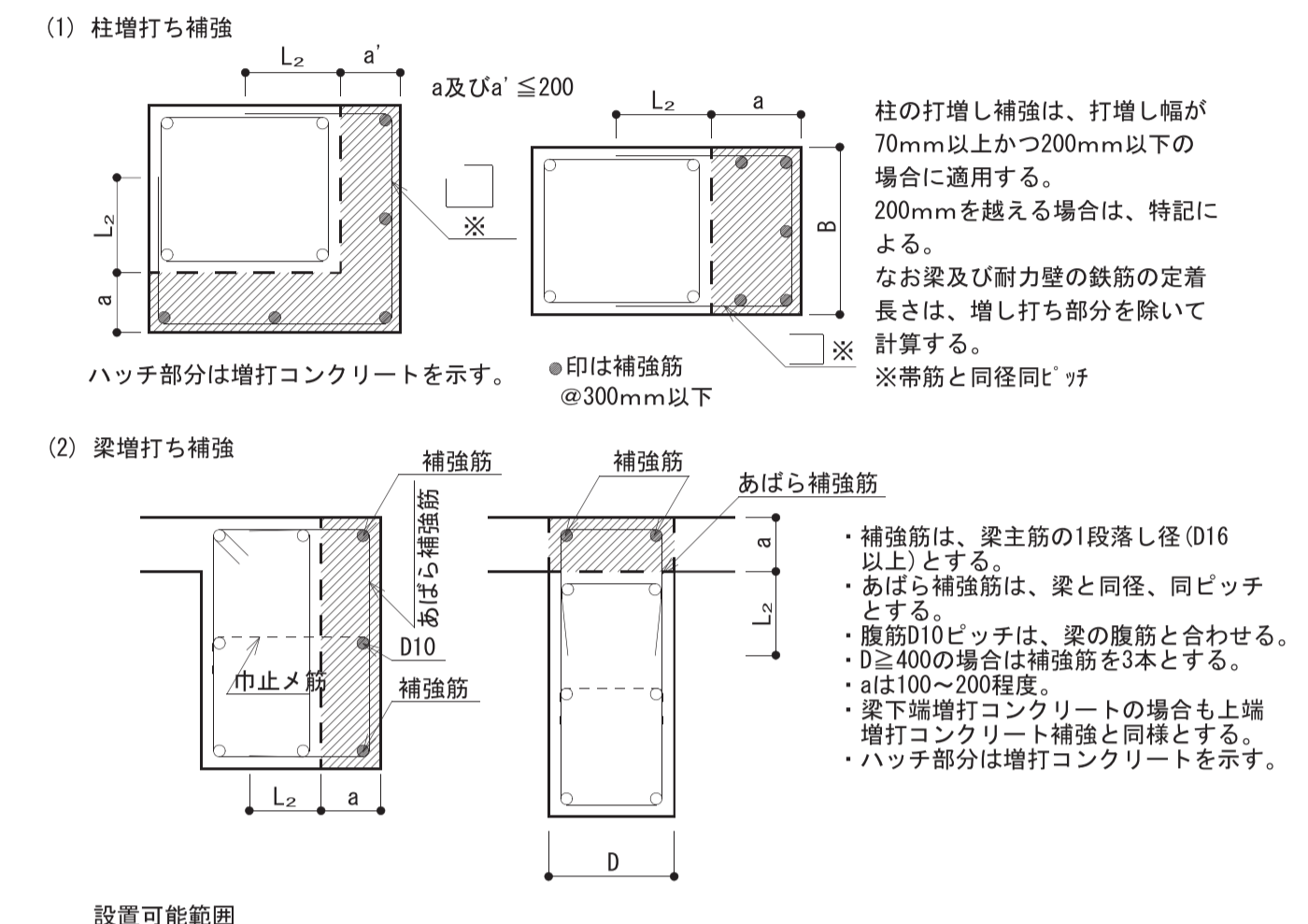
(4) 床への定着(非耐力壁とスラブが取り合う場合)



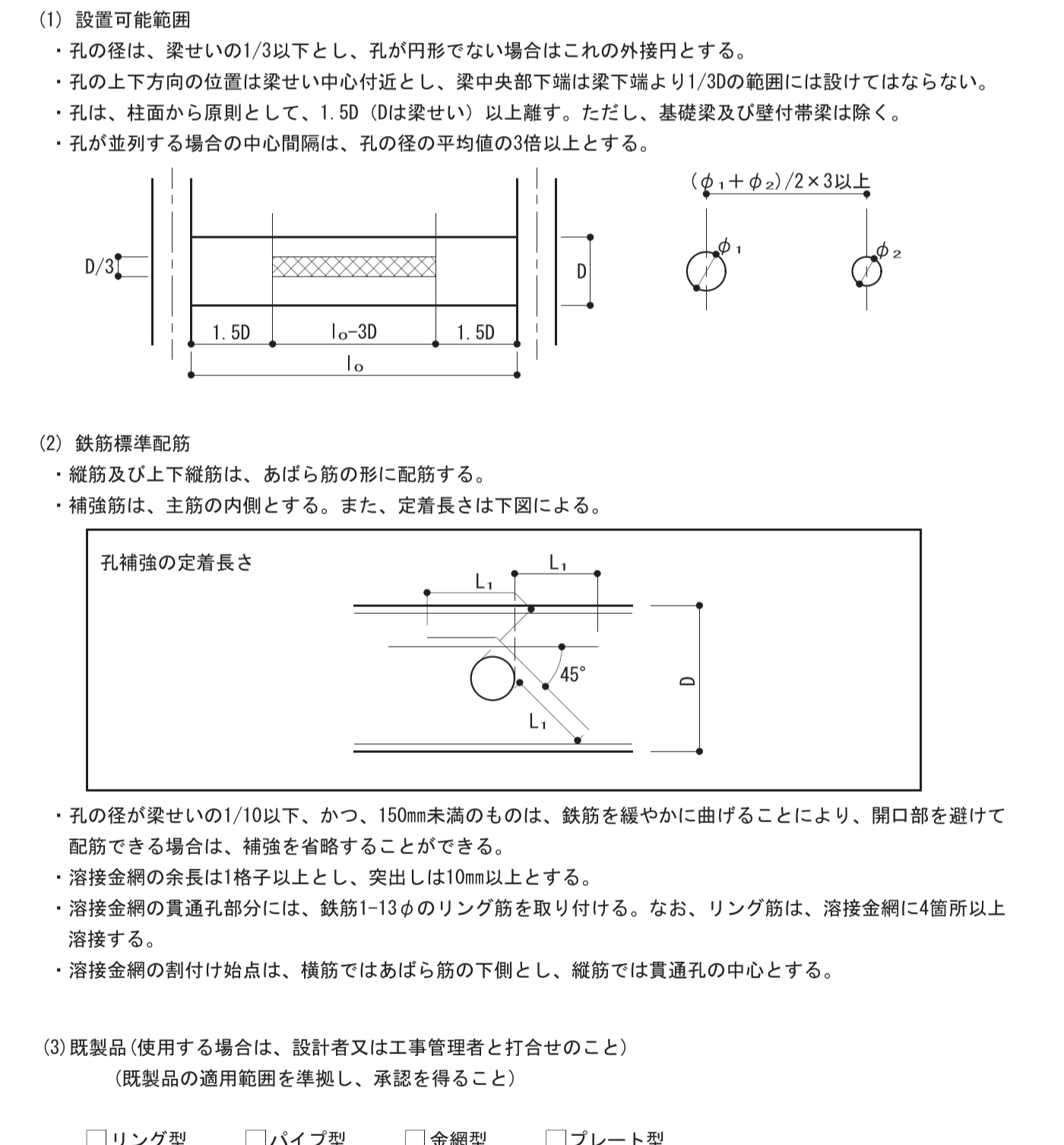
10. 階段



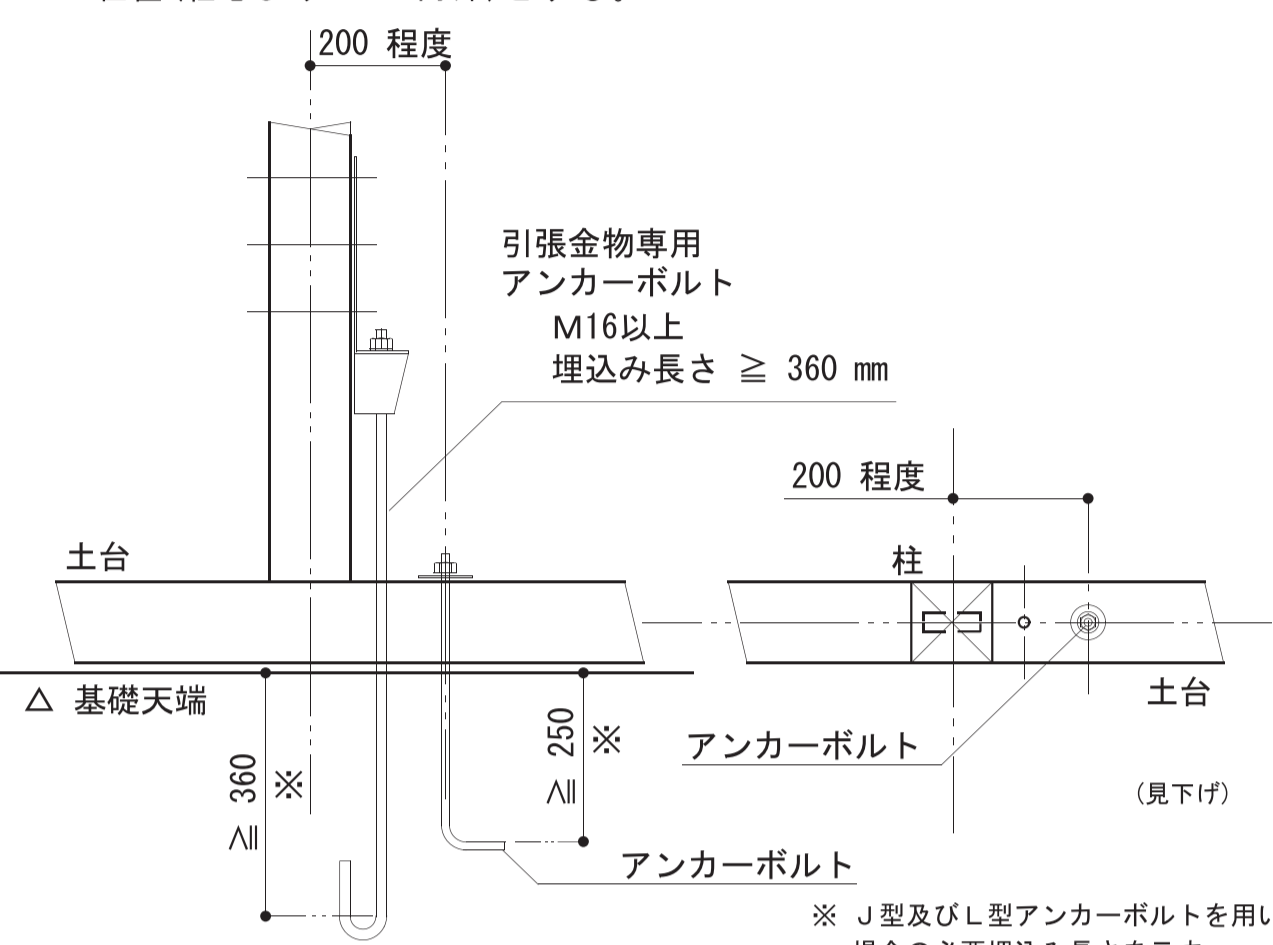
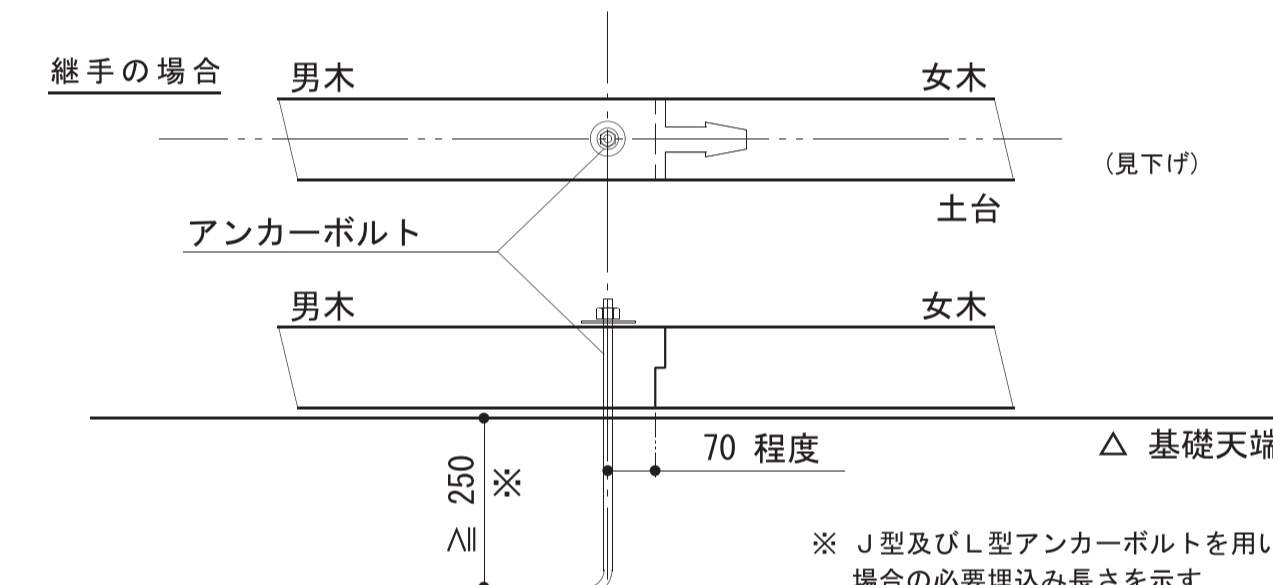
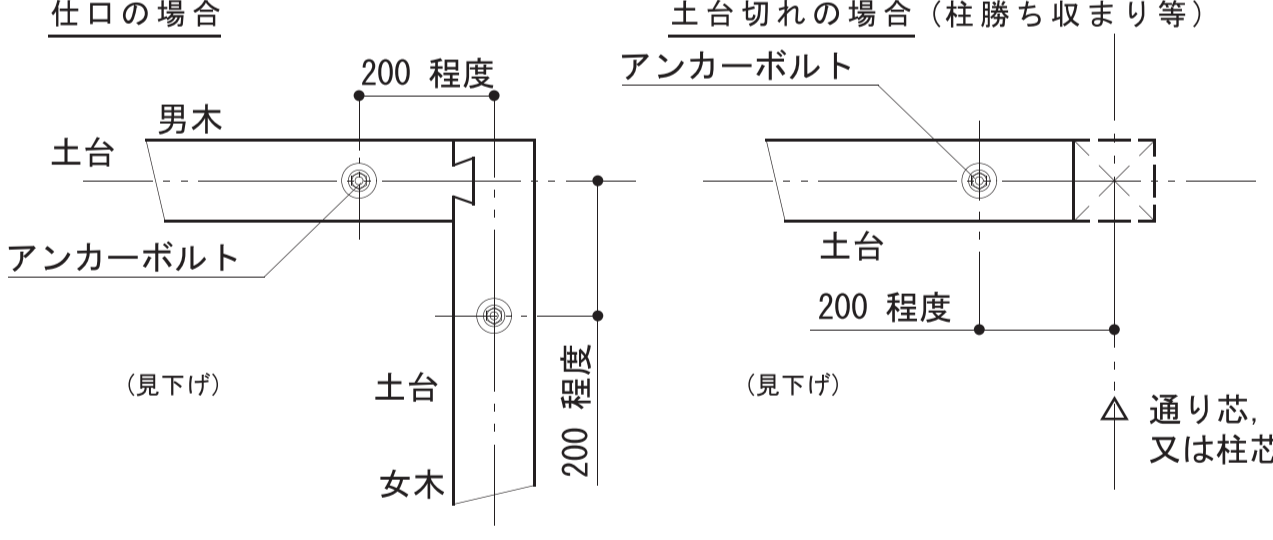
11. 柱、梁増打コンクリート補強



12. 梁貫通孔補強



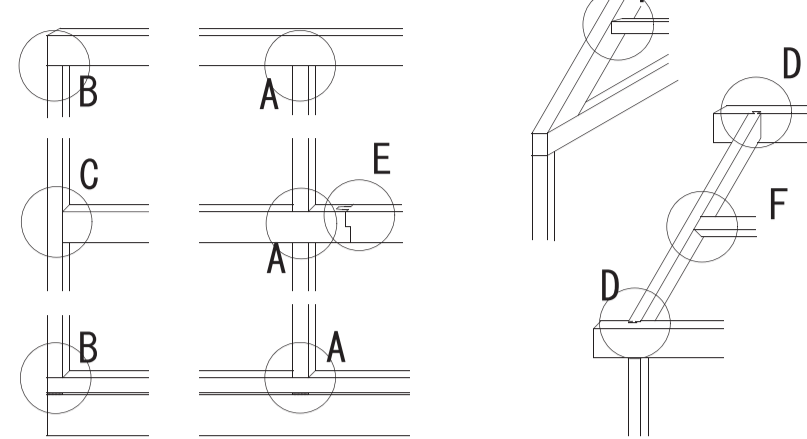
木造軸組接合部標準図(1)

<h2>1. 一般事項</h2> <p>(1) 適用範囲 ※本標準図は建築物及び工作物の構造上主要な部分に木材・木質材料を用いる工事に適用する。 木造の構法は、建築基準法施行令第3章3節に規定する木造軸組工法に適用する。</p> <p>(2) 設計図書 設計図書とは本標準図、特記仕様書、設計図、指示書（現場説明書及び質疑回答書を含む）をいう。</p> <p>(3) 準拠する図書 設計図書に記載なきものは下記の図書に準拠する。（※全て最新版による。） 「木造住宅工事仕様書」（住宅金融支援機構監修） 「公共建築木造工事標準仕様書 平成25年版」（国土交通大臣官房官庁営繕部監修） 「木造計画・設計基準 平成23年版」（国土交通大臣官房官庁営繕部監修） 「木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2008年版）」（日本住宅・木材技術センター） 「日本工業規格 JIS A3301-2015 木造校舎の構造設計標準」（2015年改訂版）</p> <p>上記の仕様書に記載無き場合は、公共規格又はこれに準ずる規格を適用する。</p> <p>(4) 設計図書の優先順位 設計図書の優先順位は下記による。 1. 指示書（現場説明書及び質疑回答書） 2. 設計図 3. 特記仕様書 4. 本標準図</p> <p>(5) 疑義 疑義を生じた場合や工法の提案を行いたい場合には監理者に申し出、その処理方法について協議する。</p> <p>(6) 製作要領書及び施工計画書の作成・提出 工事に先立ち、製作要領書や施工計画書を作成し、監理者の承諾を受ける。</p> <p>(7) 施工図及びプレカット図の提出 工事に先立ち各種の施工図を作成し監理者の承諾を受ける。また、必要に応じて接合部のモックアップの作成を行う。プレカット工場を使用する場合には、プレカット図を施工図と位置づける。</p> <p>(8) 製作工場の選定、承諾 設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した製作工場及び木工技能者を選定し、監理者の承諾を受ける</p> <p>(9) 各種試験・検査報告書の提出 施工者は、各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。</p> <p>(10) 接合法 本標準図に示す構造耐力上主要な柱及び梁の接合法は、下記による。 ・継手仕口による在来工法 ・梁受け金物、及びホゾパイプ等による金物工法</p> <p>なお、上記の方法はひとつの建物で混用して構わない。 また、本標準図は在来接合法のみについて記載しており、金物工法を用いる場合は、金物工法用の標準図を本標準図に追加して用いること。 本標準図で指定していない金物に変更する場合は、監理者の承認を得ること。</p> <p>(11) 加工部材に関する留意事項 本標準図で扱う一般的な在来プレカット工場での加工可能な範囲は以下による。 ・梁：部材断面が幅90mm～150mm、梁成が幅と同寸～450mm、及び材長6m以下 ・柱：90角～150角の正方形断面、長さ6m以下</p> <p>これらを超える場合は、一般プレカット工場では加工できない為、任意形状の加工が可能な加工機を有する工場を選定すること。</p>	<h2>2. 材料</h2> <p>(1) 木材及び木質材料 主要構造部に使用する木材・木質材料の品質については特記仕様書で指定する。</p> <p>(2) 接合金物 a) くぎ 主要構造部に使用するくぎはJIS A 5508で規定される鉄丸くぎ（N釘）または太め鉄丸くぎ（CN釘）または溶融亜鉛メッキ太め鉄丸くぎ（ZN釘）またはステンレス鋼釘（S釘）またはせっこうボード用くぎ（GN釘）を用いる。</p> <p>b) 木質構造用ビス 主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靱性が確保されるものを選定することとし、造作用のビス（コーススレッド等）を用いてはならない。使用箇所・呼び径・呼び長さ等については特記仕様書で指定する。</p> <p>c) ボルト・ナット・座金 1) 主要構造部に使用するボルト及びナットについては以下による。 ・ボルトはJIS B 1051、ナットはJIS B 1052に規定される機械的性質を満たす炭素鋼 ・公益財団法人日本住宅・木材技術センター規格に準じた金物に使用するボルト及びナット 【 Zマーク表示金物 】 【 Dマーク表示金物 】 【 Sマーク表示金物 】 ・上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験成績書を取得して、耐力が明示された金物に使用するボルト及びナット 2) 主要構造部に使用するボルト・ナットのねじはJISB0205に示すメートル並目ねじとし、構造上主要な部分にはM12以上を用いる。 3) ボルト及びナットを用いて木材及び接合金物を緊結する場合には適切な寸法と厚みのある座金を用いる。</p> <p>※ ボルト・ナット及び座金の使用部位、種類、材質、寸法、表面処理については特記仕様書で指定する。</p> <p>d) ドリフトピン・ラグスクリュー 主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靱性が確保されるものを選定することとする。使用箇所・材質・呼び径・呼び長さ等については特記仕様書で指定する。</p> <p>e) 木栓・木ダボ 主要構造部に使用する場合は所定の強度が確保できる樹種を指定する。樹種・径等については、特記仕様書で指定する。節・目切れ等の耐力上の欠点のないものとする。</p> <p>(3) 接合金物 a) 規格金物 構造材の接合に用いる接合金物の規格は以下による。 ・JIS A 5531：木構造用金物 ・公益財団法人日本住宅・木材技術センターによる規格に準じた金物： Zマーク表示金物、又は Cマーク表示金物 ・同等認定金物：Dマーク表示金物 ・性能認定金物：Sマーク表示金物</p> <p>上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験評価機関で試験成績書を取得して基準耐力が明示された金物を、規格金物として使用できる。 使用部位と金物の名称、材質、その他については特記仕様書で指定する。</p> <p>b) 製作金物 製作金物の使用部位・材質・形状・寸法・溶接仕様・表面処理等については、特記仕様書及び設計図による。</p> <p>(4) 接着剤 原則として、構造計算による応力の検定に現場接着による接着剤の耐力は算入しない。但し、たわみや振動等に対する剛性確保のために接着剤の効果を見込む場合はこの限りではない。 建築現場で用いる接着剤の名称・材質・使用環境等については特記仕様書による。</p> <p>(5) 防蟻防蟻処理及び耐蟻処理 防蟻防蟻処理及び耐蟻処理（塗装）は特記仕様書で指定する。 土台及び外壁の地盤面から1m以下の構造材については適切な防蟻防蟻処理を行う。 適切な防蟻防蟻処理については特記仕様書で指定する。</p>	<h2>3. アンカーボルト</h2> <p>※共通事項 ・アンカーボルト及び座金の品質と性能、表面処理等は、特記仕様書による。</p> <p>(1) 土台固定用アンカーボルト a) アンカーボルトの埋設位置：アンカーボルトの埋設位置は以下による。</p> <p>-1. 耐力壁（筋交い、合板仕様共通）の下部： 耐力壁（筋交い、合板仕様共通）の下部は、その両端の柱の下部に近接した位置（柱芯より200mm内外）とする。</p>  <p>-2. 土台切れの端部及び、土台の継手仕口： 土台切れの端部及び、土台の継手仕口では、男木の端部に設ける。当該部分が出隅の場合は、出来る限り柱に近接させた位置とする。</p>  <p>仕口の場合 土台切れの場合（柱勝ち収まり等）</p>  <p>-3. その他：上記以外では、2.0m以内の間隔で設ける。</p> <p>(2) 引張金物専用アンカーボルト a) 引張金物専用アンカーボルトの径 引張金物専用アンカーボルトの呼び径は、M16以上とする。</p> <p>b) 引張金物専用アンカーボルトの基礎への埋込み長さ 引張金物専用のアンカーボルトの基礎コンクリートへの埋込み長さは、J型アンカーボルトを用いる場合は、360mm以上とする。その他のアンカーボルトを用いる場合は、引張金物の耐力を満たす埋込み長さとする。</p>	<h2>4. 接合一覧</h2> <p>(1) 釘接合 ・釘の長さは材厚の2.5倍以上とする。 ・面材表面に対し、釘頭がめり込んではいならない。 ・自動釘打ち機を使用する場合は、圧力を適切に調整するか、弱めの圧力で打込んだうえに手で打込んで仕上げる等により、釘頭のめり込みを防ぐ。 ・構造耐力上主要な部分において、釘を引き抜き方向に抵抗させることは避ける。 ・木口面に打たれた釘は、引抜き方向に抵抗させることはできない。</p> <p>(2) 木質構造用ビス接合 ・木口面に打たれた木質構造用ビスは、引抜き方向に抵抗させることはできない。 ・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。 ・比重が0.5以上の樹種・・・呼び径の60～75% ・上記以外の樹種・・・呼び径の40～70% ※先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの2/3程度とする。</p> <p>(3) ボルト接合 ・締付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適切であることを確認する。 ・ボルトの締め付けは、座金等が木材に軽くめり込む程度とし、過度に締付けない。 ・締め付けを完了したボルトは、ねじ部がナットから2山以上突き出ていることを確認する。但し、座振り座金等、ナットと座金为一体になって土台に埋込まれるタイプのものについては、メーカーの使用条件による。 ・引張力を負担する構造上主要な箇所のボルトで、設計図書で指定する部位のものについては、ダブルナット等、弛み止め等の適切な処置を行う。</p> <p>(4) ラグスクリュー接合 ・座金の厚さと大きさは、同じ胴径のボルト接合部における規定値を用いる。 ・締付けに先立ち、ラグスクリューの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適切であることを確認する。 ・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。 ・比重が0.5以上の樹種・・・呼び径の60～75% ・上記以外の樹種・・・呼び径の40～70% ※先孔の深さは、ネジ部の長さと同寸以上とする。 ・ラグスクリューの挿入は、スパナやインパクトレンチ等を用い、必ず回転させて行う。ハンマー等での叩き込みによる挿入を行ってはならない。 ・一度ねじ込んだラグスクリューは、抜き直して再びねじ込むことは避ける。 ・鋼板を側材に用いる場合のラグスクリューは、切削ネジタイプとし、転造ネジタイプを用いてはならない。また、鋼板の孔径は以下のとおりとする。 ・呼び径 M12以下：+1.0mm ・呼び径 M16以上：+1.5mm</p> <p>(5) ドリフトピン接合 ・ドリフトピンは、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。 ・ドリフトピンは、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。 ・施工に際しては、孔に対しテーパのある側を先端にして打込み、無理な打撃を加えてはならない。</p> <p>(6) 木栓接合 ・木栓は、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。 ・木栓は、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。 ・施工に際しては、木栓を孔に対し打込む時に、折れ曲がりや割れ、頭部の潰れ等が生じないように注意し、無理な打撃を加えてはならない。 ・木栓は湿気の少ない場所で保管し、現場においても水に濡れないよう注意する。</p> <p>(7) グルードインロッド接合 ・グルードインロッド接合とは、軸組部材の木口に先孔を開け、鋼棒等挿入して、樹脂接着剤等を注入・充填させることにより、接着剤の付着抵抗と鋼棒等の引張によって、応力を伝達する接合をいう。 ・グルードインロッド接合は、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。 ・施工に際しては、所定の適用範囲や材料、手順、接着剤の使用環境、養生方法等を遵守して適正に行う。</p>
---	--	---	--

木造軸組接合部標準図(2)

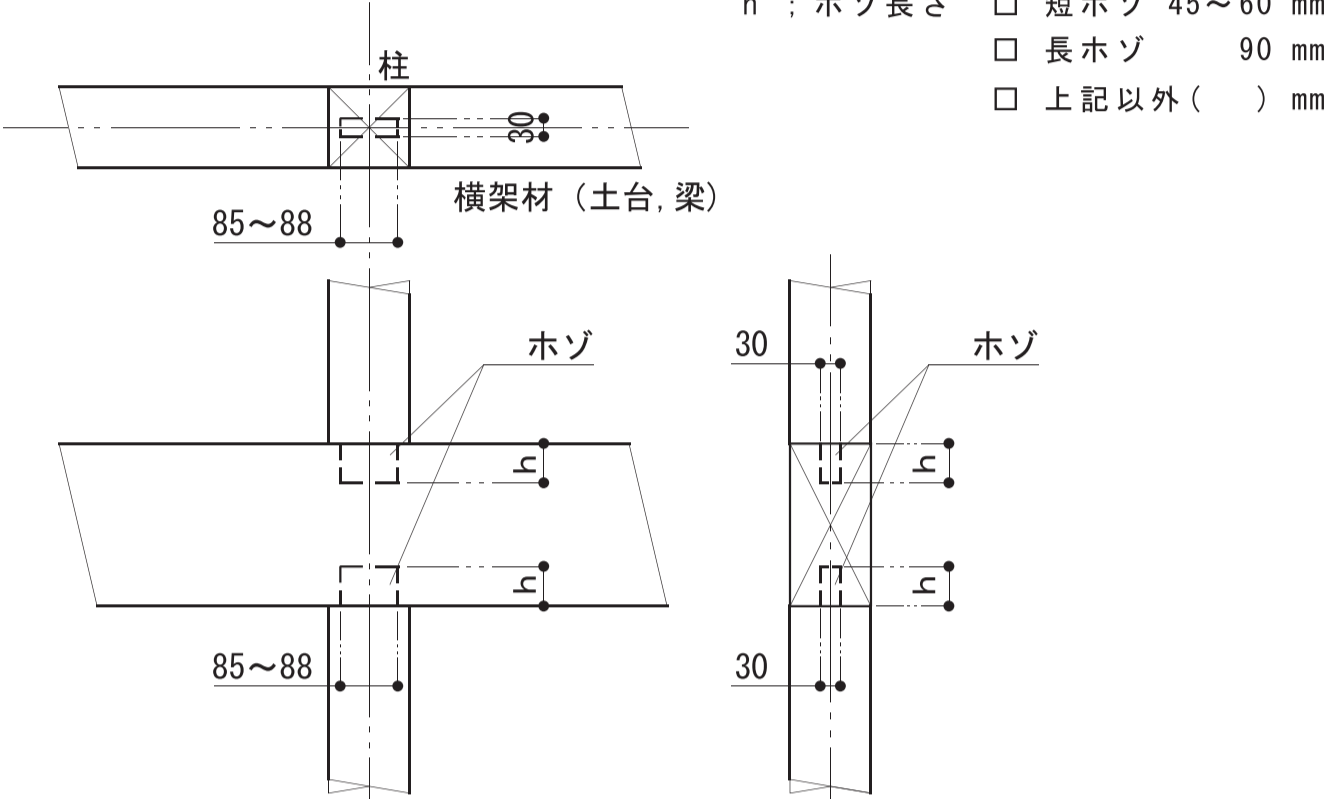
5. 軸組標準接合部

(1) 共通事項及びキーフレーム

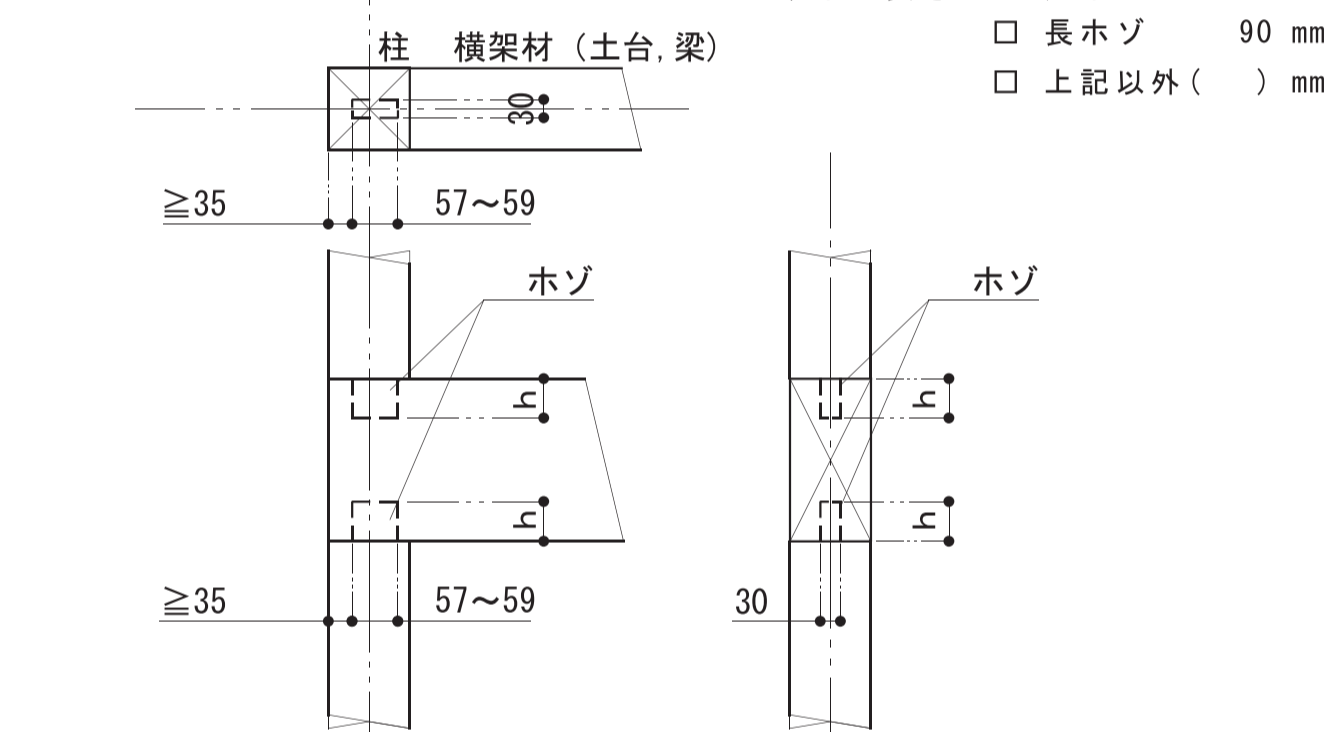


(2) 標準的な継手仕口 (mm)

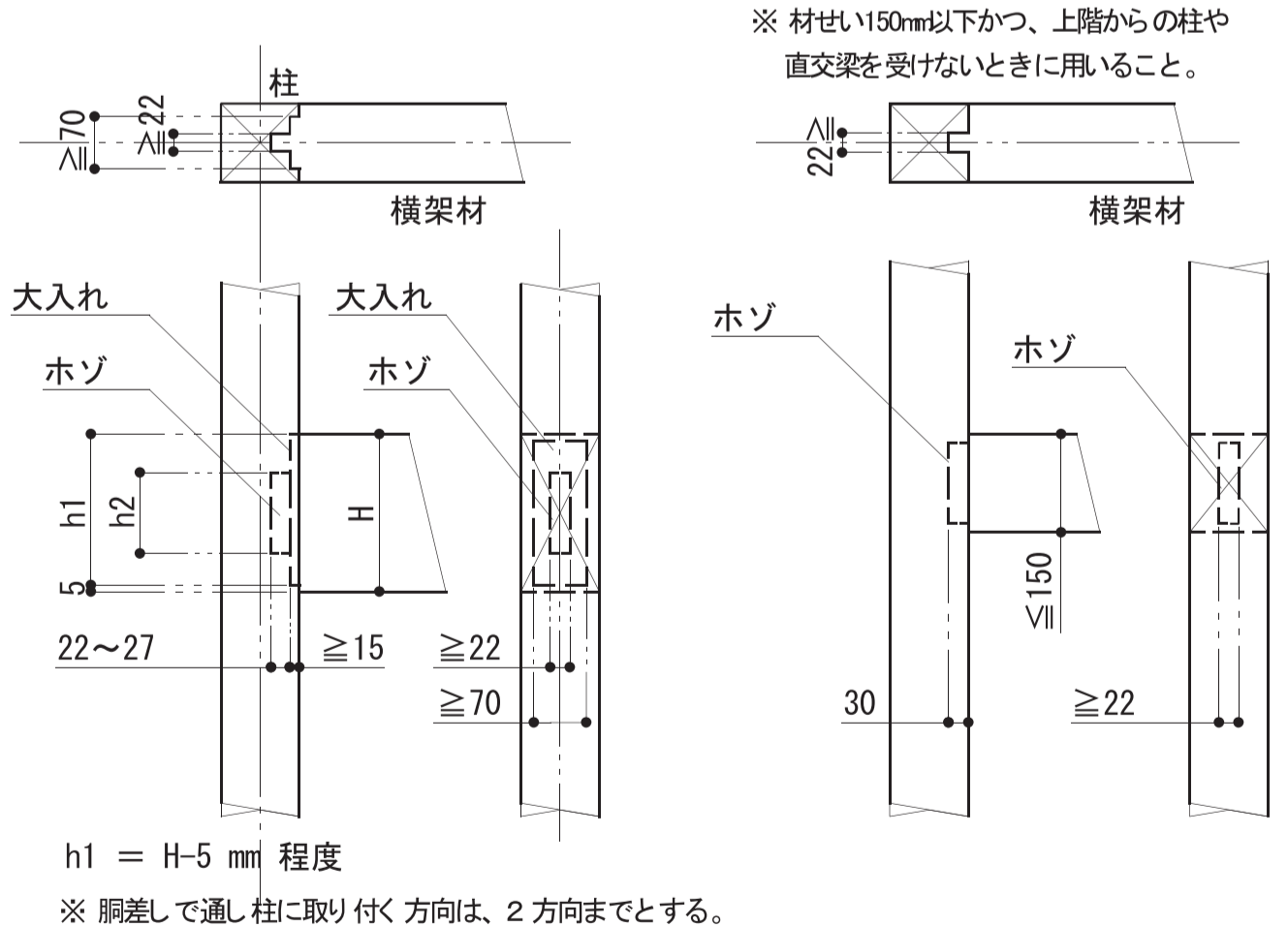
A 柱-横架材仕口：一般部 (土台共通)



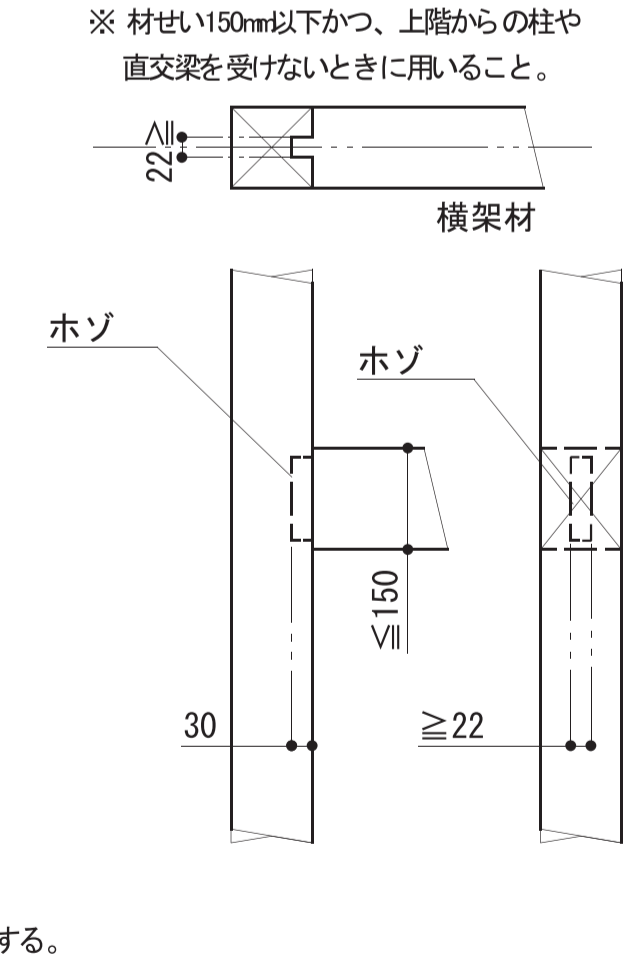
B 柱-横架材仕口：出隅部 (土台共通)



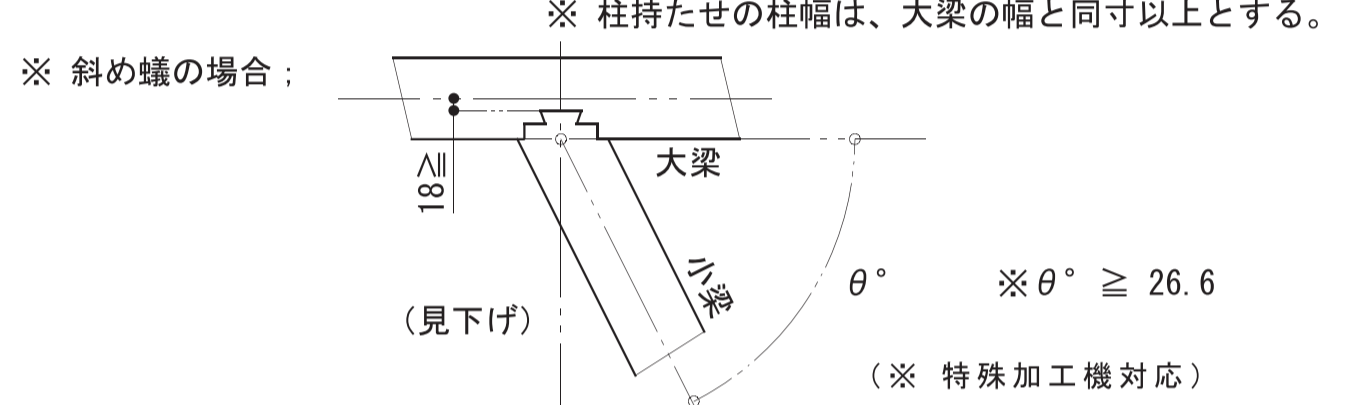
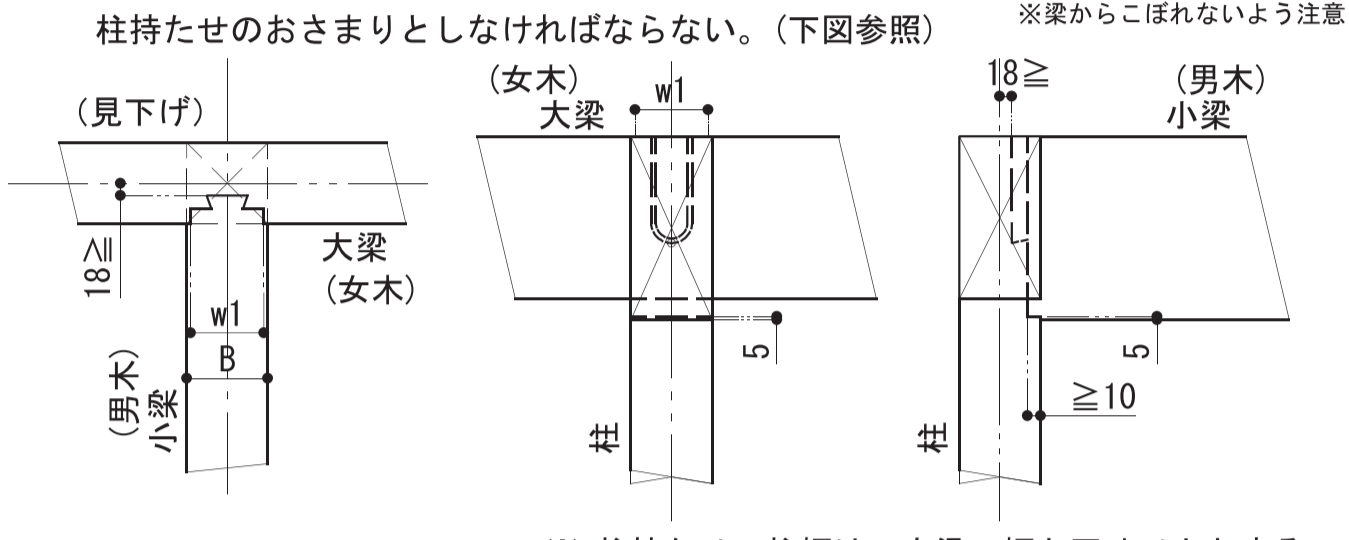
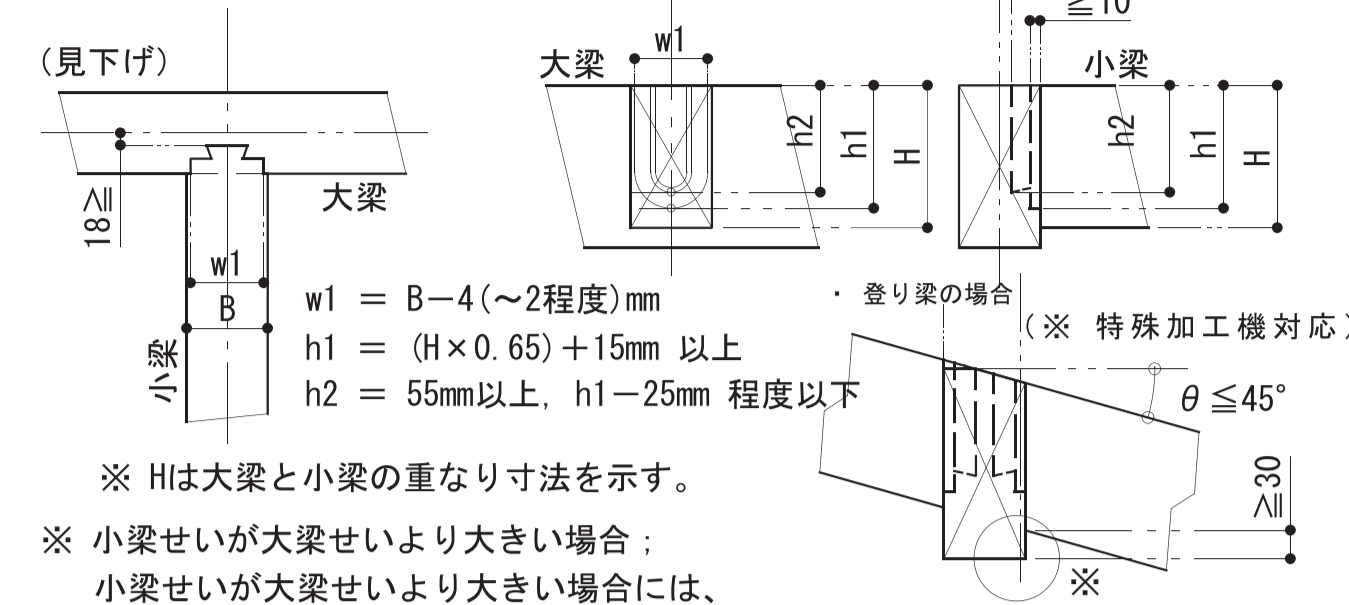
C 通柱-横架材仕口：胴差し



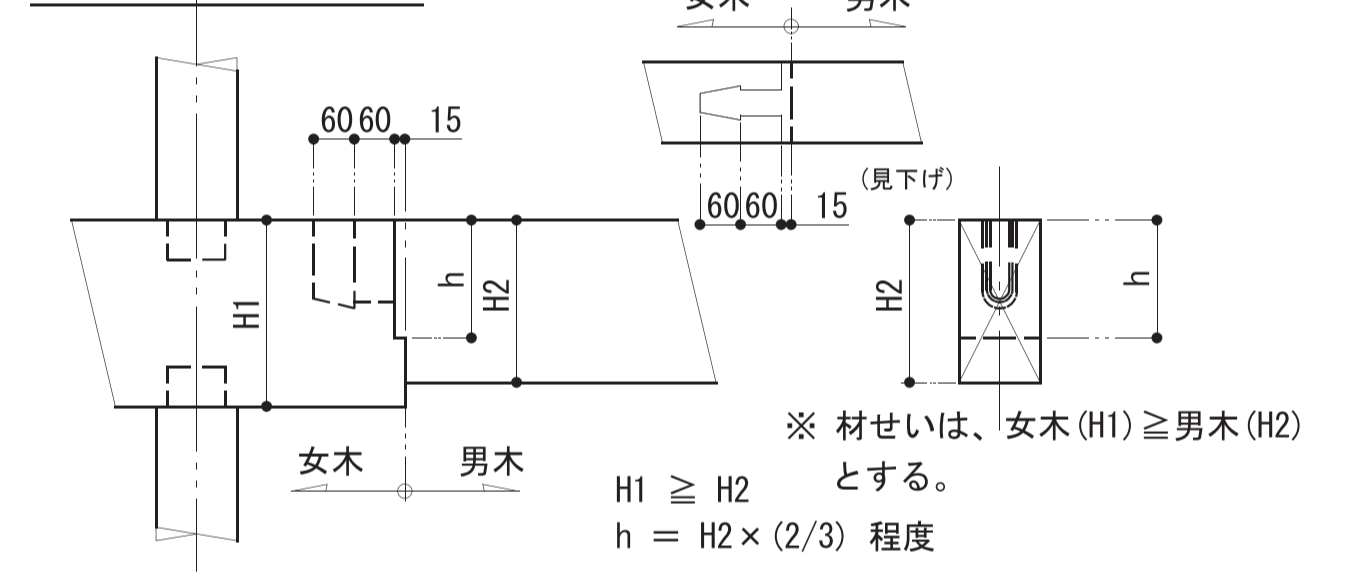
C 通柱-横架材仕口：桁差し



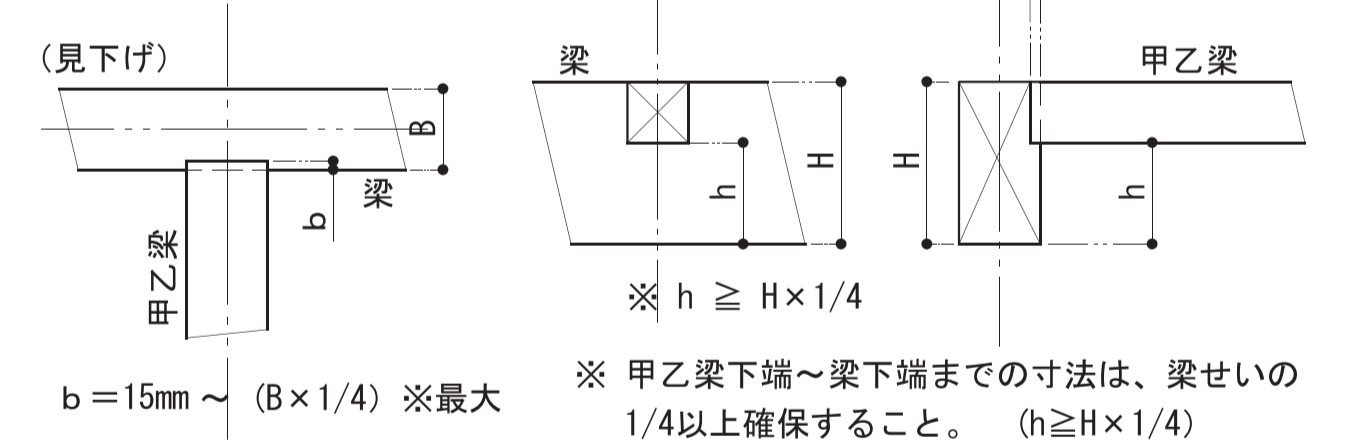
D 大梁-小梁仕口：蟻仕口



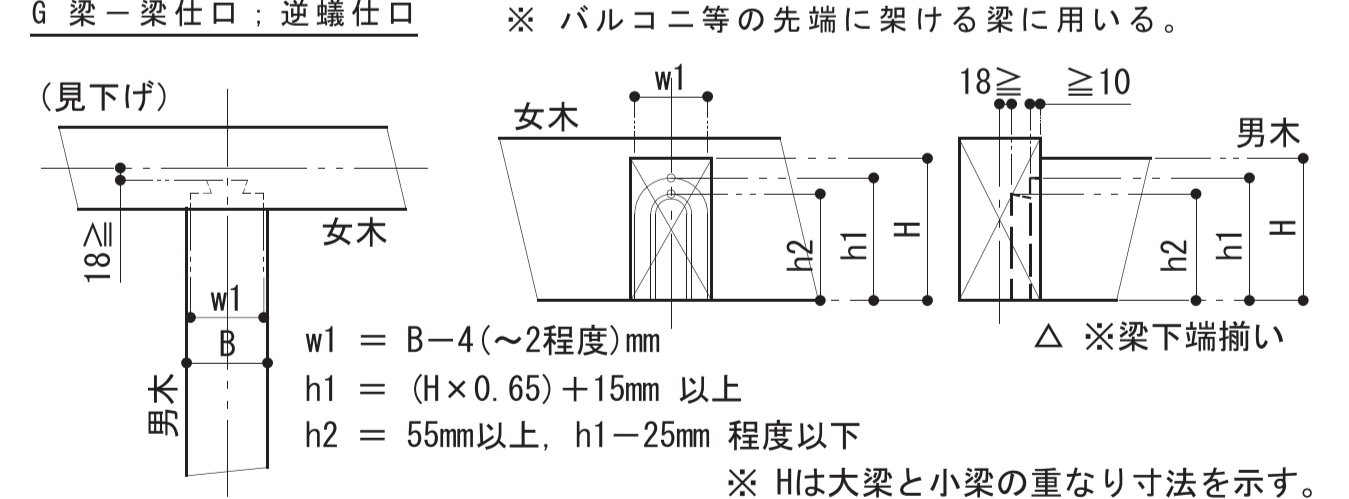
E 梁-梁継手：腰掛継ぎ



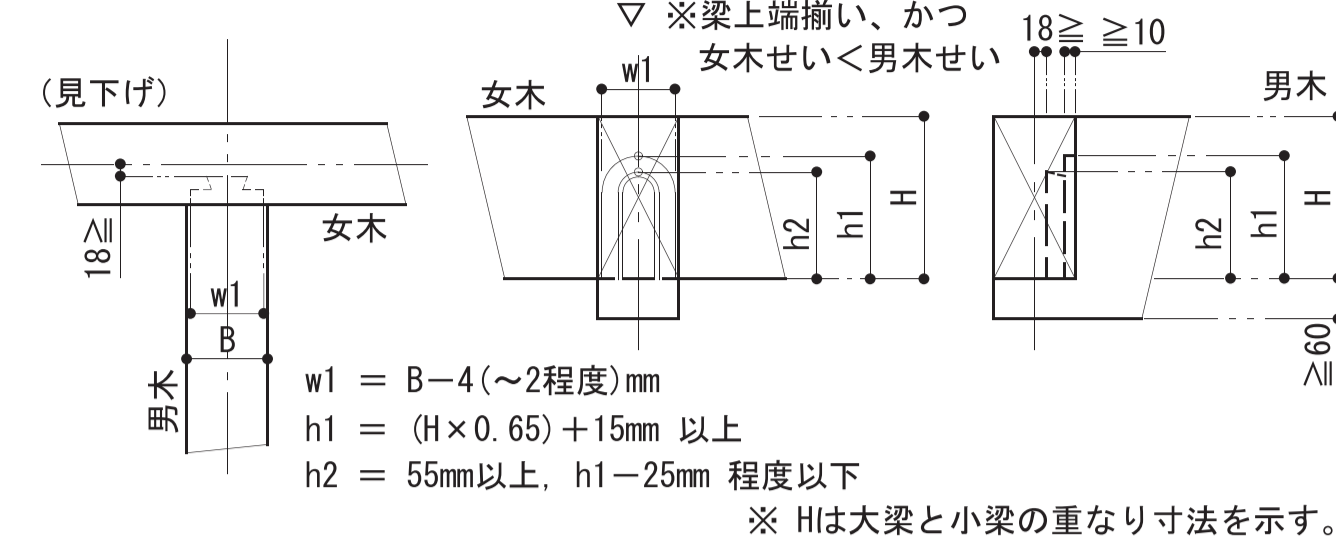
F 梁-甲乙梁仕口：大入れ



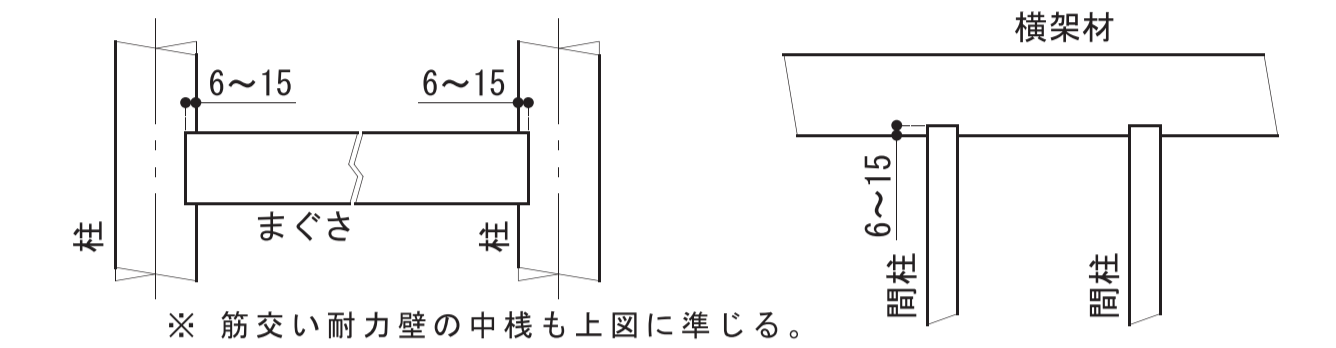
G 梁-梁仕口：逆蟻仕口



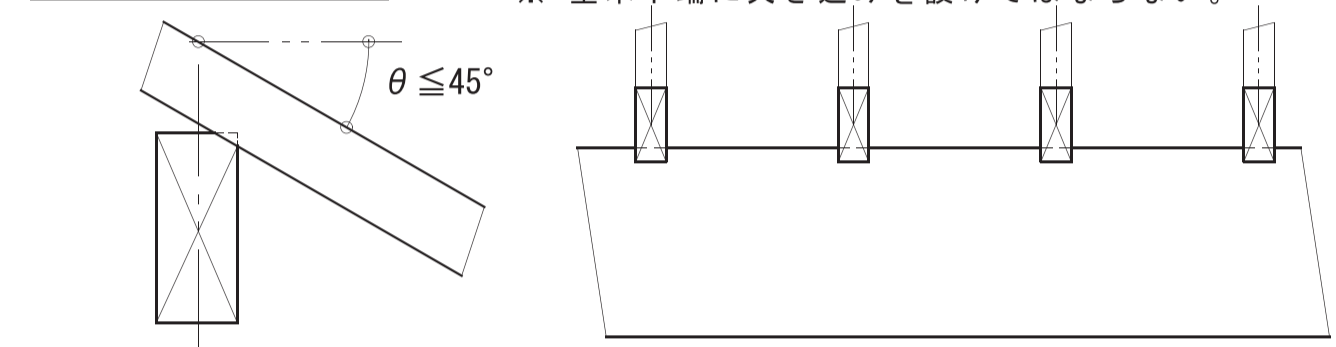
H 梁-梁仕口：茶臼仕口



I その他：まぐさ欠き



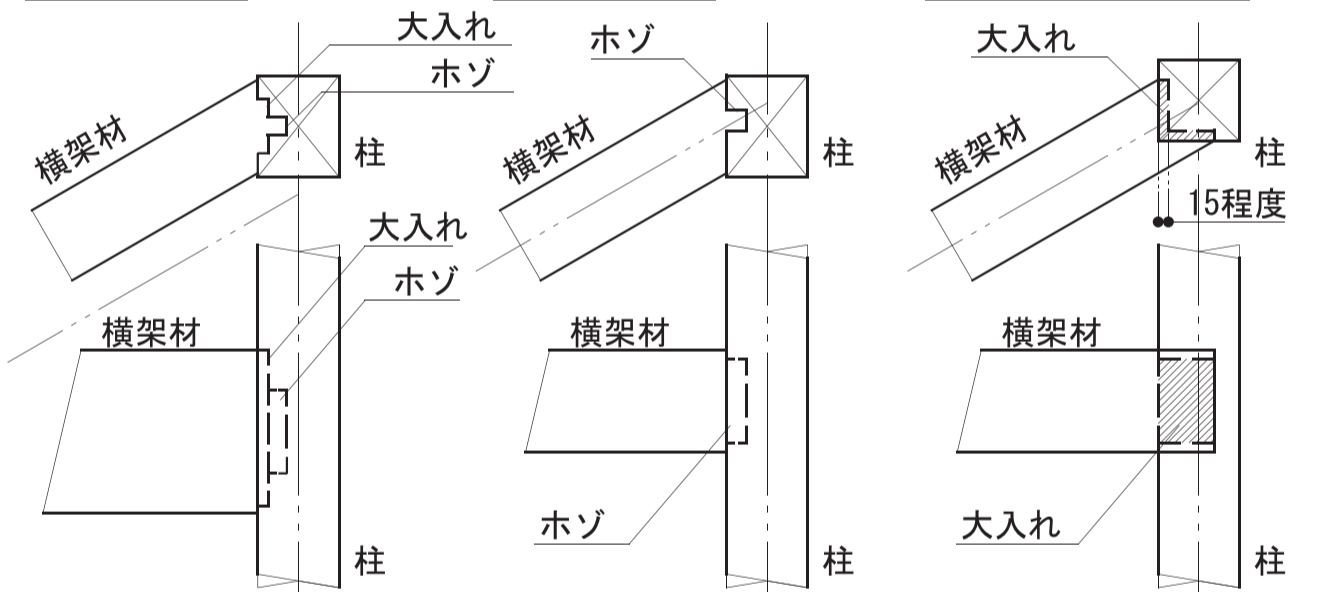
J その他：間柱欠き



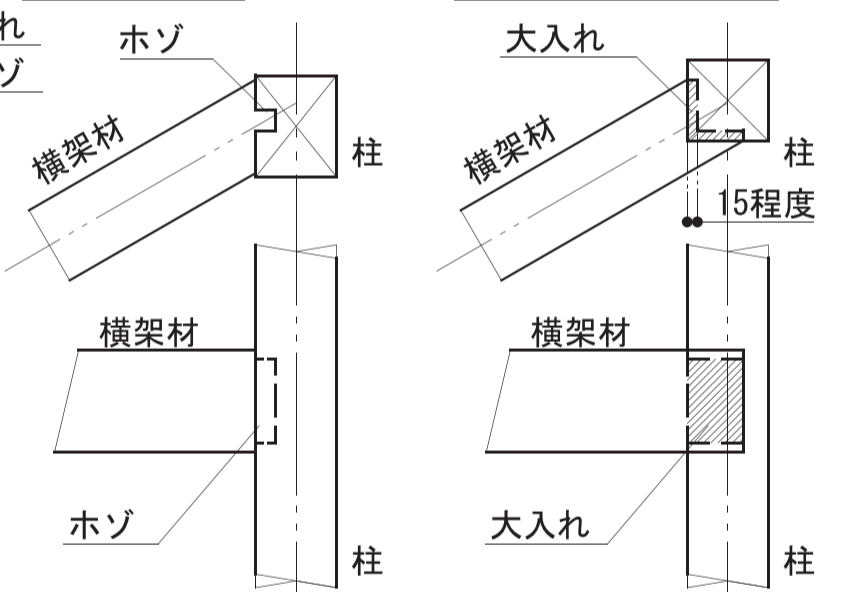
(3) 特殊加工機を用いた標準的な継手仕口 (mm)

特殊加工機を用いることにより対応可能な継手仕口の一例を、本節に示す。特殊加工機を用いた継手仕口は、加工工場が限定されるので注意すること。特殊加工機を用いた継手仕口は、その形状により加工コストが増すので注意すること。

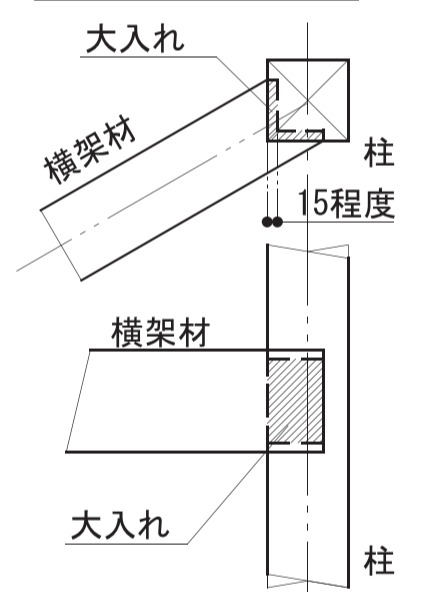
L 斜め胴差し



M 斜め桁差し

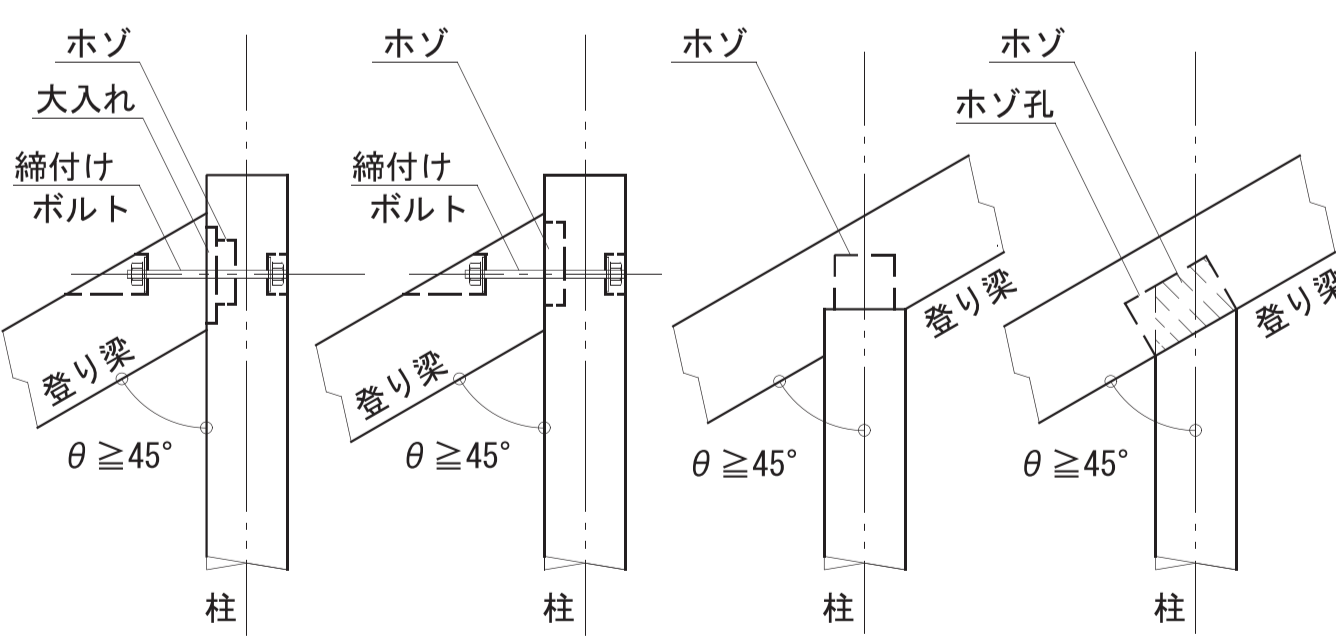


N 斜め柱差し大入れ

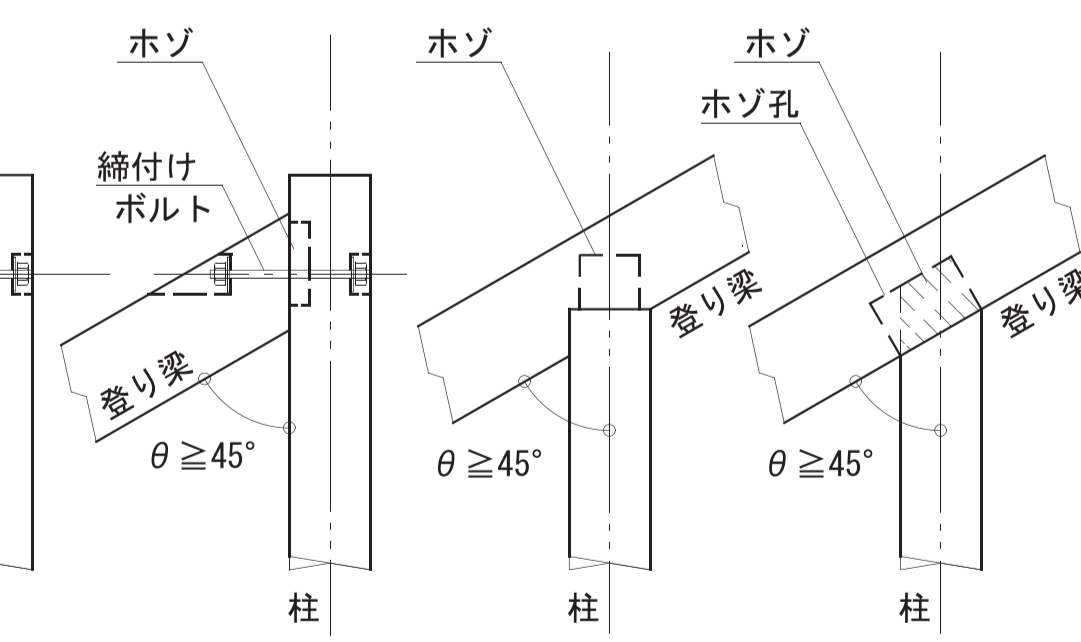


※ L, Mともに、梁幅が柱からこぼれない範囲で用い、柱断面を調整して使用すること。
※ L, Mともに、柱梁の緊結には引きボルトの代わりにコーナー金物を横使いとする。使用するコーナー金物は、羽子板同等以上の引張耐力を有するものとする。

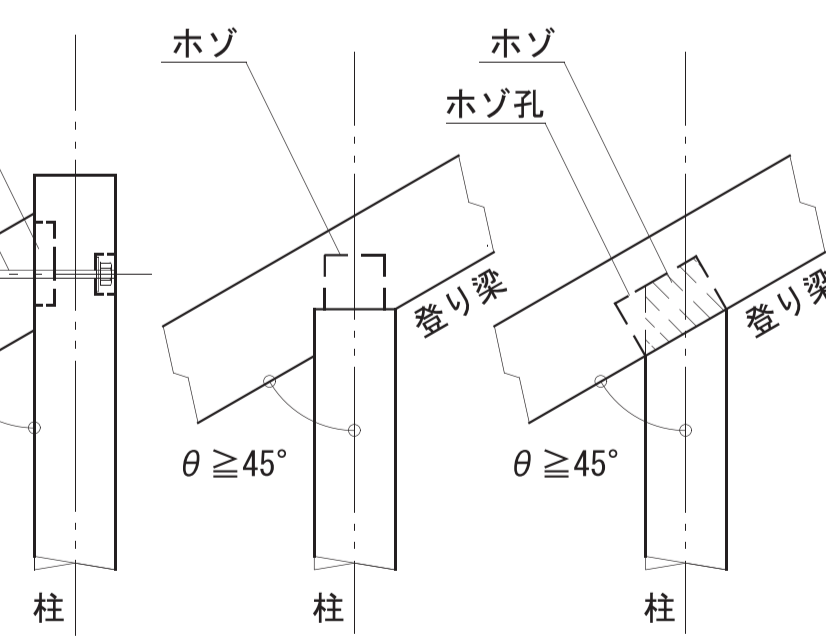
O 登り胴差し



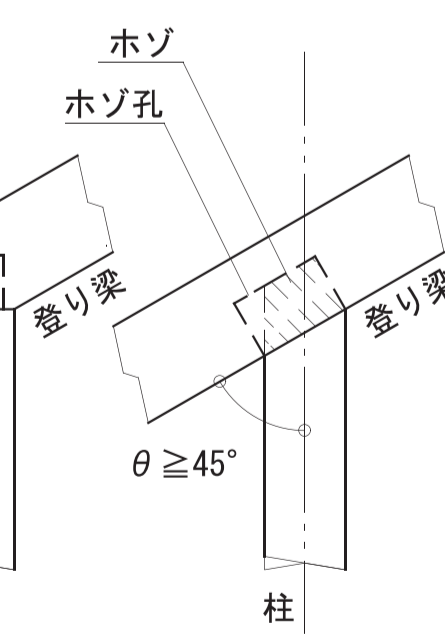
P 登り桁差し



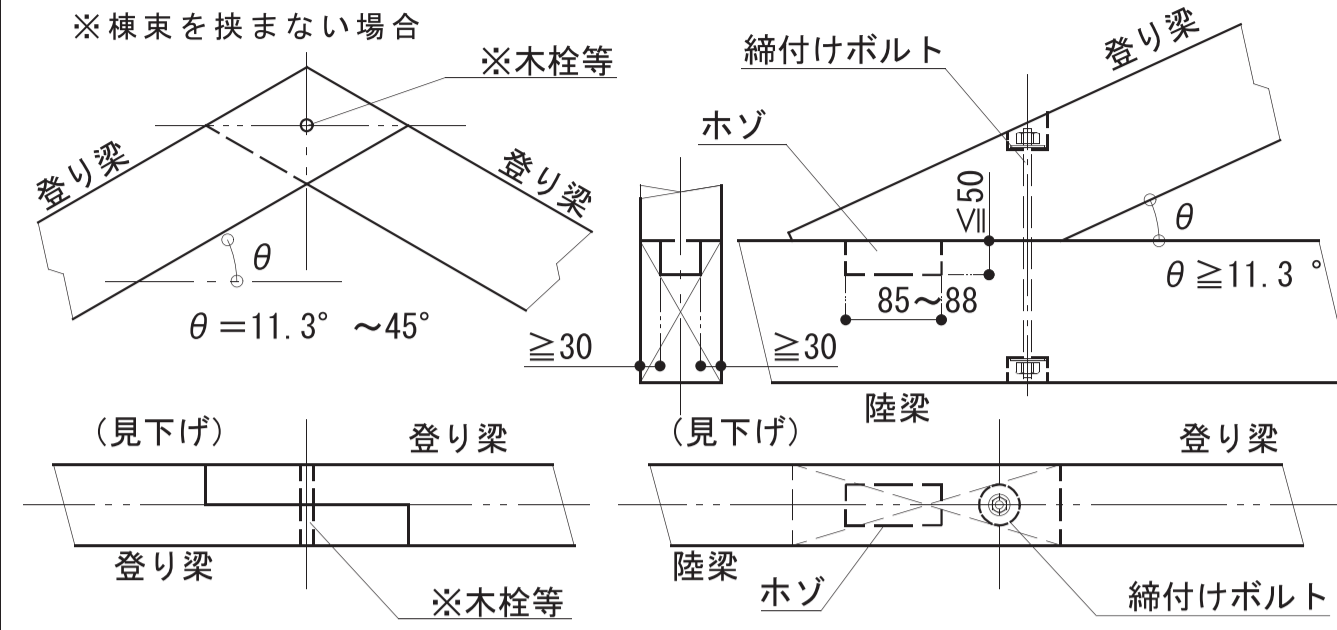
Q 登り斜めホゾ



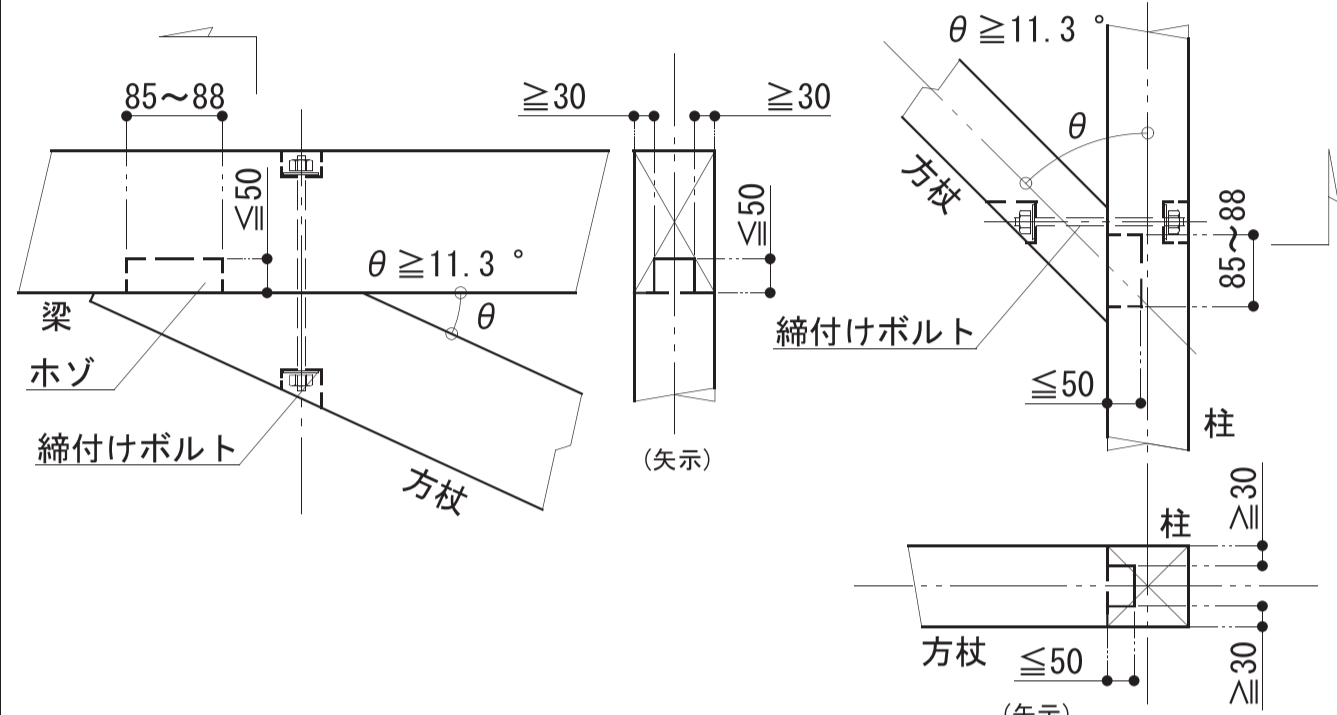
R 登り座付きホゾ



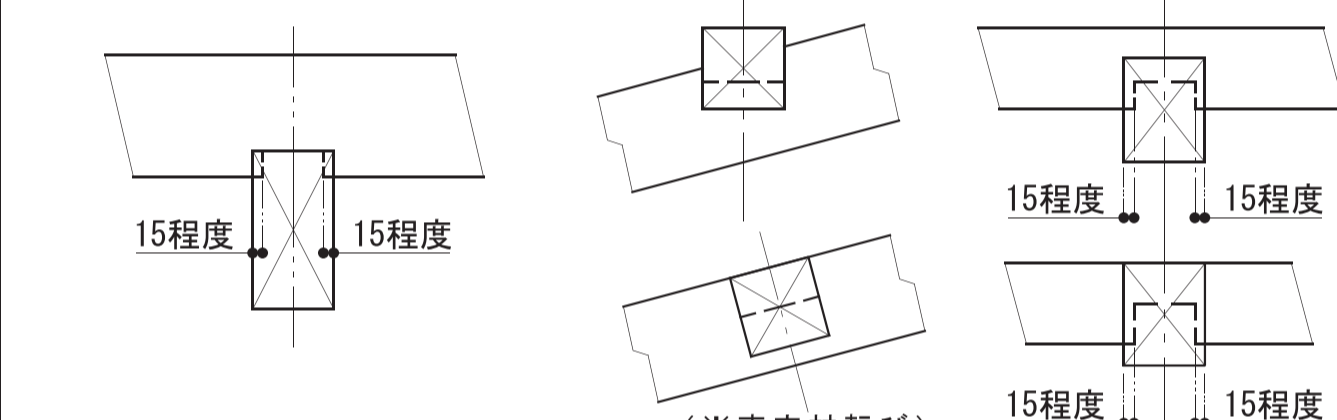
S 登り梁合掌部



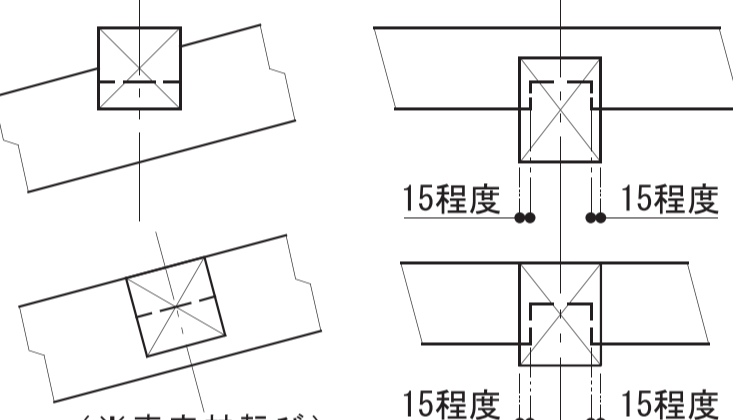
U 方杖-梁仕口



W 渡り頭

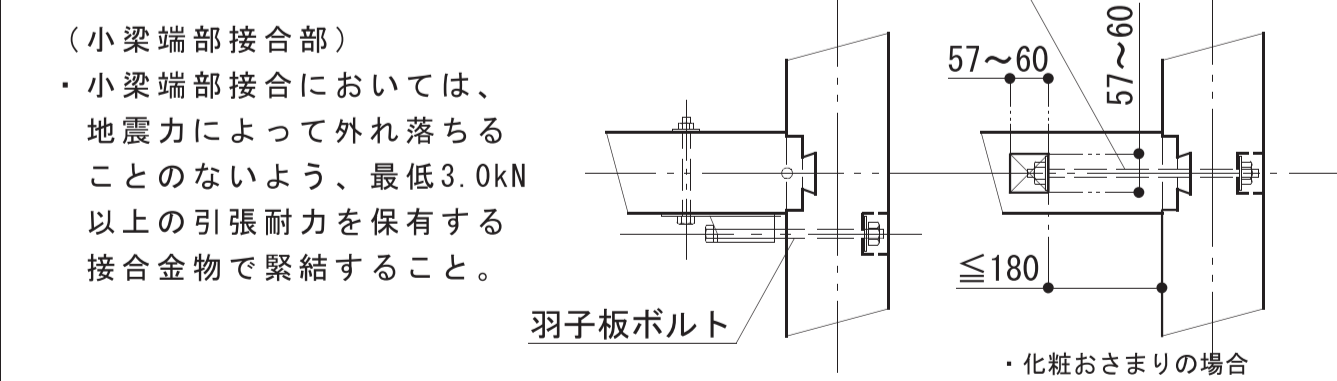
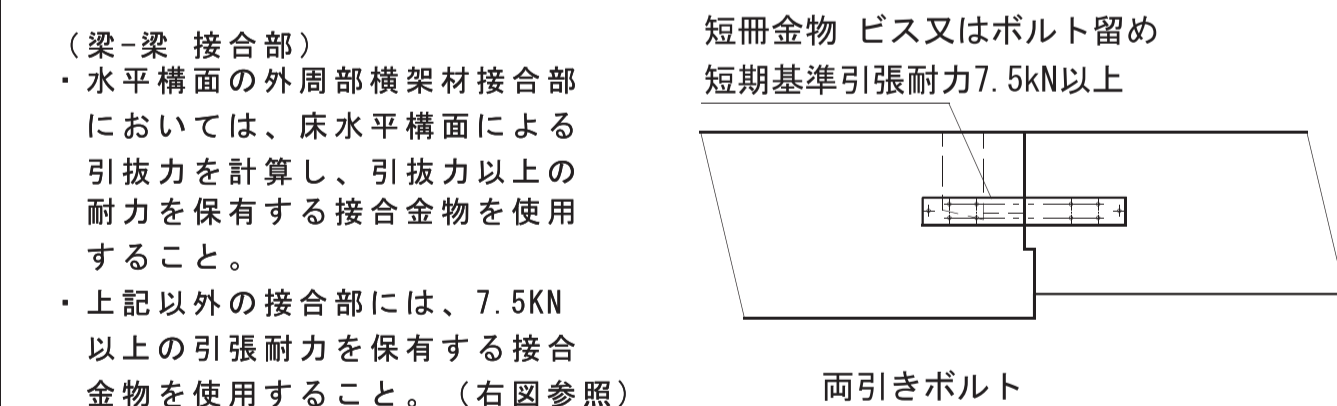
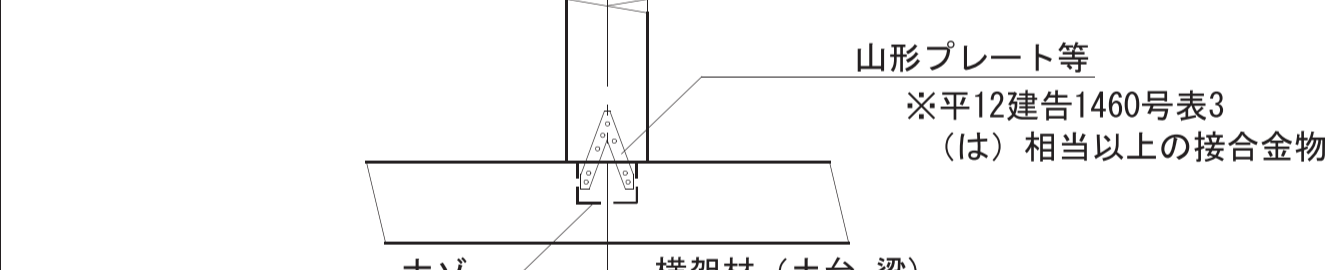


X 登り梁渡り頭



(4) 継手・仕口の補強金物

・耐力壁枠柱の柱脚・柱頭においては、耐力壁による引抜き力を計算し、引抜き力以上の耐力を有する接合金物を使用すること。
・上記以外の柱脚接合部には、5.1kN以上の引張耐力を有する接合金物(平12建告1460号表3に対応する表符号の"は"相当以上)を使用すること。



木造軸組接合部標準図(3)

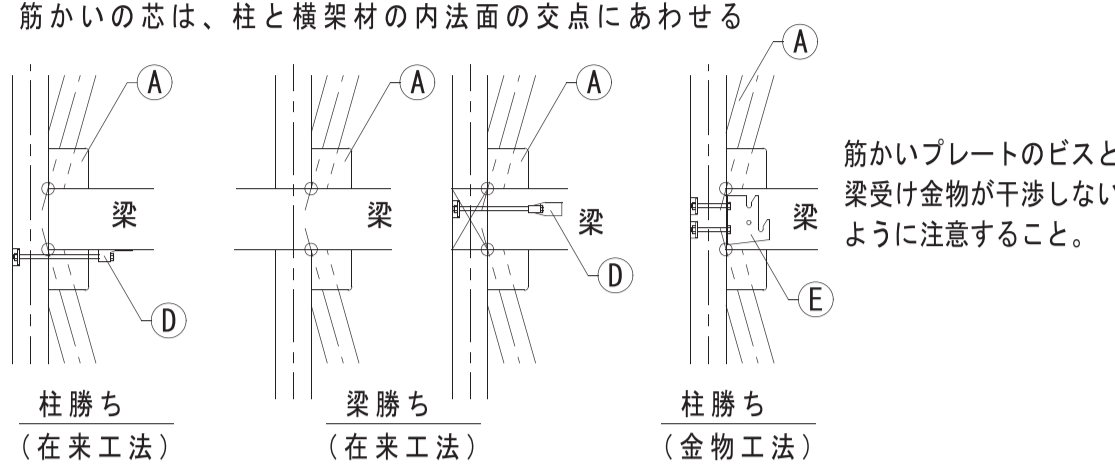
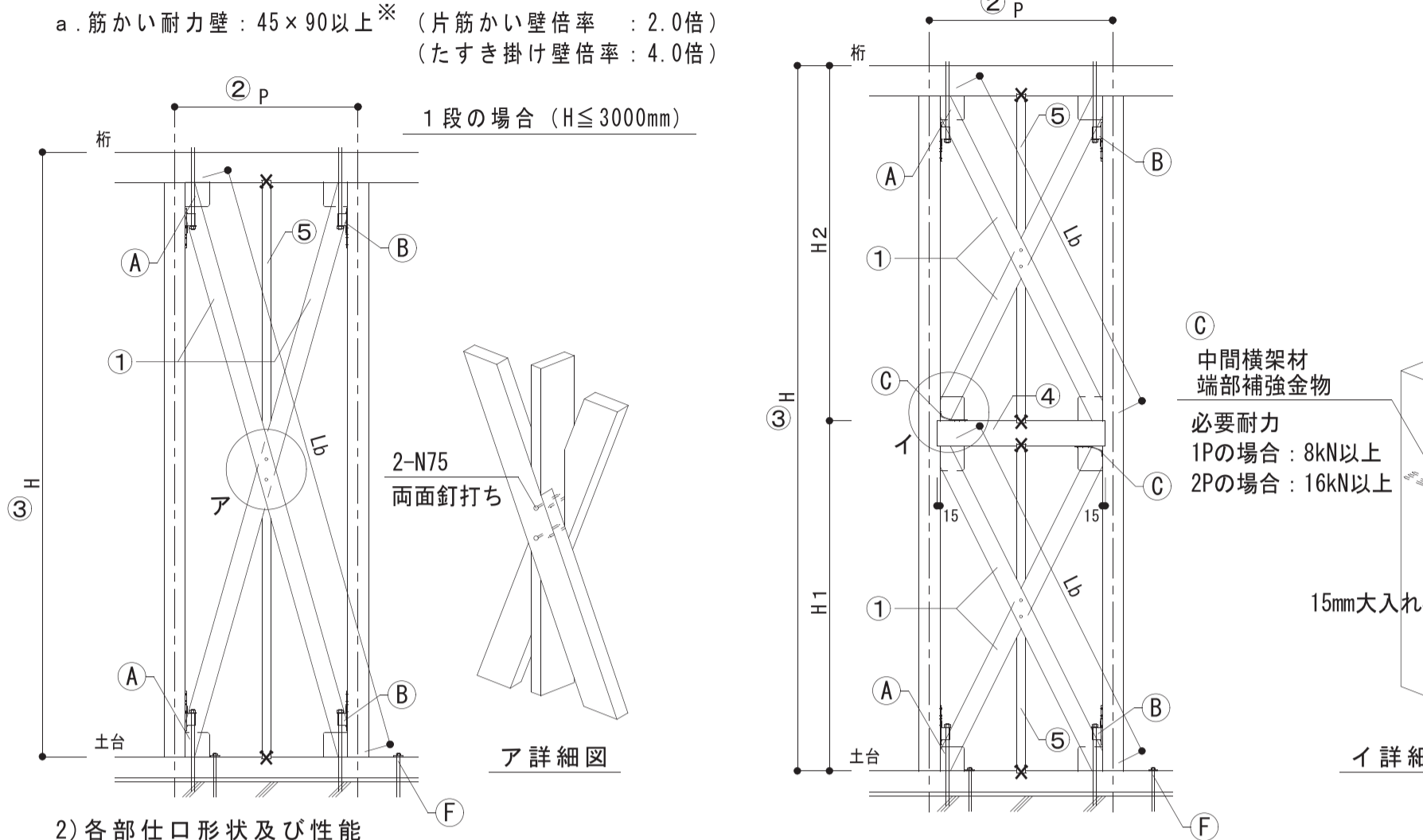
6. 耐力壁

(注) (単位)mm

6.1 共通事項

各部仕口形状は、(3)高耐力仕様構造用合板張り耐力壁を除き、木造軸組接合部標準図(2)5.軸組標準接合部に準ずる。
 耐力壁の土台と基礎との間は、無収縮モルタル又は十分な耐久力を持つスペーサー材を挿入し隙間を埋めること。
 柱の有効細長比(断面の最小二次率半径に対する産屈長さの比)は、150以下とすること。

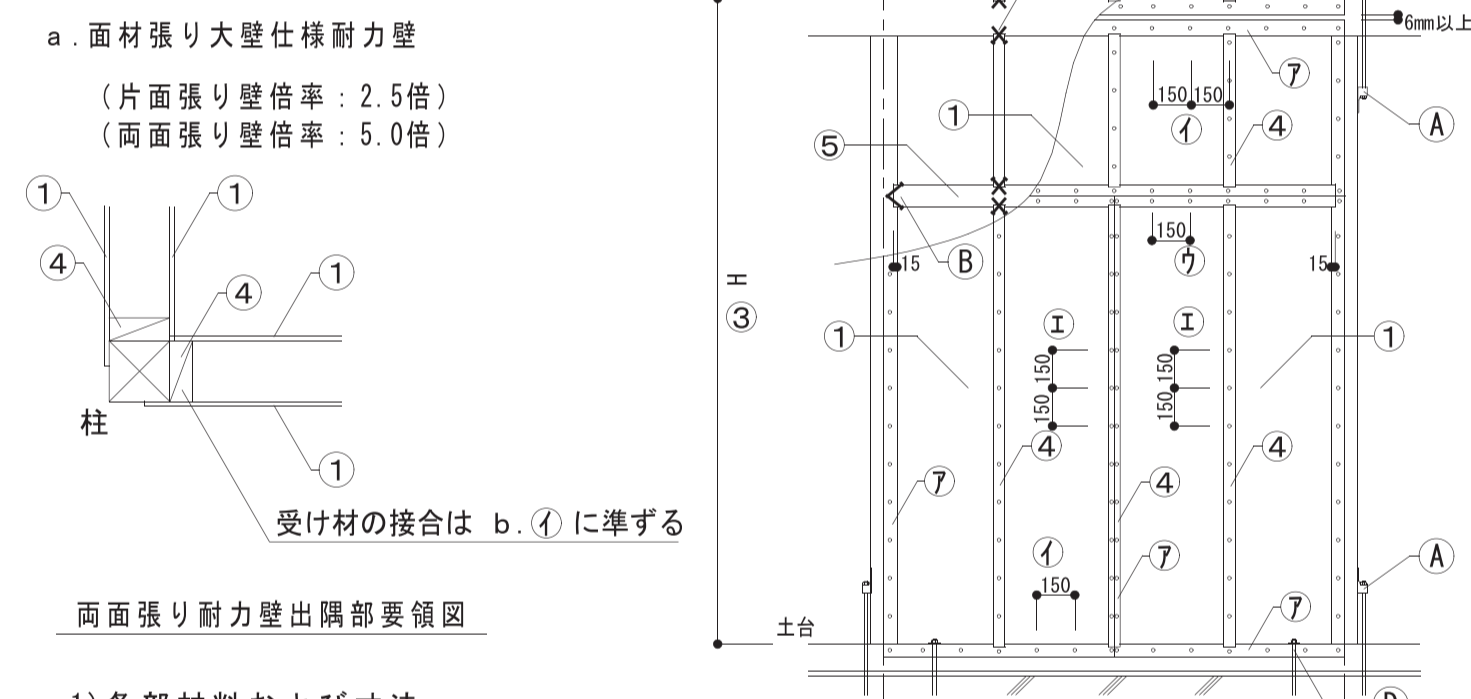
6.2 耐力壁の仕様 (1) 施行令46条に準じた耐力壁



- 1) 各部材料および寸法
- ① 筋かい: 45mm×90mm以上※(節、目切れ等軽微なもの)
 - ② 柱間隔: 900mm ≤ P ≤ 2000mm
 - ③ 高さ: H ≤ 3000mm: 1段、 H > 3000mm: 2段
2段の場合: 6000mm ≥ H > 3000mm
H1及びH2は、H/2内外
 - ④ 中間横架材: 幅: 柱と同等、せい ≥ 柱幅
 - ⑤ 間柱: 幅45mm以上、間隔500mm以下 端部は上下横架材の間柱欠きに6~15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち
- ※ 筋かい断面は、内法対角長さLbに応じて、以下の断面寸法以上とする。
 Lb ≤ 2700 → 45×90以上 Lb ≤ 3150 → 45×135以上
 Lb ≤ 2850 → 45×105以上 Lb ≤ 3300 → 45×150以上
 Lb ≤ 3000 → 45×120以上

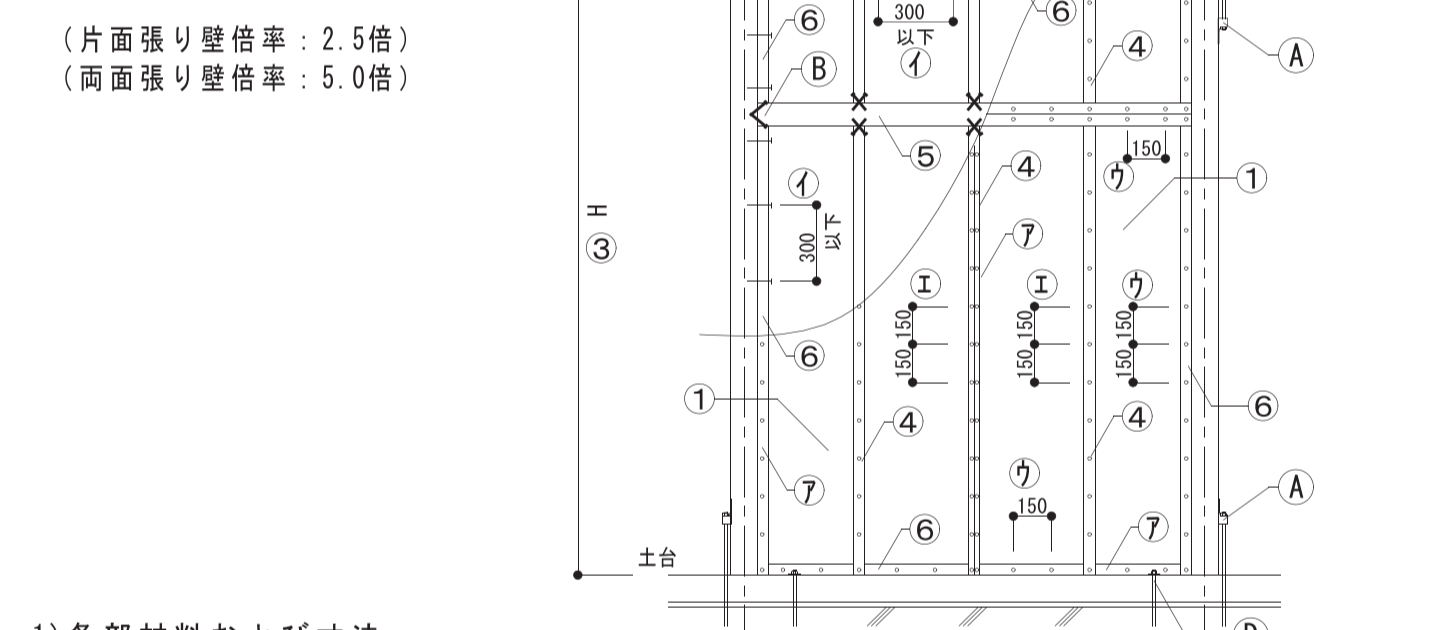
- 2) 各部仕口形状及び性能
- A 筋かい端部: 突き付けの上 筋かいプレート(2倍用)を使用 在来工法及び金物工法とも柱梁ビスどめタイプを基本とする
 - B 各階の柱頭柱脚部: ホゾ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
 - C 中間横架材端部: 15mm大入れの上、必要耐力以上の金物を横向きに使用 必要耐力: 1Pの場合→8kN以上、2Pの場合→16kN以上
 - D 梁端部在来仕口部補強金物: 耐力壁の許容せん断力以上の引抜耐力を有するものとする E 梁端部金物工法梁受け金物: 耐力壁の許容せん断力以上の引抜耐力を有するものとする
 - F 耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト: M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置(柱芯から200mm内外)に1本ずつ設ける

(2) 昭56建告1100号に準じた耐力壁



- 1) 各部材料および寸法
- ① 面材: 構造用合板 t=9mm以上又はOSB t=9mm以上
 - ② 柱間隔: 600mm ≤ P ≤ 2000mm
 - ③ 高さ: H ≤ 6000mm、かつ一連の耐力壁の両端柱芯間距離の5倍以下
 - ④ 間柱: 幅45以上、間隔500mm以下
 - ⑤ 中棧: 幅90mm以上
- 2) 各部仕口形状及び性能
- A 各階の柱頭柱脚部: ホゾ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
 - B 中棧端部: まぐさ欠きに15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち
 - C 間柱端部: 間柱欠きに6~15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち
 - D 耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト: M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置(柱芯から200mm内外)に1本ずつ設ける
- 3) 構造用合板の釘打ち方法
 構造用合板(又はOSB)の4周を釘打ちする
- ⑦ 柱及びはりに対するかかり寸法: 22.5mm以上
合板に対するへり空き: 10mm以上
柱はりのへり空き: 12.5mm以上
金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする
 - ⑧ 横架材・柱: N50@150mm以下
 - ⑨ 中棧: N50@150mm以下 ⑩ 間柱: N50@150mm以下

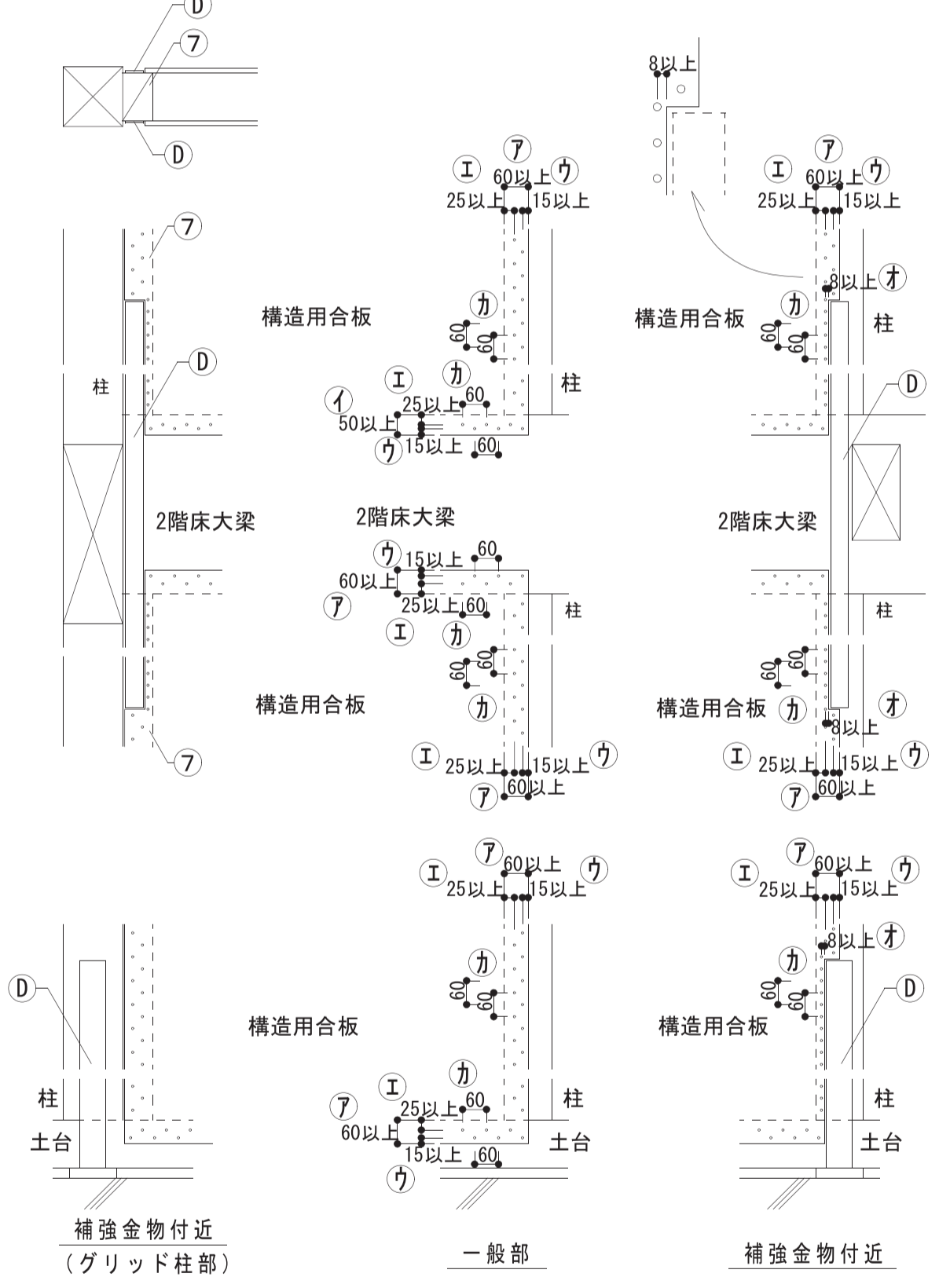
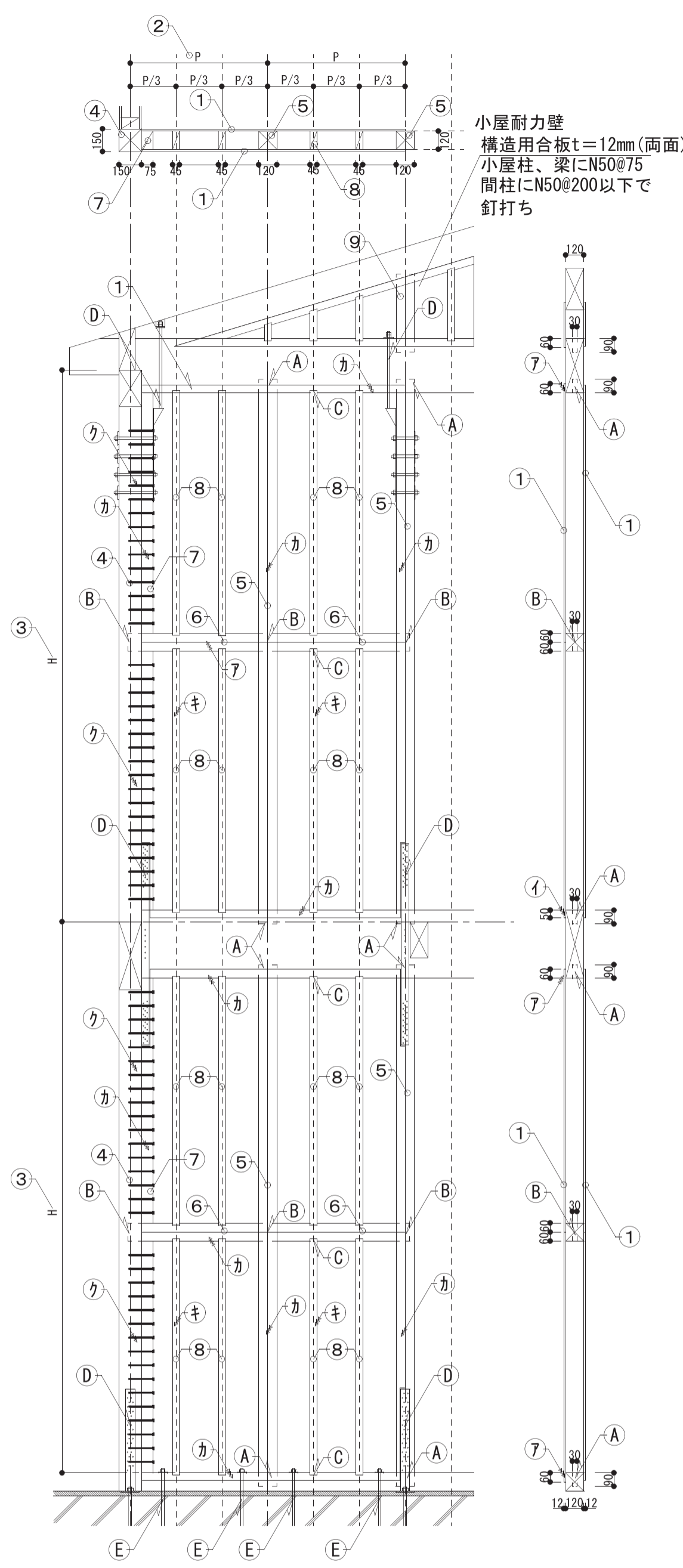
b. 受け材付き真壁仕様耐力壁



- 1) 各部材料および寸法
- ① 面材: 構造用合板 t=9mm以上又はOSB t=9mm以上
 - ② 柱間隔: 600mm ≤ P ≤ 2000mm
 - ③ 高さ: H ≤ 6000mm、かつ一連の耐力壁の両端柱芯間距離の5倍以下
 - ④ 間柱: 幅45以上、間隔500mm以下
 - ⑤ 中棧: 幅90mm以上 ⑥ 受け材: 幅45mm以上
- 2) 各部仕口形状及び性能
- A 各階の柱頭柱脚部: ホゾ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
 - B 中棧端部: 突き付けの上、2-N75斜め釘打ち
 - C 間柱端部: 突き付けの上、2-N75斜め釘打ち
 - D 耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト: M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置(柱芯から200mm内外)に1本ずつ設ける
- 3) 構造用合板の釘打ち方法
 構造用合板(又はOSB)の4周を釘打ちする
- ⑦ 受け材に対するかかり寸法: 22.5mm以上
合板に対するへり空き: 10mm以上
受け材のへり空き: 12.5mm以上
金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする
 - ④ 受け材と柱梁: N90@300mm以下(両面構造用合板(又はOSB)張りの場合は@150以下)
 - ⑨ 受け材、中棧: N50@150mm以下 ⑩ 間柱: N50@150mm以下

(3) 高耐力仕様構造用合板張り耐力壁(JIS A 3301標準仕様): 短期許容せん断耐力 $\Delta Q_a = 29.6kN/m$
 本耐力壁を採用する場合は、設計図書に試験成績書を添付すること。

- a. 条件及び仕様
- 1) 各部材料
- ① 面材: 構造用合板 t=12mm 両面張り
 - ② 間隔: 900mm ≤ P ≤ 1000mm
 - ③ 高さ: 1800mm ≤ H ≤ 3650mm
 - ④ 高耐力壁を用いる場合のグリッド柱: 150mm×150mm以上 (グリッド柱: X方向とY方向の主要鉛直構面の交点の柱)
 - ⑤ 高耐力壁の端部および合板継ぎ目部の柱: 120mm×120mm以上
 - ⑥ 構造用合板継ぎ目部横つなぎ材: 120mm×120mm以上
 - ⑦ グリッド柱に取付く受け材: 75mm×120mm以上
 - ⑧ 間柱: 見付け45mm以上、見込み120mm以上、間隔P/3以下
 - ⑨ 小屋柱: 120mm×120mm以上
- 2) 各部仕口形状及び性能
- A 柱頭柱脚部: 厚さ30mm×深さ90mm以上
 - B 中棧端部ホゾ: 片側から柱に取り付け場合: 厚さ30mm×深さ90mmホゾ差し 両側から柱に取り付け場合: 厚さ30mm×深さ60mmホゾ差し
 - C 間柱両端: 横架材への溝加工及び15mm程度大入れ
 - D 各階の柱頭柱脚部: 水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
 - E 耐力壁のせん断を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト: M16アンカーボルト耐力壁1P当り2本設ける
- 3) 各部への釘打及びビス止め
 構造用合板はたて張り、4周を釘打ちする
- ⑦ ④を除き、柱及びはりに対するかかり寸法: 60mm以上
 - ⑧ ⑥を除き、合板に対するへり空き: 15mm以上
 - ⑨ 柱はりのへり空き: 25mm以上
 - ⑩ 金物が干渉しへり空きが確保できない合板部分のへり空き: 8mm以上
 - ⑪ 横架材・柱・受け材: N50@60mmチドリ打ち
 - ⑫ 間柱: N50@90mm打ち
 - ⑬ ⑦の受け材とグリッド柱: 本質構造用ビスφ6、L130~150@100(2列)で留め付ける。



6.3 その他の耐力壁
 ・木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年版)の詳細計算法による面材張り耐力壁については、同書の規定に準拠することとし、釘ピッチ配列等の仕様については設計図による。
 ・指定性能評価機関またはそれに準ずる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された耐力壁については試験成績書の仕様を準拠することとする。
 ・大臣認定を取得した耐力壁については、認定書に記載された適用範囲及び仕様を守る。

木造軸組接合部標準図(4)

7. 水平構面

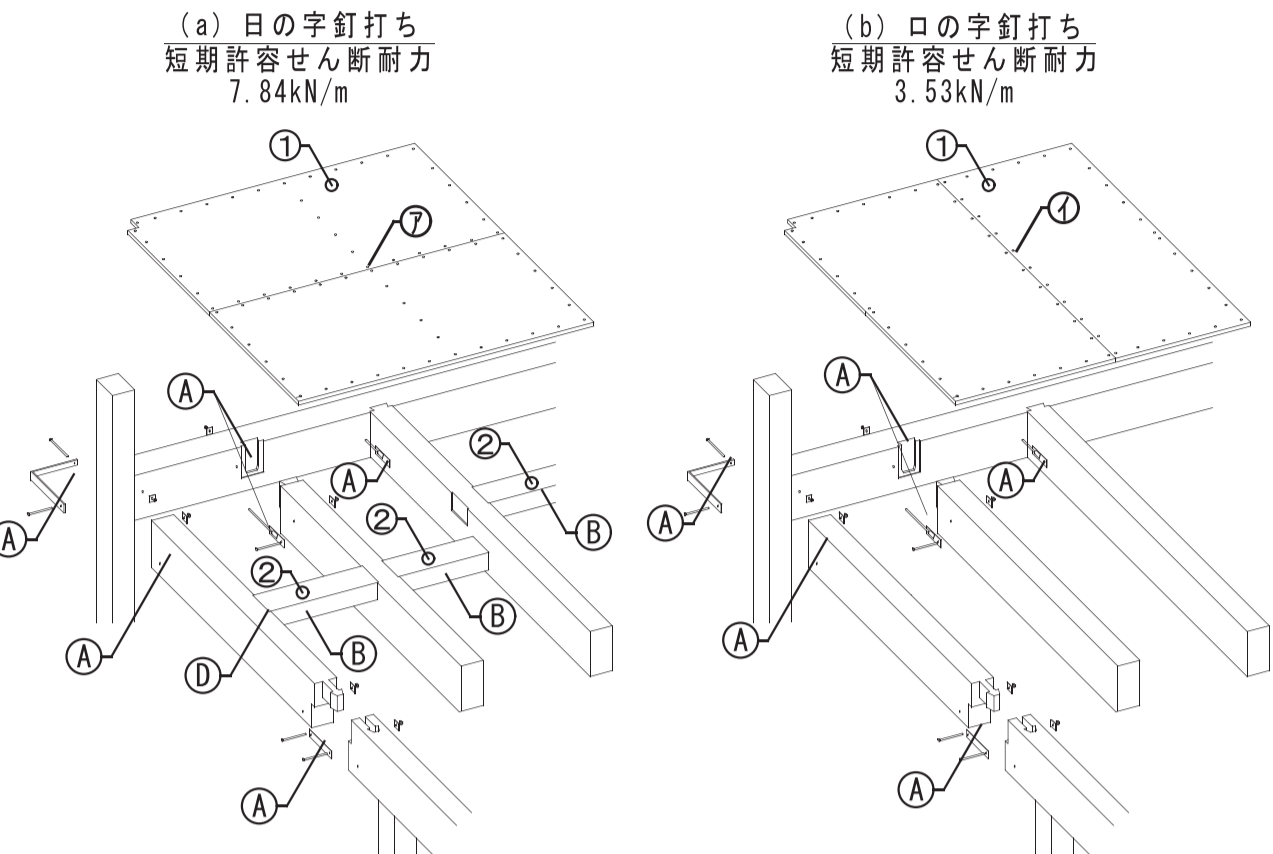
(注) (単位)mm

7.1 共通事項

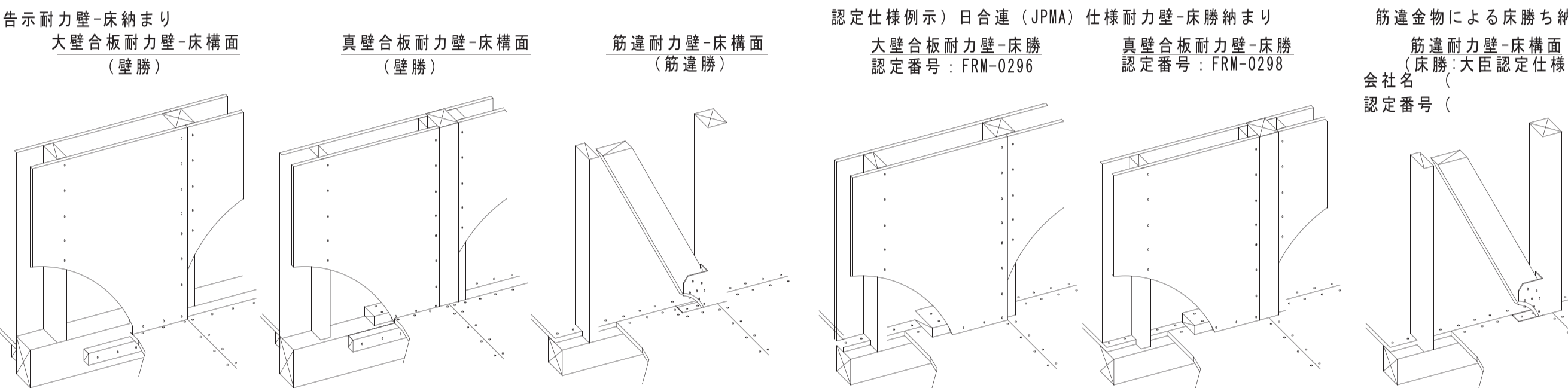
- 各部仕口形状は、(3)高耐力仕様屋根・床水平構面を除き、木造軸組接合部標準図(2)5.軸組標準接合部に準ずる。
- 木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年)の詳細計算法による水平構面については、同書の規定に準拠することとし、釘・ビス配列等の仕様については設計図による。
- 指定性能評価機関またはそれに準じる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された水平構面については試験成績書の仕様で準拠することとする。

7.2 水平構面の仕様

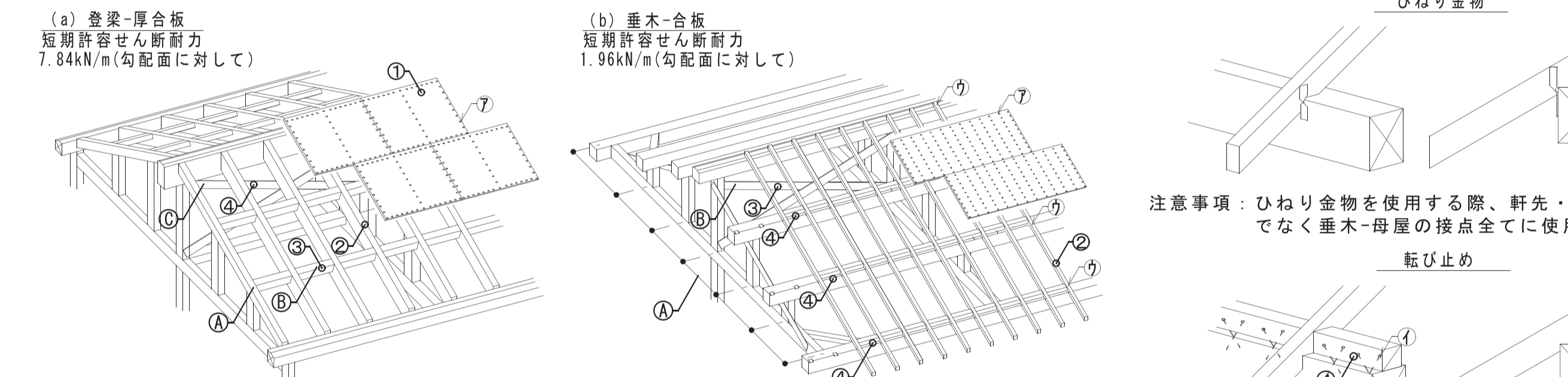
(1) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた床構面



- 1) 各部材料および寸法
- ① 面材：構造用合板t=24mm~30mm横架材に直貼
 - ② 甲乙梁：幅45mm以上×せい45mm以上・梁及び甲乙梁の間隔1000mm以下
- 2) 各部仕口形状及び性能
- 各仕口部分：水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
 - 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
 - 高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
 - 甲乙梁端部は小梁に対して深さ15mm程度の大入れ N75 1本斜め打ち
- 3) 各部への釘打及びビス止め
- ⑦ 構造用合板はN75@150mm日の字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受材に留め付ける
 - ⑧ 構造用合板はN75@150mm口の字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受材に留め付ける
- 注意事項：構造用合板(又はOSB)に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする
口の字釘打ちは構造用合板上に直接フローリングを貼る構成の場合、挽き等に注意する事



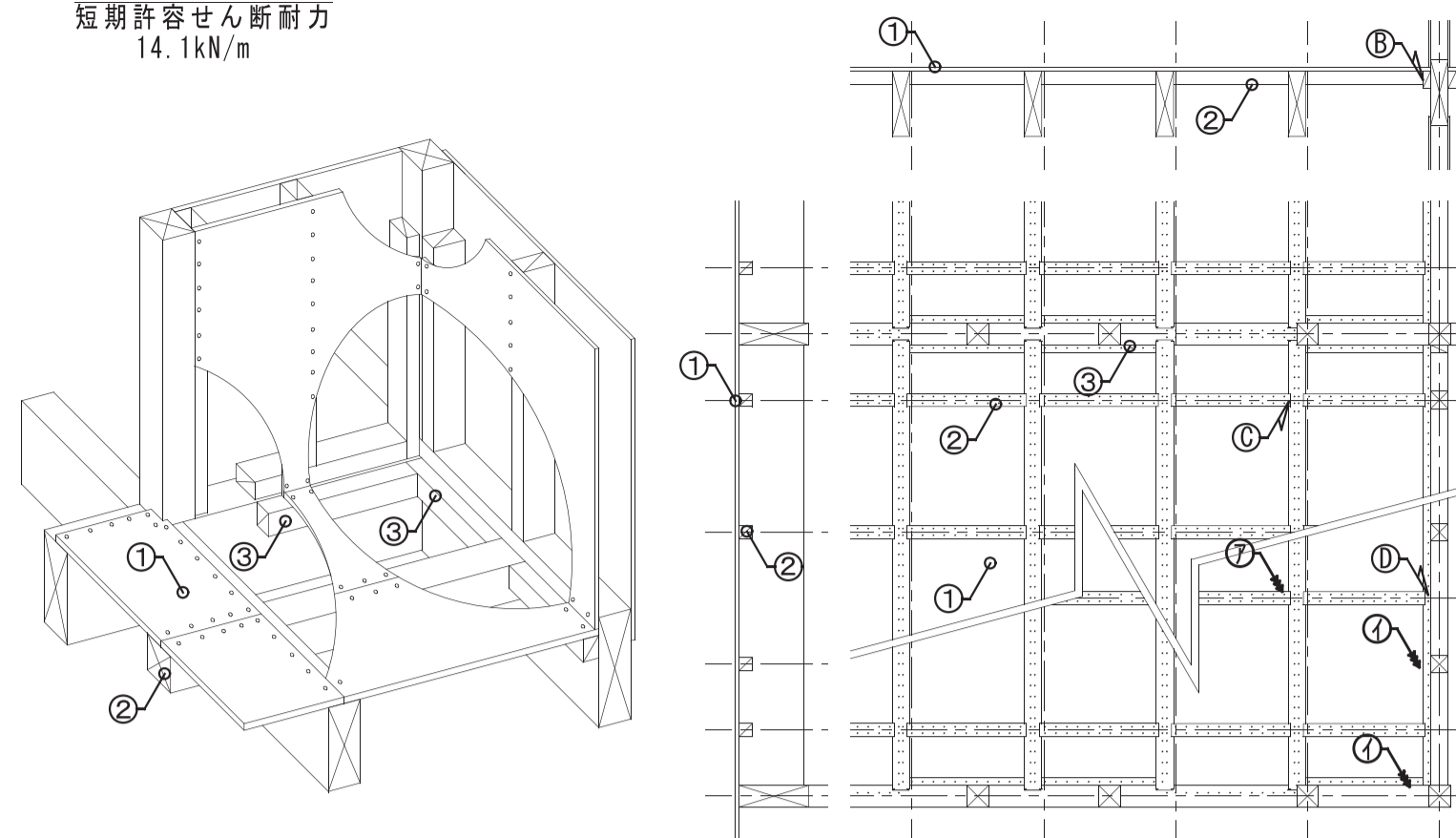
(2) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた屋根構面



- 1) 各部材料および寸法
- ① 面材：構造用合板t=24mm~30mm横架材に直貼
 - ② 登梁：幅105mm以上×せい105mm以上 間隔1000mm以下
 - ③ 甲乙梁：幅45mm以上×せい45mm以上 間隔1000mm以下
 - ④ 小屋耐力壁：15mm以上×90mm以上 (端部は平12建造1460号の筋違耐力壁の接合)
- 2) 各部仕口形状及び性能
- 各仕口部分：水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
 - 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
 - 耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁(くも筋違い)を設ける事
- 3) 各部への釘打及びビス止め
- ⑦ 構造用合板はN75@150mm日の字に垂木に留め付ける
- 注意事項：構造用合板(又はOSB)に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする

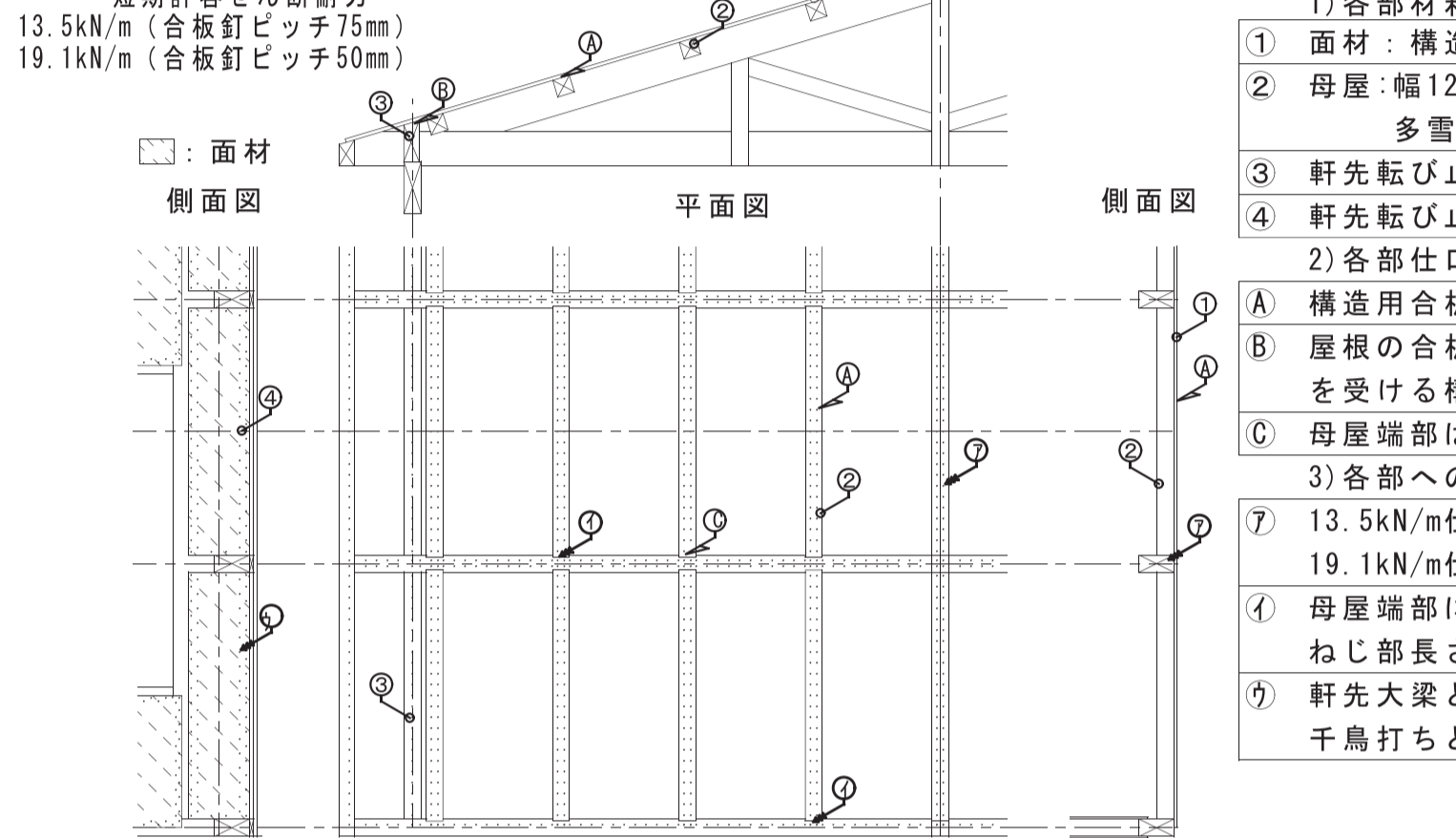
7.3 JISA3301仕様高耐力水平構面

(1) 2階床水平構面の条件及び仕様
短期許容せん断耐力
14.1kN/m



- 1) 各部材料
- ① 面材：構造用合板t=24mm又は28mm横架材に直張り
 - ② 甲乙梁：90mm×90mmの正角材又は幅75mm×成120mm製材を平使い
 - ③ 大梁側面に取り付ける床受材：幅55mm~75mm×成120mmの製材
- 2) 各部仕口形状及び性能
- 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
 - 高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
 - 甲乙梁端部は小梁に対して深さ15mm程度の大入れ
 - 甲乙梁端部は床受け材に対して床受け材を深さ15mm×成60mm切り欠き甲乙梁は成60mm分大入れし床受け材筋の納まりとする
- 3) 各部への釘打及びビス止め
- ⑦ 構造用合板はN75@75mm日の字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受材に留め付ける
 - ⑧ 大梁側面へ取り付ける床受材は木質構造用ビスφ6、L130~150を150mmピッチの二列打ちとして留め付ける

(2) 屋根水平構面の条件及び仕様
短期許容せん断耐力
13.5kN/m (合板釘ピッチ75mm)
19.1kN/m (合板釘ピッチ50mm)

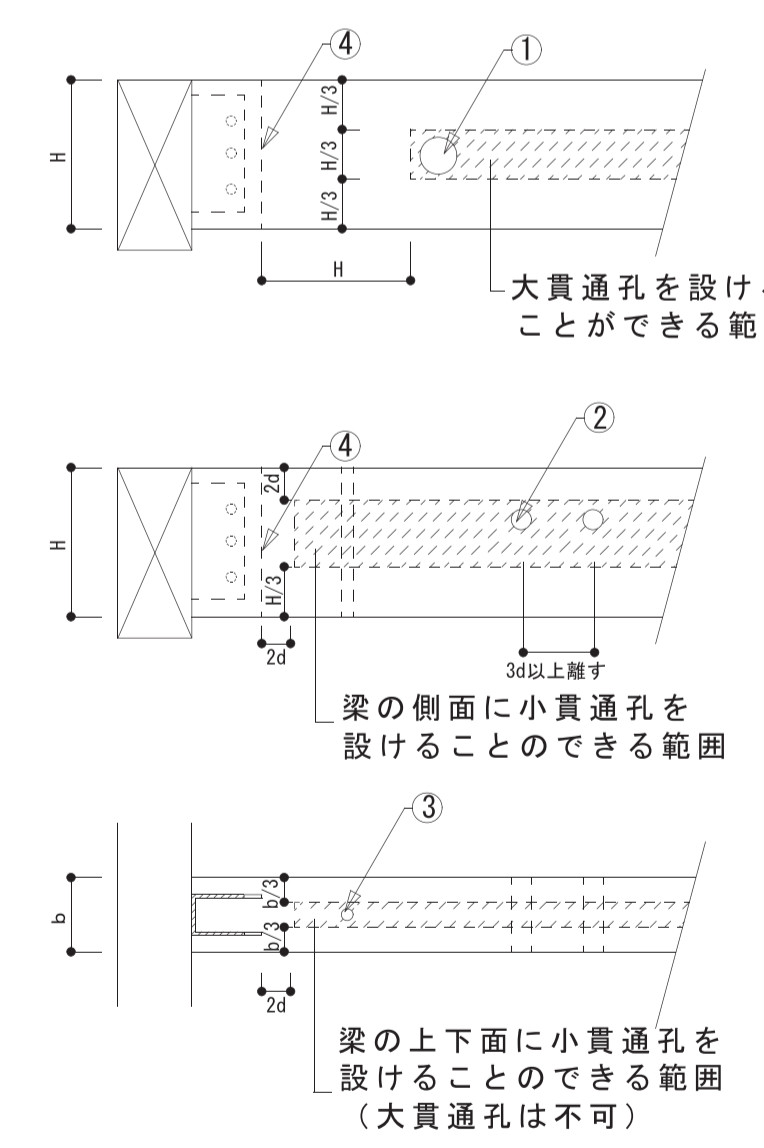


- 1) 各部材料
- ① 面材：構造用合板t=24mm登梁及び母屋に直張り
 - ② 母屋：幅120mm×成120mmの製材
多雪区域(3級及び4級)の場合は幅120mm×成150mmの製材
 - ③ 軒先転び止め：幅105mm×成300mmの製材を用い、先端は屋根面に合わせ切り欠く
 - ④ 軒先転び止めの外面に直貼りする構造用合板：t=12mm
- 2) 各部仕口形状及び性能
- 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には母屋を設ける
 - 屋根の合板レベルに対して低い位置にある軒先の大梁上に転び止めを設け構造用合板を受ける構成
 - 母屋端部は登梁に対して深さ15mm程度の大入れ
- 3) 各部への釘打及びビス止め
- ⑦ 13.5kN/m仕様：構造用合板はN75@75mm4周(口の字)釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける
19.1kN/m仕様：構造用合板はN75@50mm4周(口の字)釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける
 - ⑧ 母屋端部に対して吹上対策として木質構造用ビスφ5、L150(頭部径φ12.5以上ねじ部長さ50以上)1本を斜め打ちとする
 - ⑨ 軒先大梁と転び止めの外面に直張りする構造用合板は、N50くぎを50mmピッチの千鳥打ちとして留め付ける

8. 貫通孔

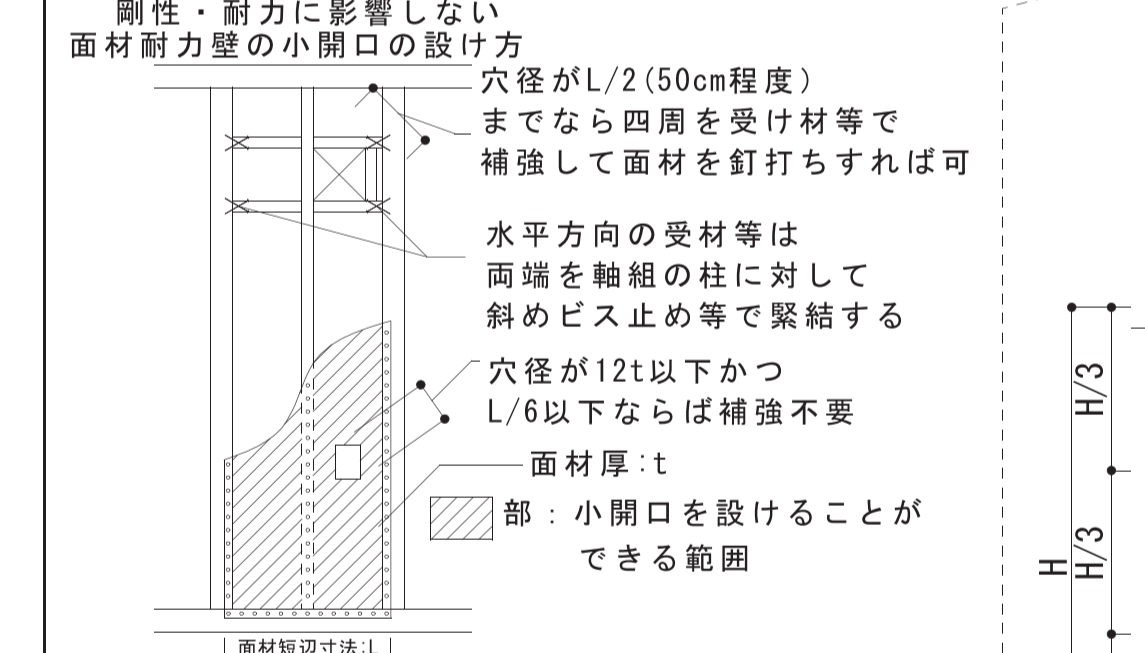
8.1 梁貫通孔の条件及び仕様

- ① 大貫通孔：d≤H/4かつ150mm
- ② 小貫通孔：d≤30mm(隣り合う孔は3d以上離す)
- ③ 縦小貫通孔：d≤b/6かつ30mm
- ④ 接合金物用切り欠きライン

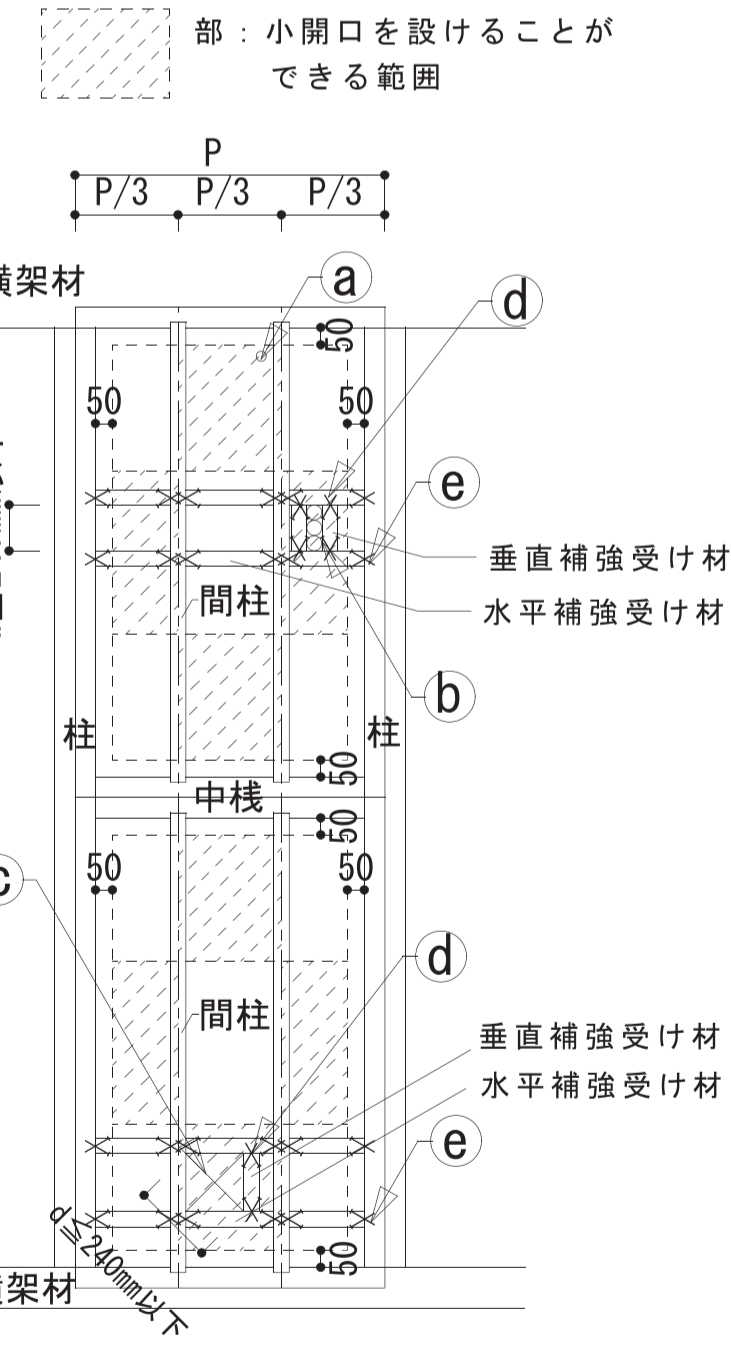


8.2 耐力壁貫通孔

(1) 小開口付耐力壁：木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年版)
※壁倍率7倍までの孔開けルール
剛性・耐力に影響しない
面材耐力壁の小開口の設け方



- (2) 高耐力仕様合板貼耐力壁(JISA3301標準仕様)
※壁倍率7倍を超える場合の孔開けルール(JISA3301仕様)
- a) 貫通孔基準
- 小貫通孔(d≤30mm)
1区画につき1か所までなら補強不要
 - 小貫通孔×3(外接円の径d≤240mm)
四周を補強受材で補強
面材1枚につき1か所のみ可
 - 大貫通孔(d≤240mm)
四周を補強受材で補強
面材1枚につき1か所のみ可
- b) 釘打ち及び断面
- 合板から補強受材へN50@90mmで釘打ち
補強受材は間柱と同等以上の断面
 - 補強受材の留め付けは斜めビス2本止め

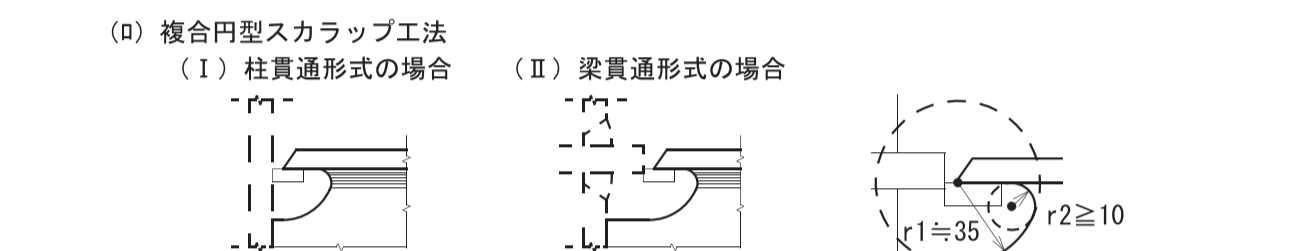
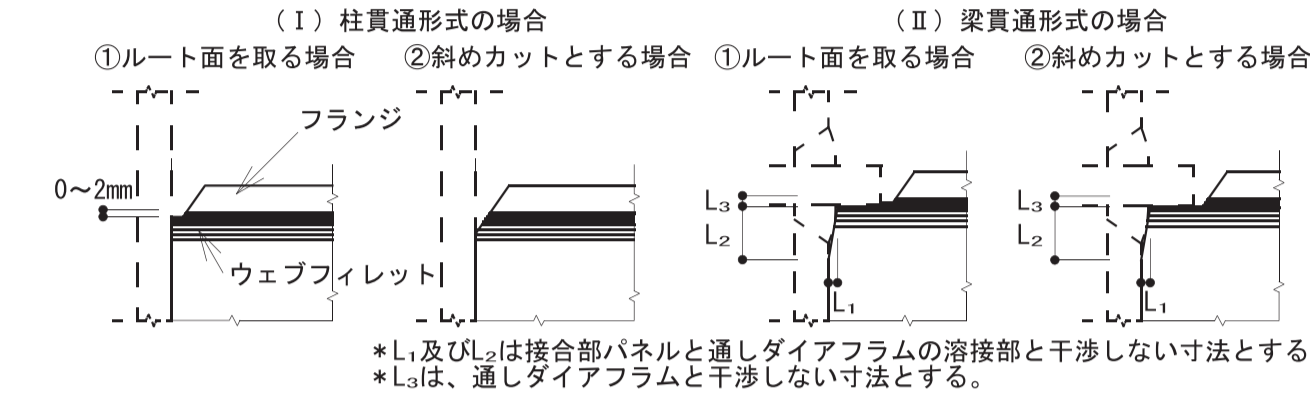


鉄骨構造標準図 (1)

1. 一般事項

適用範囲 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用し、特記無き事項は「国土交通省大臣官房庁普請部監修公共建築工事標準仕様書」平成()年度版に準ずる。本標準図は国土交通大臣認定のRグレードの適用範囲程度の規模の一般的な建物に適用する。(参考：Rグレード規模範囲 5階建て以下 [延床面積3,000㎡以内、高さ20m以下])

- (1) 材料
 - 使用構造材料は構造設計仕様による。
- (2) 工作一般
 - (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事要領書」、「工作図」等を提出し工事監理者の承認を得る事。
 - (b) 鉄骨の製作精度
 - 告示1464号(鉄骨造の継手又は仕口の構造方法を定める件)
 - 日本建築学会JASS6及び鉄骨精度測定度指針による。
 - (c) 歪みの矯正は、材質を損なわないように、常温加圧もしくは加熱(点状加熱、線状加熱)で矯正する。加熱で矯正する場合はJASS6による。
 - (d) スクラップ加工
 - 接合部形式スクラップ加工は専用スクラップカッターによるものとし、加工が困難なサイズのH形鋼についてはノンスクラップ工法を採用する事。
 - スクラップの加工はつぎのいずれかによる。
 - (i) ノンスクラップ工法



(a) 孔あけ加工
高力ボルト・ボルト及びアンカーボルトの公称径に対する孔径

ボルトの種類	孔径 d	公称径 d _n	備考
高力ボルト	d _n +2.0	d _n <27	
	d _n +3.0	27≦d _n	
ボルト	d _n +0.5		母屋・胴縁等軽微な部分は除く
アンカーボルト	d _n +5.0		

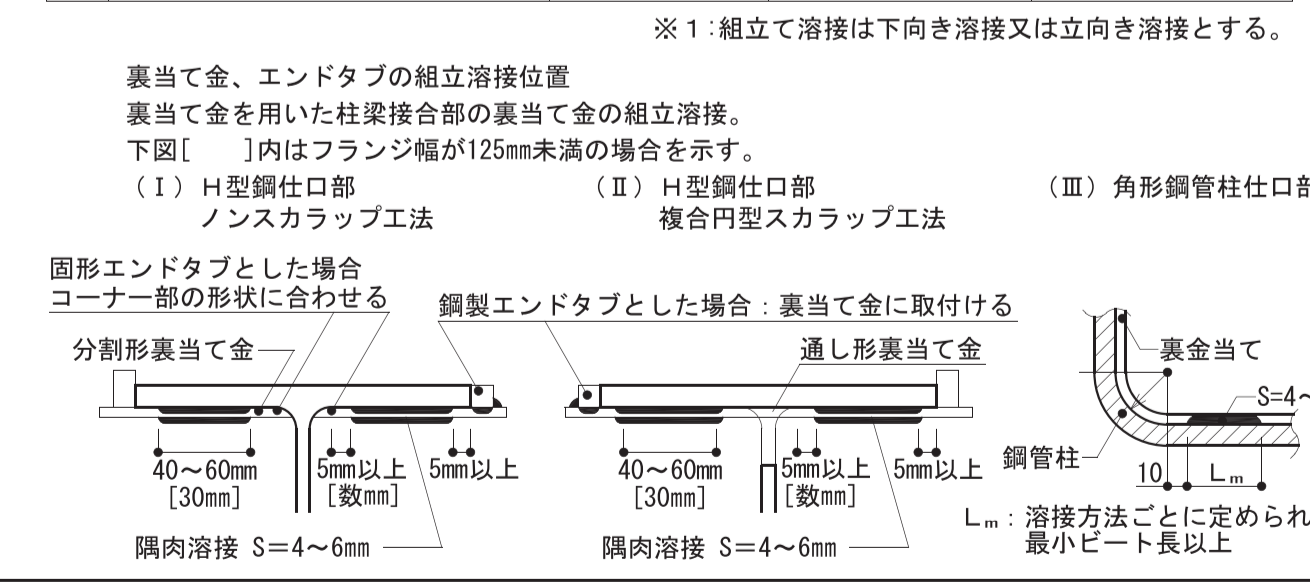
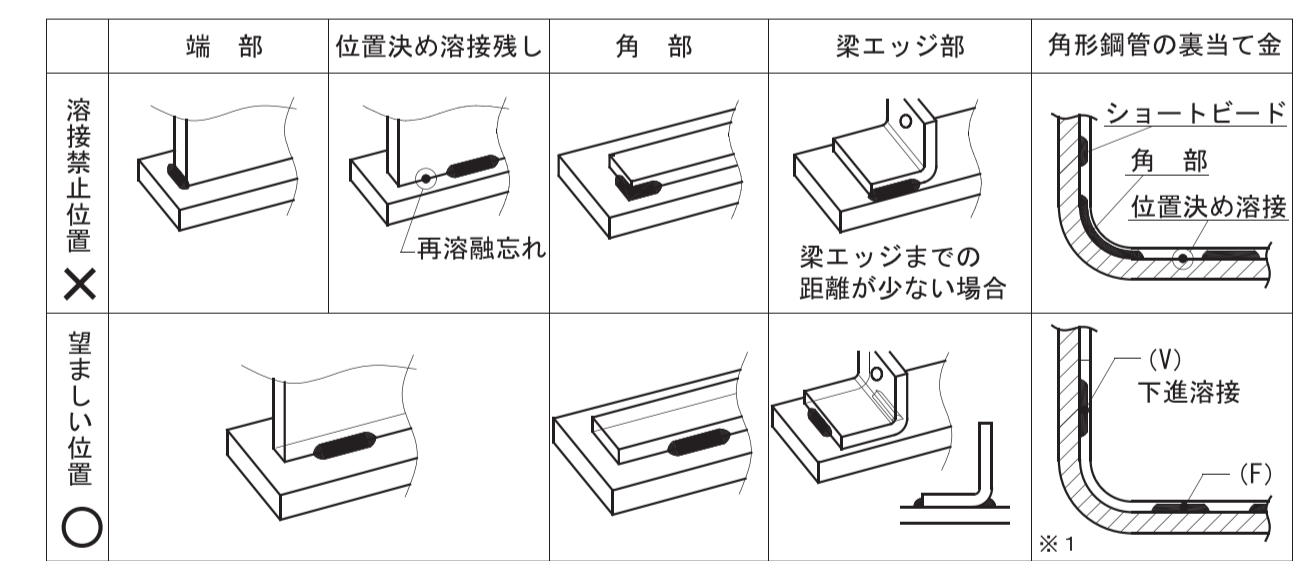
(b) 組立て溶接

(a) 溶接技能者
組立て溶接に従事する溶接技能者は、JIS Z 3801またはJIS Z 3841の少なくとも基本となる級(下向き溶接)の試験に合格した有資格者とする。

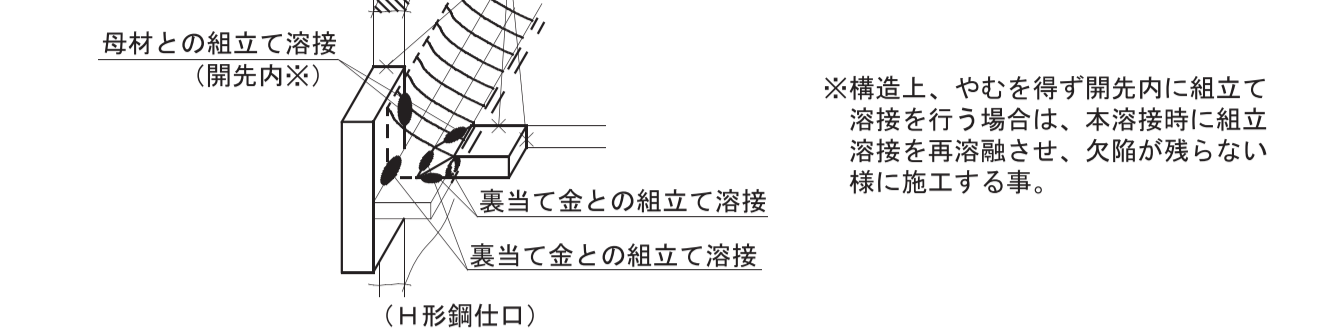
(b) 組立て溶接ビード長さ

板厚	組立て溶接の最小ビード長さ (mm)
t≦6	30
6<t	40

- (c) 裏当て金、鋼製エンドタブ
 - (i) 裏当て金
 - 材質は母材と同質材料とし厚さは9mm以上とする。
 - 裏当て金の長さは、鋼製エンドタブ・面形エンドタブ側面から5mm程度突出する長さを標準とする。
 - 裏当て金は母材に密着させ、健全なルート部の溶け込みが得られるようにする。
 - (ii) 鋼製エンドタブ
 - 鋼製エンドタブを用いる場合、鋼製エンドタブの長さL_eは、MCで35mm程度、GC、NGCで40mmかつフランジ板厚t_fの2倍程度とする。
- (d) 組立て溶接位置
 - 組立て溶接は溶接の始終端・隅角部など、強度上・工作上問題となり易い箇所は避ける。
 - 組立溶接の前に施される位置決めのための点付け溶接は組立溶接のビード内に施し、組立溶接の際に十分に再溶融させ、母材表面に残さない事。



(e) 柱梁接合部に鋼製エンドタブを用いた場合の組立て溶接
この部分には母材との組立て溶接はしない



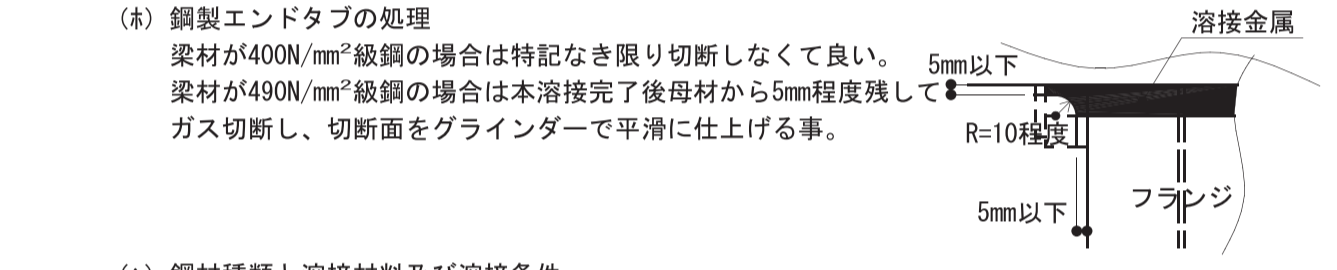
(4) 溶接接合
(a) 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適用するJIS Z3801(手溶接:MC)又はJIS Z3841(半自動溶接:GC,NGC)の溶接技術検定試験に合格し、引き続き半年以上溶接に従事している者とする。

(b) 溶接姿勢
[下向:F,上向:O,横向:H,立向:V]の各溶接は各姿勢に関する技量資格を有する技術者が行なうものとする。

(c) 溶接施工
(i) 溶接部の形状
溶接の仕上がり形状はJASS6付則6鉄骨精度検査基準により、溶接継手の性能を損なうような有害な欠陥があってはならない。

(ii) 溶接順序
部材の組立および溶接の順序は、溶接変形が最小となるように考えて施工する。溶接変形が製品の精度に影響を与えることが予想される場合には、溶接の順序と変形の防止方法を「鉄骨工事要領書」に示し、工事監理者と協議すること。

(iii) エンドタブ
エンドタブは、面形エンドタブを標準とする。ただし、溶接を行う技能者は面形エンドタブ工法(代替エンドタブ)のための溶接技能者技量付加試験等に合格した者であり、工事監理者に承認された者が行う事。また、始終端部(梁フランジ幅最端部より25mmかつフランジ板厚t_fの大きい方までの範囲に側面余盛を含めた部分)の範囲は溶接部の性能を左右する重要な部分である事から、溶接施工、超音波探傷試験ともに細心の注意を払って行う事。



(d) 鋼製エンドタブの処理
梁材が400N/mm²級鋼の場合は特記なき限り切断しなくて良い。梁材が490N/mm²級鋼の場合は本溶接完了後母材から5mm程度残してガス切断し、切断面をグラインダーで平滑に仕上げる事。

(a) 鋼材種類と溶接材料及び溶接条件

鋼材の種類	溶接材料の規格	溶接材料の種類	入熱	パス間差
400N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW-11, YGW-15	40kJ/cm以下	350℃以下
		YGW-18, YGW-19	30kJ/cm以下	450℃以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yGA-U	40kJ/cm以下	350℃以下
		T490Tx-yMA-U	30kJ/cm以下	450℃以下
490N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW-11, YGW-15	30kJ/cm以下	250℃以下
		YGW-18, YGW-19	40kJ/cm以下	350℃以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yGA-U	30kJ/cm以下	250℃以下
		T490Tx-yMA-U	40kJ/cm以下	350℃以下
400N級炭素鋼 STKR・BCR及びBCPIに限る	JIS Z 3312	YGW-11, YGW-15	30kJ/cm以下	250℃以下
		YGW-18, YGW-19	40kJ/cm以下	350℃以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yGA-U	30kJ/cm以下	250℃以下
		T490Tx-yMA-U	40kJ/cm以下	350℃以下
490N級炭素鋼 STKR及びBCPIに限る	JIS Z 3312	YGW-11, YGW-15	30kJ/cm以下	250℃以下
		YGW-18, YGW-19	40kJ/cm以下	350℃以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yGA-U	30kJ/cm以下	250℃以下
		T490Tx-yMA-U	40kJ/cm以下	350℃以下
溶融亜鉛メッキ鋼板		溶融される溶融亜鉛メッキ鋼板に応じて、それに適合する溶着金属としての性能を有する溶接材料を使用する事。		

(5) 高力ボルト接合
(a) 仮ボルト
高力ボルト接合は、仮ボルトによって予め部材接合面を密着させた上で一次締めを始めるなければならない。仮ボルトは油分を除去したものを、本締め時に用いるボルトを仮ボルトとして使用してはならない。仮ボルトは中ボルトなどを用い、ボルト1群に対して1/2程度かつ2本以上を本締め工程に支障無い位置を選んでバランスよく配置し締め付ける。但し、ウェブのボルトが2列以上の場合は、安全性の検討をした上で、ボルト本数を1/2程度に減じてよい。上記「ボルト1群」とはフランジ、ウェブを別々に扱う事。

(b) 高力ボルトの締め付け
建起し精度確認後、仮ボルトによってプレート間が密着している状態の本締めボルトの手締めを行う。接合面全体に本締めボルトが適度に設置された後、仮ボルトを取除き残りの本締めボルトを設置する。ボルト群の締め付け手順(中央から板端へ)に従って一次締めを行い、マーキングの後、本締めを一次締め同様の締め付け手順に従って行う。なお、一次締めの増締めは行っていない。

2. 溶接標準図

(1) 隅肉溶接 隅肉溶接は必ず奇数パス溶接とすること (注) S: 脚長 (単位 mm)

t	6	9	12	14	16
S	6	7	9	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする
・tはt₁、t₂の小さな方とする
・余盛は(4mmかつ0.4S)以下とする
・軸力がかかる場合はSは母材と同厚とすることが望ましい

(2) 異形隅肉溶接 (注) S: 脚長 G: ルート間隔 R: フェース (単位 mm)

t	19	22	25	28	32
S	11	13	15	17	19

・tはt₁、t₂の小さな方とする

(3) 完全溶込み溶接 (T継手) (注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース (単位 mm)

3≦t≦6mm	6<t≦16mm	16<t≦40mm
<ul style="list-style-type: none"> f≦7 h=t/5 	<ul style="list-style-type: none"> f≦7 h=t/5 	<ul style="list-style-type: none"> f≦7 h=t/4 R=0~4

(裏はつり後裏溶接)

(4) 完全溶込み溶接 (平継手) (注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース (単位 mm)

3≦t≦6mm	6<t≦19mm	19<t≦40mm
<ul style="list-style-type: none"> f≦3 	<ul style="list-style-type: none"> f≦4 R=0~3 G≦5 	<ul style="list-style-type: none"> f≦4 R=0~4 G≦0~2

(裏はつり後裏溶接)

(5) 完全溶込み溶接 (角形鋼管柱現場継手) (注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース (単位 mm)

θ≧32.5°

(現場施工)

シーリングボード

平滑仕上げ

FB-9x25

食い違い許容値
t≦15mmの場合 e≦1.5mm
t>15mmの場合 e≦t/10
かつ e≦3.0mm

(6) 板厚が異なる場合の完全溶込み溶接 (注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース (単位 mm)

(1) クレーンゲーター等 (低応力高サイクル疲労を受ける場合以外) (2) a>10mm又はt₁/4 (3) a≦10mmかつt₁/4 (高サイクル疲労を受ける場合以外) 溶接表面はなめらかに

削り面

傾斜加工

(裏はつり後裏溶接)

3. 角形鋼管柱-H形鋼梁接合部標準図

(1) ダイアフラム

通しダイアフラムはSN490C、内ダイアフラムはSN490Bを使用する事。

通しダイアフラムの寸法
・出寸法 e
e=25mm (t_c<28mm)
e=30mm (t_c≧28mm)
・板厚
t_c≧t_r+7mm

裏当て金FB-9x25

柱材内と裏当て金の隙間の許容差
1mm以内

内ダイアフラム取り付け要領図
R止まり
溶接禁止域
10mm

内ダイアフラムは柱角のR止まりから10mmの範囲に取付させないこと
内ダイアフラムは水平に取付せる事

内ダイアフラム納まりと柱幅の関係

柱幅	200	250	300	350	400	450~
100						
125						
150						
175						
200						
250						
300						

表内の「○mm以下」は、柱材の板厚制限を示す。
当表で「不可」あるいは柱材板厚制限を超える組合せの場合は通しダイアフラム納まりとすること、梁端ハンチ処理とする。

(2) 角形鋼管柱の溶接施工禁止範囲

左図ハッチ部分には、デッキコンクリートのせき板、胴縁用ネコピース、サッシ枠等、一切の溶接を行ってはならない。

パネルゾーン

溶接禁止域

(3) 登り梁仕口部 (天端ダイアフラムを傾斜取合いとする場合)

(上端ダイアフラム) (下端フランジ裏ハッチ処理) (下端フランジ裏当て金処理)

S≧1.5×min(t_c, t_{tr})
注意: 頂端ダイアフラムの上に取付く部材があるなど、頂端ダイアフラムと柱の間で引張り応力が生ずる場合は完全溶込み溶接とすることが必要。

裏ハッチ

裏当て金斜め加工

角度に応じてルートギャップの調整が必要

内ダイアフラム必要厚さ
t_{tr}≧t_r/6 sin θ + 2mm

鉄骨構造標準図 (2)

4. 小梁接合部

(1) ガセットプレートの形状

(a) 小梁下端フランジ切欠き無し (b) 小梁下端フランジ片側切欠きあり

・(a)タイプの形状を標準とし、接合ボルト配列や受け梁と小梁の段差等によって無理な形状となる場合に(b)タイプを採用する。
 ・接合ボルトの仕様は特記による。
 ・ガセットプレート厚さは9mm以上かつ小梁のウェブ厚さ以上とする。
 ・ガセットプレート、スチフナープレートの鋼材は母材同等以上の強度のものとする。

(2) ガセットプレート、バックスチフナープレートの溶接

(a) 溶接しない場合 (b) 溶接する場合

・いずれの場合も受け梁フランジ面の溶接終端は外端部に置かず、スイッチバックしてクレーター処理する事。

(3) 受け梁よりも小梁の方が高い位置になる場合

(a) 段差が少ない場合 (小梁せい \times 1/3程度まで) (b \leq aの場合) (b>aの場合)

(b) 段差が大きい場合

・補剛する梁のせいhが500mm未満の場合に限る。
 ・接合ボルトの仕様は特記による。

(4) 柱など、直交する部材面に取合う場合

・ガセットプレートの溶接ビードが小梁ウェブと干渉しない程度の離間距離を確保する。
 ・ボルト接合面は平滑に仕上げること。
 ・15~20mm

(5) 小梁の横方向にも荷重を受ける場合

・リブプレート $t \geq 9mm$

(6) 小梁が受け梁に対して鋭角に取合う場合

$\theta = 45^\circ \sim 90^\circ$ の場合 $\theta = 45^\circ$ より鋭角な場合

5. 片持ち小梁の接合部

(1) 片持ち小梁と受け梁のサイズが同じ場合

(2) 片持ち小梁よりも受け梁の方が大きい場合

(3) 片持ち小梁下端フランジに生じる引張力が小さい軽微な片持ち小梁の場合

・片持ち小梁ウェブ厚さかつ9mm以上
 注: 使用の可否は監理者に確認する事。

6. 大梁の座屈止め

(1) ガセットPLを利用して下端フランジを拘束する場合

・補剛する梁のせいhが500mm未満の場合に限る。
 ・接合ボルトの仕様は特記による。

(2) 大梁との段差が大きい場合

(3) 上端フランジを床で拘束する場合

・補剛する梁

7. 水平ブレース接合部

(1) 水平ブレースの取付位置

・水平ブレースの軸心は取合う梁交点に一致させる事が望ましい。
 交点に一致させる事が困難な場合は監理者と協議の上決定する事。
 ・水平ブレースのガセットプレートは受け梁側に取付ける事。

(2) 水平ブレースの取付高さ

・大梁フランジ側面には溶接しない事。(大梁ブラケット内)

(3) 水平ブレースのガセットプレートの溶接

・サイズ S は溶接基準による。
 ・溶接長さLwは特記による。L1, L2は最小必要溶接長さの1/2以上とする。
 ・溶接長さL3, L4は特記による。

(4) アングルブレース交差部

・端部接合ボルトと同径 (HTB)

8. 胴縁

(1) 一般部

・壁材または壁下地目地部胴縁はダブルとする。
 (リップ付き軽量成形鋼の場合)
 主構造体と干渉しない高さ

(2) 他胴縁との取合い

・設計図に特記なき場合、接合はPL-4.5以上、1-M12(中ボルト)以上とする。
 ・既製品の接合ピースを使用する場合は板厚4.5mm以上のものを使用する事。
 ・構造耐力・剛性上支障が無く、緩み止め処置を施す場合に限り接合ボルトは1本で良い。
 ・接合ボルトを1本とする場合、部材の回転を伴うような接合としてはならない。

(3) コーナー部

・接合間隔@1800程度

(4) コンクリート取合い部

・座金PL-4.5
 ・ABolt (J型, L型など)

(5) 梁継手に掛かる部分の納まり

(6) 吊ボルトを使用する場合の納まり

9. 母屋

(1) 一般部

・屋根葺き材下地目地部母屋はダブルとする。
 (リップ付き軽量成形鋼の場合)
 主構造体と干渉しない高さ

(2) 梁継手に掛かる部分の納まり

・設計図に特記がなく、緩勾配屋根の場合の接合はPL-4.5, 2-M12(中ボルト)とする。
 ・また、急勾配屋根の場合の接合はPL-6, 2-M12(中ボルト)とする。
 ・上記条件を満たす場合は既製の接合ピースを使用してよい。

10. 合成床版

・コンクリートせき板 PL-1.6(曲げ加工)
 ・せき板はL形に曲げた鉄筋とし梁上に焼付き溶接で固定する。但し、デッキプレートの上に溶接などで固定する事が可能な場合は直板でもよい。
 ・せき板の振れ止め鉄筋はデッキプレート山上に固定し、梁先端フランジへの点付け溶接は禁止。
 ・柱まわりのせき板は折り曲げ加工し柱に溶接固定は禁止。

11. 梁貫通孔補強

・既製品 (大臣認定品) を使用してもよい。
 ・梁貫通孔位置は設計者及び工事監理者と協議の上決定する事。
 ・梁貫通孔の位置は梁端部 (スパンの1/10以内かつ20以内) の範囲は避ける事。
 但し、既製品使用の場合は認定条件に従うものとする。

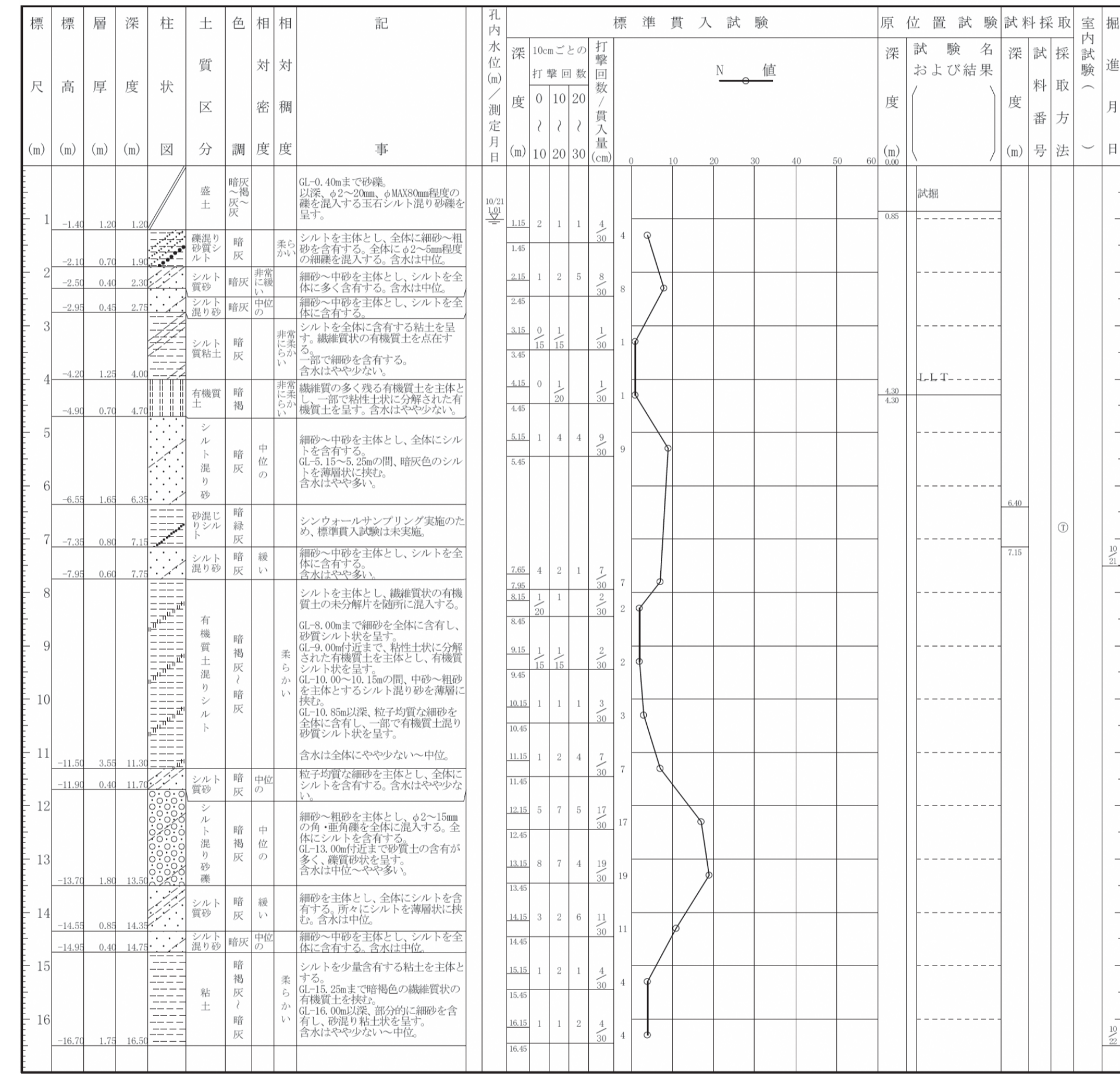
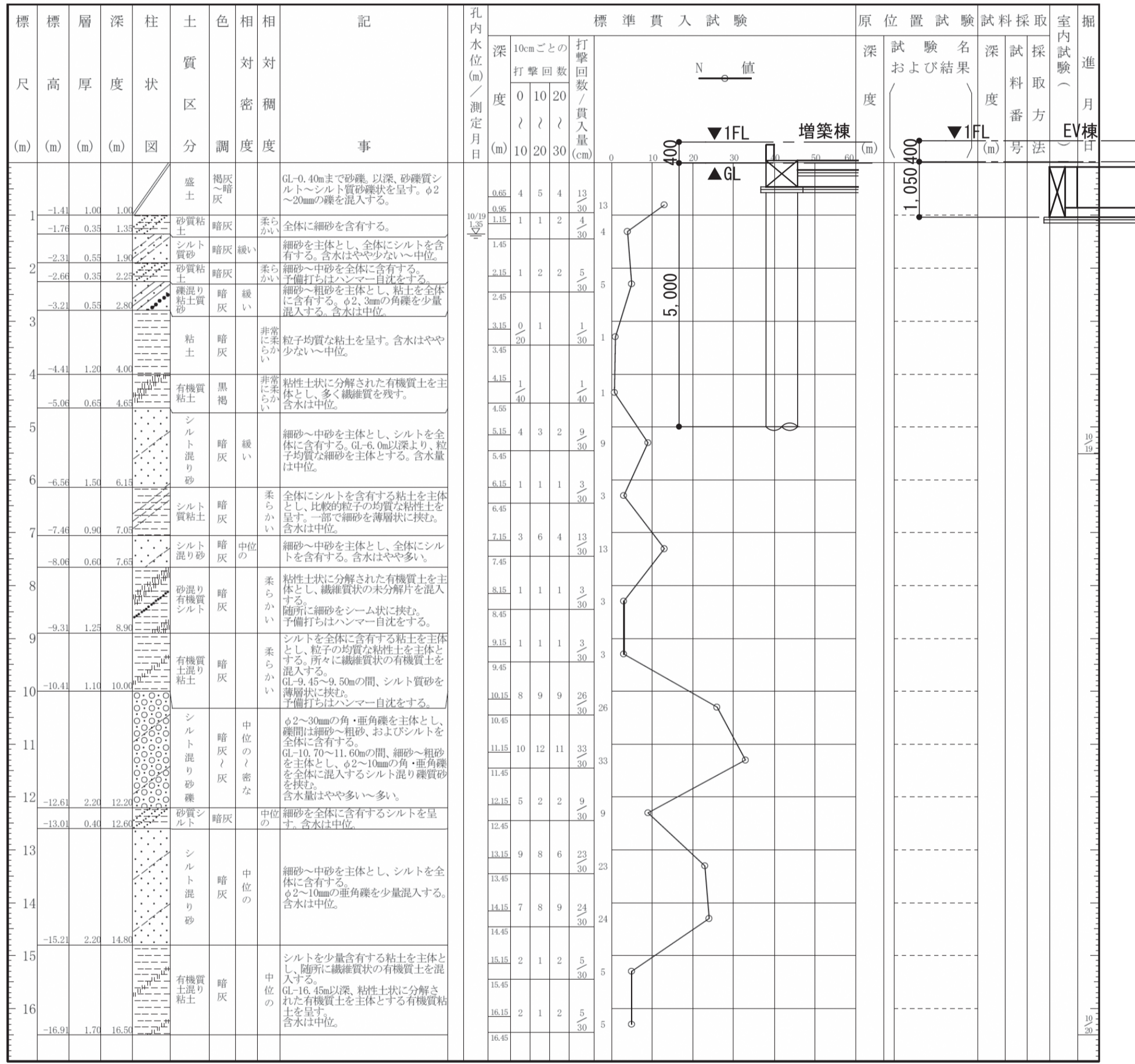
・補強プレート厚 (tp) は下式による。
 $tp \geq (\phi + 2ts) tw / (H - 2t_f - 140 - \phi - 2ts)$
 ts: 鋼管スリーブ厚
 tw: フランジ厚
 tf: ウェブ厚

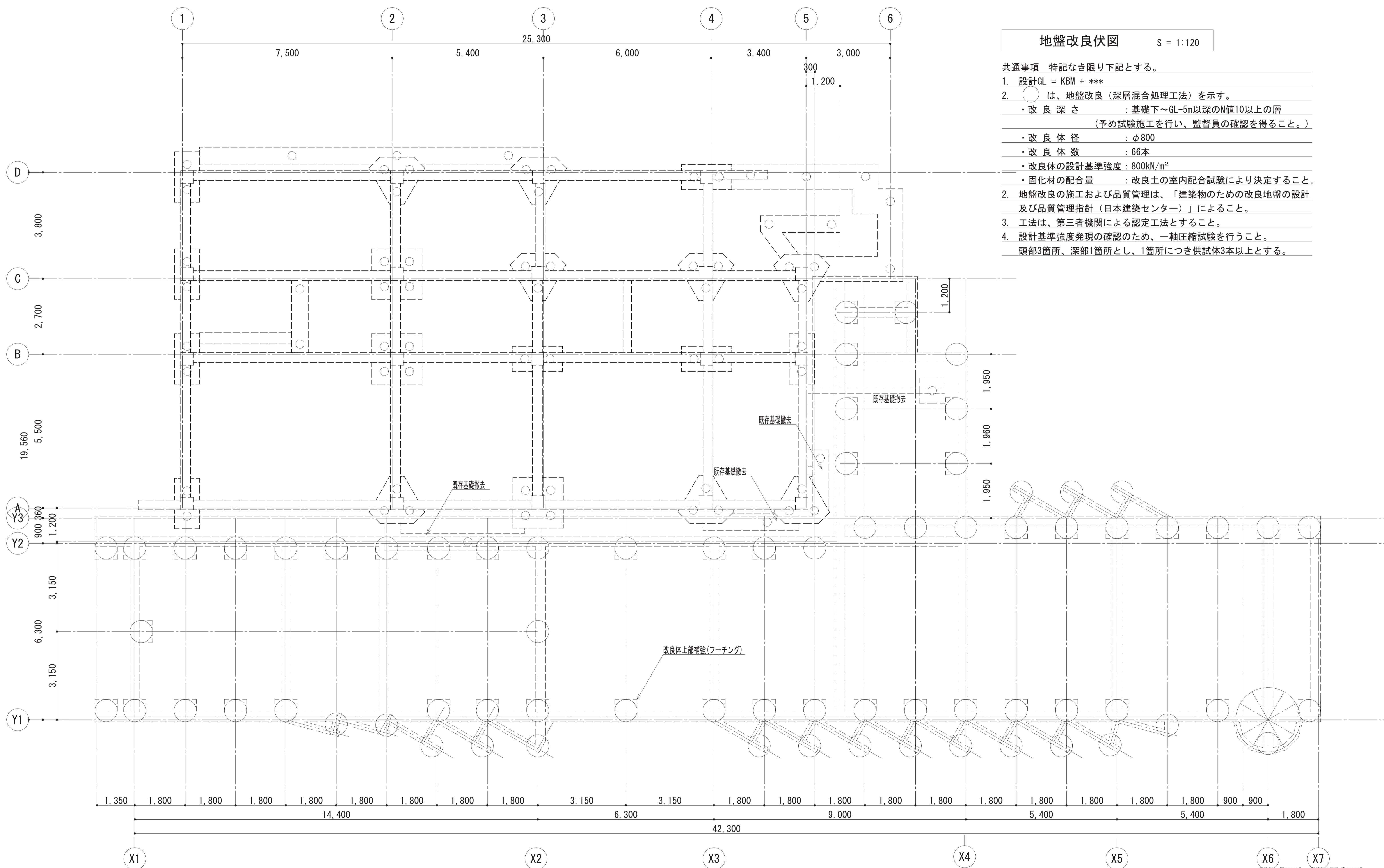
・L1は、3φまたは、L2のうち小さい方とする。
 ・補強プレートが16mm以上となる場合は必要厚さの1/2の補強プレートでウェブ面に溶接する。
 ・補強プレートは、丸形としてもよい。また、上下フランジとのあき50mmについては、設計者と協議の上 施工性を考慮して小さくすることができる。
 ・特記なき限り補強方法は上図によるが、孔径 (φ) はH/2以下とし、各孔の間隔は2.0φ以上とする。
 ・スリーブは梁成の中央1/2の範囲とする。

・貫通孔部分は、必要に応じて鋼管スリーブを取り付ける。

ボーリング名	No.1		調査位置	滋賀県守山市水保町2236 連野会館敷地内		北緯	35° 6' 1.19"		
発注機関			調査期間	令和3年10月19日～3年10月20日		東経	135° 57' 29.99"		
調査業者名	電話	主任技師		コア鑑定者	市川 篤	ボーリング責任者	網島 幹尚		
孔口標高	KRM -0.41m	角	180° 上 90° 下		方	北 0° 東 90° 西 180° 南		地盤勾配	水平0°
総掘進長	16.50m	度	使用機種	カノKR-50HCW	ハンマー	落下用具			
			エンジン	ヤママーNFAD-8	ポンプ	V-5			

ボーリング名	No.2		調査位置	滋賀県守山市水保町2236 連野会館敷地内		北緯	35° 6' 0.82"		
発注機関			調査期間	令和3年10月21日～3年10月22日		東経	135° 57' 30.71"		
調査業者名	電話	主任技師		コア鑑定者	市川 篤	ボーリング責任者	網島 幹尚		
孔口標高	KRM -0.20m	角	180° 上 90° 下		方	北 0° 東 90° 西 180° 南		地盤勾配	水平0°
総掘進長	16.50m	度	使用機種	カノKR-50HCW	ハンマー	落下用具			
			エンジン	ヤママーNFAD-8	ポンプ	V-5			



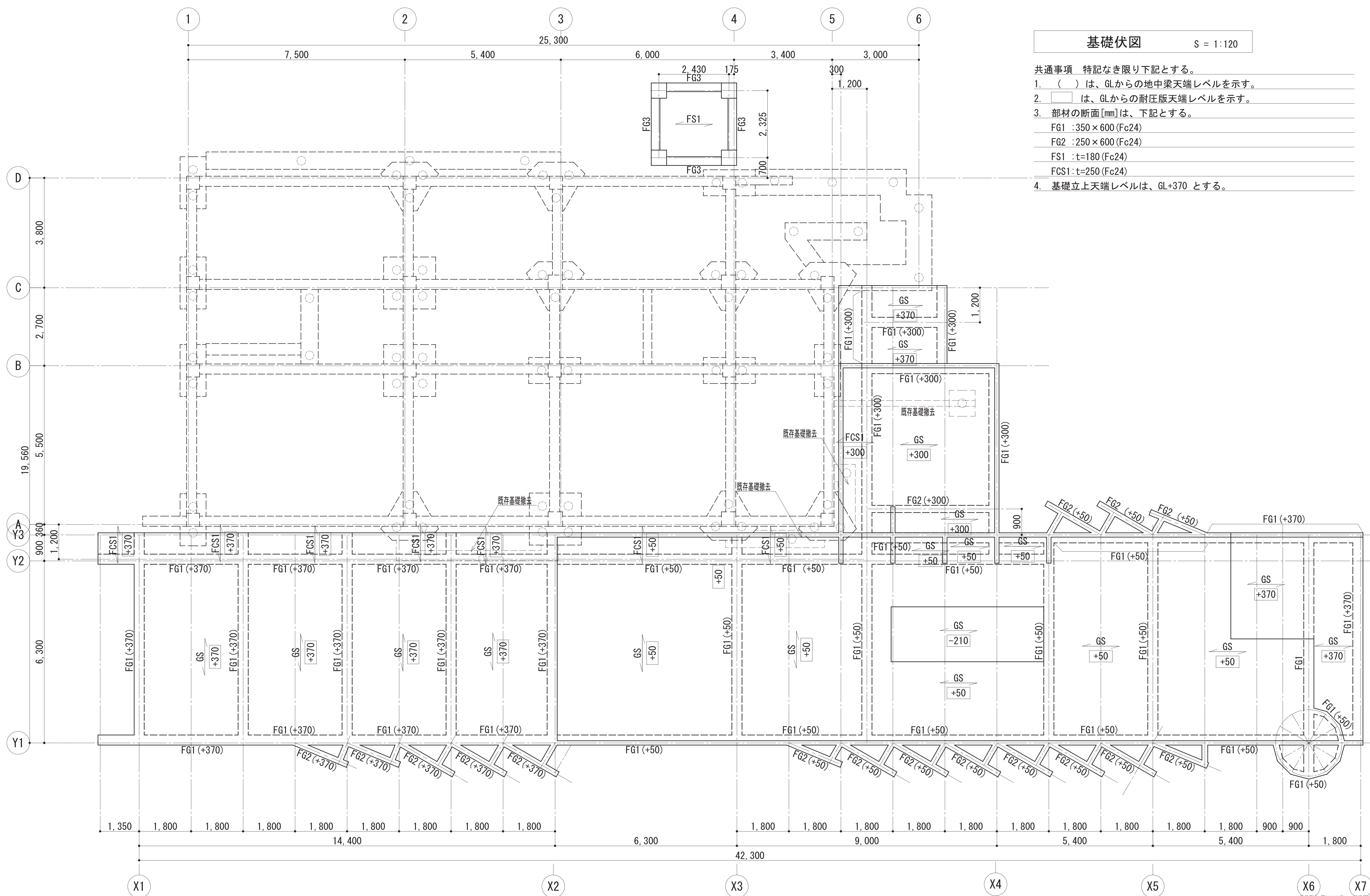


地盤改良伏図 S = 1:120

- 共通事項 特記なき限り下記とする。
- 設計GL = KBM + ***
 - は、地盤改良（深層混合処理工法）を示す。
 - 改良深さ : 基礎下～GL-5m以深のN値10以上の層
(予め試験施工を行い、監督員の確認を得ること。)
 - 改良体径 : φ800
 - 改良体数 : 66本
 - 改良体の設計基準強度 : 800kN/m²
 - 固化材の配合量 : 改良土の室内配合試験により決定すること。
 - 地盤改良の施工および品質管理は、「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針（日本建築センター）」によること。
 - 工法は、第三者機関による認定工法とすること。
 - 設計基準強度発現の確認のため、一軸圧縮試験を行うこと。
頭部3箇所、深部1箇所とし、1箇所につき供試体3本以上とする。

訂正事項	水原・芦澤設計共同体		北部図書機能・コミュニティ機能整備工事	図面名称	地盤改良伏図	SHEET NO. S-12	
	株式会社 水原建築設計事務所 一級建築士事務所 滋賀県知事登録 第63号 一級建築士登録 第219285号 北村 通 滋賀県彦根市長曾根南町143番地 TEL. 0749-22-1679			芦澤竜一建築設計事務所 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (口) 第24257号 一級建築士登録 第298139号 芦澤 竜一 大阪府大阪市北区中崎西1-4 tel 06-6485-2017			DATE

髙橋俊也構造建築研究所 一級建築士登録 第31161号
 構造設計一級建築士登録 第31161号



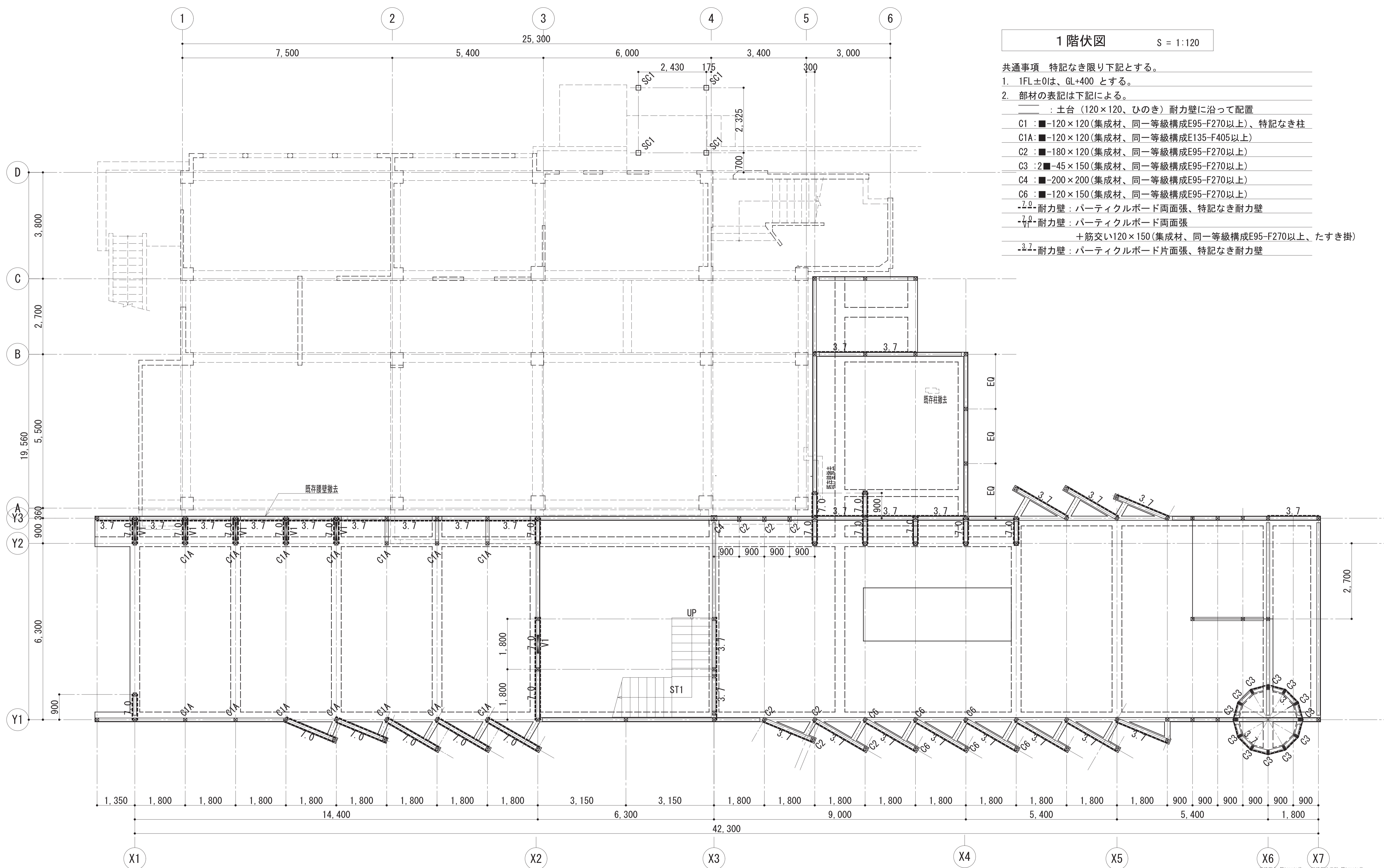
基礎伏図 S = 1:120

共通事項 特記なき限り下記とする。

1. () は、GLからの地中梁天端レベルを示す。
2. □ は、GLからの耐圧版天端レベルを示す。
3. 部材の断面[mm]は、下記とする。
 FG1 : 350×600 (Fc24)
 FG2 : 250×600 (Fc24)
 FS1 : t=180 (Fc24)
 FCS1 : t=250 (Fc24)
4. 基礎立上天端レベルは、GL+370 とする。

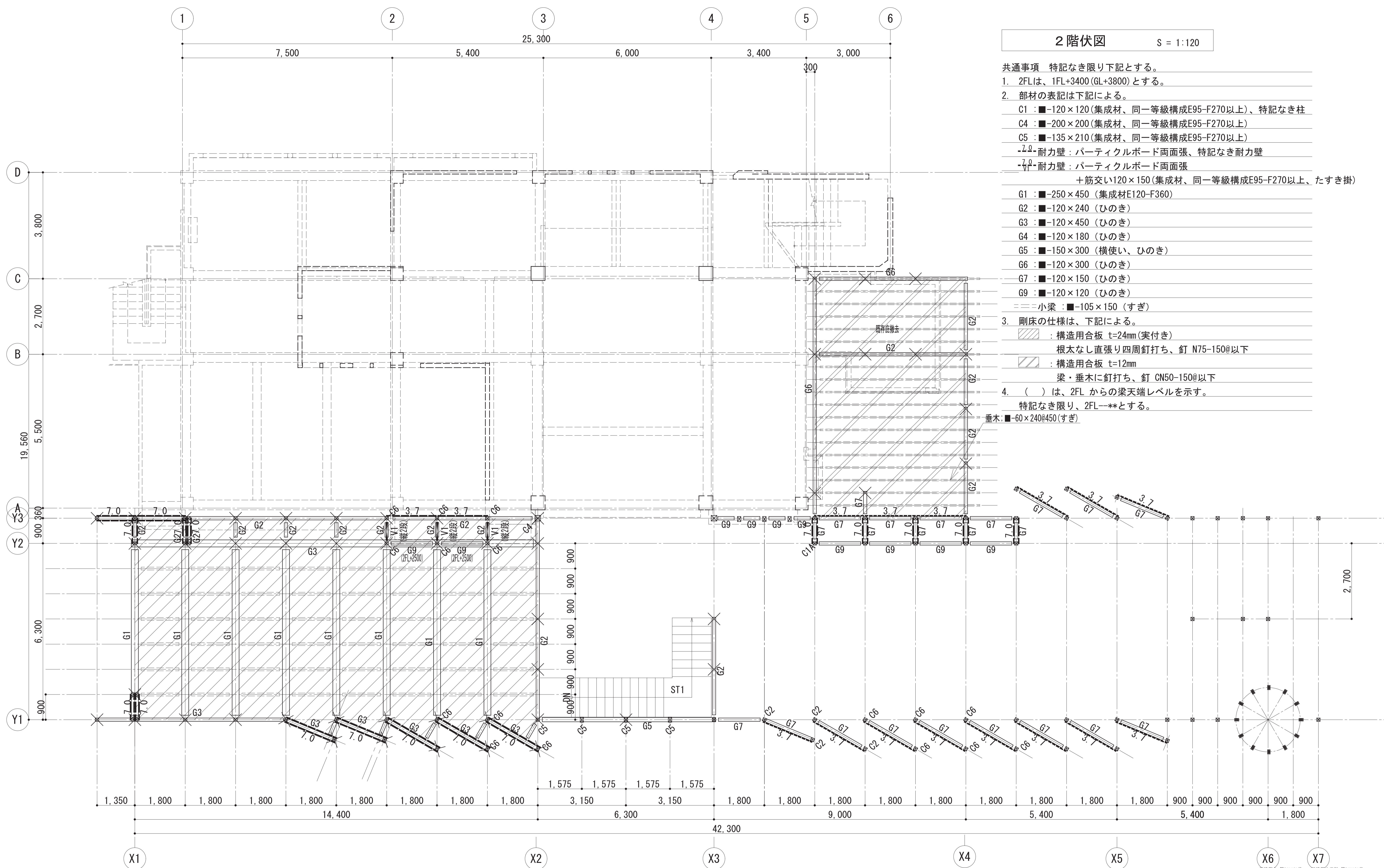
訂正事項	水原・芦澤設計共同体		株式会社 水原建築設計事務所 一級建築士事務所 滋賀県知事登録 第63号 一級建築士登録 第219285号 北村 通 滋賀県彦根市長曾根南町443番地 TEL. 0749-22-1679	芦澤竜一建築設計事務所 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (口) 第24257号 一級建築士登録 第298139号 芦澤 竜一 大阪府大阪市北区中崎西1-4 tel 06-6485-2017	北部図書館機能・コミュニティ機能整備工事		図面名称	基礎伏図	SHEET NO.
	DATE	SCALE			A1:1/60	S-13			
	2021.12	A3:1/120							

監高橋俊也構造建築研究所 一級建築士登録 第31161号
 構造設計 一級建築士登録 第2012号



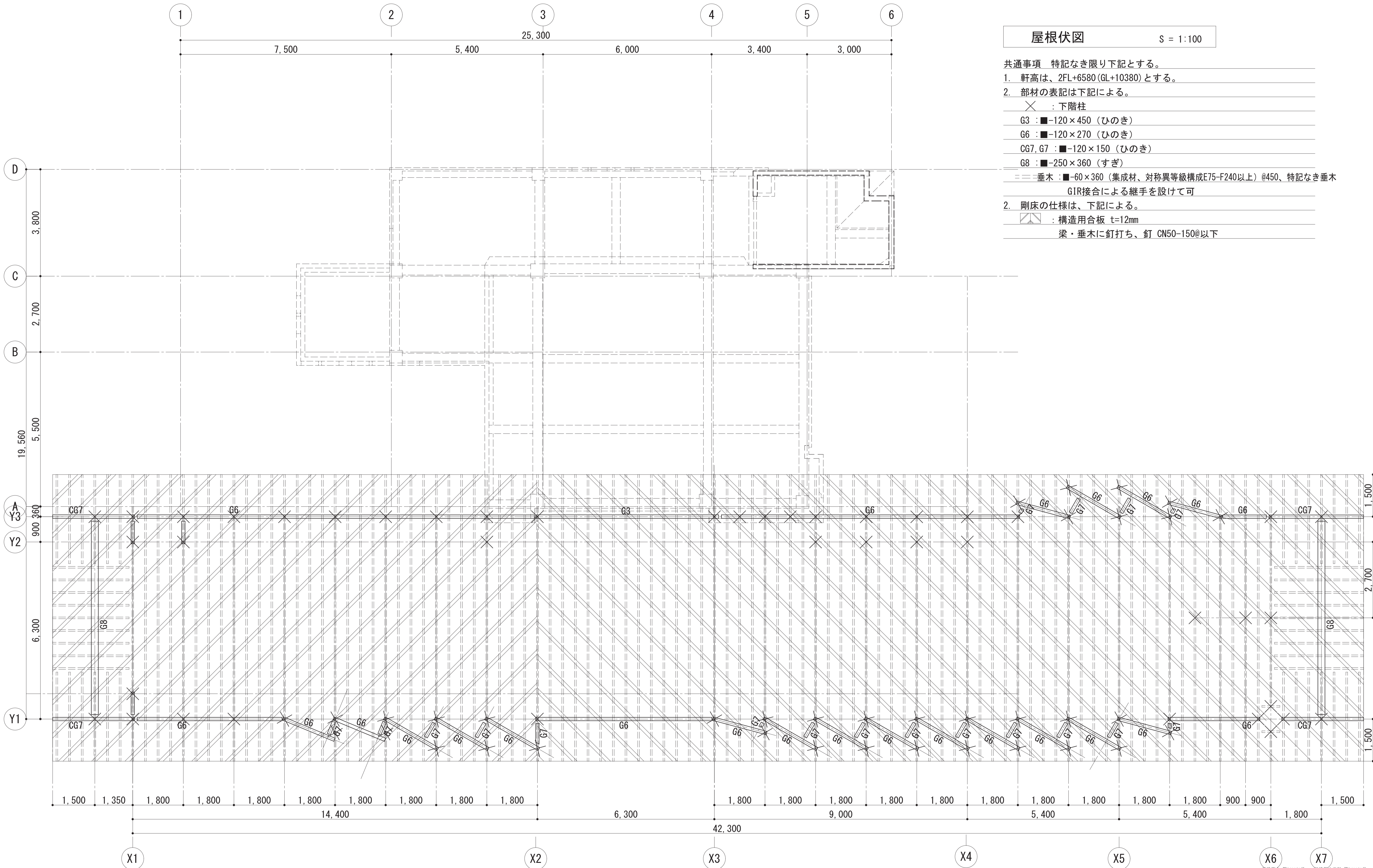
1階伏図 S = 1:120

- 共通事項 特記なき限り下記とする。
- 1FL±0は、GL+400 とする。
 - 部材の表記は下記による。
 - : 土台 (120×120、ひのき) 耐力壁に沿って配置
 - C1 : ■-120×120(集成材、同一等級構成E95-F270以上)、特記なき柱
 - C1A : ■-120×120(集成材、同一等級構成E135-F405以上)
 - C2 : ■-180×120(集成材、同一等級構成E95-F270以上)
 - C3 : 2■-45×150(集成材、同一等級構成E95-F270以上)
 - C4 : ■-200×200(集成材、同一等級構成E95-F270以上)
 - C6 : ■-120×150(集成材、同一等級構成E95-F270以上)
 - 7.0-耐力壁 : パーティクルボード両面張、特記なき耐力壁
 - 7.0-耐力壁 : パーティクルボード両面張
+筋交い120×150(集成材、同一等級構成E95-F270以上、たすき掛)
 - 3.7-耐力壁 : パーティクルボード片面張、特記なき耐力壁



2階伏図 S = 1:120

- 共通事項 特記なき限り下記とする。
- 2FLは、1FL+3400 (GL+3800)とする。
 - 部材の表記は下記による。
 - C1 : ■-120×120 (集成材、同一等級構成E95-F270以上)、特記なき柱
 - C4 : ■-200×200 (集成材、同一等級構成E95-F270以上)
 - C5 : ■-135×210 (集成材、同一等級構成E95-F270以上)
 - 7.0 耐力壁 : パーティクルボード両面張、特記なき耐力壁
 - 7.0 耐力壁 : パーティクルボード両面張
+筋交い120×150 (集成材、同一等級構成E95-F270以上、たすき掛)
 - G1 : ■-250×450 (集成材E120-F360)
 - G2 : ■-120×240 (ひのき)
 - G3 : ■-120×450 (ひのき)
 - G4 : ■-120×180 (ひのき)
 - G5 : ■-150×300 (横使い、ひのき)
 - G6 : ■-120×300 (ひのき)
 - G7 : ■-120×150 (ひのき)
 - G9 : ■-120×120 (ひのき)
 - == 小梁 : ■-105×150 (すぎ)
 - 剛床の仕様は、下記による。
 - ：構造用合板 t=24mm (実付き)
根太なし直張り四周釘打ち、釘 N75-150@以下
 - ：構造用合板 t=12mm
梁・垂木に釘打ち、釘 CN50-150@以下
 - () は、2FL からの梁天端レベルを示す。
特記なき限り、2FL-**とする。
垂木: ■-60×240@450(すぎ)

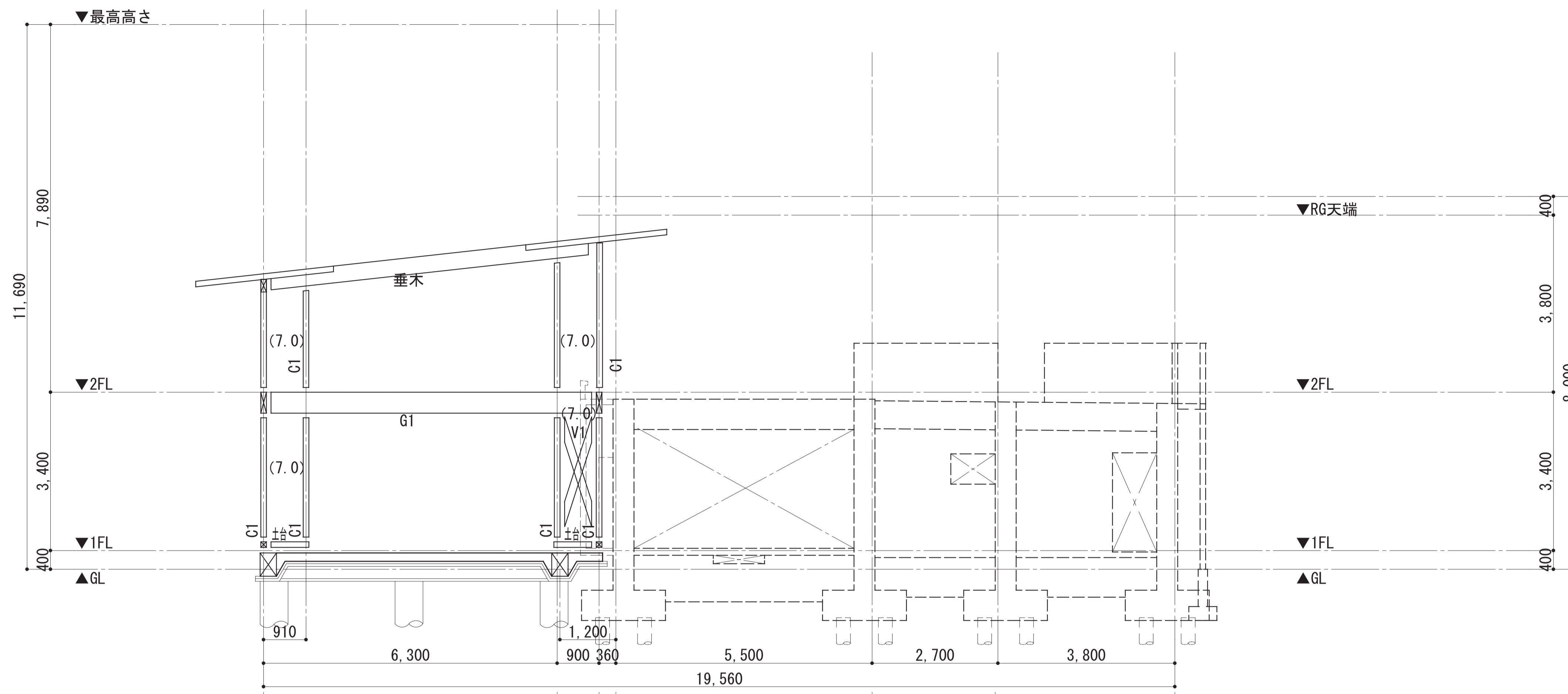


屋根伏図 S = 1:100

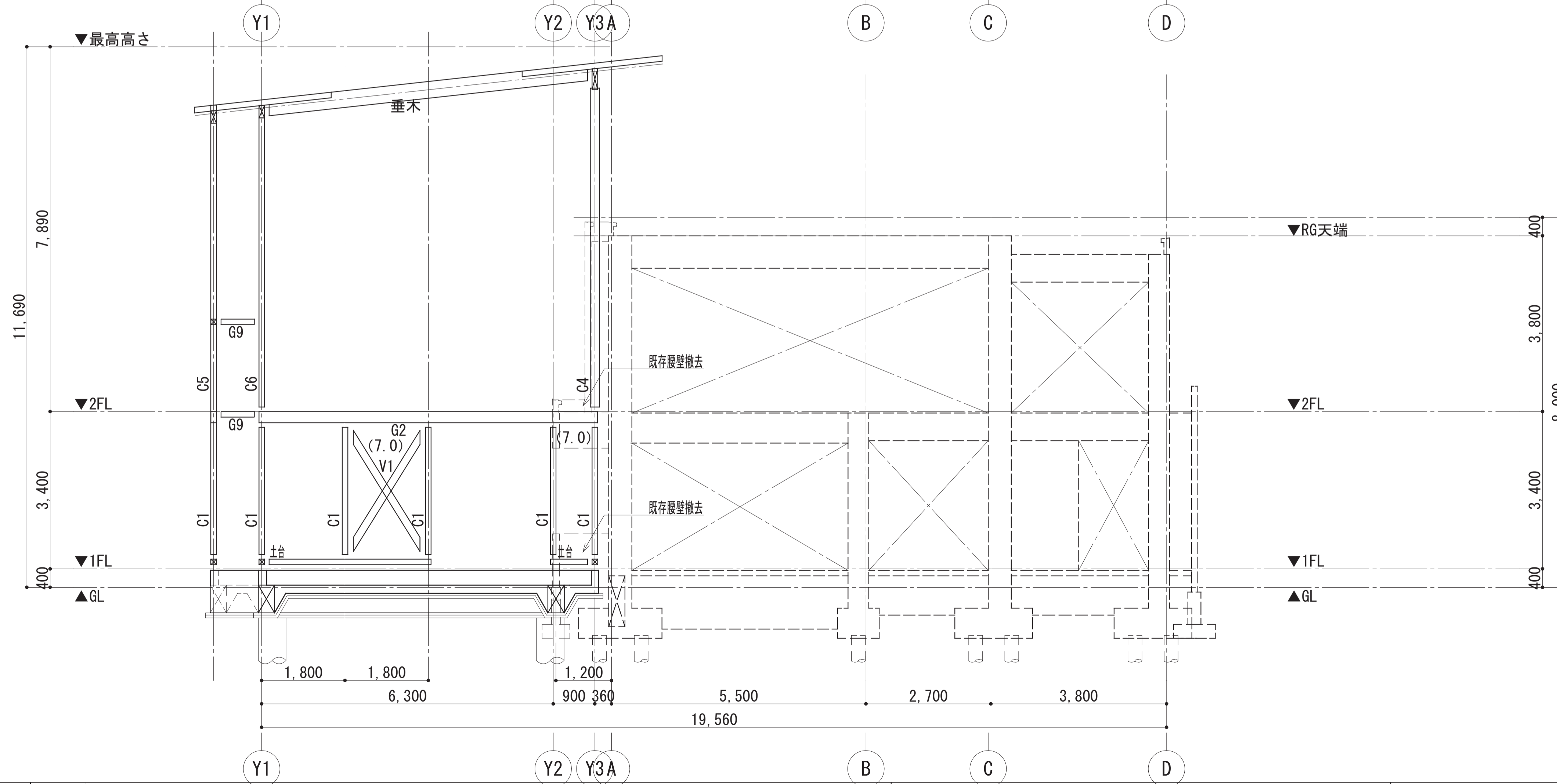
- 共通事項 特記なき限り下記とする。
- 軒高は、2FL+6580 (GL+10380) とする。
 - 部材の表記は下記による。
 - × : 下階柱
 - G3 : ■-120×450 (ひのき)
 - G6 : ■-120×270 (ひのき)
 - CG7, G7 : ■-120×150 (ひのき)
 - G8 : ■-250×360 (すぎ)
 - 垂木 : ■-60×360 (集成材、対称異等級構成E75-F240以上) @450、特記なき垂木 GIR接合による継手を設けて可
 - 剛床の様子は、下記による。
 - △ : 構造用合板 t=12mm
 - 梁・垂木に釘打ち、釘 CN50-150@以下

訂正事項	水原・芦澤設計共同体		北部図書機能・コミュニティ機能整備工事	図面名称	屋根伏図	SHEET NO. S-16
	株式会社 水原建築設計事務所 一級建築士事務所 滋賀県知事登録 第63号 一級建築士登録 第219285号 北村 通 滋賀県彦根市長曾根南町443番地 TEL. 0749-22-1679			芦澤竜一建築設計事務所 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (口) 第24257号 一級建築士登録 第298139号 芦澤 竜一 大阪府大阪市北区中崎西1-1-4 tel 06-6485-2017		
DATE 2021.12			SCALE A1:1/60 A3:1/120			

髙橋俊也構造建築研究所 一級建築士登録 第31161号
 構造設計 一級建築士登録 第31161号

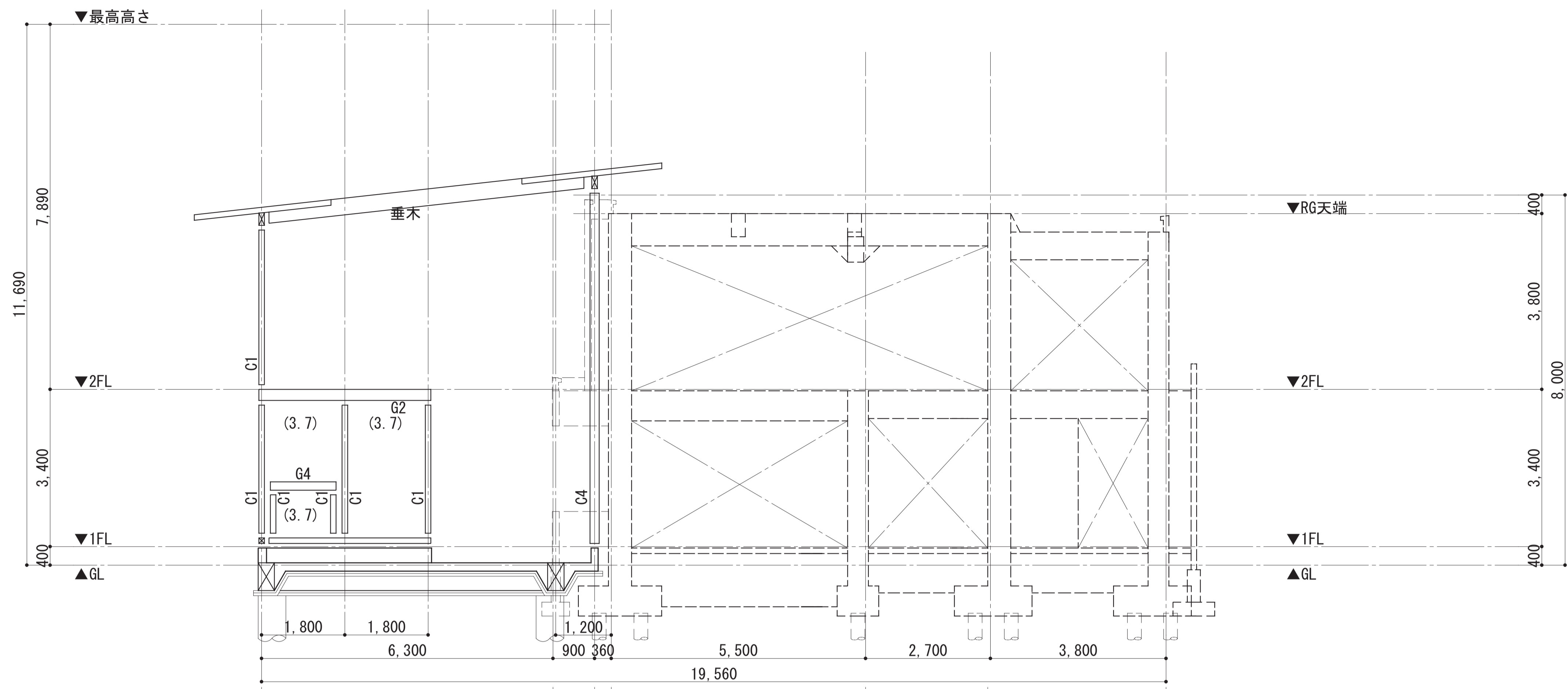


X1 (増築), 1 (既存) 軸組図 S = 1:120

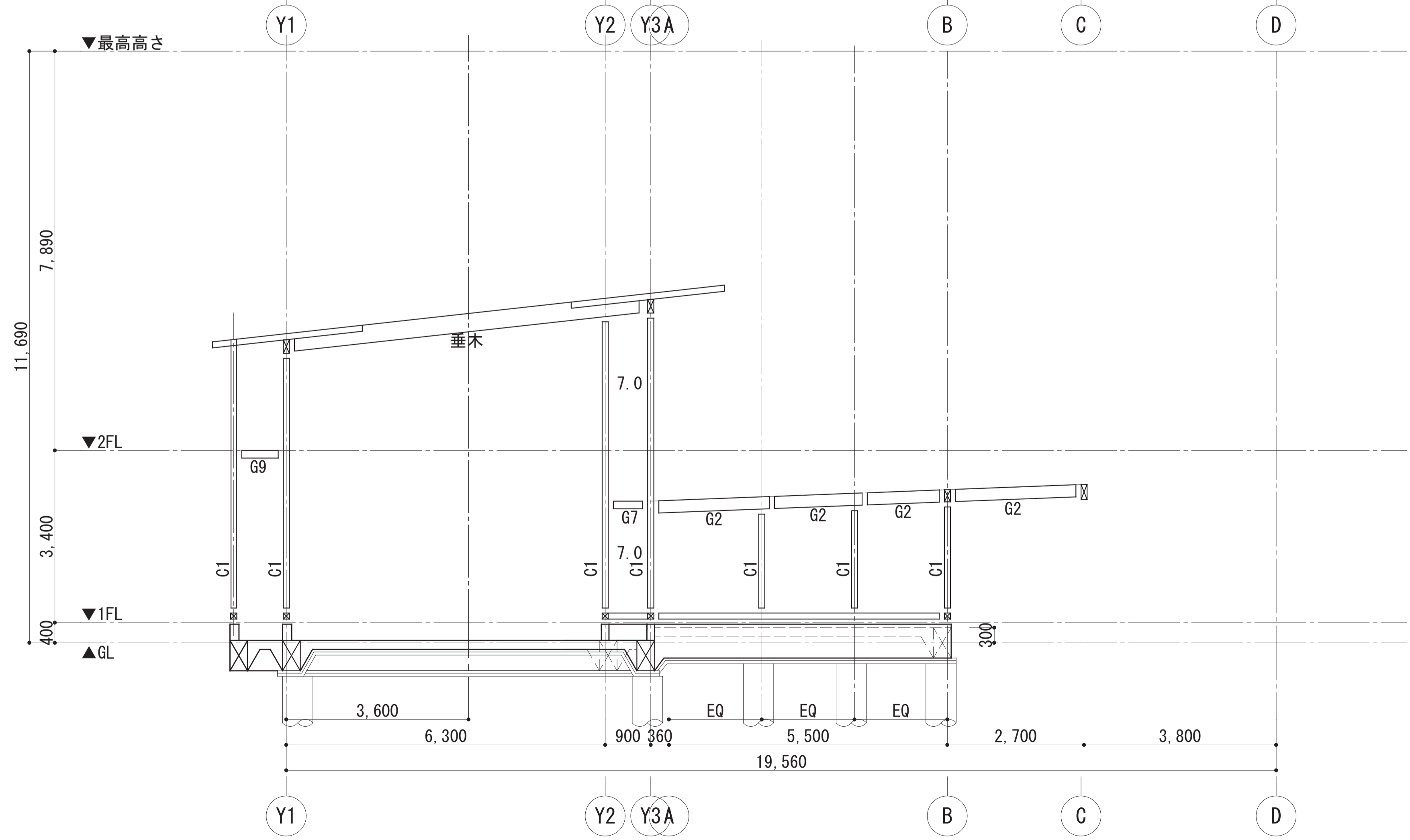


X2 (増築), 3 (既存) 軸組図 S = 1:120

髙橋俊也構造建築研究所 一級建築士 第31161号 一級建築士登録 第31161号
構造設計一級建築士登録 第1932号 尾藤俊也

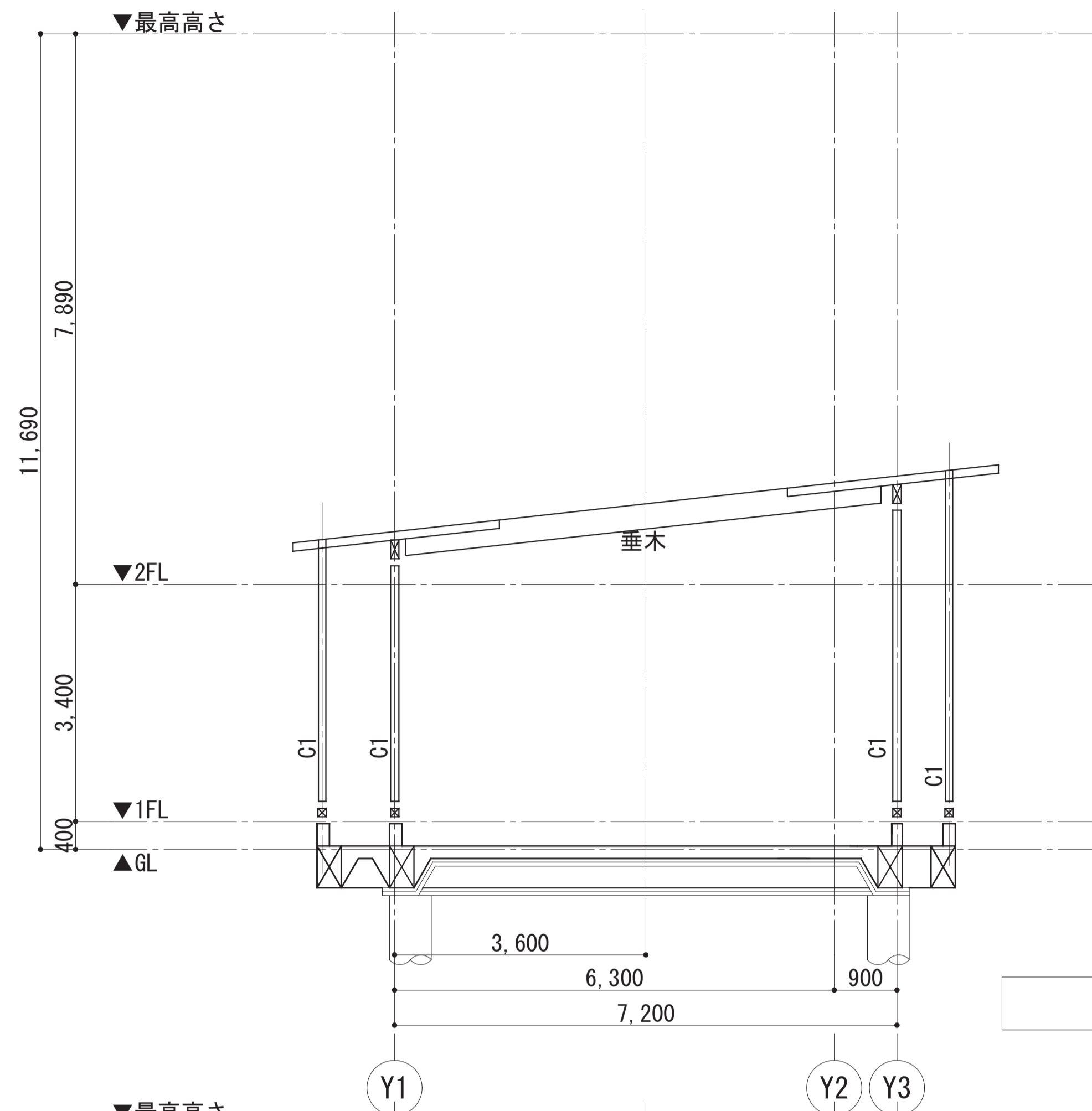


X3 (増築), 4 (既存) 軸組図 S = 1:120

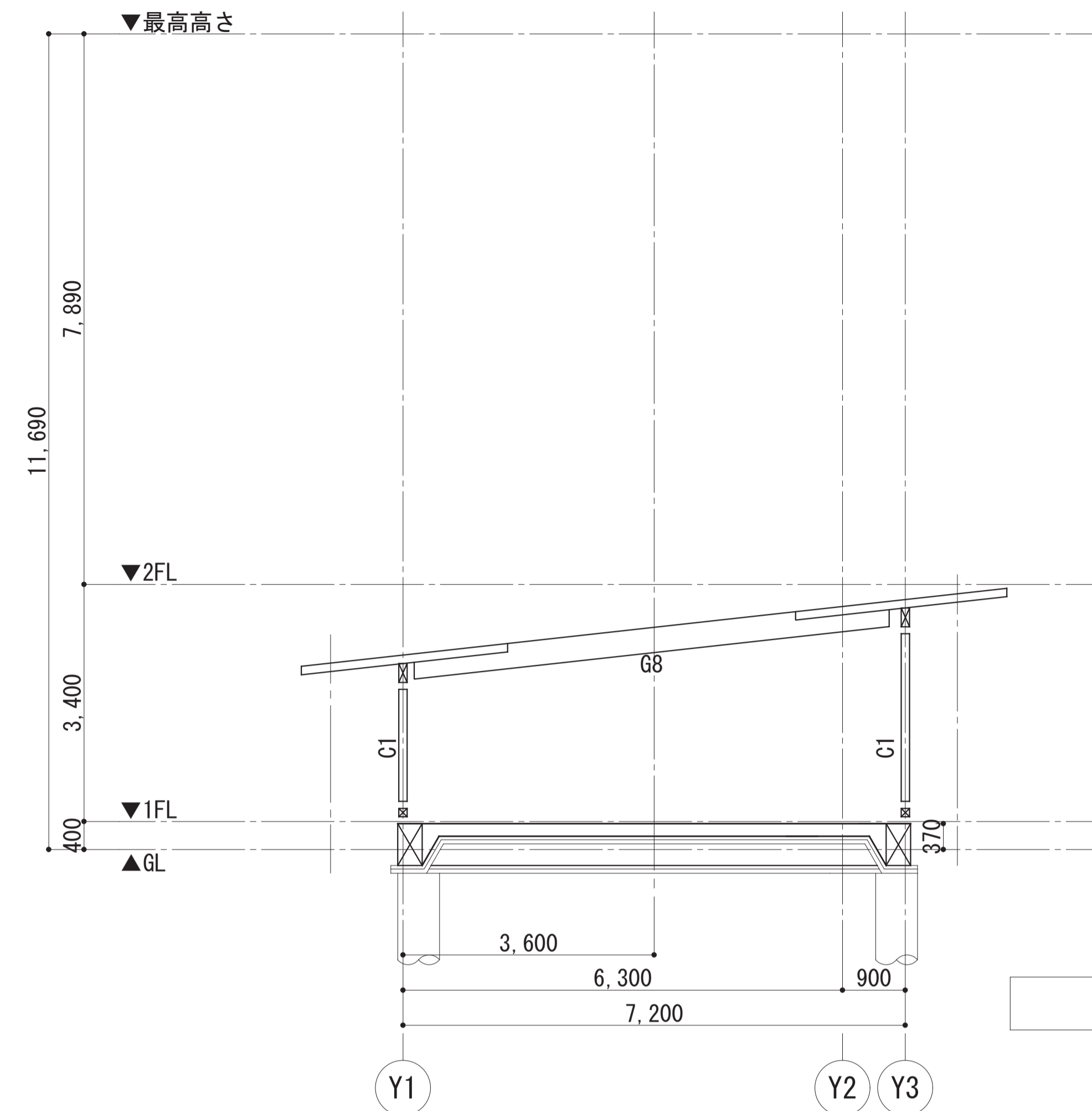


X4 通軸組図 S = 1:120

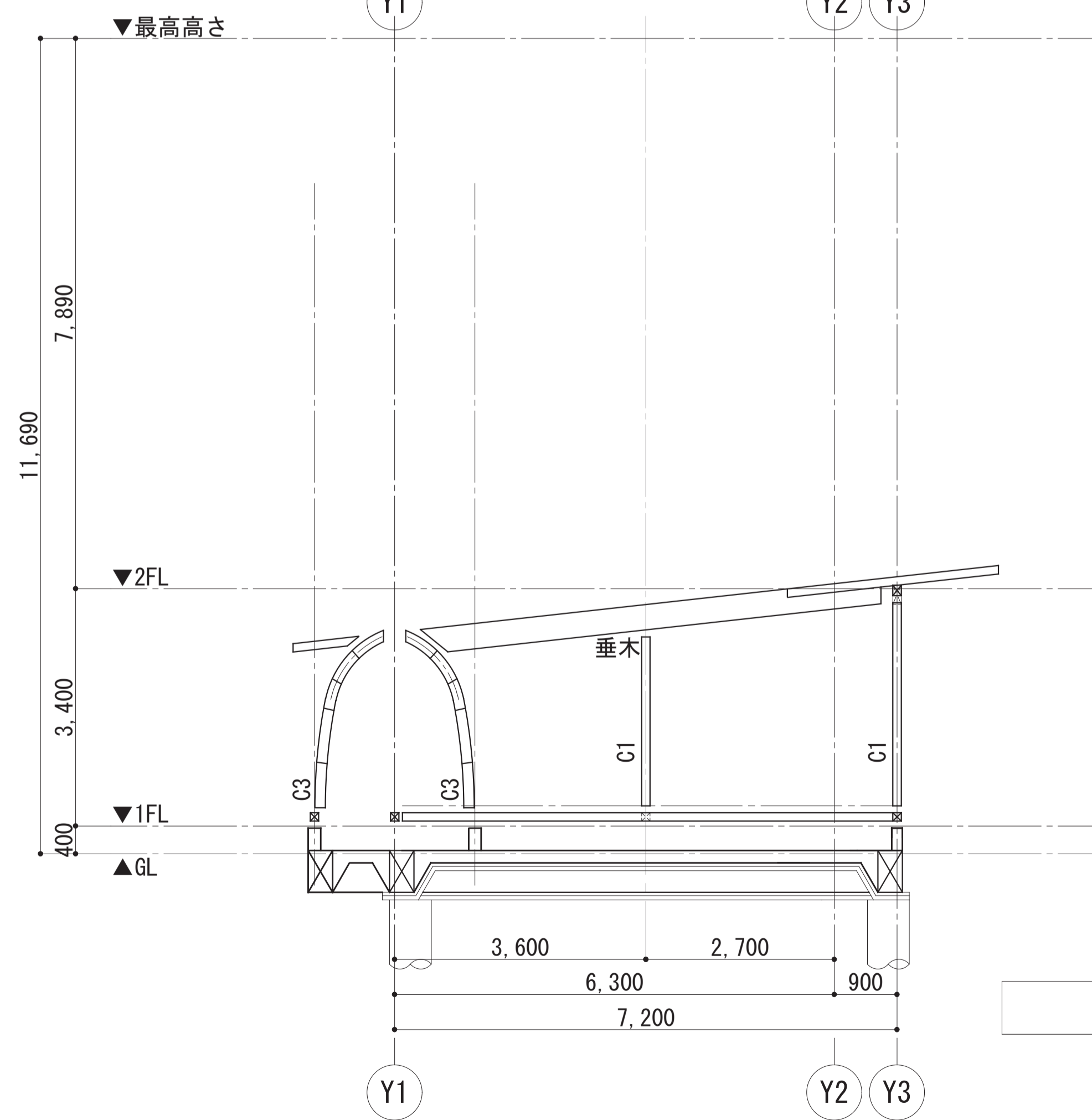
監 高橋俊也構造建築研究所 一級建築士 第31161号 一級建築士登録 第31161号
 構造設計 一級建築士登録 第9425号 建築技師



X5軸組図 S = 1:120



X7軸組図 S = 1:120



X6通軸組図 S = 1:120

訂正事項	

水原・芦澤設計共同体

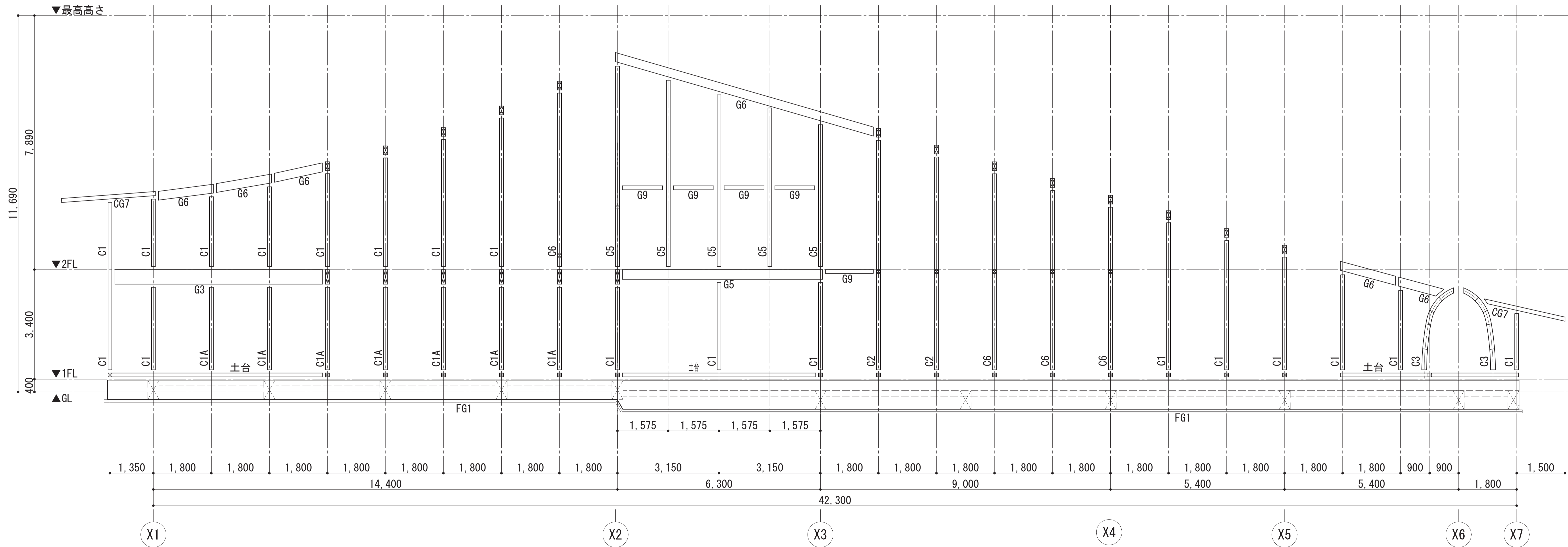
株式会社 水原建築設計事務所
 一級建築士事務所 滋賀県知事登録 第63号
 一級建築士登録 第219285号 北村 通
 滋賀県彦根市長曾根南町443番地 TEL. 0749-22-1679

芦澤竜一建築設計事務所
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (口) 第24257号
 一級建築士登録 第298139号 芦澤 竜一
 大阪府大阪市北区中崎西1-1-4 tel 06-6485-2017

北部図書機能・コミュニティ機能整備工事

図面名称		軸組図(3)	SHEET NO.
DATE	SCALE	A1:1/60	S-19
2021.12		A3:1/120	

髙橋俊也構造建築研究所 一級建築士 第31161号 一級建築士登録 第31161号
 構造設計一級建築士登録 第0939号 建築後



Y1通軸組図 S = 1:120

訂正事項	

水原・芦澤設計共同体

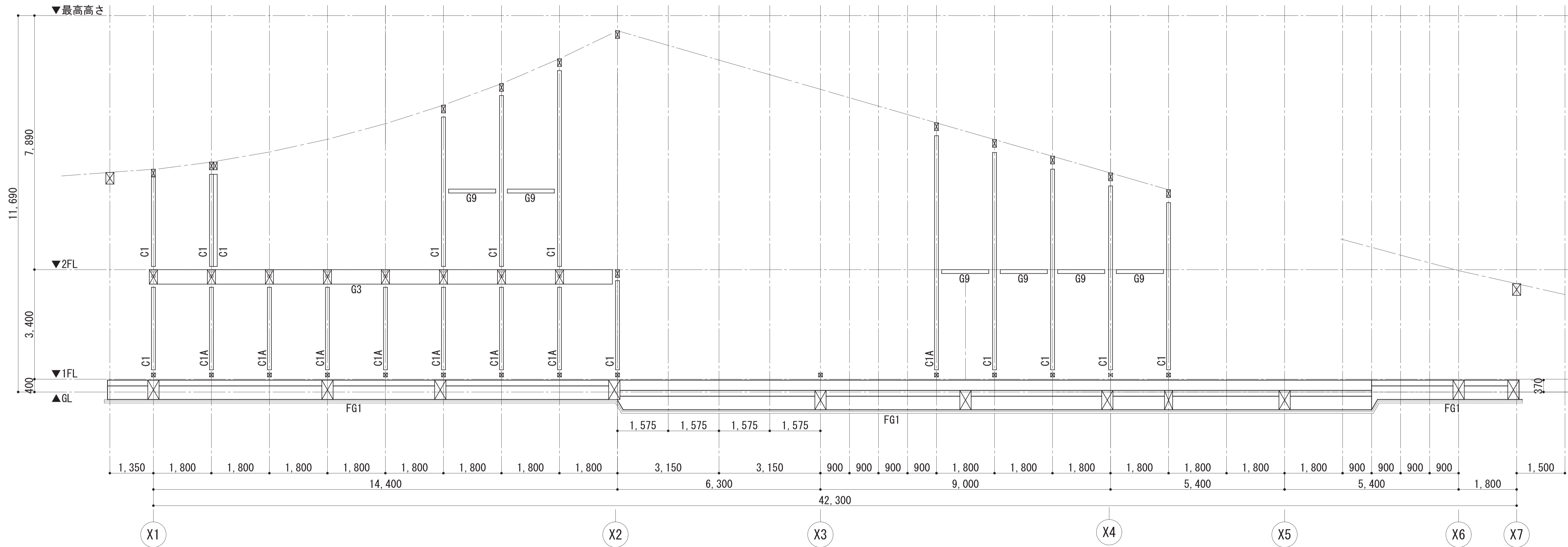
株式会社 水原建築設計事務所
 一級建築士事務所 滋賀県知事登録 第63号
 一級建築士登録 第219285号 北村 通
 滋賀県彦根市長曾根南町443番地 TEL. 0749-22-1679

芦澤竜一建築設計事務所
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (イ) 第24257号
 一級建築士登録 第298139号 芦澤 竜一
 大阪府大阪市北区中崎西1-1-4 tel 06-6485-2017

北部図書機能・コミュニティ機能整備工事

図面名称		軸組図(4)		SHEET NO.
DATE		SCALE		S-20
2021.12		A1:1/60 A3:1/120		

髙橋俊也構造建築研究所 一級建築士 第31161号 一級建築士登録 第31161号
 構造設計一級建築士登録 第0932号 尾藤俊也



Y2通軸組図 S = 1:120

訂正事項	

水原・芦澤設計共同体

株式会社 水原建築設計事務所
 一級建築士事務所 滋賀県知事登録 第63号
 一級建築士登録 第219285号 北村 通
 滋賀県彦根市長曾根南町443番地 TEL. 0749-22-1679

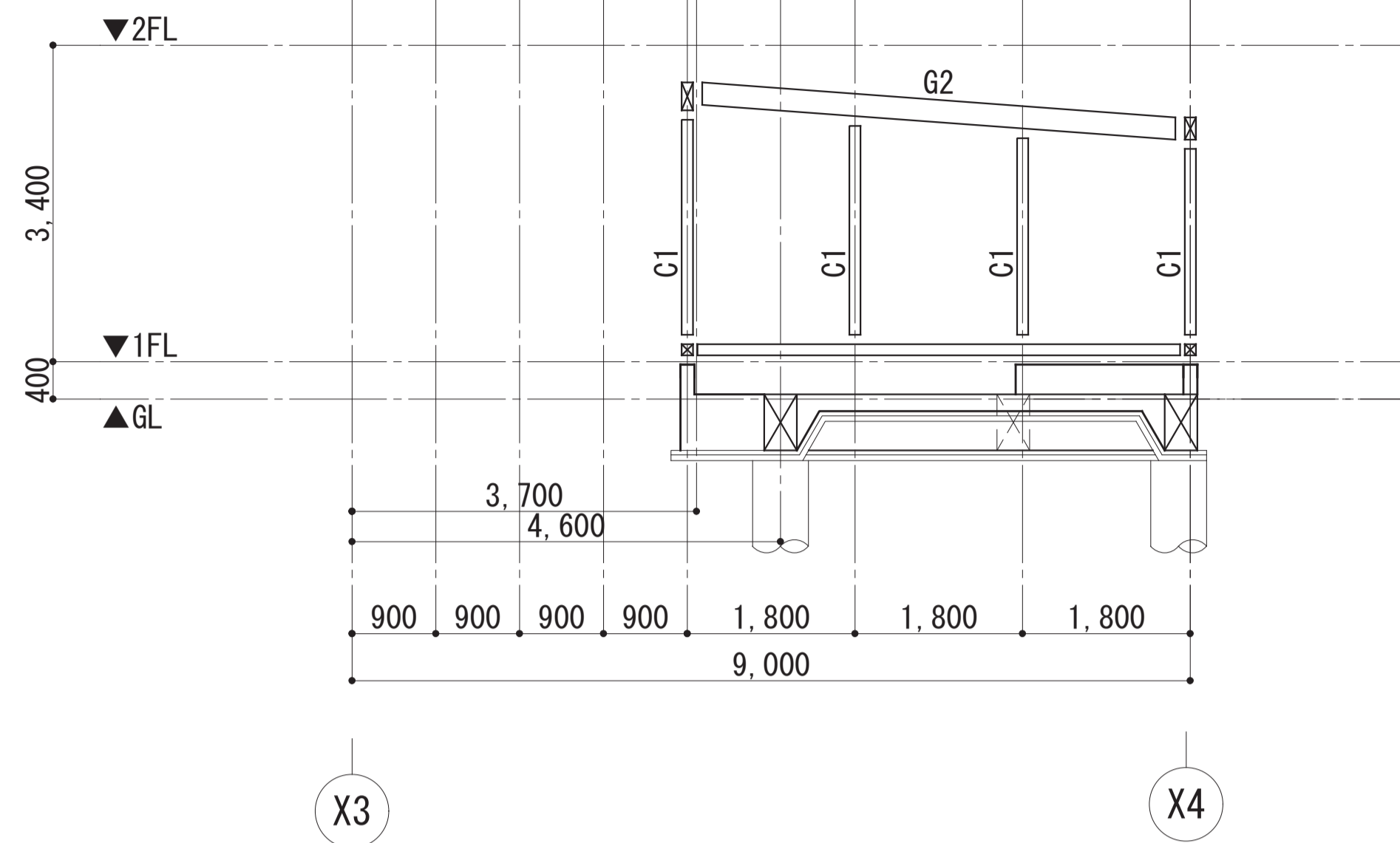
芦澤竜一建築設計事務所
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (イ) 第24257号
 一級建築士登録 第298139号 芦澤 竜一
 大阪府大阪市北区中崎西1-1-4 tel 06-6485-2017

北部図書機能・コミュニティ機能整備工事

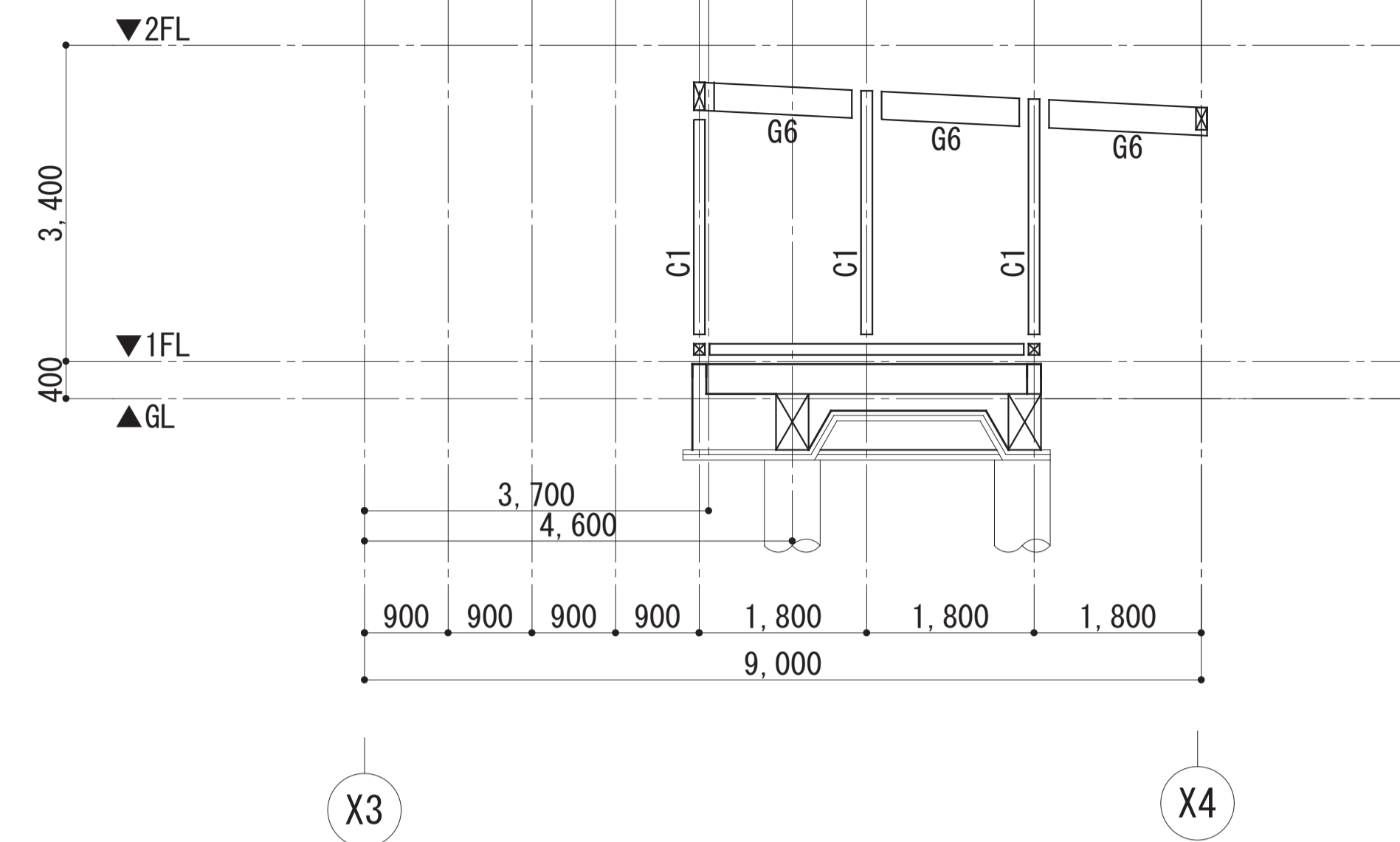
図面名称		軸組図 (G)	
DATE	SCALE	A1:1/60	A3:1/120
2021.12			

SHIET NO.
S-21

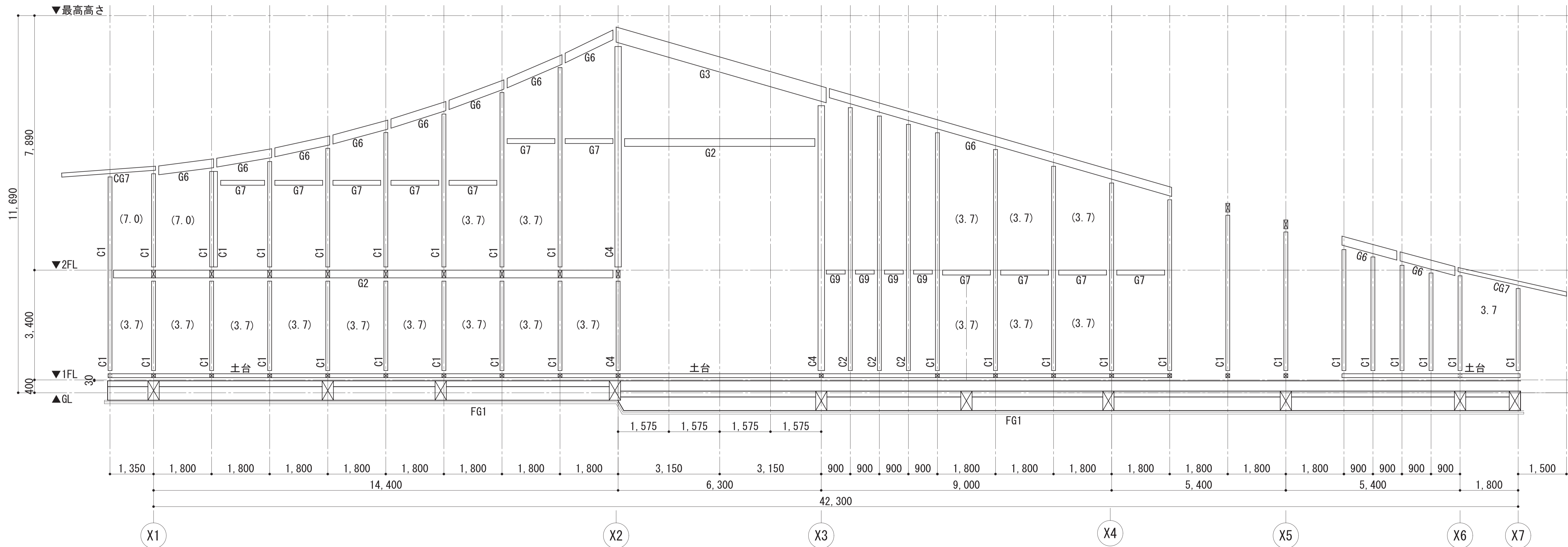
監理 高橋俊也構造建築研究所 一級建築士 第31161号 一級建築士登録 第31161号
 構造設計 一級建築士登録 第9932号 高橋俊也



B通軸組図 S = 1:120



C通軸組図 S = 1:120



Y3通軸組図 S = 1:120

訂正事項	

水原・芦澤設計共同体
 株式会社 水原建築設計事務所
 一級建築士事務所 滋賀県知事登録 第63号
 一級建築士登録 第219285号 北村 通
 滋賀県彦根市長曾根南町143番地 TEL. 0749-22-1679
 芦澤竜一建築設計事務所
 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (イ) 第24257号
 一級建築士登録 第298139号 芦澤 竜一
 大阪府大阪市北区中崎西1-1-4 tel.06-6485-2017

北部図書機能・コミュニティ機能整備工事

図面名称		軸組図(6)		SHEET NO.
DATE		SCALE		S-22
2021.12		A1:1/60 A3:1/120		

監 高橋俊也構造建築研究所 一級建築士 第31161号 一級建築士登録 第31161号
 構造設計一級建築士登録 第0930号